

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

**平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 順天堂 2 大学名 順天堂大学
- 3 研究組織名 大学院医学系研究科
- 4 プロジェクト所在地 東京都文京区本郷2丁目1番1号
- 5 研究プロジェクト名 再生技術を用いた生活習慣病の次世代型統合的研究基盤の構築
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
新井 一	順天堂大学	学長

- 8 プロジェクト参加研究者数
- 20
- 名

- 9 該当審査区分
- 理工・情報
- 生物・医歯
- 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
新井 一	学長	研究全体の統括	プロジェクトの統括および指揮
代田 浩之	循環器内科・教授	冠動脈治療時の保存血清から抽出したHDLをOMICS解析し、新たな動脈硬化治療標的を開発する	患者リソース収集・治療方法開発
綿田 裕孝	代謝内分泌内科・教授	糖尿病再生医療に向けた acinar-to-beta reprogramming の効率化	治療方法開発
宮塚 健	代謝内分泌内科・准教授	糖尿病再生医療に向けた acinar-to-beta reprogramming の効率化	治療方法開発
服部 信孝	脳神経内科・教授	生活習慣病に起因する神経疾患の予後規定バイオマーカーの探索・新規治療法の確立	患者リソース収集・病因解明・病態解析技術の開発
石川 景一	脳神経内科・非常勤助教	神経疾患患者からの iPS 細胞の作製と分化誘導・解析	患者リソース収集・病因解明・病態解析技術の開発
鈴木 祐介	腎臓内科・教授	慢性腎臓病患者における末梢動脈疾患の発症メカニズムの解明と新規治療法の開発	病因解明・病態解析技術の開発
長岡 功	生化学第二・教授	糖尿病性血管障害に対する抗菌ペプチド LL-37 の血管内皮	病因解明・病態解析技術の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

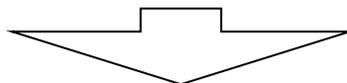
		細胞に対する効果	
池田 志幸	皮膚科学講座・教授	多能性幹細胞を用いた先天性水疱症バイオマーカーの開発	病因解明・病態解析技術の開発
水野 博司	形成外科学講座・教授	糖尿病性潰瘍患者に対する脂肪組織幹細胞による難治性潰瘍治療手段の開発	治療方法開発
田中 里佳	形成外科学講座・准教授	糖尿病患者に対する末梢血をもちいた新細胞治療の開発：Auto、Allo 細胞	治療方法開発
三井田 孝	臨床病態検査医学・教授	iPS 細胞から誘導した Alzheimer 病の神経細胞における Ca 代謝とイオンチャネルの異常の検討	病因解明・病態解析技術の開発
横溝 岳彦	生化学第一講座・教授	難治性皮膚潰瘍治療における生理活性脂質の役割の解明	病因解明・病態解析技術の開発
三宅 幸子	免疫学・教授	生活習慣病における免疫細胞の解析	病因解明・病態解析技術の開発
内山 安男	神経疾患病態構造学講座・特任教授	光学顕微鏡と電子顕微鏡をつなぐイメージング技術による神経疾患患者由来細胞の機能・形態学的解析	病因解明・病態解析技術の開発
小池 正人	神経生物学・形態学講座・教授	光学顕微鏡と電子顕微鏡をつなぐイメージング技術による神経疾患患者由来細胞の機能・形態学的解析	病因解明・病態解析技術の開発
砂堀 毅彦	神経生物学・形態学講座・助教	オリゴデンドロサイト分化における LAMTOR1/P18 の役割の解明	病因解明・病態解析技術の開発
赤松 和土	ゲノム・再生医療センター・特任教授	生活習慣病患者からの iPS 細胞作製とバンキング・データベースの作成、疾患モデル解析方法開発	病因解明・病態解析技術の開発
(共同研究機関等) 浅原 孝之	東海大学再生医療科・教授	血管再生治療の基盤技術開発	治療方法開発
岡野 栄之	慶應義塾大学・生理学・教授	神経幹細胞・iPS 細胞を用いた基礎研究	病因解明・病態解析技術の開発

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
研究全体の統括	大学院医学研究科研究科長・医学部長	新井 一	プロジェクトの統括および指揮

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1日)



法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

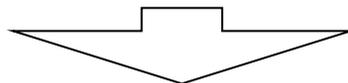
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大学院医学研究科 研究科長・医学部長	学長	新井 一	プロジェクトの統括および指揮

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
光学顕微鏡と電子顕微鏡をつなぐイメージング技術による神経疾患患者由来細胞の機能・形態学的解析	神経生物学・形態学講座・教授	内山 安男	病因解明・病態解析技術の開発

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



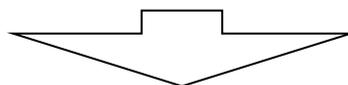
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
神経生物学・形態学講座・教授	神経疾患病態構造学講座・特任教授	内山 安男	病因解明・病態解析技術の開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
光学顕微鏡と電子顕微鏡をつなぐイメージング技術による神経疾患患者由来細胞の機能・形態学的解析	神経生物学・形態学講座・先任准教授	小池 正人	病因解明・病態解析技術の開発

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



新

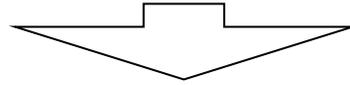
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
神経生物学・形態学講座・先任准教授	神経生物学・形態学講座・教授	小池 正人	病因解明・病態解析技術の開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
慢性腎臓病患者における末梢動脈疾患の発症メカニズムの解明と新規治療法の開発	腎臓内科・教授	富野康日己	病因解明・病態解析技術の開発

(変更の時期:平成 28 年 8 月 1 日)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
腎臓内科・准教授	腎臓内科・教授	鈴木 祐介	病因解明・病態解析技術の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究は順天堂大学内の臨床研究室と再生医学・細胞生物学的解析技術を有する基礎研究室が協力して生活習慣病（糖尿病・脳血管障害・心血管障害・腎障害・神経変性疾患・認知症など）の病態解明・新規治療方法の開発を目指す。順天堂医院に通院する豊富な患者リソースを各研究グループが十分に活用し、各研究室が連携して統合的に生活習慣病の病態研究を行える体制の基盤形成が目的である。具体的には①患者検体の収集（バンク化）と臨床情報を含めた情報のデータベース化 ②収集した患者検体（iPS 細胞樹立のための体細胞）を活用した研究方法の開発およびその利用体制の整備 ③将来的な患者検体利用を見越した生活習慣病の病態解析技術方法の確立と、それらを利用した治療方法の開発 を行い、プロジェクト終了までに大学内の生活習慣病研究者が患者検体を活用し①→②→③をスムーズに行える体制を構築することを目標とする。

生活習慣病を研究する大学内研究者が、本研究で構築される細胞および情報リソースを利用することにより、各小グループでは従来利用できなかった規模のリソースを活用することが可能になり、個別の疾患研究を大きく発展させることができる。また、バンクする細胞種を iPS 細胞に限定せず、体細胞（血液細胞・線維芽細胞）や不死化細胞株などを同時に蓄積することにより、将来的には血管内皮前駆細胞などの組織幹細胞を用いた疾患研究や再生医療の前臨床研究に活用し、生活習慣病研究が大きく促進することが期待される。

(2) 研究組織

本事業では、新井一学長（ゲノム・再生医療センター長）のもと、上記 10 に記載した研究者が連携・分担しながら、Ⅰ生活習慣病患者リクルートと患者リソースの収集（およびその利用体制の整備） Ⅱ生活習慣病患者検体を活用した病因解明・病態解析技術の開発 Ⅲ生活習慣病に対する治療方法の開発 を進めた。iPS 細胞および体性幹細胞に関しては本事業で学内で共同利用可能な培養施設・解析機器が整備され研究が推進されている。本事業では上記の 18 名の中心研究者に加えて、教員 24 名、大学院生 21 名、PD7 名、RA1 名、研究支援者 4 名、その他 14 名の若手研究者が研究を推進しており、そのうち PD5 名、RA1 名、研究支援者 2 名（期間内延べ人数 PD8 名 RA2 名研究支援者 3 名）は本プロジェクトで雇用資金が助成された。事務局はゲノム・再生医療センター内に設置され、新井一研究代表および服部信孝運営委員長の下、年間 2 回以上の全体会議を開き、スムーズな運営および効果的な事業計画の推進のための情報交換を行った。

(3) 研究施設・設備等

当該拠点は、順天堂大学医学部 10 号館 8 階を中心に設置され、大学院医学研究科附属施設であるゲノム・再生医療センターを中心に研究施設の整備を行った。さらに 8,9 号館（大学の増改築と再整備のため 2018 年度末までに 10 号館及び A 棟へ移設）に設置されている各研究室においても研究が遂行され、研究組織全体としては常時約 90 名の研究者が研究に従事している。本研究のために 2018 年度末までに設置された主な研究装置とその内容・利用時間は以下の通りである。

1. iPS 細胞・幹細胞樹立培養のための培養システム：5000 時間/年（100 時間/週）：54 人
2. 解析用倒立顕微鏡システム：6000 時間/年（120 時間/週）：58 人
3. 幹細胞純化・解析システム：750 時間/年（15 時間/週）：46 人
4. 動物個体に移植した iPS 細胞・体細胞解析システム 2250 時間/年（45 時間/週）：28 人
5. 分化細胞解析システム 1500 時間/年（30 時間/週）：28 人
6. iPS・体細胞バンク用システム 8760 時間/年（常時稼働）：55 人

上記施設は共同利用施設としてゲノム・再生医療センターおよび形成外科によって管理される。使用に際しては使用登録と使用方法の説明が行われ、各研究グループがスムーズに基盤設備を活用できる体制が整っている。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

本研究プロジェクトは5年間の研究期間に、研究設備・器機などのハード面を整備し、さらに一部研究者の雇用および情報交換などのソフト面での基盤も整備することで、患者検体および患者データの蓄積と学内各研究グループの研究を推進した。その結果、英語原著論文 532 編、和文論文 154 編、図書 95 冊を発表、特許出願は 8 件、国内外での学会発表は 803 件を数える。以下に本事業の研究成果の概要を示す。

① 患者検体の収集（バンク化）と臨床情報を含めた情報のデータベース化

生体試料の収集に関しては、脳神経内科（服部ら）とゲノム・再生医療センター（赤松ら）との共同研究で、試料収集とデータベース化を行った。順天堂医院に通院するパーキンソン病を初めとする神経変性疾患患者に同意を得て末梢血の採取を行い、本資金で整備された幹細胞培養施設を用いて単核球の状態に蓄積を行った。2016年2月に赤松・服部らによって学外協力研究者である慶應義塾大学生理学岡野栄之教授との共同研究で、開発・報告されたヒト iPS 細胞からの高効率な神経分化誘導方法(*1)は、単核球でバンク化された多数の患者体細胞を効率よく iPS 細胞化し、多くの検体を簡便な手法で神経分化させることを可能にしたため、神経変性疾患 iPS 細胞樹立のための細胞バンクの活用方法が大きく広がった。この方法の開発に伴い、順天堂大学内にパーキンソン病細胞バンクを構築することを決定し、併せて記者会見を行った（2016年2月19日順天堂大学にて記者会見およびプレスリリース）。2018年度までに孤発性の神経変性疾患（パーキンソン病、アルツハイマー病など）と正常対照約 50 例の体細胞が約 400 検体本研究施設にストックされ、その一部は不死化リンパ芽球としてストックされている。さらにこれらのうち 147 検体については解析可能な iPS 細胞として樹立されており、順次解析が進行している。

データベース化に関しては、まずこれらの検体の情報を脳神経内科とゲノム・再生医療センター間で共有するシステムを構築した。データベース項目としては臨床経過（所見）・検査所見・服薬歴に加え、遺伝子解析情報・体細胞採取と iPS 細胞樹立などの項目が含まれ、高度なセキュリティの専用サーバ上に保存されている。2018年度末までに約 500 症例が登録されており、今後も登録数を順次増加させる予定である。このデータベース構築をモデルとして今後も生活習慣病全体に対象疾患を拡大し、本研究グループ全体、将来的には学内全体で利用できる細胞バンク・データベースへと拡張していく予定である。

上記細胞バンクとデータベースの拡充に加え、2017年に赤松・服部らと学外協力研究者である慶應義塾大学生理学岡野栄之教授との共同研究で、iPS 細胞からより短期間・高効率で体細胞への分化を促進する細胞誘導法を報告した(*2)。本技術を用いることにより、バンク化した細胞から iPS 細胞を作製することで、あらゆる種類の体細胞への分化を効率よく行うことが可能になり、各研究グループの研究を促進することが可能である。実際本手法を用いることで、脳神経内科服部らとともに、パーキンソン病患者由来 iPS 細胞を効率よく神経細胞に誘導し、病態解明や病態に影響する化合物の効果を患者ドーパミン神経細胞で確認し、報告することができた。

実際にこれらのヒト iPS 細胞誘導法とバンク化されたパーキンソン病患者を活用した研究提案として、AMED 難治性疾患実用化研究事業（課題名「疾患 iPS 細胞を用いた遺伝性・孤発性パーキンソン病の新規治療薬探索」 代表：赤松和土 2017-2019）および創薬基盤推進研究事業（課題名「ゾニサミドの抗パーキンソン病薬作用機構の解明」 代表：赤松和土 2017-2019）、創薬基盤推進研究事業 産学官共同創薬研究プロジェクト(GAPFREE)（課題名「パーキンソン病における疾患修飾薬候補の同定と precision medicine の実現に向けたアカデミアと企業の技術融合による新たな創薬エコシステムの開発」 代表：赤松和土 2019-2022）に採択され、本事業で整備された研究リソースを活用する研究に繋げることができた。

②収集した患者検体の活用を想定した生活習慣病の病態研究および解析技術の開発

腎臓内科（鈴木ら）は、慢性腎臓病(CKD)が末梢動脈疾患(PAD)発症の独立した危険因子であり、この理由のひとつとして、末梢血幹細胞や内皮前駆細胞 (EPC) の機能不全が存在することに着目した。「CKD で蓄積する ADMA が末梢血幹細胞や EPC の機能不全を引き起こし、

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

血管新生・修復不全を経て、PAD の発症進展並びに治療抵抗性に強く関与する」との仮説をたて、その検証をするために、本プロジェクトで収集された検体を利用し、①ADMA と PAD の有病率、重症度、また患者 EPC 機能不全との関連を分析 ②PAD 患者における ADMA と幹細胞治療効果との関連を分析した。現時点まで約 300 の維持透析中の糖尿病性末期腎不全患者を本研究にリクルート済みであり(*3 Gohda T, et al Sci Rep. 2017)、ADMA を測定、PAD の有病率、PAD 指標(ABI, CAVI, SPP)との関連を解析した。また、久留米大学(佐々木)、名古屋大学(柴田)との共同で、重症下肢虚血に対し治療を行った患者を対象にその重症度および治療効果との ADMA の関連を解析した。これらの臨床研究においては、①ADMA が CKD 患者ほど PAD の有病率、重症度が増すこと。(藪内純子, 第 61 回日本腎臓学会学術総会・新潟・2018/6/8) ②ADMA が高いほど、腹部大動脈の石灰化が強いこと(CT で agaston score、aortic calcification index を測定)。③ADMA と石灰化の年次進行率には正の相関が存在すること(後ろ向き研究)。④栄養状態と運動耐用能と ADMA の間には密接な関連があること。(長澤肇、藪内純子ら 第 9 回腎臓リハビリテーション学会学術集会・大分・2019/3/9)⑤今回後ろ向きに検討した 43 名の PAD 患者の細胞治療反応性と ADMA の値には明かな相関関係は認められなかったこと。⑥腎不全動物モデルを用いた基礎研究では、末梢の微小血管内皮の脱落が観察され、特に骨格筋では内皮脱落と筋萎縮、サルコペニアと密接に関与する可能性が見出されている。(藪内純子, 第 61 回日本腎臓学会学術総会・新潟・2018/6/8)。(*3-9) 以上の結果からは、ADMA と PAD 治療抵抗性との関連は明らかにならなかったものの、CKD で蓄積する ADMA が PAD の発症進展に関与する可能性が強く示唆され、さらには末梢の血管内皮障害が骨格筋障害を介して CKD 患者のサルコペニア・フレイルの発症進展に関与する可能性が示唆された。ADMA への治療介入が CKD 患者の動脈硬化性疾患のみならず QOL に密接に関与するサルコペニア・フレイルの改善にも寄与する可能性が考えられ、さらなる詳細なメカニズムの解明や治療手段の開発に今後着手したい。

臨床病態検査医学 (三井田ら) は、検査データを臨床情報として蓄積しつつある。生活習慣病の危険因子として重要な LDL-C および HDL-C の測定試薬 (直接法) の中に正確性が不良なものがある (三井田らを含む他施設共同研究で発表) ことを明らかとした。この結果を受けて、正確性に問題ある試薬を、2016 年末までに販売中止にさせた。以前の検討で性能不良と判定された試薬の改良品は、正確性が改善したことを確認した。さらに、LDL-C と HDL-C の直接法は、空腹時検体と食後検体で同じ正確性を持つことを臨床検体で示した。この成果は 2017 年に論文として発表し(*10)、「動脈硬化性疾患予防ガイドラインガイドライン 2012 年版」で LDL-C 測定法としての記載が削除された直接法が、「同ガイドライン 2017 年版」では、使用可能な方法として再び記載された。実地医家やメディカルスタッフ (栄養士、臨床検査技師、看護師など) がガイドラインを正しく活用するために使用する「脂質異常症診療ガイド 2018 年版」にも、上記の内容が反映され、実臨床で活用されるようになった。また、直接法の検討結果は、「特定健康診査・保健指導 (第 3 期)」における 2018 年度の検査項目の見直しにおいても重視され、従来通り LDL-C の測定法として直接法を使用してもよいこととなった。また、トリグリセライド (TG) の測定試薬が欧米と日本で異なるが、その差の原因となる遊離グリセロールは肥満者で高くなること、食事摂取で低下することを示した(*11)。また、企業との共同研究により、遊離グリセロールを直接測定する試薬を開発した(*12)。

神経細胞の細胞膜の脂質ラフトでアミロイド β の産生が亢進している可能性が示唆されているが、成長ホルモンが神経細胞からのコレステロール排泄を促進する可能性があることを、血清中の 24S-ヒドロキシコレステロールを GC-MS で測定することにより示した (J Clin Lipidol. 2017)。さらに 24S-ヒドロキシコレステロールが神経細胞における脂質代謝異常のマーカーとして有用であることを、シトリン欠損症の小児で示した (J Clin Endocrinol Metab, 2018)。

また、本研究グループは、既に認知症で髄液中の可溶性リポ蛋白受容体である sLR11 が、アルツハイマー病 (特にアポ E4 のキャリアー) で高いことを発表しているが、sLR11 はアミロイド β が髄液中 HDL のアポ E への結合することを競合的に阻害している可能性を示した (Clin Chim Acta. 2019)。これにより、髄液中の sLR11 がアルツハイマー病の診断マーカーとして有用であることが示唆された。

循環器内科 (代田ら) は、動脈硬化巣から余剰コレステロールを引き抜き、肝臓に運搬する

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

役割を持つ高比重リポタンパク (HDL) に着目し、冠動脈治療後の予後を規定する因子の探索を試みた。①様々な遺伝子発現の制御に関わるマイクロ RNA (miRNA) が血中に存在し、遠隔臓器間での情報伝達を担っている。血中の miRNA の一部は HDL に結合していることが報告されているため、HDL の miRNA と冠動脈治療後の予後の関連を解析した。比重により HDL を分離する場合、miRNA を含有する代表的な細胞外小胞であるエクソソームと HDL を明確に分けることが困難である。そこで HDL の主要構成タンパクである ApoA1 に対する免疫吸着カラムを用いて HDL の単離を行ったところ、エクソソームを含まない高純度な HDL 画分を単離することができた。次に、冠動脈治療を施行した症例のうち 5 年間の追跡期間中に死亡した群と生存した群について、統計学的手法を用いて背景因子を揃えたそれぞれ 3 例ずつを抽出した。冠動脈治療時の保存血清から HDL を単離し、マイクロアレイによる HDL-miRNA の網羅的な解析を行った。その結果、生存群に比べて死亡群で発現が増加または減少した miRNA が 18 種類同定された。今後、定量的 PCR を用いてこれら miRNA の発現変化のバリデーションを行い、さらに miRNA の機能についても明らかにする。②近年の研究から心血管イベントの予測因子として HDL コレステロールではなく、HDL の機能が重要であることが明らかになってきた。そこで HDL 機能の指標としてマクロファージからのコレステロール引き抜き能 (cholesterol efflux capacity, CEC) の測定系を確立した。具体的には、放射性同位体標識したコレステロールを J774.1 マクロファージ様細胞に取り込ませ、血清から VLDL および LDL を沈殿させて取り出した HDL 含有画分を加えて培養したのち、培養上清中の放射活性を測定した。まず最も一般的な不整脈である心房細動症例について、カテーテルアブレーション施行直前に採取した血清を用いて HDL-CEC を測定した。その結果、左心房の肥大、すなわち構造的リモデリングが進行した症例では正常な左心房径を有する症例に比べて CEC が有意に低値を示した。また、心房細動の分類のうち、発作性心房細動よりも慢性心房細動の症例において CEC の低下が認められた。

形成外科(水野・田中ら)は、糖尿病血管障害制御の病態解明を行っている。糖尿病患者において末梢血 CD34+細胞における PGC1 α と Notch シグナルの障害が存在していることを明らかにし、独自で開発した QQc 培養においては PGC1 α と Notch シグナルの障害を改善し、QQc 細胞は高い血管新生・創傷治癒効果を有することを明らかにした (Tanaka R et al. Stem Cell Translational Research doi.org/10.1002/sctm.17-0043, 2019)。Notch シグナルは血管新生において正常脈管形成やリモデリングに必須なシグナルであるが、過剰な活性は逆に異常血管形成や血管機能障害をもたらす。糖尿病患者においては末梢血 EPC の Notch シグナル障害が生じているため、QQc による NonResponder が存在することが示唆された。 γ -セクレターゼ阻害剤は、Notch シグナルの伝達物質である γ -セクレターゼの切断を阻害することで Notch 伝達経路を制御する薬剤化合物である。我々は、糖尿病 EPC に γ -セクレターゼ阻害剤を用いると EPC 機能障害が改善することを明らかにし (Sukmawati D, Tanaka R. et al Journal of Diabetes and Its Complications 30:12-20, 2016)、本研究成果より糖尿病 QQc Non-Responder 患者にも有効な培養技術を確立するため、 γ -セクレターゼ阻害剤を用いた新規培地を開発した (特許出願済み*13)。本培地は QQc に比べ糖尿病患者の EPC 血管再生能を有意に増幅させ、より効果的に M2 細胞制御が可能になった。以上のことより糖尿病マウスとヒト糖尿病患者の血管内皮前駆細胞 (血管幹細胞) における PGC-1 α -Notch signaling 伝達障害に起因する血管内皮への分化障害を明らかにし、これらの結果を、次項に示すバイオマーカーの同定および血管再生治療の開発へ応用している。

生化学第 2 (長岡ら)は、生活習慣病の際に生じる血管障害を誘起する分子メカニズムの解明のため、LL-37 と呼ばれるアミノ酸 37 個からなるヒト抗菌ペプチドの血管障害に対する役割を検討した。抗菌ペプチドは上皮細胞や好中球などから産生されて外敵に対する一次防御として機能し、抗微生物作用を発揮するだけでなく、上皮細胞や免疫担当細胞などの宿主細胞に作用してそれらの細胞機能を制御することから、最近では生体防御ペプチドとも呼ばれている。LL-37 はグラム陽性、陰性細菌、真菌に対して殺菌作用を示すだけでなく、グラム陰性菌外膜のエンドトキシン (リポ多糖 : lipopolysaccharide LPS) に直接結合して中和する。こうした作用から、LL-37 が LPS の作用を制御することによって生体防御に役立つと考えられている。また、LL-37 は血管内皮細胞に作用して増殖・血管新生を促進することから、血管障害に対して保護

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

的に働く可能性が示唆されている。一方、肝臓の血管内皮細胞は LPS を取り込み除去することにより (LPS クリアランス)、生体防御に寄与している。そこで、肝臓の類洞内皮細胞による LPS の取り込みに対する LL-37 の効果について検討した (J Immunol 196: 1338-1347, 2016)。その結果、1.LL-37 はそれ自身に細胞へ取り込まれる作用があり、LPS が共存すると、これと結合して複合体を形成し、LPS を積極的に細胞内に取り込ませる作用があることを見出した。2.また、エンドサイトーシス阻害剤やヘパリナーゼを用いた実験から、LL-37-LPS 複合体は血管内皮細胞表面のヘパラン硫酸プロテオグリカンに結合し、エンドサイトーシスを介して細胞内へ取り込まれることがわかった。3.さらに、LPS の TLR4 受容体シグナル系に及ぼす効果を検討したところ、LPS が LL-37 と結合して (複合体として) 血管内皮細胞に取り込まれても、TLR4 シグナル経路が活性化されないことがわかった。以上の結果から、抗菌ペプチドである LL-37 は LPS と複合体を形成することによって、LPS シグナルを活性化することなく、エンドサイトーシスを介して、血管内皮細胞に対して障害作用のある LPS を血流から除去することによって、血管障害に対して防衛的に働く可能性が考えられる(*14)。

このように、LL-37 は微生物成分による血管障害に対して防衛的に働く可能性がある一方、生活習慣病である動脈硬化症の病変部位において LL-37 の沈着が見られることなどから、動脈硬化症の増悪因子としても着目されている。血管障害のリスクは加齢とともに高まることから、長岡・鈴木らは、老化した血管内皮細胞の性状解析をおこなうとともに、LL-37 が老化細胞に対してどのように影響するか検討した。その結果、①老化した血管内皮細胞は非老化細胞に比べて接着因子 ICAM-1 の発現が高く、また、ICAM-1 の発現調節を担う NF- κ B 経路も活性化していることを見出した (p65 サブユニットのリン酸化が亢進)。また、NF- κ B 経路の過度な活性化を抑える因子として知られる A20 は、反対に老化細胞で減少していた。さらに、②LL-37 は血管内皮細胞に作用して ICAM-1 の発現を誘導することが知られるが、老化した血管内皮細胞では LL-37 による ICAM-1 の発現誘導がさらに増強し、またこの時、p65 のリン酸化レベルも老化細胞においてより強くなることを見出した。これらのことから、老化した血管内皮細胞では NF- κ B 経路が恒常的に活性化しており、その結果として ICAM-1 に代表される炎症促進因子の発現が基底レベルで増加していること、さらに、LL-37 に対する炎症応答 (ICAM-1 の発現誘導と NF- κ B p65 のリン酸化) も老化血管内皮細胞で増強されることがわかった (論文投稿中)。以上の結果より、血管内皮細胞は老化にもなって恒常的な炎症促進性の形質を獲得し、さらに、LL-37 に暴露された際にはより強い炎症応答を起し、動脈硬化症の増悪に関わると考えられる。

免疫学 (三宅ら) は、動脈硬化・糖尿病などの生活習慣病の病態に関与する、抗原特異的反応を伴わない自然免疫系の細胞が中心となる炎症について研究を進めた。自然免疫系の細胞では、単球、マクロファージに加え、それらの機能を調節する細胞として、自然リンパ球が注目されている。自然リンパ球は、自然免疫と獲得免疫の中間的特徴を持つ細胞で、組織に多く存在し様々な免疫応答の調節に関与する。自然リンパ球は、抗原認識をしない細胞群と限られた抗原を認識する invariant natural killer (iNKT) 細胞や mucosal associated invariant T (MAIT) 細胞などを含む。三宅らは、これまで iNKT 細胞が動脈硬化に関与することを報告した (Blood 2004) が、iNKT 細胞はマウスでは大きな細胞集団を形成するがヒトではその頻度は少ない。一方 MAIT 細胞は、ヒト末梢血 T 細胞の数%を占め、腸などの粘膜にはさらに多く存在する細胞として注目されている。三宅らは、MAIT 細胞についてマウス自己免疫モデルにおける関与、ヒト自己免疫疾患および炎症性疾患における関与について明らかにしてきた(*15-*17)。MAIT 細胞が動脈硬化やそれに伴う虚血性疾患、炎症性腸炎などの生活習慣病において、どのように関与しているかを明らかにし、MAIT 細胞の制御によるこれらの疾患の進展抑制や予防につながる可能性を探索した。炎症性腸疾患は、近年増加しており食事を含めた生活習慣による影響が大きいと考えられている慢性炎症である。

本研究において MAIT 細胞がヒト炎症性腸炎で病巣部に集積していることを見出し(*18)、ヒトの慢性炎症において重要な役割を担っていることが示唆された。MAIT 細胞が存在しない MR1 欠損マウスに炎症性腸炎および虚血性疾患などの疾患モデルを誘導し、これら病態における MAIT 細胞の役割を検討した。野生型マウスと MR1 欠損マウスに誘導した炎症性腸炎の病態を比較すると、臨床的および病理学所見から MR1 欠損により腸炎が軽症化することが示され

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

た。腸炎を惹起した野生型マウスの腸管粘膜固有層に MAIT 細胞が集積していたことから、MAIT 細胞の存在や活性化が腸炎病態増悪に関与すると考えられた。そこで MAIT 細胞の活性化を抑制する MR1 リガンドを新規に合成し、MAIT 細胞を標的とした炎症性疾患制御の可能性について検証した。まず合成した MR1 リガンドについて、培養系および生体内において MAIT 細胞の活性化抑制能を有するかを評価した。効果の確認された抑制タイプ MR1 リガンドをマウスに投与すると炎症性腸炎が軽症化することが示された。中大脳動脈閉塞による脳虚血モデルにおいても、MR1 欠損により虚血巣の縮小、神経学的重症度スコアの低下を認め、MAIT 細胞は脳梗塞の増悪にも寄与することが明らかとなった。そこで、動脈閉塞解除直後に抑制型 MR1 リガンドを投与したところ、梗塞巣体積および神経学的重症度スコアが低下し脳梗塞の軽症化が確認された。今後は MAIT 細胞による病態増悪作用についてその機序を明らかにする予定である。同時に、非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)など他の生活習慣病における MAIT 細胞の役割、MAIT 細胞を標的とした疾患制御の可能性を探る予定である。

脳神経内科（服部ら）は、生活習慣病との関連が指摘されている脳梗塞、アルツハイマー病やパーキンソン病等の神経変性疾患について、患者サンプル及びモデル実験系を用いた病態解明を行っている。多検体の患者血液サンプルと臨床情報から神経変性疾患の遺伝子解析を行い、特に新規パーキンソン病原因遺伝子として CHCHD2 を同定し (*19)、CHCHD2 変異ハエモデルから同遺伝子変異によりミトコンドリア障害と細胞死誘導が誘導されることを報告した (*20)。さらにパーキンソン病モデル細胞・マウス・ハエを作製し表現型解析や病態解明を報告した (*21-70)。なかでも、パーキンソン病患者由来 iPS 細胞からドーパミン神経を誘導し、パーキンソン病患者ドーパミン神経における parkin によるリン酸化ユビキチン化シグナル異常を報告し、またマウスモデルでパーキンソン病病態に重要であることが分かった soluble epoxide hydrolase がパーキンソン病患者 iPS 細胞由来ドーパミン神経においても同様の効果を示すことを示した。これらの結果は、本事業で集積した細胞バンクから iPS 細胞を作製すれば、ドーパミン神経に分化誘導することで病態解明および治療薬開発を進めることができることを示している。

また多検体の患者血液サンプルの代謝産物を網羅的に解析することにより、初期パーキンソン病患者血液においてミトコンドリアでの β 酸化異常を呈することを見だし (*71)、さらにパーキンソン病治療薬として用いられるゾニサミドに改善効果があることを報告した (*72)。さらにこれまでにパーキンソン病予防効果を指摘されつつも詳細が知られていなかったカフェインについても、パーキンソン病患者で血中濃度が低下していることも報告した (*73)。これらの結果は蓄積した患者検体を iPS 化のおよび神経分化後の表現型検索および薬剤スクリーニングなどによる治療薬開発に繋がるものと期待できる。

神経生物学・形態学（小池ら）は疾患 iPS 細胞由来神経細胞におけるオルガネラの動態の感度の高い免疫電子顕微鏡法を行うため、ユトレヒト大学との共同研究で、単層培養細胞の包埋法(flat-embedding procedure)の改良法、およびオートファゴソームマーカー LC3 について培養細胞で内在性分子を検出するための免疫電子顕微鏡法の開発を行った。これらの技術は、パーキンソン病由来 iPS 細胞を用いたドーパミン神経細胞特異的なオルガネラの超微形態学的変化を明らかにするために必須で、そのため、ドーパミン神経特異的に発現する Tyrosine Hydroxylase (TH) 遺伝子へ GFP 遺伝子を CRISPR/Cas9 システムによりノックインすることで、ドーパミン神経細胞特異的に GFP を発現する Park2 患者および健常者の iPS 細胞を樹立した。さらに、小脳プルキンエ細胞特異的なカテプシン D および Atg7 欠損マウスの小脳変性の比較解析を行い、前者のほうが早く神経細胞死に陥ることを明らかにした(*74 Koike et al., Am. J. Pathol. 2017)。

この解析と並行して、オートファゴソームとリソソームの融合に関わるとされる LAMTOR1/p18 遺伝子に着目し、小脳プルキンエ細胞特異的な遺伝子欠損マウスを作成、解析したが顕著な症状は見出されなかった。そこで、Nestin-Cre マウスを用いて中枢神経系特異的な遺伝子欠損マウスを作成したところ、同マウスは生後 14 日で死に至り、中枢神経系において髄鞘が全く認められず白質が形成されないことが組織学的解析と MRI による解析で明らかとなった。さらに、脳神経内科の服部教授との共同研究に参画し、若年性パーキンソン病の原因遺伝子である Atp13a2(Park9)の神経系特異的なノックアウトマウスで神経性セロイドリポフスチン蓄積症の病態を呈することを明らかにした(*75 Sato et al., Am. J. Pathol., 2016)。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

③患者検体を活用した生活習慣病の治療方法の開発

代謝内分泌内科（綿田・宮塚ら）は糖尿病で失われる β 細胞の再生を目指した基礎的研究を行った。膵前駆細胞株である mPac 細胞に Pdx1, Neurog3, Mafa を同時に発現するアデノウイルス(Ad-PNM)を感染させると、mPac 細胞の一部がインスリン陽性細胞へとリプログラミングを受け一方で、Stat3 のリン酸化は抑制されていた。さらに Stat3 阻害薬、dominant negative Stat3 発現により新生 β 細胞数が有意に増加した。これらの結果は、Pdx1, Mafa, Neurog3 の導入と同時に Stat3 シグナルが抑制されることにより acinar-to-beta reprogramming が亢進することを示している。一方、複数の遺伝子改変マウスを用いて腺房細胞特異的に転写因子である Pdx1, Neurog3, Mafa を過剰発現させたところ(Exo-PNM マウス)、 β 細胞新生が誘導されることを確認した。次に Exo-PNM マウス膵臓におけるリン酸化 Stat3(pStat3)の発現を免疫組織染色にて観察したところ、transgene 陽性の外分泌領域に pStat3 陽性細胞を認めたが、誘導された新生 β 細胞は pStat3 陰性であった。リプログラミング過程における Stat3 の機能を明らかにするため、Stat3 欠損 Exo-PNM マウスを作製したところ、対象マウス(Stat3^{fllox/+}; exo-PNM マウス)に比べ、新生 β 細胞数が有意に増加し、数個の β 細胞が一塊となった膵島様クラスターも形成されていた。 β 細胞成熟化のマーカーである urocortin 3 (Ucn3)に対する免疫染色を行ったところ、Stat3 欠損 Exo-PNM マウスでは Ucn 3 陽性新生 β 細胞数が有意に増加していた。さらに糖尿病モデルマウスの膵臓に Ad-PNM を注入し、STAT3 阻害薬 BP-1-102 を投与したところ、vehicle(DMSO)を投与した場合に比べ、血糖コントロールが有意に改善した。次に α 細胞特異的 Stat3 欠損 PNM 過剰発現マウスを作製し、 α 細胞由来 β 細胞数を定量したところ、Stat3 シグナルを欠失させることにより、新生 β 細胞数が有意に増加していた(*76)。以上の *in vitro* および *in vivo* 実験結果は Stat3 が膵腺房細胞あるいは膵 α 細胞の可塑性を制御する重要な役割を担っていることを示すとともに、Stat3 シグナルを修飾することで β 細胞新生効率が上昇することを示しており、成体に内在する細胞を用いた direct reprogramming による将来の β 細胞再生医療への応用が期待される。

皮膚科（池田ら）は、生活習慣病に伴う創傷治癒のための再生医療のソースとしての脂肪組織由来幹細胞の有効性を示すため、本細胞の表皮水疱症治療への応用を目的として研究をおこなった。その結果、脂肪組織由来幹細胞を IV 型コラーゲン上にて線維芽細胞と共培養し、all-trans レチノイン酸と bone morphogenetic protein-4 にて刺激する方法で、多くの細胞が表皮角化細胞へと分化誘導されることを見出した(*77)。また、これら表皮角化細胞へと分化誘導された脂肪組織由来幹細胞の大部分が、栄養障害型表皮水疱症患者において減少または欠損している VII 型コラーゲンを発現していることが明らか

になった(*78)。以上の事実から、本細胞を栄養障害型表皮水疱症の治療に応用出来る可能性がある。

生化学第 1（横溝ら）は難治性皮膚潰瘍の治療薬の開発・実用化を目指した研究を行っている。皮膚創傷治癒を促進する BLT2 作働薬の開発を目指し、リード化合物のスクリーニングを行った。数万種の化合物ライブラリーから、BLT2 受容体過剰発現細胞の細胞内カルシウム上昇を指標に、4つのリード化合物を選択し、以降の *in vitro* の解析を行った。4つの化合物のいずれもが、BLT2 発現ヒトケラチノサイト (HaCaT 細胞)の移動を促進した(*79,80)。4つの中から、最も BLT2 作働活性が高かった化合物を選択し、構造機能相関をあきらかにすべく、構造展開を行っているところである。最も BLT2 作働活性が高かった化合物は、核内受容体 PPAR の作働活性を有していることが判明した。新規薬剤化にあたって、標的分子が複数存在することは問題なので、PPAR 作働活性を消失させる構造展開を行っている。生理活性脂質受容体研究をさらに発展させ、BLT2 作働薬が皮膚バリア機能を亢進させること(*81)、皮膚に加えて角膜の創傷治癒を促進すること(*82)、肺炎球菌毒素による急性肺障害の保護作用を有すること(*83)を見いだした。さらに BLT2 に類似する構造を有するロイコトリエン B4 受容体 BLT1 の結晶構造の解明に成功し(*84, 85)、受容体構造を元にした新規創薬の基礎を築くことができた。また、BLT1 欠損や BLT1 拮抗薬が、M2 マクロファージの浸潤を抑制することで、マウス加齢黄斑変性症を抑制することを見だし、加齢黄斑変性症の新規治療標的となりうることを示した(*84, 86)。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

形成外科(水野・田中ら)は、難治性潰瘍患者に対する生体外培養増幅末梢血単核球細胞移植による血管再生治療の開発を進めている。生体外で培養増幅した末梢血単核球を用いて、2015年に臨床研究を開始した。2017年度までに合計10例の患者に本治療を実施した。結果、全例で歩行の維持、血流の改善、痛みの改善を認めた。しかしながら、長期の治療経過を観察する中で、再発や血流の低下を認め、より高い治療効果を示す方法の技術開発が必要とされた。これらの結果を踏まえ投与方法の改良を実施し、2019年より新たな臨床研究を開始した。新規移植法を用いて現在までの2例の難治性潰瘍患者に本細胞移植を実施し良好な結果を得ている。これらの結果により、現在までにPMDAとの対面助言、FDAとのpreINDを実施し、今後2年以内に治験へと展開する予定であり、本再生医療の効果がより確実なものになると期待される。同時に、約10%の頻度で培養法において培養効率が極めて低い患者(Non-responder)が存在した。これらの患者の、細胞表面マーカーと遺伝子バイオマーカーの開発を行い、候補となる因子を数個検出している。一方、Non-responderの培地にのみ特異的に検出できる血管新生関連因子のサイトカインをいくつか同定している。これらのデータをもとに移植細胞の品質を保証できる試験方法を見いだせ、現在特許出願準備中である。さらに、現行の培養方法を改良し、Non-responderの末梢血管幹細胞の機能をより一層高められる新規培養法の開発に取り組み、JAXAとの共同研究の元、無重力を用いた新規培養方法の開発に成功し、論文発表を行った(*87, 2018, Scientific Reports)。

<優れた成果が上がった点>

1. ヒトiPS細胞からの高効率な神経分化誘導方法の開発(赤松ら)
2. 患者検体の収集(バンク化)と臨床情報を含めた情報のデータベース化(赤松・服部ら)
3. バンク化した多検体患者サンプルのうち100検体以上を解析可能なiPS細胞化した(赤松・服部ら)
4. 多施設共同研究によりLDL-CおよびHDL-Cの測定試薬製品の信頼度を向上させた(三井田ら)
5. sLR11はアミロイドβが髄液中HDLのアポEへの結合を競合的に阻害している可能性を示し、髄液中のsLR11がアルツハイマー病の診断マーカーとして有用であることが示唆された(三井田ら)
6. HDLの構成成分である血清ApoA1値が、冠動脈疾患の予後を正確に予測することを示した(代田ら)
7. 冠動脈治療後の予後良好・不良症例において発現の異なるHDL miRNAを見出した(代田ら)
8. LL-37が血中からLPSを除去することによって血管障害に対して防御的に働く可能性を示した(長岡ら)
9. 老化血管内皮細胞ではLL-37に対する炎症応答が増強され動脈硬化症の増悪に関わることを示した(長岡ら)
10. 糖尿病患者特異的な分化障害を改善する培地の開発に成功した。(水野・田中ら)。
11. 生体外培養増幅末梢血単核球細胞を再生医療等製品として承認を得るための治験準備が進んでいる。(水野・田中ら)
12. MAIT細胞が潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の病態に寄与する可能性を示した(三宅ら)
13. 319名の糖尿病性腎不全患者をリクルートし、TNFRと生命予後の関連を明らかにした。(鈴木ら)
14. 多検体の患者血液サンプルと臨床情報から新規パーキンソン病原因遺伝子としてCHCHD2を同定した(服部ら)
15. 多検体患者血液サンプルから新たなパーキンソン病バイオマーカーを同定した(服部ら)
16. パーキンソン病がリソソーム病と共通した病態を呈することを明らかにした。(小池ら)
17. 膵腺細胞をインスリン産生細胞へ効率よくリプログラミングする方法を開発した。(綿田・宮塚ら)
18. 脂肪組織由来幹細胞を表皮角化細胞へと分化誘導する方法を確立した。(池田ら)
19. 皮膚創傷治癒を促進するBLT2作働薬の候補として4つのリード化合物を同定した(横溝ら)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

<課題となった点>

各研究グループが行っている生活習慣病の病態解明と治療法開発は大きな成果を上げたが、患者リソースを直接活用した研究は一部に留まった。その原因として研究内容によって、目的とする疾患および対照群が異なり全体としてはあまりに広範囲となったことや、必要とするサンプル（血球、iPS 細胞、血清、血漿など）が異なることが挙げられた。そのため、iPS 細胞用検体など再生技術を用いた研究を目的とする場合はゲノム・再生医療センターにて統一したフォーマットで同意書・患者検体等を管理保存し、各研究グループによる目的に応じた独自のサンプル収集は各グループで管理し、同時に再生技術利用を目的としたサンプルも採取した場合には管理番号によって紐付けしつつゲノム・再生医療センターにて管理保存する方法を取った。本方法により完全な集約的サンプル管理とはならないが、少なくとも再生医療用検体については集約的に管理しつつ、各研究における要望にも応えることができる体制となった。今後も本事業が全体目標とする集約的なサンプルの活用と情報の共有体制の提供することで、本事業で得られた患者リソースの有効活動を推進する。

<自己評価の実施結果と対応状況>

新井研究代表のもとで運営会議を定期的開催し、各研究者は年度ごとに研究の進捗と今後の計画を報告し、全体の進捗状況と問題点とその対応について討議し、事業計画の改善を図った。個別の研究課題は順調に進行したが、当初全体の目標である学内で共通利用可能な患者検体の収集（バンク化）と臨床情報を含めた情報のデータベース化の進行が不十分であり、この点を重点化して研究を推進した。その結果中間報告の時点では下記に示すとおり外部委員から十分な講評を頂くことができた。中間評価以後は、バンク化およびデータベースの拡充と共に、研究リソースとしての使用ができる体制を整備した。なかでも学内で iPS 細胞からの分化誘導手法が確立している神経学の領域で先行して業績を挙げ、神経以外の領域でも最終報告時点で結論に至っていないものの再生技術を用いた研究も進行中である。また形成外科では実際に患者への臨床研究として再生医療への応用も行われている。

<外部（第三者）評価の実施結果と対応状況>

東京都医学総合研究所・田中啓二理事長兼所長と、東京大学薬学部三浦正幸教授を外部評価委員として委嘱し評価を頂いている。中間報告までの進捗に関しては「患者検体の収集・登録（患者データベースの構築と体細胞の採取）を完了しており、さらに登録作業と検体採取は継続中であること、多くの生活習慣病の病態研究・治療法開発が進行していること、その結果得られた新知見に基づいて多数の優れた学術論文が上梓されている」、「今後は患者のリソースを充実させ、細胞バンク活用を意識した研究も進展することが期待される」との講評を頂いた。運営委員会で議論し、検体のバンク化・データベース化の一層の拡充と、実際にそれらを研究リソースとして活用できる体制の整備を重要課題として研究を進行していく方針とした。

外部評価委員からの最終評価では、「本プロジェクトでは、脳神経内科とゲノム・再生医療センターが中心となって、患者検体を大規模に収集、試料バンクとして保存するとともに臨床情報を含めてデータベース化することを目指してきたことは、有用な戦略であった。（中略）数百にも及ぶ多数の検体から解析可能な iPS 細胞を数多く樹立してきたことは、内外に大きなインパクトを与える優れた成果と高く評価できる。」、「これらのリソースの充実をベースにした研究提案が、AMED 難治性疾患実用化研究事業、創薬基盤推進研究事業などの大型グラントへの採択につながっており、これからの研究展開に弾みがついた。生活習慣病の発症や進行には臓器連関が重要であるため、多くの分野の専門的な研究グループが一緒になって行うプロジェクト全体をみる体制作りが必要である。この点に関して、再生技術を用いた研究には、ゲノム・再生医療センターにて統一したフォーマットで同意書・患者検体等を管理保存する体制をとることで研究がしやすい仕組みが作られた。」と患者検体のバンク化・データベース化およびその整備体制について高く評価いただいた。さらに研究成果についても「新規パーキンソン病原因遺伝子の同定、アルツハイマー病やパーキンソン病診断マーカーの同定、パーキンソン病とリソソーム病との共通点の発見、BLTI の加齢黄斑変性症への関わりや皮膚創傷治療を促

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

す BLT2 作働薬の候補化合物の同定など、臨床医学的にも基礎医学としても重要な研究が多く進められた。」との講評をいただいた。一方で、「本プロジェクト研究は日進月歩に進捗していることが窺えるが、依然として生活習慣病の全容解明には未解決な課題が山積しており、研究の停滞は許されない状況にあるので、さらなる研究の継続と発展を期待したい。」「重要なのは、整備された再生医療研究に有効な本リソースを用いた研究の展開であり、iPS 細胞からの細胞分化誘導の手法が進んでいる神経系に関してはオルガノイドを含めた研究の展開が期待される。他の細胞、組織に関しては神経系での手法を参考にしつつ、進んだ細胞分化誘導系を積極的に取り込んだ研究を進めてほしい。」との評価を受けたことから、順天堂大学大学院ゲノム・再生医療センターが中核となり、本事業で確立した患者検体・データバンクを有効活用し再生技術を用いることで、生活習慣病のさらなる発症機序解明や治療薬開発に繋がる研究を引き続き推進していく方針である。

<研究期間終了後の展望>

本事業の成果の1つである多検体患者サンプルおよび患者データベースは、国内のみならず国際的にも貴重なものであり、各研究グループによる生活習慣病研究の成果と合わせて、国民の健康に資する病態解析や治療法開発に繋げるべく、このリソースを最大限効果的に利用する体制を今後も提供する。さらに確立した iPS 細胞を含む再生医療関連技術および設備基盤は、今後大きく発展すると思われる再生医療の実践に大きく貢献できるものであると考える。今後も新井研究代表のもとで順天堂大学大学院医学研究科ゲノム・再生医療センターが中核となり、本事業により確立された研究基盤の効果を最大化するために、集約的なサンプルの活用と情報の共有体制を提供し、各グループの研究を促進する。

<研究成果の副次的効果>

1. iPS 細胞から神経細胞への高効率な誘導法を開発し、2 件の特許を取得した (赤松ら)
2. 企業との共同研究により、遊離グリセロールを直接測定する試薬を開発した (三井田ら)
3. LDL-C 測定の直説法の改善により「動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017 年版」で、使用可能な方法として再び記載された (三井田ら)
4. LDL-C 測定の直説法の改善により「特定健康診査・保健指導 (第 3 期)」における 2018 年度の検査項目の見直しにおいて LDL-C 測定法として直接法が認められた (三井田ら)
5. 糖尿病患者に特化した EPC の機能増幅を目的とした新培地の開発に成功した(田中・水野ら)

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|-----------------|-------------------|-------------------|
| (1) <u>幹細胞</u> | (2) <u>細胞バンク</u> | (3) <u>データベース</u> |
| (4) <u>血管障害</u> | (5) <u>糖尿病</u> | (6) <u>iPS 細胞</u> |
| (7) <u>再生医療</u> | (8) <u>神経変性疾患</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

英文

(ゲノム・再生医療センター)

1. Nishihara K, Shiga T, Nakamura E, Akiyama T, Sasaki T, Suzuki S, Ko M, Tada N, Okano H and **Akamatsu W**.
Induced pluripotent stem cells reprogrammed with three inhibitors show accelerated differentiation potentials with high levels of 2-cell-stage

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

marker expression.

Stem Cell Reports. 2019 Feb 12;12(2):305-318.

2. Ueno SI, Saiki S, Fujimaki M, Takeshige-Amano H, Hatano T, Oyama G, **Ishikawa KI**, Yamaguchi A, Nojiri S, **Akamatsu W**, **Hattori N**.
Zonisamide Administration Improves Fatty Acid β -Oxidation in Parkinson's Disease.
Cells. 2018 Dec 29;8(1). pii: E14.
3. Ren Q, Ma M, Yang J, Nonaka R, Yamaguchi A, **Ishikawa KI**, Kobayashi K, Murayama S, Hwang SH, Saiki S, **Akamatsu W**, **Hattori N**, Hammock BD, Hashimoto K.
Soluble epoxide hydrolase plays a key role in the pathogenesis of Parkinson's disease.
Proc Natl Acad Sci U S A. 2018 Jun 19;115(25):E5815-E5823.
4. Imaizumi K, Fujimori K, Ishii S, Otomo A, Hosoi Y, Miyajima H, Warita H, Aoki M, Hadano S, **Akamatsu W**, Okano H.
Rostrocaudal Areal Patterning of Human PSC-Derived Cortical Neurons by FGF8 Signaling.
eNeuro. 2018 Apr 26;5(2). pii: ENEURO.0368-17.2018.
5. Suda Y, Kuzumaki N, Sone T, Narita M, Tanaka K, Hamada Y, Iwasawa C, Shibasaki M, Maekawa A, Matsuo M, **Akamatsu W**, Hattori N, Okano H, Narita M.
Down-regulation of ghrelin receptors on dopaminergic neurons in the substantia nigra contributes to Parkinson's disease-like motor dysfunction.
Mol Brain. 2018 Feb 20;11(1):6.
6. Mao D, Chung XKW, Andoh-Noda T, Qin Y, Sato SI, Takemoto Y, **Akamatsu W**, Okano H, Uesugi M.
Chemical decontamination of iPSC cell-derived neural cell mixtures.
Chem Commun (Camb). 2018 Feb 1;54(11):1355-1358.
7. Okuno H, Renault Mihara F, Ohta S, Fukuda K, Kurosawa K, **Akamatsu W**, Sanosaka T, Kohyama J, Hayashi K, Nakajima K, Takahashi T, Wysocka J, Kosaki K, Okano H.
CHARGE syndrome modeling using patient-iPSCs reveals defective migration of neural crest cells harboring CHD7 mutations.
Elife. 2017 Nov 28;6. pii: e21114.
8. Fujimori K, Matsumoto T, Kisa F, Hattori N, Okano H, **Akamatsu W**.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Escape from Pluripotency via Inhibition of TGF- β /BMP and Activation of Wnt Signaling Accelerates Differentiation and Aging in hPSC Progeny Cells.

Stem Cell Reports. 2017 Nov 14;9(5):1675-1691.

9. Shiba-Fukushima K, **Ishikawa KI**, Inoshita T, Izawa N, Takanashi M, Sato S, Onodera O, **Akamatsu W**, Okano H, Imai Y, **Hattori N**.
Evidence that phosphorylated ubiquitin signaling is involved in the etiology of Parkinson's disease.
Hum Mol Genet. 2017 Aug 15;26(16):3172-3185.
10. **Ishikawa KI**, Yamaguchi A, Okano H, **Akamatsu W**.
Assessment of Mitophagy in iPS Cell-Derived Neurons.
Methods Mol Biol. 2018;1759:59-67.
11. Nakazawa T, Kikuchi M, Ishikawa M, Yamamori H, Nagayasu K, Matsumoto T, Fujimoto M, Yasuda Y, Fujiwara M, Okada S, Matsumura K, Kasai A, Hayata-Takano A, Shintani N, Numata S, Takuma K, **Akamatsu W**, Okano H, Nakaya A, Hashimoto H, Hashimoto R.
Differential gene expression profiles in neurons generated from lymphoblastoid B-cell line-derived iPS cells from monozygotic twin cases with treatment-resistant schizophrenia and discordant responses to clozapine.
Schizophr Res. 181:75-82. 2017
12. Takayama Y, Wakabayashi T, Kushige H, Saito Y, Shibuya Y, Shibata S, **Akamatsu W**, Okano H, Kida YS.
Brief exposure to small molecules allows induction of mouse embryonic fibroblasts into neural crest-like precursors.
FEBS Lett. 591(4):590-602. 2017
13. Andoh-Noda T, **Akamatsu W**, Miyake K, Kobayashi T, Ohyama M, Kurosawa H, Kubota T, Okano H.
Differential X Chromosome Inactivation Patterns during the Propagation of Human Induced Pluripotent Stem Cells.
Keio J Med. Jan 20. 2017
14. Suzuki S, **Akamatsu W**, Kisa F, Sone T, **Ishikawa KI**, Kuzumaki N, Katayama H, Miyawaki A, **Hattori N**, Okano H.
Efficient induction of dopaminergic neuron differentiation from induced pluripotent stem cells reveals impaired mitophagy in PARK2 neurons.
Biochem Biophys Res Commun. 483(1):88-93. 2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

15. Hosoya M, Fujioka M, Sone T, Okamoto S, **Akamatsu W**, Ukai H, Ueda HR, Ogawa K, Matsunaga T, Okano H.
Cochlear Cell Modeling Using Disease-Specific iPSCs Unveils a Degenerative Phenotype and Suggests Treatments for Congenital Progressive Hearing Loss.
 Cell Reports Jan 3;18(1):68-81. 2017
16. Okuno H, Nakabayashi K, Abe K, Ando T, Sanosaka T, Kohyama J, **Akamatsu W**, Ohyama M, Takahashi T, Kosaki K, Okano H.
Changeability of the fully methylated status of the 15q11.2 region in induced pluripotent stem cells derived from a patient with Prader-Willi syndrome.
 Congenit Anom (Kyoto). 2016 Dec 21. doi: 10.1111/cga.12206. [Epub ahead of print]
17. Ouchi T, Morikawa S, Shibata S, Fukuda K, Okuno H, Fujimura T, Kuroda T, Ohyama M, **Akamatsu W**, Nakagawa T, Okano H.
LNGFR+THY-1+ human pluripotent stem cell-derived neural crest-like cells have the potential to develop into mesenchymal stem cells.
 Differentiation. 2016 Dec;92(5):270-280.
18. Hoashi Y, Okamoto S, Abe Y, Matsumoto T, Tanaka J, Yoshida Y, Imaizumi K, Mishima K, **Akamatsu W**, Okano H, Baba K.
Generation of neural cells using iPSCs from sleep bruxism patients with 5-HT2A polymorphism.
 J Prosthodont Res. 2016 Dec 1. pii: S1883-1958(16)30106-2.
19. Toyoshima M, **Akamatsu W**, Okada Y, Ohnishi T, Balan S, Hisano Y, Iwayama Y, Toyota T, Matsumoto T, Itasaka N, Sugiyama S, Tanaka M, Yano M, Dean B, Okano H, Yoshikawa T.
Analysis of induced pluripotent stem cells carrying 22q11.2 deletion.
 Transl Psychiatry. 2016 Nov 1;6(11):e934.
20. (*2)Fujimori K, Tezuka T, Ishiura H, Mitsui J, Doi K, Yoshimura J, Tada H, Matsumoto T, Isoda M, Hashimoto R, **Hattori N**, Takahashi T, Morishita S, Tsuji S, **Akamatsu W**, Okano H.
Modeling neurological diseases with induced pluripotent cells reprogrammed from immortalized lymphoblastoid cell lines.
 Mol Brain. 2016 Oct 3;9(1):88.
21. Bamba Y, Shofuda T, Kato M, Pooh RK, Tateishi Y, Takanashi J, Utsunomiya H, Sumida M, Kanematsu D, Suemizu H, Higuchi Y, **Akamatsu W**, Gallagher D, Miller FD, Yamasaki M, Kanemura Y, Okano H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

In vitro characterization of neurite extension using induced pluripotent stem cells derived from lissencephaly patients with TUBA1A missense mutations.

Mol Brain. 2016 Jul 19;9(1):70.

22. Ichiyanagi N, Fujimori K, Yano M, Ishihara-Fujisaki C, Sone T, Akiyama T, Okada Y, **Akamatsu W**, Matsumoto T, Ishikawa M, Nishimoto Y, Ishihara Y, Sakuma T, Yamamoto T, Tsuiji H, Suzuki N, Warita H, Aoki M, Okano H.
Establishment of In Vitro FUS-Associated Familial Amyotrophic Lateral Sclerosis Model Using Human Induced Pluripotent Stem Cells.
Stem Cell Reports. 2016 Apr 12;6(4):496-510.
23. (*1) Matsumoto T, Fujimori K, Andoh-Noda T, Ando T, Kuzumaki N, Toyoshima M, Tada H, Imaizumi K, Ishikawa M, Yamaguchi R, Isoda M, Zhou Z, Sato S, Kobayashi T, Ohtaka M, Nishimura K, Kurosawa H, Yoshikawa T, Takahashi T, Nakanishi M, Ohyama M, **Hattori N**, **Akamatsu W**, Okano H.
Functional Neurons Generated from T Cell-Derived Induced Pluripotent Stem Cells for Neurological Disease Modeling.
Stem Cell Reports. 2016 Mar 8;6(3):422-35.
24. Andoh-Noda T, Inouye MO, Miyake K, Kubota T, Okano H, **Akamatsu W**.
Modeling Rett Syndrome Using Human Induced Pluripotent Stem Cells.
CNS Neurol Disord Drug Targets. 2016;15(5):544-50.
25. Imaizumi K, Sone T, Ibata K, Fujimori K, Yuzaki M, **Akamatsu W**, Okano H.
Controlling the Regional Identity of hPSC-Derived Neurons to Uncover Neuronal Subtype Specificity of Neurological Disease Phenotypes.
Stem Cell Reports. 2015 Dec 8;5(6):1010-22.
26. Maekawa M, Iwayama Y, Ohnishi T, Toyoshima M, Shimamoto C, Hisano Y, Toyota T, Balan S, Matsuzaki H, Iwata Y, Takagai S, Yamada K, Ota M, Fukuchi S, Okada Y, **Akamatsu W**, Tsujii M, Kojima N, Owada Y, Okano H, Mori N, Yoshikawa T.
Investigation of the fatty acid transporter-encoding genes SLC27A3 and SLC27A4 in autism.
Sci Rep. 2015 Nov 9;5:16239.
27. Ohta E, Nihira T, Uchino A, Imaizumi Y, Okada Y, **Akamatsu W**, Takahashi K, Hayakawa H, Nagai M, Ohyama M, Ryo M, Ogino M, Murayama S, Takashima A, Nishiyama K, Mizuno Y, Mochizuki H, Obata F, Okano H.
I2020T mutant LRRK2 iPSC-derived neurons in the Sagamihara family

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

exhibit increased Tau phosphorylation through the AKT/GSK-3 β signaling pathway..

Hum Mol Genet. 2015 Sep 1;24(17):4879-900.

28. Maekawa M, Yamada K, Toyoshima M, Ohnishi T, Iwayama Y, Shimamoto C, Toyota T, Nozaki Y, Balan S, Matsuzaki H, Iwata Y, Suzuki K, Miyashita M, Kikuchi M, Kato M, Okada Y, Akamatsu W, Mori N, Owada Y, Itokawa M, Okano H, Yoshikawa T.

Utility of Scalp Hair Follicles as a Novel Source of Biomarker Genes for Psychiatric Illnesses.

Biol Psychiatry. 2015 Jul 15;78(2):116-25

29. Andoh-Noda T, Akamatsu W, Miyake K, Matsumoto T, Yamaguchi R, Sanosaka T, Okada Y, Kobayashi T, Ohyama M, Nakashima K, Kurosawa H, Kubota T, Okano H.

Differentiation of multipotent neural stem cells derived from Rett syndrome patients is biased toward the astrocytic lineage.

Mol Brain. 2015 May 27;8:31.

30. Matsui T, Akamatsu W, Nakamura M, Okano H.

Regeneration of the damaged central nervous system through reprogramming technology: basic concepts and potential application for cell replacement therapy.

Exp Neurol. 2014 Oct;260:12-8.

31. Yoshida T, Ozawa Y, Suzuki K, Yuki K, Ohyama M, Akamatsu W, Matsuzaki Y, Shimmura S, Mitani K, Tsubota K, Okano H.

The use of induced pluripotent stem cells to reveal pathogenic gene mutations and explore treatments for retinitis pigmentosa.

Mol Brain. 2014 Jun 16;7:45.

32. Numasawa-Kuroiwa Y, Okada Y, Shibata S, Kishi N, Akamatsu W, Shoji M, Nakanishi A, Oyama M, Osaka H, Inoue K, Takahashi K, Yamanaka S, Kosaki K, Takahashi T, Okano H.

Involvement of ER stress in dysmyelination of Pelizaeus-Merzbacher Disease with PLP1 missense mutations shown by iPSC-derived oligodendrocytes.

Stem Cell Reports. 2014 Apr 24;2(5):648-61.

(腎臓内科)

33. Myette R, Kano T, Suzuki H, Sloan S E, Szretter K J, Ramakrishnan B, Adari H, Deotale K D, Engler F, Shriver Z, Wollacott A, Suzuki Y, Pereira B J.G. **A Proliferation Inducing Ligand(APRIL) targeted antibody is a**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

safe and effective treatment of murine IgA nephropathy. *Kidney Int.* 2019 in press

34. Okonogi H, Kawamura T, Joh K, Koike K, Miyazaki Y, Ogura M, Tsuboi N, Hirano K, Matsushima M, Yokoo T, Horikoshi S, **Suzuki Y**, Yasuda T, Shirai S, Shibata T, Hattori M, Akioka Y, Katafuchi R, Hashiguchi A, Hisano S, Shimizu A, Kimura K, Maruyama S1, Matsuo S, Tomino Y; Special IgA Nephropathy Study Group. **A grading system that predicts the risk of dialysis induction in IgA nephropathy patients based on the combination of the clinical and histological severity.** *Clin Exp Nephrol.* 2019 23(1):16-25
35. Hamada C, Nakamoto H, **Suzuki Y**. **Morphologic characteristics of macroscopic peritoneal finding in patients with peritoneal dialysis.** *J Artif Organs.* 2018 21: 102-109
36. Suzuki H, Yasutake J, Makita Y, Tanbo Y, Yamazaki K, Sofue T, Kano T, **Suzuki Y**. **IgA nephropathy and IgA vasculitis with nephritis have a shared feature involving galactose-deficient IgA1 oriented pathogenesis.** *Kidney Int.* 2018 93: 700-705
37. Asao R, Seki T, Takagi M, Yamada H, Kodama F, Hosoe-Nagai Y, Tanaka E, Trejo JAO, Yamamoto-Nonaka K, Sasaki Y, Hidaka T, Ueno T, Yanagita M, **Suzuki Y**, Tomino Y, Asanuma K. **Rac1 in podocytes promotes glomerular repair and limits the formation of sclerosis.** *Sci Rep.* 2018 8(1):5061
38. Placzek WJ, Yanagawa H, Makita Y, Renfrow MB, Julian BA, Rizk DV, **Suzuki Y**, Novak J, Suzuki H. **Serum galactose-deficient-IgA1 and IgG autoantibodies correlate in patients with IgA nephropathy.** *PLoS One.* 2018 13(1): e0190967
39. (* 4)Gohda T, Nishizaki Y, Murakoshi M, Nojiri S, Yanagisawa N, Shibata T, Yamashita M, Tanaka K, Yamashita Y, **Suzuki Y**, Kamei N. **Clinical predictive biomarkers for normoalbuminuric diabetic kidney disease.** *Diabetes Res Clin Pract.* 2018 3(141):62-68
40. Shimizu M, Furuichi K, Toyama T, Funamoto T, Kitajima S, Hara A, Ogawa D, Koya D, Ikeda K, Koshino Y, Kurokawa Y, Abe H, Mori K, Nakayama M, Konishi Y, Samejima KI, Matsui M, Yamauchi H, Gohda T, Fukami K, Nagata D, Yamazaki H, Yuzawa Y, **Suzuki Y**, Fujimoto S, Maruyama S, Kato S, Naito T, Yoshimura K, Yokoyama H, Wada T. **Decline in estimated**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

glomerular filtration rate is associated with risk of end-stage renal disease in type 2 diabetes with macroalbuminuria: an observational study from JDNCS. Clin Exp Nephrol. 2018 22(2):377-387

41. Kaifu K, Ueda S, Nakamura N, Matsui T, Yamada-Obara N, Ando R, Kaida Y, Nakata M, Matsukuma-Toyonaga M, Higashimoto Y, Fukami K, **Suzuki Y**, Okuda S, Yamagishi SI. **Advanced glycation end products evoke inflammatory reactions in proximal tubular cells via autocrine production of dipeptidyl peptidase-4.** Microvasc Res. 2018 120:90-93
42. Kubo A, Shirato I, Hidaka T, Takagi M, Sasaki Y, Asanuma K, Ishidoh K, **Suzuki Y**. **Expression of Cathepsin L and Its Intrinsic Inhibitors in Glomeruli of Rats With Puromycin Aminonucleoside Nephrosis.** J Histochem Cytochem. 2018 66(12): 863 – 877
43. **Suzuki Y**. **B Cells in IgAN and the Rationale for B Cell Directed Therapies in IgAN.** Kidney Diseases. 2018 4:145-194
44. (* 5) Io H, **Suzuki Y**. **Strategy for Prevention of Left Ventricular Remodeling in Predialysis and Dialysis Patients.** Contrib Nephrol. 2018 196:13-21
45. (* 6) Kamei N, Yamashita M, Nishizaki Y, Yanagisawa N, Nojiri S, Tanaka K, Yamashita Y, Shibata T, Murakoshi M, **Suzuki Y**, Gohda T. **Association between circulating tumor necrosis factor-related biomarkers and estimated glomerular filtration rate in type 2 diabetes.** Sci Rep. 2018 8; (1): 15302
46. Suzuki H, **Suzuki Y**. **Murine Models of Human IgA Nephropathy.** Semin Nephrol. 2018 38 (5): 513 – 520
47. (* 7) Takahashi K, Ueda K, Kobayashi T, Nishiyama A, Fujisawa T, Sugaya T, Shiota S, Takahashi K, Gohda T, Horikoshi S, **Suzuki Y**. **Chronic intermittent hypoxia-mediated renal sympathetic nerve activation in hypertension and cardiovascular disease.** Sci Rep. 2018 8(1):17926
48. Murakoshi M, Gohda T, Sonoda Y, Suzuki H, Tomino Y, Horikoshi S, **Suzuki Y**. **Effect of Tonsillectomy with Steroid Pulse Therapy on**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Circulating Tumor Necrosis Factor Receptors 1 and 2 in IgA Nephropathy. Clin Exp Nephrol.2017 21; 1068-1074

49. Kanda R, Io H, Nakata J, Makita Y, Sasaki Y, Matsumoto M, Wakabayashi K, Tomino Y, Suzuki Y. **Evaluation of Long-Term Combination Therapy With Peritoneal Dialysis and Hemodialysis.** Ther Apher Dial. 2017 21: 180-184
50. Muto M, Manfroi B, Suzuki H, Joh K, Nagai M, Wakui S, Righini C, Maiguma M, Izui S, Tomino Y, Huard B, Suzuki Y. **Toll-like Receptor 9 Stimulation Induces Aberrant Expression of a Proliferation-Inducing Ligand by Tonsillar Germinal Center B Cell in IgA Nephropathy.** J Am Soc Nephrol. 2017 28: 1227-1238
51. Sasaki Y, Hidaka T, Ueno T, Akiba-Takagi M, Trejo JA, Seki T, Nagai-Hosoe Y, Tanaka E, Horikoshi S, Tomino Y, Suzuki Y, Asanuma K. **Sorting Nexin 9 facilitates podocin endocytosis in the injured podocyte.** Sci Rep. 2017 Mar 7;7:43921.
52. (* 3) Gohda T, Maruyama S, Kamei N, Yamaguchi S, Shibata T, Murakoshi M, Horikoshi S, Tomino Y, Ohsawa I, Gotoh H, Nojiri S, Suzuki Y. **Circulating TNF Receptors 1 and 2 Predict Mortality in Patients with End-stage Renal Disease Undergoing Dialysis.** Sci Rep. 2017 Mar 3;7:43520.
53. Arai S, Kitada K, Yamazaki T, Takai R, Zhang X, Tsugawa Y, Sugisawa R, Matsumoto A, Mori M, Yoshihara Y, Doi K, Maehara N, Kusunoki S, Takahata A, Noiri E, Suzuki Y, Yahagi N, Nishiyama A, Gunaratnam L, Takano T, Miyazaki T. **Apoptosis inhibitor of macrophage protein enhances intraluminal debris clearance and ameliorates acute kidney injury in mice.** Nat Med. 2016 Feb;22(2):183-93
54. Yamanaka T, Tamauchi H, Suzuki Y, Suzuki H, Horikoshi S, Terashima M, Iwabuchi K, Habu S, Okumura K, Tomino Y. **Release from Th1-type immune tolerance in spleen and enhanced production of IL-5 in Peyer's patch by cholera toxin B induce the glomerular deposition of IgA.** Immunobiology. 2016 Apr;221(4):577-85.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

55. Lai KN, Tang SC, Schena FP, Novak J, **Tomino Y**, Fogo AB, Glassock RJ.
IgA nephropathy.
Nat Rev Dis Primers. 2016 Feb 11;2:16001.
56. Ishizaka M, Gohda T, Takagi M, Omote K, Sonoda Y, Oliva Trejo JA, Asao R, Hidaka T, Asanuma K, Horikoshi S, **Tomino Y**.
Podocyte-specific deletion of Rac1 leads to aggravation of renal injury in STZ-induced diabetic mice.
Biochem Biophys Res Commun. 2015 Nov 20;467(3):549-55.
57. Kim YG, Alvarez M, Suzuki H, Hirose S, Izui S, **Tomino Y**, Huard B, **Suzuki Y**.
Pathogenic Role of a Proliferation-Inducing Ligand (APRIL) in Murine IgA Nephropathy.
PLoS One. 2015 Sep 8;10(9):e0137044.
58. Fukuda H, Hidaka T, Takagi-Akiba M, Ichimura K, Oliva Trejo JA, Sasaki Y, Wang J, Sakai T, Asanuma K, **Tomino Y**.
Podocin is translocated to cytoplasm in puromycin aminonucleoside nephrosis rats and in poor-prognosis patients with IgA nephropathy.
Cell Tissue Res. 2015 May;360(2):391-400.
59. (* 8) Sonoda Y, Gohda T, **Suzuki Y**, Omote K, Ishizaka M, Matsuoka J, **Tomino Y**.
Circulating TNF receptors 1 and 2 are associated with the severity of renal interstitial fibrosis in IgA nephropathy.
PLoS One. 2015 Apr 10;10(4):e0122212.
60. Yamaji K, **Suzuki Y**, Suzuki H, Satake K, Horikoshi S, Novak J, **Tomino Y**.
The kinetics of glomerular deposition of nephritogenic IgA.
PLoS One. 2014 Nov 19;9(11):e113005.
61. **Suzuki Y**, Suzuki H, Makita Y, Takahata A, Takahashi K, Muto M, Sasaki Y, Kelimu A, Matsuzaki K, Yanagawa H, Okazaki K, **Tomino Y**.
Diagnosis and activity assessment of immunoglobulin A nephropathy: current perspectives on noninvasive testing with aberrantly glycosylated immunoglobulin A-related biomarkers.
Int J Nephrol Renovasc Dis. 2014 Oct 30;7:409-14.
62. **Suzuki Y**, Matsuzaki K, Suzuki H, Okazaki K, Yanagawa H, Ieiri N, Sato M, Sato T, Taguma Y, Matsuoka J, Horikoshi S, Novak J, Hotta O, **Tomino Y**.
Serum levels of galactose-deficient immunoglobulin (Ig) A1 and related

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- immune complex are associated with disease activity of IgA nephropathy.**
Clin Exp Nephrol. 2014 Oct;18(5):770-7.
63. Wakabayashi K, Hamada C, Kanda R, Nakano T, Io H, Horikoshi S, **Tomino Y.**
Adipose-derived mesenchymal stem cells transplantation facilitate experimental peritoneal fibrosis repair by suppressing epithelial-mesenchymal transition.
J Nephrol. 2014 Oct;27(5):507-14.
64. Satake K, Shimizu Y, Sasaki Y, Yanagawa H, Suzuki H, **Suzuki Y,** Horikoshi S, Honda S, Shibuya K, Shibuya A, **Tomino Y.**
Serum under-O-glycosylated IgA1 level is not correlated with glomerular IgA deposition based upon heterogeneity in the composition of immune complexes in IgA nephropathy.
BMC Nephrol. 2014 Jun 13;15:89.
65. (* 9) Omote K, Gohda T, Murakoshi M, Sasaki Y, Kazuno S, Fujimura T, Ishizaka M, Sonoda Y, **Tomino Y:**
Role of the TNF pathway in the progression of diabetic nephropathy in KK-A^y mice.
Am J Physiol Renal Physiol 306: F1335-1347, 2014
66. Yanagawa H, Suzuki H, **Suzuki Y,** Kiryluk K, Gharavi AG, Matsuoka K, Makita Y, Julian BA, Novak J, **Tomino Y.**
A panel of serum biomarkers differentiates IgA nephropathy from other renal diseases.
PLoS One. 2014 May 23;9(5):e98081.
67. Oliva Trejo JA, Asanuma K, Kim EH, Takagi-Akiba M, Nonaka K, Hidaka T, Komatsu M, Tada N, Ueno T, **Tomino Y.**
Transient increase in proteinuria, poly-ubiquitylated proteins and ER stress markers in podocyte-specific autophagy-deficient mice following unilateral nephrectomy.
Biochem Biophys Res Commun. 2014 Apr 18;446(4):1190-6.
68. Aizawa M, **Suzuki Y,** Suzuki H, Pang H, Kihara M, Nakata J, Yamaji K, Horikoshi S, **Tomino Y.**
Uncoupling of glomerular IgA deposition and disease progression in alymphoplasia mice with IgA nephropathy.
PLoS One. 2014 Apr 17;9(4):e95365.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

69. Suzuki H, **Suzuki Y**, Novak J, **Tomino Y**.
Development of Animal Models of Human IgA Nephropathy.
 Drug Discov Today Dis Models. 2014 Spring;11:5-11.
70. Seto T, Hamada C, **Tomino Y**.
Suppressive effects of iron overloading on vascular calcification in uremic rats.
 J Nephrol. 2014 Apr;27(2):135-42.
- (臨床検査医学)
71. **Miida T**, Hirayama S.
Controversy over the atherogenicity of lipoprotein-X.
 Curr Opin Endocrinol Diabetes 2019 Apr;26(2):117-123.
72. Yano K, Hirayama S, Misawa N, Furuta A, Ueno T, Motoi Y, Seino U, Ebinuma H, Ikeuchi T, Schneider WJ, Bujo H, **Miida T**.
Soluble LR11 competes with amyloid β in binding to cerebrospinal-fluid–high-density lipoprotein.
 Clin Chim Acta. 2019 Feb;489:29-34.
73. Miyazaki T, Nagasaka H, Komatsu H, Inui A, Morioka I, Tsukahara H, Kaji S, Hirayama S, **Miida T**, Kondou H, Ihara K, Yagi M, Kizaki Z, Bessho K, Kodama T, Iijima K, Yoriuji T, Matsuzaki Y, Honda A.
Serum amino acid profiling in citrin-deficient children exhibiting normal liver function during the apparently healthy period.
 JIMD Rep. 2019;43:53-61.
74. Ishibashi R, Takemoto M, Tsurutani Y, Kuroda M, Ogawa M, Wakabayashi H, Nagata M, Hattori A, Sakemoto K, Kitamoto T, Maezawa Y, Narita I, Hiroi S, Furuta A, **Miida T**, Yokote K.
Immune-mediated acquired lecithin-cholesterol acyltransferase deficiency: a case report and literature review.
 J Clin Lipidol. 2018 Jul - Aug;12(4):888-897.
75. Tamura M, Hirose N, **Miida T**, Hirayama S, Ueno T, Tsuzuki T, Yano K, Kanemochi T.
Biochemical indicators and systemic reaction times in male judo competitors during regular and pre-competition conditioning periods.
 Arch Budo 2018 Jun 29;14:205-212.
76. Tabe Y, Saitoh K, Yang H, Sekihara K, Yamatani K, Ruvolo V, Taka H, Kaga N, Kikkawa M, Arai H, **Miida T**, Andreeff M, Spagnuolo PA, Konopleva M.
Inhibition of FAO in AML co-cultured with BM adipocytes: mechanisms

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

of survival and chemosensitization to cytarabine.

Sci Rep. 2018 Nov 15;8(1):16837.

77. Sekihara K, Saitoh K, Yang H, Kawashima H, Kazuno S, Kikkawa M, Arai H, **Miida T**, Hayashi N, Sasai K, Tabe Y.

The direct and bystander effects of low-dose radiation on the skin immune system.

PLoS One. 2018 Jun 18;13(6):e0199117.

78. Yamashita Y, Nakada S, Yoshihara T, Nara T, Furuya N, **Miida T**, Hattori N, Arikawa-Hirasawa E.

Perlecan, a heparan sulfate proteoglycan, regulates systemic metabolism with dynamic changes in adipose tissue and skeletal muscle.

Sci Rep. 2018 May 17;8(1):7766.

79. Hirayama S, Nagasaka H, Honda A, Komatsu H, Kodama T, Inui A, Morioka I, Kaji S, Ueno T, Ihara K, Yagi M, Kizaki Z, Bessho K, Kondou H, Yorifuji T, Tsukahara H, Iizima K, **Miida T**.

Cholesterol metabolism is enhanced in the liver and brain of children with citrin deficiency.

J Clin Endocrinol Metab. 2018 Jul 1;103(7):2488-2497.

80. Isshiki M, Hirayama S, Ueno T, Ito M, Furuta A, Yano K, Yamatani K, Sugihara M, Idei M, **Miida T**.

Apolipoproteins C-II and C-III as nutritional markers unaffected by inflammation.

Clin Chim Acta. 2018 Jun;481:225-230.

81. Nagasaka H, Hirano K, Yorifuji T, Komatsu H, Takatani T, Morioka I, Hirayama S, **Miida T**.

Treatment with medium chain fatty acids milk of CD36-deficient preschool children.

Nutrition. 2018 Jun;50:45-48.

82. Nagasaka H, Morioka I, Takuwa M, Nakacho M, Yoshida M, Ishida A, Hirayama S, **Miida T**, Tsukahara H, Yorifuji T, Iijima K.

Blood asymmetric dimethylarginine and nitrite/nitrate concentrations in short-stature children born small for gestational age with and without growth hormone therapy.

J Int Med Res. 2018 Feb;46(2):761-772.

83. Pang J, Hu M, Lin J, **Miida T**, Nawawi HM, Park JE, Wu X, Ramli AS, Kim NT, Kwok S, Gonzalez-Santos LE, Su TC, Truong TH, Soran H, Yamashita

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

S, Tomlinson B, Watts GF.

An enquiry based on a standardised questionnaire into knowledge, awareness and preferences concerning the care of familial hypercholesterolaemia among primary care physicians in the Asia-Pacific region: the "Ten Countries Study."

BMJ Open. 2017 Oct 25;7(10):e017817.

84. Ai T, Yuri M, Tabe Y, Kakimoto A, Morishita S, Tsuchiya K, Takamochi K, Kodama Y, Takahashi F, Shigeki M, Horii T, Suzuki K, Takahashi K, **Miida T**, Ohsaka A.

Comparison of the analytical performance between cobas EGFR assay and PCR-clamp method in the detection of EGFR mutations in Japanese non-small cell lung cancer patients.

Clin Lab. 2017 May 1;63(5):1021-1026.

85. Hirayama S, Nagasaka H, Nakagawa S, Takuwa M, Nakacho M, Yorifuji T, Kondou H, Tsukahara H, Morioka I, Ishida A, Yamato S, **Miida T**.

Growth hormone activates hepatic and cerebral cholesterol metabolism in small-for-gestational age children without catch-up growth.

J Clin Lipidol. 2017 Jul - Aug;11(4):1032-1042.

86. Sasamoto K, Hirayama S, Kon M, Seino U, Ueno T, Nagao Y, Hirayama A, Isshiki M, Idei M, Yano K, **Miida T**.

Changes in apolipoprotein E-containing high-density lipoprotein (HDL) have little impact on HDL-cholesterol measurements using homogeneous assays in normolipidemic and dyslipidemic subjects.

Clin Chim Acta. 2017 Jul;470:56-63.

87. Shoji H, Ikeda N, Kojima C, Kitamura T, Suganuma H, Hisata K, Hirayama S, Ueno T, **Miida T**, Shimizu T.

Relationship between copper and lipids and atherogenic indices soon after birth in Japanese preterm infants of 32–35 weeks.

J Dev Orig Health Dis. 2017 Apr;8(2):256-260.

88. Sekihara K, Saitoh K, Han L, Ciurea S, Yamamoto S, Kikkawa M, Kazuno S, Taka H, Kaga N, Arai H, **Miida T**, Andreeff M, Konopleva M, Tabe Y.

Targeting mantle cell lymphoma metabolism and survival through simultaneous blockade of mTOR and nuclear transporter exportin-1.

Oncotarget. 2017 May 23;8(21):34552-34564.

89. (*10) **Miida T**, Nishimura K, Hirayama S, Miyamoto Y, Nakamura M, Masuda D, Yamashita S, Ushiyama M, Komori T, Fujita N, Yokoyama S, Teramoto T.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Homogeneous assays for LDL-C and HDL-C are reliable in both the postprandial and fasting state.

J Atheroscler Thromb. 2017 Jun 1;24(6):583-599.

90. Tabe Y, Yamamoto S, Saitoh K, Sekihara K, Monma N, Ikeo K, Mogushi K, Shikami M, Ruvolo V, Ishizawa J, Hail N Jr, Kazuno S, Igarashi M, Matsushita H, Yamanaka Y, Arai H, **Nagaoka I**, **Miida T**, Hayashizaki Y, Konopleva M, Andreeff M.

Bone Marrow Adipocytes Facilitate Fatty Acid Oxidation Activating AMPK and a Transcriptional Network Supporting Survival of Acute Monocytic Leukemia Cells.

Cancer Res. 2017 Mar 15;77(6):1453-1464.

91. Nagasaka H, Komatsu H, Inui A, Nakacho M, Morioka I, Tsukahara H, Kaji S, Hirayama S, **Miida T**, Kondou H, Ihara K, Yagi M, Kizaki Z, Bessho K, Kodama T, Iijima K, Saheki T, Yorifuji T, Honda A.

Circulating tricarboxylic acid cycle metabolite levels in citrin-deficient children with metabolic adaptation, with and without sodium pyruvate treatment.

Mol Genet Metab. 2017 Mar;120(3):207-212.

92. Nagao Y, Hirayama S, Kon M, Sasamoto K, Sugihara M, Hirayama A, Isshiki M, Seino U, Miyazaki O, **Miida T**.

Current smokers with hyperlipidemia lack elevated pre β 1-HDL concentrations.

J Clin Lipidol. 2017 Jan - Feb;11(1):242-249.

93. Suzuki L, Hirayama S, Fukui M, Sasaki M, Hiroi S, Ayaori M, Terai S, Tozuka M, Watada H, **Miida T**.

Lipoprotein-X in cholestatic patients causes xanthomas and promotes foam cell formation in human macrophages.

J Clin Lipidol. 2017 Jan - Feb;11(1):110-118.

94. (*11) Nakagawa T, Hirayama S, Watanabe T, Yokomura M, Kohno M, Sato T, Bujo H, Sato A, Murata M, **Miida T**; JSCC Kanto Study Group..

Triglyceride concentrations should be measured after elimination of free glycerol to exclude interindividual variations due to adiposity and fasting status.

Clin Chem Lab Med. 2017 Jan 18.

95. Idei M, Tabe Y, Hamada C, Miyake K, Takemura H, Io H, Wakita M, Horii T, Tomino Y, Ohsaka A, **Miida T**.

Pancreatic lipase activity in overnight effluent predicts high transport

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

status in peritoneal dialysis patients.

Clin Chim Acta. 2016 Nov 1;462:65-70.

96. Watts GF, Ding PY, George P, Hagger MS, Hu M, Lin J, Khoo KL, Marais AD, **Miida T**, Nawawi HM, Pang J, Park JE, Gonzalez-Santos LB, Su TC, Truong TH, Santos RD, Soran H, Yamashita S, Tomlinson B; for the members of the "Ten countries Study".

Translational Research for Improving the Care of Familial Hypercholesterolemia: The "Ten Countries Study" and Beyond.

J Atheroscler Thromb. 2016 Aug 1;23(8):891-900.

97. Horiuchi Y, Tabe Y, Kasuga K, Maenou I, Idei M, Horii T, **Miida T**, Ohsaka A.

The efficacy of an internet-based e-learning system using the CellaVision Competency Software for continuing professional development.

Clin Chem Lab Med. 2016 Apr;54(4):e127-31.

98. Ueno T, Hirayama S, Sugihara M, **Miida T**.

The bromocresol green assay, but not the modified bromocresol purple assay, overestimates the serum albumin concentration in nephrotic syndrome through reaction with α 2-macroglobulin.

Ann Clin Biochem. 2016 Jan;53(Pt 1):97-105.

99. Hayashi K, Tabe Y, **Miida T**.

Impact of Clotting Condition on the Measurement of Circulating MicroRNAs in Serum.

Clin Lab. 2016;62(3):471-5.

100. Tabe Y, Hatanaka Y, Nakashiro M, Sekihara K, Yamamoto S, Matsushita H, Kazuno S, Fujimura T, Ikegami T, Nakanaga K, Matsumoto H, Ueno T, Aoki J, **Yokomizo T**, Konopleva M, Andreeff M, **Miida T**, Iwabuchi K, Sasai K.

Integrative genomic and proteomic analyses identifies glycerol-3-phosphate acyltransferase as a target of low-dose ionizing radiation in EBV infected-B cells.

Int J Radiat Biol. 2016;92(1):24-34.

101. Mukaida H, Matsushita S, Inotani T, Futaki S, Takano A, Watanabe M, Morita T, **Miida T**, Amano A.

Peripheral circulation evaluation with near-infrared spectroscopy in skeletal muscle during cardiopulmonary bypass.

Perfusion. 2015 Nov;30(8):653-9.

102. Tabe Y, Kojima K, Yamamoto S, Sekihara K, Matsushita H, Davis RE,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Wang Z, Ma W, Ishizawa J, Kazuno S, Kauffman M, Shacham S, Fujimura T, Ueno T, **Miida T**, Andreeff M.

Ribosomal Biogenesis and Translational Flux Inhibition by the Selective Inhibitor of Nuclear Export (SINE) XPO1 Antagonist KPT-185.

PLoS One. 2015 Sep 4;10(9):e0137210.

103. Nagasaka H, Hirayama S, Takuwa M, Nakacho M, Yorifuji T, Kondou H, **Miida T**.

ApoE4 Determines the Reduction in LDL-C After GH Replacement Therapy in Children With an Idiopathic GH Deficiency.

J Clin Endocrinol Metab. 2015 Sep;100(9):3494-501.

104. Ashihara E, Munaka T, Kimura S, Nakagawa S, Nakagawa Y, Kanai M, Hirai H, Abe H, **Miida T**, Yamato S, Shoji S, Maekawa T.

Isopentenyl pyrophosphate secreted from Zoledronate-stimulated myeloma cells, activates the chemotaxis of $\gamma\delta$ T cells.

Biochem Biophys Res Commun. 2015 Aug 7;463(4):650-5.

105. Nishioka E, Hirayama S, Ueno T, Matsukawa T, Vigeh M, Yokoyama K, Makino S, Takeda S, **Miida T**.

Relationship between maternal thyroid-stimulating hormone (TSH) elevation during pregnancy and low birth weight: a longitudinal study of apparently healthy urban Japanese women at very low risk.

Early Hum Dev. 2015 Mar;91(3):181-5.

106. Tabe Y, Yamamoto T, Maenou I, Nakai R, Idei M, Horii T, **Miida T**, Ohsaka A.

Performance evaluation of the digital cell imaging analyzer DI-60 integrated into the fully automated Sysmex XN hematology analyzer system.

Clin Chem Lab Med. 2015 Feb;53(2):281-9.

107. **Miida T**, Nishimura K, Okamura T, Hirayama S, Ohmura H, Yoshida H, Miyashita Y, Ai M, Tanaka A, Sumino H, Murakami M, Inoue I, Kayamori Y, Nakamura M, Nobori T, Miyazawa Y, Teramoto T, Yokoyama S.

Validation of homogeneous assays for HDL-cholesterol using fresh samples from healthy and diseased subjects.

Atherosclerosis. 2014 Mar;233(1):253-9.

108. Yokoyama S, Ueshima H, **Miida T**, Nakamura M, Takata K, Fukukawa T, Goto T, Harada-Shiba M, Sano M, Kato K, Matsuda K.

High-density lipoprotein levels have markedly increased over the past twenty years in Japan.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

J Atheroscler Thromb. 2014;21(2):151-160.

109. Idei M, **Hirayama S**, Miyake N, Kon M, Horiuchi Y, **Ueno T**, Miyake K, Satoh N, Yoshii H, Yamashiro K, Onuma T, **Miida T**.
The mean postprandial triglyceride concentration is an independent risk factor of carotid atherosclerosis in patients with type 2 diabetes.
 Clin Chim Acta. 2014 Mar 20;430:134-139.
110. Yamaguchi S, Zhang B, Tomonaga T, Seino U, Kanagawa A, Nagasaka H, Suzuki A, **Miida T**, Yamada S, Sasaguri Y, Doi T, Saku K, Okazaki M, Tochino Y, Hirano K.
Selective evaluation of high density lipoprotein from mouse small intestines by an *in situ* perfusion technique.
 J Lipid Res. 2014 May;55(5):905-918.
111. Shoji H, Murano Y, Mori M, Matsunaga N, Ohkawa N, Suganuma H, Ikeno M, Hisata K, Hirayama S, Ueno T, **Miida T**, Shimizu T.
Lipid profile and atherogenic indices soon after birth in Japanese preterm infants.
 Acta Paediatr. 2014 Jan;103(1):22-26.
112. Nagasaka H, Tsukahara H, Okano Y, Hirano K, Sakurai T, Hui S-P, Ohura T, Usui H, Yorifuji T, Hirayama S, Ohtake A, **Miida T**.
Changes of lipoproteins in phenylalanine hydroxylase-deficient children for the first early of life.
 Clin Chim Acta. 2014 Jun 10;433:1-4.
113. Ikeda N, Shoji H, Murano Y, Mori M, Matsunaga N, Suganuma H, Ikeno M, Hisata K, Hirayama S, Ueno T, **Miida T**, Shimizu T.
Effects of breastfeeding on the risk factors for metabolic syndrome in preterm infants.
 J Dev Orig Health Dis. 2014 Dec;5(6):459-464.
114. Tabe Y, Jin L, Konopleva M, Shikami M, Kimura S, Andreeff M, Raffeld M, **Miida T**.
Class IA PI3K inhibition inhibits cell growth and proliferation in mantle cell lymphoma.
 Acta Haematol. 2014;131(1):59-69.
115. Nishioka E, Yokoyama K, Matsukawa T, Vigeh M, Hirayama S, Ueno T, **Miida T**, Makino S, Takeda S.
Evidence that birth weight is decreased by lead at its maternal levels below 5µg/dl in male but not in female newborns.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Reprod Toxicol. 2014 Aug;47:21-26.

(循環器内科)

116. Fujimoto S, Kawasaki T, Kumamaru KK, Kawaguchi Y, Dohi T, Okonogi T, Ri K, Yamada S, Takamura K, Kato E, Kato Y, Hiki M, Okazaki S, Aoki S, Mitsouras D, Rybicki FJ, **Daida H.**

Diagnostic performance of on-site computed CT-fractional flow reserve based on fluid structure interactions: comparison with invasive fractional flow reserve and instantaneous wave-free ratio.

Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2019;20: 343-352

117. Dohi T, Kasai T, Endo H, Wada H, Yanagisawa N, Nojiri S, Funamizu T, Shitara J, Doi S, Kato Y, Okai I, Iwata H, Isoda K, Okazaki S, Miyauchi K, **Daida H.**

CPAP effects on atherosclerotic plaques in patients with sleep-disordered breathing and coronary artery disease: The ENTERPRISE trial

J Cardiol. 2019;73:89-93

118. Takamura K, Fujimoto S, Kawaguchi Y, Kato E, Aoshima C, Hiki M, Kumamaru KK, **Daida H.**

The usefulness of low radiation dose subtraction coronary computed tomography angiography for patients with calcification using 320-row area detector CT.

J Cardiol. 2019;73:58-64.

119. Shitara J, Ogita M, Wada H, Tsuboi S, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Miyauchi K, **Daida H.**

Clinical impact of high-sensitivity C-reactive protein during follow-up on long-term adverse clinical outcomes in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention.

J Cardiol. 2019;73:45-50

120. Nishitani-Yokoyama M, Miyauchi K, Shimada K, Yokoyama T, Ouchi S, Aikawa T, Kunitomo M, Yamada M, Honzawa A, Okazaki S, **Daida H.**

Impact of Physical Activity on Coronary Plaque Volume and Components in Acute Coronary Syndrome Patients After Early Phase II Cardiac Rehabilitation.

Circ J. 2018;83:101-109

121. Itoh H, Komuro I, Takeuchi M, Akasaka T, **Daida H.** Egashira Y, Fujita H, Higaki J, Hirata KI, Ishibashi S, Isshiki T, Ito S, Kashiwagi A, Kato S, Kitagawa K, Kitakaze M, Kitazono T, Kurabayashi M, Miyauchi K, Murakami T, Murohara T, Node K, Ogawa S, Saito Y, Seino Y, Shigeeda T,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Shindo S, Sugawara M, Sugiyama S, Terauchi Y, Tsutsui H, Ueshima K, Utsunomiya K, Yamagishi M, Yamazaki T, Yo S, Yokote K, Yoshida K, Yoshimura M, Yoshimura N, Nakao K, Nagai R; EMPATHY Investigators.

Achieving LDL cholesterol target levels <1.81 mmol/L may provide extra cardiovascular protection in patients at high risk: Exploratory analysis of the Standard Versus Intensive Statin Therapy for Patients with Hypercholesterolaemia and Diabetic Retinopathy study.

Diabetes Obes Metab. 2018 Nov 4[Epub ahead of print]

122. Wada H, Dohi T, Kasai T, Yatsu S, Naito R, Kato Y, Okai I, Iwata H, Isoda K, Okazaki S, Miyauchi K, **Daida H.**

Culprit Plaque Characteristics in Patients With Sleep-Disordered Breathing Undergoing Percutaneous Coronary Intervention: An Intravascular Ultrasound Study.

J Am Heart Assoc. 2018 Oct 2;7(19):e009826

123. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Tsuboi S, Ogita M, Iwata H, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H.**

Mean platelet volume and long-term cardiovascular outcomes in patients with stable coronary artery disease.

Atherosclerosis. 2018;277:108-112

124. Dohi T, Kasai T, Endo H, Wada H, Yanagisawa N, Nojiri S, Funamizu T, Shitara J, Doi S, Kato Y, Okai I, Iwata H, Isoda K, Okazaki S, Miyauchi K, **Daida H.**

CPAP effects on atherosclerotic plaques in patients with sleep-disordered breathing and coronary artery disease: The ENTERPRISE trial.

J Cardiol. 2018. pii: S0914-5087(18)30219-3

125. Fukamachi D, Hirayama A, Miyauchi K, Yasuda S, Ogawa H, Ito H, **Daida H.**

Corrigendum to "Antithrombotic therapy trends in non-valvular atrial fibrillation patients undergoing percutaneous coronary stent implantation: Results from a survey among fellows at the Japanese College of Cardiology"

J Cardiol. 2018;72:444

126. Naito R, Miyauchi K, Nojiri S, Suzuki N, **Daida H.**; PACIFIC Investigators and the EVEREST Investigators.

Differences in Clinical Features in Patients with Acute Coronary Syndrome and Stroke: Japanese Multicenter Registry Results.

Intern Med. 2018;57:3233-3240

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

127. Taguchi I, Imuro S, Iwata H, Takashima H, Abe M, Amiya E, Ogawa T, Ozaki Y, Sakuma I, Nakagawa Y, Hibi K, Hiro T, Fukumoto Y, Hokimoto S, Miyauchi K, Yamazaki T, Ito H, Otsuji Y, Kimura K, Takahashi J, Hirayama A, Yokoi H, Kitagawa K, Urabe T, Okada Y, Terayama Y, Toyoda K, Nagao T, Matsumoto M, Ohashi Y, Kaneko T, Fujita R, Ohtsu H, Ogawa H, **Daida H**, Shimokawa H, Saito Y, Kimura T, Inoue T, Matsuzaki M, Nagai R.
High-Dose Versus Low-Dose Pitavastatin in Japanese Patients With Stable Coronary Artery Disease (REAL-CAD): A Randomized Superiority Trial.
 Circulation. 2018;137:1997-2009
128. Doi S, Iwata H, Wada H, Funamizu T, Shitara J, Endo H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Miyauchi K, **Daida H**.
A novel and simply calculated nutritional index serves as a useful prognostic indicator in patients with coronary artery disease.
 Int J Cardiol. 2018;262: 92-98
129. Itoh H, Komuro I, Takeuchi M, Akasaka T, **Daida H**, Egashira Y, Fujita H, Higaki J, Hirata KI, Ishibashi S, Isshiki T, Ito S, Kashiwagi A, Kato S, Kitagawa K, Kitakaze M, Kitazono T, Kurabayashi M, Miyauchi K, Murakami T, Murohara T, Node K, Ogawa S, Saito Y, Seino Y, Shigeeda T, Shindo S, Sugawara M, Sugiyama S, Terauchi Y, Tsutsui H, Ueshima K, Utsunomiya K, Yamagishi M, Yamazaki T, Yo S, Yokote K, Yoshida K, Yoshimura M, Yoshimura N, Nakao K, Nagai R; EMPATHY Investigators.
Intensive Treat-to-Target Statin Therapy in High-Risk Japanese Patients With Hypercholesterolemia and Diabetic Retinopathy: Report of a Randomized Study.
 Diabetes Care. 2018;41:1275-128
130. Yatsu S, Naito R, Kasai T, Matsumoto H, Shitara J, Shimizu M, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Sai E, Miyauchi K, **Daida H**.
Influence of sleep-disordered breathing assessed by pulse oximetry on long-term clinical outcomes in patients who underwent percutaneous coronary intervention.
 Clin Res Cardiol. 2018;107:711-718
131. Fujimoto S, Giannopoulos AA, Kumamaru KK, Matsumori R, Tang A, Kato E, Kawaguchi Y, Takamura K, Miyauchi K, **Daida H**, Rybicki FJ, Mitsouras D.
The transluminal attenuation gradient in coronary CT angiography for the detection of hemodynamically significant disease: can all arteries be treated equally?

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Br J Radiol. 2018;91: 20180043

132. Ogita M, Suwa S, Sonoda T, Tsuboi S, Miyauchi K, **Daida H.**
Successful Rotational Atherectomy for an Angulated Calcified Lesion in an Anomalous Right Coronary Artery Using the "Mother-and-Child" Technique.
Case Rep Cardiol. 2018;2018: 5927161
133. Endo H, Dohi T, Shitara J, Wada H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Miyauchi K, **Daida H.**
Impact of body mass index on long-term outcomes in Japanese patients following percutaneous coronary intervention: The Juntendo PCI Registry.
J Cardiol. 2018 Sep;72:208-214
134. Ohkawa R, Kurano M, Sakai N, Kishimoto T, Nojiri T, Igarashi K, Hosogaya S, Ozaki Y, Dohi T, Miyauchi K, **Daida H.**, Aoki J, Okubo S, Ikeda H, Tozuka M, Yatomi Y.
Measurement of plasma choline in acute coronary syndrome: importance of suitable sampling conditions for this assay.
Sci Rep. 2018;8:4725
135. Miyauchi K, Kimura T, Shimokawa H, **Daida H.**, Iimuro S, Iwata H, Ozaki Y, Sakuma I, Nakagawa Y, Hibi K, Hiro T, Fukumoto Y, Hokimoto S, Ohashi Y, Ohtsu H, Saito Y, Matsuzaki M, Nagai R; REAL-CAD Trial Investigators.
Rationale and Design of Randomized Evaluation of Aggressive or Moderate Lipid Lowering Therapy with Pitavastatin in Coronary Artery Disease (REAL-CAD) Trial.
Int Heart J. 2018;59:315-320
136. Miyazaki S, Miyauchi K, Hayashi H, Tanaka R, Nojiri S, Miyazaki T, Sumiyoshi M, Suwa S, Nakazato Y, Urabe T, Hattori N, **Daida H.**
Registry of Japanese patients with atrial fibrillation focused on anticoagulant therapy in the new era: The RAFFINE registry study design and baseline characteristics.
J Cardiol. 2018;71: 590-596
137. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Jun S, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H.**
Relationship between the prognostic nutritional index and long-term clinical outcomes in patients with stable coronary artery disease.
J Cardiol. 2018;72: 155-161

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

138. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H.**
Long-term clinical impact of serum albumin in coronary artery disease patients with preserved renal function.
 Nutr Metab Cardiovasc Dis. 2018;28: 285-290
139. Okai I, Dohi T, Okazaki S, Jujo K, Nakashima M, Otsuki H, Tanaka K, Arashi H, Okabe R, Nagura F, Nara Y, Tamura H, Kurata T, Kawashima H, Kyono H, Yamaguchi J, Miyauchi K, Kozuma K, Hagiwara N, **Daida H.**
Clinical Characteristics and Long-Term Outcomes of Rotational Atherectomy - J2T Multicenter Registry.
 Circ J. 2018;82: 369-375
140. Hiki M, Iwata H, Kawaguchi Y, Takamura K, Hiki M, Miyazaki T, Fujimoto S, Amano A, **Daida H.**
Chest X-Ray Revealed a Slowly Progressive Giant Right Coronary Artery Aneurysm in an Asymptomatic Patient.
 Cardiology. 2018;139: 231-233
141. Sugita Y, Miyazaki T, Shimada K, Shimizu M, Kunimoto M, Ouchi S, Aikawa T, Kadoguchi T, Kawaguchi Y, Shiozawa T, Takasu K, Hiki M, Takahashi S, Sumiyoshi K, Iwata H, **Daida H.**
Correlation of Nutritional Indices on Admission to the Coronary Intensive Care Unit with the Development of Delirium.
 Nutrients. 2018;10: 1712
142. Isoda K, Akita K, Kitamura K, Sato-Okabayashi Y, Kadoguchi T, Isobe S, Ohtomo F, Sano M, Shimada K, Iwakura Y, **Daida H.**
Inhibition of interleukin-1 suppresses angiotensin II-induced aortic inflammation and aneurysm formation.
 Int J Cardiol. 2018;270: 221-227
143. Kadoguchi T, Shimada K, Koide H, Miyazaki T, Shiozawa T, Takahashi S, Aikawa T, Ouchi S, Kitamura K, Sugita Y, Hamad AS, Kunimoto M, Sato-Okabayashi Y, Akita K, Isoda K, **Daida H.**
Possible Role of NADPH Oxidase 4 in Angiotensin II-Induced Muscle Wasting in Mice.
 Front Physiol. 2018;9: 340
144. Suda S, Kasai T, Matsumoto H, Shiroshita N, Kato M, Kawana F, Yatsu S, Murata A, Kato T, Hiki M, Chiang SJ, Miyazaki S, **Daida H.**
Prevalence and Clinical Correlates of Sleep-Disordered Breathing in Patients Hospitalized With Acute Decompensated Heart Failure.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Can J Cardiol. 2018;34: 784-790.

145. Murata A, Kasai T, Matsue Y, Matsumoto H, Yatsu S, Kato T, Suda S, Hiki M, Takagi A, **Daida H.**

Relationship between blood urea nitrogen-to-creatinine ratio at hospital admission and long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure.

Heart Vessels. 2018;33: 877-885.

146. Matsumoto H, Kasai T, Suda S, Yatsu S, Shitara J, Murata A, Kato T, Hiki M, Yanagisawa N, Fujibayashi K, Nojiri S, Nishizaki Y, Shinohara M, **Daida H.**

Randomized controlled trial of an oral appliance (SomnoDent) for sleep-disordered breathing and cardiac function in patients with heart failure.

Clin Cardiol. 2018;41: 1009-1012.

147. Hiki M, Kasai T, Yatsu S, Murata A, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Miyazaki T, Takagi A, **Daida H.**

Relationship Between Serum Sodium Level Within the Low-Normal Range on Admission and Long-Term Clinical Outcomes in Patients with Acute Decompensated Heart Failure.

Int Heart J. 2018;59: 1052-1058.

148. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, **Daida H.**

Reply to: "Comment on "Mean platelet volume and long-term cardiovascular outcomes in patients with stable coronary artery disease"

Atherosclerosis. 2018. pii: S0021-9150: 31478-3

149. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Endo H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H.**

Combined effect of nutritional status on long-term outcomes in patients with coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention.

Heart Vessels. 2018.;33:1445-1452

150. Shitara J, Ogita M, Wada H, Tsuboi S, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Miyauchi K, **Daida H.**

Clinical impact of high-sensitivity C-reactive protein during follow-up on long-term adverse clinical outcomes in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention.

J Cardiol.2019 Jan;73: 45-50

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

151. Shioya-Yamada M, Shimada K, Nishitani-Yokoyama M, Sai E, Takeno K, Tamura Y, Watada H, Kawamori R, **Daida H**, Kawai S.
Association Between Visceral Fat Accumulation and Exercise Tolerance in Non-Obese Subjects Without Diabetes.
 J Clin Med Res 2018; 10: 630-635.
152. Miyazaki S, Miyauchi K, Hayashi H, Tanaka R, Nojiri S, Miyazaki T, Sumiyoshi M, Suwa S, Nakazato Y, Urabe T, Hattori N, **Daida H**.
Registry of Japanese patients with atrial fibrillation focused on anticoagulant therapy in the new era: The RAFFINE registry study design and baseline characteristics.
 J Cardiol. 2018;71: 590-596
153. Ri K, Kumamaru KK, Fujimoto S, Kawaguchi Y, Dohi T, Yamada S, Takamura K, Kogure Y, Yamada N, Kato E, Irie R, Takamura T, Suzuki M, Hori M, Aoki S, **Daida H**.
Noninvasive Computed Tomography-Derived Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis: Reproducibility of On-site Determination by Unexperienced Observers.
 J Comput Assist Tomogr. 2018;42: 256-262
154. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Takamura K, Kato E, Suda S, Matsumori R, Hiki M, Kumamaru KK, **Daida H**.
Submillisievert imaging protocol using full reconstruction and advanced patient motion correction in 320-row area detector coronary CT angiography.
 Int J Cardiovasc Imaging. 2018;34: 465-474
155. Kato E, Fujimoto S, Takamura K, Kawaguchi Y, Aoshima C, Hiki M, Kumamaru KK, **Daida H**.
Clinical significance of transluminal attenuation gradient in 320-row area detector coronary CT angiography.
 Heart and Vessels. 2018;33: 462-469
156. Hayashi H, Sumiyoshi M, Nakazato Y, **Daida H**.
Brugada Syndrome and Sinus node dysfunction,
 Journal of Arrhythmia 2018;34: 216-222
157. Shimizu M, Miyazaki T, Takagi A, Sugita Y, Yatsu S, Murata A, Kato T, Suda S, Ouchi S, Aikawa T, Hiki M, Takahashi S, Hiki M, Hayashi H, Kasai T, Shimada K, Miyauchi K, **Daida H**,
Low circulating coenzyme Q10 during acute phase is associated with

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

inflammation, malnutrition, and in-hospital mortality in patients admitted to the coronary care unit

Heart Vessels. 2017;32: 668-673

158. Aikawa T, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Ouchi S, Kadoguchi T, Yokoyama Y, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Al Shahi H, Dohi S, Amano A, **Daida H.**
Low serum levels of EPA are associated with the size and growth rate of abdominal aortic aneurysm
 J Atheroscler Thromb. 2017;24: 912-920
159. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kato T, Aikawa T, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Iwata H, Kasai T, Miyauchi K, **Daida H.**
Low docosahexaenoic acid, dihomo-gamma-linolenic acid, and arachidonic acid levels associated with long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure in different nutritional statuses.
 Nutrients. 2017;9: 956
160. Ueno Y, Tanaka R, Yamashiro K, Miyamoto N, Hira K, Kurita N, Sakurai M, Urabe T, Shimada K, Miyazaki T, **Daida H.** Hattori N.
Age Stratification and Impact of Eicosapentaenoic Acid and Docosahexaenoic Acid to Arachidonic Acid Ratios in Ischemic Stroke Patients
 J Atheroscler Thromb. 2018;25: 593-605
161. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H.**
Prognostic Impact of the Geriatric Nutritional Risk Index on Long-Term Outcomes in Patients Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention
 Am J Cardiol. 2017;119: 1740-1745
162. Ouchi S, Shimada K, Miyazaki T, Takahashi S, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kadoguchi T, Kato T, Aikawa T, Suda S, Sai E, Hiki M, Iwata H, Kasai T, Miyauchi K, **Daida H.**
Low 1,5-anhydroglucitol levels are associated with long-term cardiac mortality in acute coronary syndrome patients with hemoglobin A1c levels less than 7.0.
 Cardiovasc Diabetol. 2017;16: 151
163. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

H.**Pre-procedural neutrophil-to-lymphocyte ratio and long-term cardiac outcomes after percutaneous coronary intervention for stable coronary artery disease.**

Atherosclerosis 2017;265: 35-40

164. Dai Y, Yang J, Takagi A, Konishi H, Miyazaki T, Masuda H, Shimada K, Miyauchi K, **Daida H.**

In-hospital and long-term outcomes of congestive heart failure: Predictive value of B-type and amino-terminal pro-B-type natriuretic peptides and their ratio.

Exp Ther Med. 2017;14: 1715-1721

165. Takasu K, Miyazaki T, Negoro K, Yatsu S, Shimizu M, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Kasai T, Miyauchi K, **Daida H.**

Successful Treatment of Congestive Heart Failure Due to Severe Aortic Valve Stenosis With Low Dose Tolvaptan in Elderly Patients.

Int Heart J. 2017;58: 378-384

166. Takahashi C, Kurano M, Nishikawa M, Kano K, Dohi T, Miyauchi K, **Daida H.**, Shimizu T, Aoki J, Yatomi Y.

Vehicle-dependent Effects of Sphingosine 1-phosphate on Plasminogen Activator Inhibitor-1 Expression.

J Atheroscler Thromb. 2017;24: 954-969

167. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, **Daida H.**

Clinical Outcomes in Diabetic Patients Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention during the Plain Old Balloon Angioplasty (POBA)-, Bare Metal Stents (BMS)- and Drug-eluting Stents (DES)-eras from 1984 to 2010.,

Intern Med. 2017;56: 1-9

168. Shiomi H, Morimoto T, Kitaguchi S, Nakagawa Y, Ishii K, Haruna Y, Takamisawa I, Motooka M, Nakao K, Matsuda S, Mimoto S, Aoyama Y, Takeda T, Murata K, Akao M, Inada T, Eizawa H, Hyakuna E, Awano K, Shirotani M, Furukawa Y, Kadota K, Miyauchi K, Tanaka M, Noguchi Y, Nakamura S, Yasuda S, Miyazaki S, **Daida H.** Kimura K, Ikari Y, Hirayama H, Sumiyoshi T, Kimura T; ReACT Investigators.

The ReACT Trial: Randomized Evaluation of Routine Follow-up Coronary Angiography After Percutaneous Coronary Intervention Trial.,
JACC Cardiovasc Interv. 2017;10: 109-117

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

169. Kurano M, Kano K, Dohi T, Matsumoto H, Igarashi K, Nishikawa M, Ohkawa R, Ikeda H, Miyauchi K, **Daida H**, Aoki J, Yatomi Y.
Different origins of lysophospholipid mediators between coronary and peripheral arteries in acute coronary syndrome.
 J Lipid Res. 2017;58: 433-442
170. Naito R, Miyauchi K, **Daida H**.
Racial Differences in the Cholesterol-Lowering Effect of Statin.
 J Atheroscler Thromb. 2017;24:19-25
171. Hassan A, Dohi T, Miyauchi K, Ogita M, Kurano M, Ohkawa R, Nakamura K, Tamura H, Isoda K, Okazaki S, Yatomi Y, **Daida H**.
Prognostic impact of homocysteine levels and homocysteine thiolactonase activity on long-term clinical outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention.
 J Cardiol. 2017;69: 830-835
172. Kuramitsu S, Miyauchi K, Yokoi H, Suwa S, Nishizaki Y, Yokoyama T, Nojiri S, Iwabuchi M, Shirai S, Ando K, Okazaki S, Tamura H, Watada H, **Daida H**.
Effect of sitagliptin on plaque changes in coronary artery following acute coronary syndrome in diabetic patients: The ESPECIAL-ACS study.
 J Cardiol. 2017;69: 369-376
173. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H**.
Impact of gender difference on long-term outcomes of percutaneous coronary intervention for coronary artery disease in patients under statin treatment.
 Heart Vessels. 2017;32: 16-21
174. Ri K, Kumamaru KK, Fujimoto S, Kawaguchi Y, Dohi T, Yamada S, Takamura K, Kogure Y, Yamada N, Kato E, Irie R, Takamura T, Suzuki M, Hori M, Aoki S, **Daida H**.
Noninvasive Computed Tomography-Derived Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis: Reproducibility of On-site Determination by Unexperienced Observers.
 J Comput Assist Tomogr. 2018;42: 256-262
175. Okai I, Iwata H, Osborn EA, Fukuda K, Shiozaki M, Kimura Y, Chikata Y, Inoue K, Fujiwara Y, Jaffer FA, **Daida H**, Sumiyoshi M.
Sequential Acute Coronary Syndrome 4 Days Apart: A Missed

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Opportunity?

Circ J. 2017;81: 1231-1233

176. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Konishi H, Shitara J, Kunimoto M, Sonoda T, Iso T, Ebina H, Aoki E, Kitamura K, Tamura H, Suwa S, **Daida H.**
Contemporary sex differences among patients with acute coronary syndrome treated by emergency percutaneous coronary intervention
 Cardiovasc Interv Ther. 2017;32: 333-340
177. Takahashi N, Isoda K, Hiki M, Fujimoto S, **Daida H.**
Thrombolytic Therapy and Aspiration of Clots were Effective in the Removal of a Transient Inferior Vena Cava (IVC) Filter that Captured a Large Thrombus.
 Intern Med. 2017;56: 1369-1373
178. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Sato-Okabayashi, Tomoyasu Kadoguchi, Kenichi Kitamura, Fumie Ohtomo, Kazunori Shimada, **Hiroyuki Daida**
An interleukin-6 receptor antibody suppresses atherosclerosis in atherogenic mice.
 Front. Cardiovasc. Med. 2017;22: 84
179. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H.**
Independent and Combined Effects of Serum Albumin and C-Reactive Protein on Long-Term Outcomes of Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention.
 Circ J. 2017;81: 1293-1300
180. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H.**
Prognostic impact of nutritional status assessed by the Controlling Nutritional Status score in patients with stable coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention.
 Clin Res Cardiol, 2017;106: 875-883
181. Shiozaki M, Inoue K, Suwa S, Chien-Chang Lee, Chikata Y, Ishiura J, Kimura Y, Fukuda K, Tamura H, Fujiwara Y, Sumiyoshi M, **Daida H.**
Utility of the 0-hour/1-hour high-sensitivity cardiac troponin T algorithm in Asian patients with suspected non-ST elevation myocardial infarction.
 International Journal of Cardiology 2017;249: 32–35
182. Kattel S, Kasai T, Matsumoto H, Yatsu S, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

M, Takagi A, **Daida H.**

Association between elevated blood glucose level on admission and long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure.

J Cardiol. 2017;69: 619-624

183. Yatsu S, Kasai T, Suda S, Matsumoto H, Shiroshita N, Kato M, Kawana F, Murata A, Kato T, Hiki M, **Daida H.**

Impact of periodic leg movements during sleep in hospitalized patients following acute decompensated heart failure on clinical outcomes.

Circ J. 2017;81: 495-500

184. Shimizu M, Miyazaki T, Takagi A, Kato T, Suda S, Hiki M, Hiki M, Hayashi H, Kasai T, Shimada K, Miyauchi K, **Daida H.**

Low serum coenzyme Q10 during acute phase in the coronary care unit is associated with in-hospital mortality.

Heart Vessels. 2017; 32: 668-673

185. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kato T, Aikawa T, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Iwata H, Kasai T, Miyauchi K, **Daida H.**

Low polyunsaturated fatty acid levels predict long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure independent of nutritional status.

Nutrients. 2017; 9:956

186. Kato T, Kasai T, Yatsu S, Murata A, Matsumoto H, Suda S, Hiki M, Shiroshita N, Kato M, Kawana F, Miyazaki S, **Daida H.**

Acute effects of positive airway pressure on functional mitral regurgitation in patients with systolic heart failure.

Front Physiol. 2017; 8: 921

187. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, **Daida H.**

Impact of serum albumin levels on long-term outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention.

Heart Vessels. 2017; 32: 1085-1092

188. Hirotohi Ohmura, Yoshifumi Fukushima, Atsushi Mizuno, Koichiro Niwa, Yohei Kobayashi, Toshiaki Ebina, Kazuo Kimura, Shun Ishibashi, **Hiroyuki Daida**, Research Committee on Primary Hyperlipidemia of the Ministry of Health and Welfare of Japan

Estimated Prevalence of Heterozygous Familial Hypercholesterolemia in

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Patients With Acute Coronary Syndrome: Multicenter Registration Study in Japan

Int Heart J. 2017; 58: 88-94

189. Masaru Hiki, Tetsuro Miyazaki, Kazunori Shimada, Yurina Sugita, Megumi Shimizu, Tatsuro Aikawa, Shohei Ouchi, Tomoyuki Shiozawa, Kiyoshi Takasu, Shuhei Takahashi, Atsutoshi Takagi, Katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida**, Significance of Serum Polyunsaturated Fatty Acid Level Imbalance in Patients with Acute Venous Thromboembolism, Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 2017; 24:1016–1022
190. Takano A, Sekita G, Watanabe M, Mukaida H, Komatsu S, Tabuchi H, Hayashi H, Tokano T, Sumiyoshi M, Nakazato K, **Daida H**. **Long-term reliability of sweet-tip type screw-in leads.** J Arrhythmia 2017; 33:12-16
191. Komatsu S, Sumiyoshi M, Miura S, Kimura Y, Shiozawa T, Hirano K, Odagiri F, Tabuchi H, Hayashi H, Sekita G, Tokano T, Nakazato K, **Daida H**. **A proposal of clinical ECG index “vagal score” for determining the mechanism of paroxysmal atrioventricular block.** J Arrhythmia 2017; 33:208-13
192. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Hayashi H, Tabuchi H, Miura S, Fujimoto S, Kadoguchi T, Ouchi S, Aikawa T, Shahi HA, Takahashi S, Miyazaki T, Sumiyoshi M, Nakazato K, **Daida H**. **Left atrial appendage volume and plasma docosahexaenoic acid levels are associated with fibrillation recurrence after catheter ablation.** Cardiol Res 2017; 8:96-104
193. Hirose K, Daimon M, Miyazaki S, Chiang SJ, Morimoto-Ichikawa R, Maruyama M, Kawata T, Ohmura H, **Daida H**, Estrogen variation during the menstrual cycle does not influence left ventricular diastolic function and untwisting rate in premenopausal women, Journal of Cardiology 2017;69:389-393
194. Suwa S, Ogita M, Miyauchi K, Sonoda T, Konishi H, Tsuboi S, Wada H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, **Daida H** **Impact of Lipoprotein (a) on Long-Term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin After a First Percutaneous Coronary Intervention.** J Atheroscler Thromb. 2017;24:1125-1131
195. Shohei Ouchi, Tetsuro Miyazaki, Kazunori Shimada, Yurina Sugita, Megumi

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Shimizu, Azusa Murata, Takao Kato, Tatsuro Aikawa, Shoko Suda, Tomoyuki Shiozawa, Masaru Hiki, Shuhei Takahashi, Takatoshi Kasai, Katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida**

Decreased Circulating Dihomo-gamma-linolenic Acid Levels are Associated with Total Mortality in Patients with Acute Cardiovascular Disease and Acute Decompensated Heart Failure

Lipids Health Dis. 2017;16: 150

196. Aikawa T, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Ouchi S, Kadoguchi T, Yokoyama Y, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Al Shahi H, Dohi S, Amano A, **Daida H**

Low EPA/AA ratio is associated with the size and growth rate of abdominal aortic aneurysm.

J Atheroscler Thromb. 2017.24:912-920

197. Kaga H, Tamura Y, Takeno K, Kakehi S, Funayama T, Furukawa Y, Nishitani-Yokoyama M, Shimada K, **Daida H**, Aoki S, Giacca A, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H

Correlates of insulin clearance in apparently healthy non-obese Japanese men.

Sci Rep. 2017;7:1462

198. Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Hiki M, Sato S, Hamasaki N, Maruyama M, Morimoto R, Miyazaki T, Fujimoto S, Tamura Y, Aoki S, Watada H, Kawamori R, **Daida H**

Myocardial triglyceride content in patients with left ventricular hypertrophy: Comparison between hypertensive heart disease and hypertrophic cardiomyopathy.

Heart Vessels. 2017;32: 166-174

199. Takahashi M, Ando J, Shimada K, Nishizaki Y, Tani S, Ogawa T, Yamamoto M, Nagao K, Hirayama A, Yoshimura M, **Daida H**, Nagai R, Komuro I

The ratio of serum n-3 to n-6 polyunsaturated fatty acids is associated with diabetes mellitus in patients with prior myocardial infarction: a multicenter cross-sectional study.

BMC Cardiovasc Disord. 2017;17: 41

200. Takamura K, Fujimoto S, Kondo T, Hiki M, Kawaguchi Y, Kato E, **Daida H**

Incremental Prognostic Value of Coronary Computed Tomography Angiography: High-Risk Plaque Characteristics in Asymptomatic Patients

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

J Atheroscler Thromb, 2017;24: 1174-1185

201. Nishizaki Y, Shimada K, **Daida H**
The Balance of Omega-3 Polyunsaturated Fatty Acids for Reducing Residual Risks in Patients with Coronary Artery Disease.
 Acta Cardiologica. 2017;72:240-248
202. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, **Daida H**.
Preprocedural High-Sensitivity C-Reactive Protein Predicts Long-Term Outcome of Percutaneous Coronary Intervention.
 Circ J. 2016 Dec 22;81(1):90-95.
203. Ogita M, Miyauchi K, Onishi A, Tsuboi S, Wada H, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Kojima Y, Schwartz RS, **Daida H**.
Development of Accelerated Coronary Atherosclerosis Model Using Low Density Lipoprotein Receptor Knock-Out Swine with Balloon Injury.
 PLoS One. 2016 Sep 15;11(9):e0163055.
204. Jiang L, Konishi H, Nurwidya F, Satoh K, Takahashi F, Ebinuma H, Fujimura K, Takasu K, Jiang M, Shimokawa H, Bujo H, **Daida H**.
Deletion of LR11 Attenuates Hypoxia-Induced Pulmonary Arterial Smooth Muscle Cell Proliferation With Medial Thickening in Mice.
 Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2016 Sep;36(9):1972-9.
205. Akita K, Isoda K, Okabayasi Y, Shimada K, **Daida H**.
Lack of IκBNS accelerates atherosclerosis in LDL receptor-deficient mice via increased interleukin-6 production.
 Int J Cardiol. 2016 May 15;211:61-3.
206. Sai E, Shimada K, Miyauchi K, Masaki Y, Kojima T, Miyazaki T, Kurata T, Ogita M, Tsuboi S, Yoshihara T, Miyazaki T, Ohsaka A, **Daida H**.
Increased cystatin C levels as a risk factor of cardiovascular events in patients with preserved estimated glomerular filtration rate after elective percutaneous coronary intervention with drug-eluting stents.
 Heart Vessels. 2016 May;31(5):694-701.
207. Ogita M, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Wada H, Naito R, Konishi H, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Yanagisawa N, Shimada K, Suwa S, Jiang M, Bujo H, **Daida H**.
Prognostic impact of circulating soluble LR11 on long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Atherosclerosis. 2016 Jan;244:216-21.

208. Shibayama K, Daimon M, Watanabe H, Kawata T, Miyazaki S, Morimoto-Ichikawa R, Maruyama M, Chiang SJ, Miyauchi K, **Daida H.**
Significance of Coronary Artery Disease and Left Ventricular Afterload in Unoperated Asymptomatic Aortic Stenosis.
 Circ J. 2016;80(2):519-25.
209. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, **Daida H.**
Appropriate Level of Low-Density Lipoprotein Cholesterol for Secondary Prevention of Coronary Artery Disease.
 J Atheroscler Thromb. 2016;23(4):413-21.
210. Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Konishi H, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Suwa S, **Daida H.**
Impact of Combined C-Reactive Protein and High-Density Lipoprotein Cholesterol Levels on Long-Term Outcomes in Patients With Coronary Artery Disease After a First Percutaneous Coronary Intervention.
 Am J Cardiol. 2015 Oct 1;116(7):999-1002.
211. Konishi H, Miyauchi K, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, **Daida H.**
Impact of the HAS-BLED Score on Long-Term Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention.
 Am J Cardiol. 2015 Aug 15;116(4):527-31.
212. Suda S, Kasai T, Kato M, Kawana F, Kato T, Ichikawa R, Hayashi H, Kawata T, Sekita G, Itoh S, **Daida H.**
Bradyarrhythmias may induce central sleep apnea in a patient with obstructive sleep apnea.
 Heart Vessels. 2015 Jul;30(4):554-7.
213. Ogita M, Miyauchi K, Kasai T, Doi S, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, **Daida H.**
Impact of preprocedural high-sensitive C-reactive protein levels on long-term clinical outcomes of patients with stable coronary artery disease and chronic kidney disease who were treated with drug-eluting stents.
 J Cardiol. 2015 Jul;66(1):15-21.
214. Joki Y, Ohashi K, Yuasa D, Shibata R, Ito M, Matsuo K, Kambara T, Uemura Y, Hayakawa S, Hiramatsu-Ito M, Kanemura N, Ogawa H, **Daida H.**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Murohara T, Ouchi N.

FGF21 attenuates pathological myocardial remodeling following myocardial infarction through the adiponectin-dependent mechanism.

Biochem Biophys Res Commun. 2015 Mar 27;459(1):124-30.

215. Akita K, Isoda K, Shimada K, Daida H.

Dipeptidyl-peptidase-4 inhibitor, alogliptin, attenuates arterial inflammation and neointimal formation after injury in low-density lipoprotein (LDL) receptor-deficient mice.

J Am Heart Assoc. 2015 Mar 13;4(3):e001469.

216. Joki Y, Ohashi K, Yuasa D, Shibata R, Kataoka Y, Kambara T, Uemura Y, Matsuo K, Hayakawa S, Hiramatsu-Ito M, Kanemura N, Ito M, Ogawa H, Daida H., Murohara T, Ouchi N.

Neuron-derived neurotrophic factor ameliorates adverse cardiac remodeling after experimental myocardial infarction.

Circ Heart Fail. 2015;8:342-51.

217. Hashimoto R, Katoh Y, Miyamoto Y, Itoh S, Daida H., Nakazato Y, Okada T.

Increased extracellular and intracellular Ca²⁺ lead to adipocyte accumulation in bone marrow stromal cells by different mechanisms.

Biochem Biophys Res Commun. 2015;457:647-52.

218. Nonaka R, Iesaki T, de Vega S, Daida H., Okada T, Sasaki T, Arikawa-Hirasawa E.

Perlecan deficiency causes endothelial dysfunction by reducing the expression of endothelial nitric oxide synthase.

Physiol Rep. 2015;3. pii: e12272.

219. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Sai E, Fukushima Y, Katoh Y, Okai I, Tamura H, Okazaki S, Daida H.

Impact of lipoprotein(a) as residual risk on long-term outcomes in patients after percutaneous coronary intervention.

Am J Cardiol. 2015;115:157-60.

220. Yoshihara T, Shimada K, Fukao K, Sai E, Sato-Okabayashi Y, Matsumori R, Shiozawa T, Alshahi H, Miyazaki T, Tada N, Daida H.

Omega 3 Polyunsaturated Fatty Acids Suppress the Development of Aortic Aneurysms Through the Inhibition of Macrophage-Mediated Inflammation.

Circ J. 2015;79:1470-8.

221. Ogita M, Miyauchi K, Jiang M, Kasai T, Tsuboi S, Naito R, Konishi H, Dohi

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

T, Yokoyama T, Okazaki S1, Shimada K, Bujo H, **Daida H.**
Circulating soluble LR11, a novel marker of smooth muscle cell proliferation, is enhanced after coronary stenting in response to vascular injury.

Atherosclerosis. 2014; 237:374-8.

222. Ogita M, Miyauchi K, Miyazaki T, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Yokoyama T, Okazaki S, Kurata T, **Daida H.**
Low high-density lipoprotein cholesterol is a residual risk factor associated with long-term clinical outcomes in diabetic patients with stable coronary artery disease who achieve optimal control of low-density lipoprotein cholesterol.

Heart Vessels. 2014; 29:35-41

223. Naito R, Miyauchi K, Ogita M, Kasai T, Kawaguchi Y, Tsuboi S, Konishi H, Okazaki S, Kurata T, **Daida H.**
Impact of admission glycemia and glycosylated hemoglobin A1c on long-term clinical outcomes of non-diabetic patients with acute coronary syndrome. J Cardiol. 2014; 63:106-111

224. Odagiri F, Inoue H, Sugihara M, Suzuki T, Murayama T, Shioya T, Konishi M, Nakazato Y, **Daida H.**, Sakurai T, Morimoto S, Kurebayashi N.
Effects of candesartan on electrical remodeling in the hearts of inherited dilated cardiomyopathy model mice.

PLoS One. 2014; 9:e101838.

225. Nishizaki Y, Shimada K, Tani S, Ogawa T, Ando J, Takahashi M, Yamamoto M, Shinozaki T, Miyauchi K, Nagao K, Hirayama A, Yoshimura M, Komuro I, Nagai R, **Daida H.**
Significance of Imbalance in the Ratio of Serum n-3 to n-6 Polyunsaturated Fatty Acids in Patients with Acute Coronary Syndrome, Am J Cardiol. 2014; 113:441-445

226. Miyazaki T, Shimada K, Hki M, Kume A, Kitamura Y, Oshida K, Yanagisawa N, Kiyonagi T, Matsumori R, **Daida H.**
High hexacosanoic acid levels are associated with coronary artery disease.

Atherosclerosis. 2014; 223:429-433

(形成外科)

227. Geeroms M, Hamdi M, Hirano R, Hagiwara H, Fujimura S, **Mizuno H,**
Tanaka R.
Quality and Quantity Cultured Murine Endothelial Progenitor Cells

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Increase Vascularization and Decrease Fibrosis in the Fat Graft.

Plastic and Reconstructive Surgery. 2019 in press

228. (*87) Hagiwara H, Higashibata A, Ogawa S, Kanazawa S, **Mizuno H, Tanaka R.** **Effectiveness of endothelial progenitor cell culture under microgravity for improved angiogenic potential.**
Scientific Reports. 2018 Sep DOI: 10.1038/s41598-018-32073-2
229. Kado M, **Tanaka R,** Arita K, Okada K, Hirano R, Fujimura S, **Mizuno H.** **Human Peripheral Blood Mononuclear Cells Enriched in Endothelial Progenitor Cells via Quality and Quantity Controlled Culture Accelerate Vascularization and Wound Healing in a Porcine Wound Model.**
Cell Transplantation. 2018 Jul 27(7):1068-1079
230. **Tanaka R,** Masuda H, Fujimura S, Hirano-Ito R, Arita K, Kakinuma Y, Hagiwara H, Kado M, Hayashi A, Mita T, Ogawa T, Watada H, **Mizuno H,** Sawada N, Asahara T.
Quality-quantity control culture enhances vasculogenesis and wound healing efficacy of diabetic peripheral blood CD34+ cells.
Stem Cells Translational Medicine. 2018 May 7(5)428-438
231. Ohtake T, Kobayashi S, Mochida Y, Ishioka K, Moriya H, Hidaka S, Matsuura R, Sumida M, Katagiri D, Noiri E, Slavin S, **Mizuno H, Tanaka R.** **Human peripheral blood mononuclear cells incubated in vasculogenic conditioning medium dramatically improve ischemia/reperfusion acute kidney injury in mice.**
Cell Transplantation. 2018 Mar 27(3) 520–530
232. Mifuji K, Ishikawa M, Kamei N, **Tanaka R,** Arita K, **Mizuno H,** Asahara T, Adachi N, Ochi M.
Angiogenic conditioning of peripheral blood mononuclear cells promotes fracture healing.
Bone & Joint Research. 2017 Aug 6(8): 489-498
233. Shen T, Kanazawa S, Kado M, Okada K, Lin L, Hayashi A, **Mizuno H,** **Tanaka R.**
Interleukin-6 stimulates Akt and p38 MAPK phosphorylation and fibroblast migration in non-diabetic but not diabetic mice.
PLoS ONE. 2017 May doi.org/10.1371/journal.pone.0178232
234. Fukui T, Kawaguchi A, Takekoshi S, Miyasaka M, Sumiyoshi H, **Tanaka R.** **Liposome-Encapsulated Hemoglobin Accelerates Skin Wound Healing in Diabetic dB/dB Mice.**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Artificial Organs. 2017 April 41(4): 319-326

235. Shingyochi Y, Kanazawa S, Tajima S, **Tanaka R**, **Mizuno H**, Tobita M.
A Low-Level Carbon Dioxide Laser Promotes Fibroblast Proliferation and Migration through Activation of Akt, ERK, and JNK.
 PLoS One. 2017 Jan 3;12(1):e0168937.
236. Luo L, **Tanaka R**, Kanazawa S, Lu F, Hayashi A, Yokomizo T, **Mizuno H**.
A synthetic leukotriene B4 receptor type 2 agonist accelerates the cutaneous wound healing process in diabetic rats by indirect stimulation of fibroblasts and direct stimulation of keratinocytes.
 J Diabetes Complications. 2017 Jan;31(1):13-20.
237. Yoshizawa H, Senda D, Natori Y, **Tanaka R**, **Mizuno H**, Hayashi A.
End-to-Side Neuroorrhaphy as Schwann Cells Provider to Acellular Nerve Allograft and Its Suitable Application.
 PLOS One. 2016 Dec 1;11(12):e0167507.
238. Horikoshi-Ishihara H, Tobita M, Tajima S, **Tanaka R**, Oshita T, Tabata Y, **Mizuno H**.
Coadministration of adipose-derived stem cells and control-released basic fibroblast growth factor facilitates angiogenesis in a murine ischemic hind limb model.
 J Vasc Surg. 2016 Dec;64(6):1825-1834.e1.
239. Oshita T, Tobita M, Tajima S, **Mizuno H**.
Adipose-Derived Stem Cells Improve Collagenase-Induced Tendinopathy in a Rat Model.
 Am J Sports Med. 2016 Aug;44(8):1983-9.
240. Sukmawati D, **Tanaka R**, Ito-Hirano R, Fujimura S, Hayashi A, Itoh S, **Mizuno H**, Daida H.
The role of Notch signaling in diabetic endothelial progenitor cells dysfunction.
 J Diabetes Complications. 2016 Jan-Feb;30(1):12-20.
241. Ferraro GA, **Mizuno H**, Pallua N.
Adipose Stem Cells: From Bench to Bedside.
 Stem Cells Int. 2016;2016:6484038.
242. Tobita M, Tajima S, **Mizuno H**.
Adipose tissue-derived mesenchymal stem cells and platelet-rich plasma: stem cell transplantation methods that enhance stemness.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Stem Cell Res Ther. 2015 Nov 5;6:215.

243. Tajima S, Tobita M, Orbay H, Hyakusoku H and **Mizuno H**
Direct and indirect effects on bone regeneration of a combination of adipose-derived stem cells and platelet-rich plasma.
 Tissue Eng Part A 21: 895-905, 2015
244. Masuda H, **Tanaka R**, Fujimura S, Ishikawa M, Akimaru H, Shizuno T, Sato A, Okada Y, Iida Y, Itoh J, Itoh Y, Kamiguchi H, Kawamoto A, Asahara T.
Vasculogenic conditioning of peripheral blood mononuclear cells promotes endothelial progenitor cell expansion and phenotype transition of anti-inflammatory macrophage and T lymphocyte to cells with regenerative potential.
 J Am Heart Assoc. 2014 Jun 25;3(3):e000743.
- (生化学第 2)
245. Sugiyama Y, Naito K, Goto K, Kojima Y, Furuhashi A, Igarashi M, **Nagaoka I**, Kaneko K.
Effect of aging on the tendon structure and tendon associated-gene expression in mouse foot flexor tendon.
 Biomed Rep. 10:238-244. 2019.
246. Ochiai T, Nishimura K, Watanabe T, Kitajima M, Nakatani A, Nagayasu K, Sakuyama N, Sato T, Kishine K, Abe Y, **Nagaoka I**.
Impact of primary tumor location as a predictive factor in patients suffering from colorectal cancer treated with cytotoxic anticancer agents based on the collagen gel droplet-embedded drug sensitivity test.
 Oncol Lett. 17:1842-1850. 2019.
247. Reich J, Weyer FA, Tamura H, **Nagaoka I**, Motschmann H.
Low endotoxin recovery-masking of naturally occurring endotoxin.
 Int J Mol Sci. 20:pii:E838. 2019.
248. Takahashi T, Tomonaga A, Watanabe K, Tsuboi M, **Nagaoka I**.
Evaluation of the efficacy and safety of long-term intake of a dietary supplement containing salmon nasal cartilage-derived proteoglycan on subjects with subjective knee symptoms -An open study-
 Jpn Pharmacol Ther. 46:1693-1706. 2018.
249. Murakami T, Suzuki K, Niyonsaba F, Tada H, Reich J, Tamura H, **Nagaoka**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

I.**MrgX2-mediated internalization of LL-37 and degranulation of human LAD2 mast cells.**

Mol Med Rep. 18:4951-4959. 2018.

250. Iba T, Levy JH, Hirota T, Hiki M, Sato K, Murakami T, **Nagaoka I.**

Protection of the endothelial glycocalyx by antithrombin in an endotoxin-induced rat model of sepsis.

Thromb Res. 171:1-6. 2018.

251. Tsuruta A, Horiike T, Yoshimura M, **Nagaoka I.**

Evaluation of the effect of the administration of a glucosamine-containing supplement on biomarkers for cartilage metabolism in soccer players: a randomized double-blind placebo-controlled study.

Mol Med Rep. 18:3941-3948. 2018.

252. Yoshikawa T, Miyamoto M, Aoyama T, Soyama H, Goto T, Hirata J, Suzuki A, **Nagaoka I.** Tsuda H, Furuya K, Takano M.

JAK2/STAT3 pathway as a therapeutic target in ovarian cancers.

Oncol Lett. 15:5772-5780. 2018.

253. Reich J, Tamura H, **Nagaoka I.** Motschmann H.

Investigation of the kinetics and mechanism of low endotoxin recovery in a matrix for biopharmaceutical drug products.

Biologicals. 53:1-9. 2018.

254. Komatsu J, Nagura N, Iwase H, Igarashi M, Ohbayashi O, **Nagaoka I.** Kaneko K.

Effect of intermittent teriparatide on the mechanical and histological changes in bone grafted with β -tricalcium phosphate using a rabbit bone defect model.

Exp Ther Med. 15:19-30. 2018.

255. Iba T, Hirota T, Sato K, **Nagaoka I.**

Protective effect of a newly developed fucose-deficient recombinant antithrombin against histone-induced endothelial damage.

Int J Hematol. 107:528-534. 2018.

256. Yoshikawa T, Takano M, Miyamoto M, Yajima I, Shimizu Y, Aizawa Y,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Suguchi Y, Moriiwa M, Aoyama T, Soyama H, Goto T, Hirata J, Suzuki A, Sasa H, **Nagaoka I**, Tsuda H, Furuya K.

Psoas muscle volume as a predictor of peripheral neurotoxicity induced by primary chemotherapy in ovarian cancers.

Cancer Chemother Pharmacol. 80:555-561. 2017.

257. Iba T, Sasaki T, Ohshima K, Sato K, **Nagaoka I**, Thachil J.

The comparison of the protective effects of α - and β -antithrombin against vascular endothelial cell damage induced by histone in vitro.

TH Open. 01:e3-e10. 2017.

258. Yamagishi Y, Someya A, Imai K, Nagao J, **Nagaoka I**.

Evaluation of the anti-inflammatory actions of various functional food materials including glucosamine on synovial cells.

Mol Med Rep. 16:1353-1359. 2017.

259. Sawada Y, Sugimoto A, Hananouchi T, Sato N, **Nagaoka I**.

Evaluation of the efficacy of *Ajuga decumbens* extract supplement in individuals with knee discomfort associated with physical activity: a randomized, double-blind, placebo-controlled study.

Exp Ther Med. 14:4561-4571. 2017.

260. Kubomura D, Ueno T, Yamada M, **Nagaoka I**.

Evaluation of the chondroprotective action of N-acetylglucosamine on a rat experimental osteoarthritis model.

Exp. Ther. Med. 14:3137-3144. 2017.

261. Tomonaga A, Fukagawa M, Suzuki A, Kurokawa M, **Nagaoka I**.

Evaluation of the effect of N-acetyl-glucosamine administration on biomarkers for cartilage metabolism in healthy individuals: a randomized double-blind placebo-controlled clinical study.

Functional Foods in Health and Disease. 7:604-627. 2017.

262. Tomonaga A, Takahashi T, Tsuda-Tanaka Y, Tsuboi M, Ito K, **Nagaoka I**.

Evaluation of the effect of the administration of salmon nasal proteoglycan on biomarkers for cartilage metabolism in individuals with knee joint discomfort: a randomized double-blind placebo-controlled clinical study.

Exp Ther Med. 14:115-126. 2017.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

263. Yamaguchi K, Kumakura S, Someya A, Iseki M, Inada E, **Nagaoka I.**
Anti-inflammatory actions of gabapentin and pregabalin on the substance P-induced mitogen-activated protein kinase activation in U373 MG human glioblastoma astrocytoma cells.
Mol Med Rep. 16:6109-6115. 2017.
264. Hosoda H, Nakamura K, Hu Z, Tamura H, Reich J, Kuwahara-Arai K, Iba T, Tabe Y, **Nagaoka I.**
Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 induces NET formation and suppresses the inflammatory responses in a mouse septic model.
Mol Med Rep. 16:5618-5626. 2017.
265. Ochiai T, Nishimura K, Watanabe T, Kitajima M, Nakatani A, Nagayasu K, Naito S, Sato T, Kishine K, Abe Y, Hara C, Yamada S, Mashiko S, **Nagaoka I.**
Impact of the individualization on the first-line chemotherapy for advanced colorectal cancer based on collagen gel droplet-embedded drug sensitivity test.
Oncol Lett. 14:6045-6052. 2017.
266. Tabe Y, Yamamoto S, Saitoh K, Sekihara K, Monma N, Ikeo K, Mogushi K, Shikami M, Ruvolo V, Ishizawa J, Ikegami T, Kazuno S, Igarashi M, Matsushita M, Yamanaka Y, Arai H, **Nagaoka I.** Miida T, Hayashizaki Y, Konopleva M, Andreeff M.
Survival of acute monocytic leukemia cells is driven by fatty acid oxidation-mediated activation of AMPK in bone marrow adipocytes.
Cancer Res. 77:1453-1464. 2017.
267. Igarashi M, Sakamoto K, **Nagaoka I.**
Effect of glucosamine on the expression of the genes for type II collagen, matrix metalloproteinases and sirtuins in a human chondrocyte cell line.
Int J Mol Med. 39:472-478, 2017.
268. Hu Z, Murakami T, Tamura H, Reich J, Kuwahara-Arai K, Iba T, Tabe Y, **Nagaoka I.**
Neutrophil extracellular traps (NETs) induces the IL-1 β production by macrophages in combination with lipopolysaccharide.
Int J Mol Med. 39:549-558. 2017.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

269. Yamaguchi K, Kumakura S, Murakami T, Someya A, Inada E, **Nagaoka I.**
Ketamine suppresses the substance P-induced production of IL-6 and IL-8 by human U373MG glioblastoma/astrocytoma cells.
Int J Mol Med. 39:687-692. 2017.
270. Kubomura D, Ueno T, Yamada M, Tomonaga A, **Nagaoka I.**
Effect of N-acetylglucosamine administration on cartilage metabolism and safety in healthy subjects without symptoms of arthritis: a case report.
Exp Ther Med. 13:1614-1621. 2017.
271. Hashiguchi M, Suzuki K, Kaneko K, **Nagaoka I.**
Evaluation of the effect of aloe-emodin on the proliferation and apoptosis of human synovial MH7A cells; a comparison with methotrexate.
Mol Med Rep. 15:4398-4404. 2017.
272. Isaka S, Someya A, Nakamura S, Naito K, Nozawa M, Inoue N, Sugihara F, **Nagaoka I.**, Kaneko K.
Evaluation of the effect of oral administration of collagen peptides on an experimental rat osteoarthritis model.
Exp Ther Med. 13:2699-2706. 2017.
273. Takehara K, Murakami T, Kuwahara-Arai K, Iba T, **Nagaoka I.**, Sakamoto K.
Evaluation of the effect of recombinant thrombomodulin on a lipopolysaccharide-induced murine sepsis model.
Exp Ther Med. 13:2969-2974. 2017.
274. Yamagishi Y, Someya A, Imai K, Nagao J, **Nagaoka I.**
Evaluation of the anti-inflammatory actions of various functional food materials including glucosamine on synovial cells.
Mol Med Rep. 6:1353-1359. 2017
275. Miyamoto M, Takano M, Iwaya K, Shinomiya N, Goto T, Kato M, Suzuki A, Aoyama T, Hitrata J, **Nagaoka I.**, Tsuda H, Furuya K.
High-temperature-required protein A2 as a predictive marker for response to chemotherapy and prognosis in patients with high-grade serous ovarian cancers.
Br J Cancer. 116:e2. doi:10.1038/bjc.2016.371. 2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

276. Someya A, Ikegami T, Sakamoto K, Nagaoka I.
Glucosamine downregulates the IL-1 β -induced expression of proinflammatory cytokine genes in human synovial MH7A cells by O-GlcNAc modification-dependent and -independent mechanisms.
PLoS One. 11:e0165158. 2016.
277. Miyamoto M, Takano M, Aoyama T, Soyama H, Kato M, Yoshikawa T, Shibutani T, Matsuura H, Goto T, Sasa H, Nagaoka I, Furuya K.
Is modified radical hysterectomy needed for patients with clinical stage I/II endometrial cancers? A historical control study.
Oncology. 90:179-185. 2016.
278. Inoue S, Nakajima S, Endo M, Nagaoka I.
Correlation between lipid peroxide concentration in serum and intake pattern with a focus on lipid, copper, histidine, and folic acid.
J Jpn Mibyo System Association. 22:15-28. 2016.
279. Sawada Y, Sugimoto A, Hananouchi T, Sato N, Nagaoka I.
Evaluation of the efficacy of Ajuga decumbens extract supplement in individuals with knee discomfort associated with physical activity: a randomized, double-blind, placebo-controlled study.
Exp Ther Med. 14:4561-4571. 2016.
280. Tomonaga A, Fukagawa M, Ikeda H, Hori T, Ohkawara M, Nagaoka I.
Evaluation of the effect of the administration of an N-acetyl-glucosamine-containing green tea supplement on biomarkers for cartilage metabolism in healthy individuals without symptoms of arthritis: a randomized double-blind placebo-controlled clinical study.
Functional Foods in Health and Disease. 6:788-808. 2016.
281. Tomonaga A, Watanabe K, Fukagawa M, Suzuki A, Kurokawa M, Nagaoka I.
Evaluation of the effect of N-acetyl-glucosamine administration on biomarkers for cartilage metabolism in healthy individuals without symptoms of arthritis: a randomized double-blind placebo-controlled clinical study.
Exp Ther Med. 12:1481-1489. 2016.
282. Tada H, Shimizu T, Nagaoka I, Takada H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Vitamin D3 analog maxacalcitol (OCT) induces hCAP-18/LL-37 production in human oral epithelial cells.

Biomed Res. 37:199-205. 2016.

283. Iba T, Hamakubo T, Nagaoka I, Sato K, Thachil J.

Physiological levels of pentraxin 3 and albumin attenuate vascular endothelial cell damage Induced by histone H3 in vitro.

Microcirculation. 23:240-247. 2016.

284. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Reich J, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I.

Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 inhibits the pyroptosis of macrophages and improves the survival of polybacterial septic mice.

Int Immunol. 28:245-253. 2016.

285. Murakami T, Hu Z, Tamura H, Nagaoka I.

Release mechanism of high mobility group nucleosome binding protein 1 from lipopolysaccharide-stimulated macrophages.

Mol Med Rep. 13:3115-3120. 2016.

286. (*14) Suzuki K, Murakami T, Hu Z, Tamura H, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I.

Human host defense cathelicidin peptide LL-37 enhances the lipopolysaccharide uptake by liver sinusoidal endothelial cells without cell activation.

J Immunol. 196:1338-1347. 2016.

287. Iba T, Hashiguchi N, Nagaoka I, Tabe Y, Kadota K, Sato K.

Heparins attenuated histone-mediated cytotoxicity in vitro and improved the survival in a rat model of histone-induced organ dysfunction.

Intensive Care Med Exp. 3:36 DOI 10.1186/s40635-015-0072-z. 2015.

288. Hosoda H, Tamura H, Nagaoka I.

Evaluation of the lipopolysaccharide-induced transcription of human TREM-1 gene in vitamin D3-matured THP-1 macrophage-like cells.

Int J Mol Med. 36:1300-1310. 2015.

289. Miyamoto M, Takano M, Iwaya K, Shinomiya N, Goto T, Kato M, Suzuki A, Aoyama T, Hirata J, Nagaoka I, Tsuda H, Furuya K.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

High-temperature-required protein A2 as a predictive marker for response to chemotherapy and prognosis in patients with high-grade serous ovarian cancers.

Br J Cancer. 112:739-744. 2015.

290. Nagura N, Komatsu J, Iwase H, Hosoda H, Ohbayashi O, Nagaoka I, Kaneko K.

Effects of the combination of vitamin K and teriparatide on the bone metabolism in ovariectomized rats.

Biomed Rep. 3:295-300. 2015.

291. Ochiai T, Nishimura K, Watanabe T, Kitajima M, Nakatani A, Sato T, Kishine K, Futagawa S, Mashiko S, Nagaoka I.

Mechanism underlying the transient increase of serum iron during FOLFOX/FOLFIRI therapy.

Mol Clin Oncol. 2:968-972. 2014.

292. Kitajima Y, Yamaguchi K, Hori K, Murakami T, Someya A, Konishi K, Hara A, Hachisu M, Kajiyama Y, Nagaoka I, Inada E.

The relationship between the preoperative transition of serum anticholinergic activity and postoperative delirium in patients undergoing esophagectomy and gastrectomy.

Juntendo Med J. 60:147-150. 2014.

293. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Tabe Y, Nagaoka I.

Combination of antithrombin and recombinant thrombomodulin modulates neutrophil cell-death and decreases circulating DAMPs levels in endotoxemic rats.

Thromb Res. 134:169-173. 2014.

294. Wakabayashi S, Yamaguchi K, Kumakura S, Murakami T, Someya A, Kajiyama Y, Nagaoka I, Inada E.

Effects of anesthesia with sevoflurane and propofol on the cytokine/chemokine production at the airway epithelium during esophagectomy.

Int J Mol Med. 34:137-144. 2014.

295. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 inhibits the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages by dual mechanism.

PLoS One. 9:e85765. doi:10.1371/journal.pone.00857652. 2014.

296. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Yamada A, **Nagaoka I.**
Combination of antithrombin and recombinant thrombomodulin attenuates leukocyte-endothelial interaction and suppresses the increase of intrinsic damage-associated molecular patterns in endotoxemic rats.
 J Surg Res. 187:581-586. 2014.
297. Iba T, **Nagaoka I.**, Yamada A, Nagayama M, Miki T.
Effect of hemoperfusion using polymyxin B-immobilized fibers on acute lung injury in a rat sepsis model.
 Int J Med Sci. 11:255-261. 2014.
- (免疫学)
298. **Miyake S.** Yamamura T. **Gut environmental factors and multiple sclerosis.** J Neuroimmunol. 2019; 329: 20-23.
299. Chiba A, Murayama G, **Miyake S.** **Mucosal-Associated invariant T cells in autoimmune diseases.** Front Immunol 9:1333, 2018
300. Sakaguchi K, Koyanagi A, Kamachi F, Harauma A, Chiba A, Hisata K, Moriguchi T, Shimizu T, **Miyake S.** **Breast-feeding regulates immune system development via transforming growth factor- β in mice pups.** Pediatr Int 60(3):224-231, 2018
301. Igarashi A, Sakuma H, Hayashi M, Noto D, **Miyake S.** Okumura A, Shimizu T. **Cytokine-induced differentiation of hematopoietic cells into microglia-like cells in vitro.** Clin Exp Neuroimmunol 9:139-149, 2018
302. Saika R, Sakuma H, Noto D, Yamaguchi S, Yamamura T, **Miyake S.**
MicroRNA-101a regulates microglial morphology and inflammation. J Neuroinfla 14(1):109, 2017
303. Nakajima A, Kaga N, Nakanishi Y, Ohno H, Miyamoto J, Kimura I, Hori S, Sasaki T, Hiramatsu K, Okumura K, **Miyake S.** Habu S, Watanabe S.
Maternal High Fiber Diet during Pregnancy and Lactation Influences Regulatory T Cell Differentiation in Offspring in Mice. J Immunol 199(10):3516-3524, 2017
304. Murayama G, Furusawa N, Chiba A, Yamaji K, Tamura N, **Miyake S.**
Enhanced IFN- α production is associated with increased TLR7 retention

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- in the lysosomes of palasmacytoid dendritic cells in systemic lupus erythematosus.** *Arthritis Res Ther* 19(1):234, 2017
305. Isshiki T, Akiba H, Nakayama M, Harada N, Okumura K, Homma S, **Miyake S**. Cutting Edge: **Anti-TIM-3 Treatment Exacerbates Pulmonary Inflammation and Fibrosis in Mice.** *J Immunol* 199(11):3733-3737, 2017
306. (*15) Chiba A, Tamura N, Yoshikiyo K, Murayama G, Kitagaichi M, Yamaji K, Takasaki Y, **Miyake S**. **Activation status of mucosal-associated invariant T cells reflects disease activity and pathology of systemic lupus erythematosus.** *Arthritis Res Ther.* 2017 Mar 14;19(1):58. doi: 10.1186/s13075-017-1257-5.
307. Mizuno M, Noto D, Kaga N, Chiba A, **Miyake S**. **The dual role of short fatty acid chains in the pathogenesis of autoimmune disease models.** *PLoS One.* 2017 Feb 24;12(2):e0173032.
308. (*16) Ishimori A, Harada N*, Chiba A, Harada S, Matsuno K, Makino F, Ito J, Ohta S, Ono Junya, Atsuta R, Izuhara K, Takahashi K, **Miyake S***. **Circulating activated innate lymphoid cells and mucosal-associated invariant T cells are associated with airflow limitation in patients with asthma.** *Allergol Int* 66(2):302-309, 2017. (*corresponding author)
309. (*17) Hayashi E, Chiba A*, Tada k, Haga K, Kitagaichi M, Nakajima S, Kusaoi M, Sekiya F, Ogasawara M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y, **Miyake S***. **Involvement of Mucosal-associated Invariant T cells in Ankylosing Spondylitis.** *Journal of Rheumatology.*43(9):1695-1703, 2016. (*corresponding author)
310. Kadowaki A*, **Miyake S***, Saga R, Chiba A, Mochizuki H, Yamamura T*. **Gut environment-induced intraepithelial autoreactive CD4+ T cells suppress central nervous system autoimmunity via LAG-3.** *Nature Communications.* 7:11639, 2016. (*corresponding author)
311. (*18) Haga K, Chiba A*, Shibuya T, Osada T, Ishikawa D, Kodani T, Nomura O, Watanabe S, **Miyake S***. **MAIT cells are activated and accumulated in the inflamed mucosa of ulcerative colitis.** *Journal of Gastroenterology and Hepatology.* 31(5):965-72, 2016. (*corresponding author)
312. Takenaka S-I, Kaieda S, Kawayama T, Matsuoka M, Kaku Y, Kinoshita T,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Sakazaki Y, Okamoto M, Tominaga M, Kanasaki K, Chiba A, **Miyake S**, Ida H, Hoshino T.

IL-38: A new factor in rheumatoid arthritis.

Biochemistry and Biophysics Reports. 4:386-391, 2015

313. **Miyake S**, Kim S, Suda W, Oshima K, Nakamura M, Matsuoka T, Chihara N, Tomita A, Sato W, Kim SW, Morita H, Hattori M, Yamamura T.

Dysbiosis in the Gut Microbiota of Patients with Multiple Sclerosis, with a Striking Depletion of Species Belonging to Clostridia XIVa and IV Clusters.

PLoS One. 10(9):e0137429, 2015

314. Kamachi F, Isshiki T, Harada N, Akiba H, **Miyake S**.

ICOS promotes group 2 innate lymphoid cell activation in lungs.

Biochem Biophys Res Commun. 463(4):739-45, 2015

315. Nakamura M, Matsuoka T, Chihara N, **Miyake S**, Sato W, Araki M, Okamoto T, Lin Y, Ogawa M, Murata M, Aranami T, Yamamura T.

Differential effects of fingolimod on B-cell populations in multiple sclerosis.

Mult Scler. 20(10):1371-80,2014

316. Noto D*, Sakuma H*, Takahashi K, Yamada M, Yamamura T, **Miyake S***.

Development of a culture system to induce microglia-like cells from hematopoietic cells.

Neuropathol Appl Neurobiol 40(6):697-713,2014. (*corresponding author)

(脳神経内科)

317. Okuzumi A, Hatano T, Ueno SI, Ogawa T, Saiki S, Mori A, Koinuma T, Oji Y, **Ishikawa KI**, Fujimaki M, Sato S, Ramamoorthy S, Mohny RP, **Hattori N**.

Metabolomics-based identification of metabolic alterations in PARK2.

Ann Clin Transl Neurol 2019 Feb 21;6(3):525-536.

318. (*21) Yoshino H, Nishioka K, Li Y, Oji Y, Oyama G, Hatano T, Machida Y,

Shimo Y, Hayashida A, Ikeda A, Mogushi K, Shibagaki Y, Hosaka A, Iwanaga H, Fujitake J, Ohi T, Miyazaki D, Sekijima Y, Oki M, Kusaka H, Fujimoto KI, Ugawa Y, Funayama M, **Hattori N**.

GCH1 mutations in dopa-responsive dystonia and Parkinson's disease. J Neurol.

2018 Aug;265(8):1860-1870. doi: 10.1007/s00415-018-8930-8. Epub 2018 Jun 14. PubMed PMID: 29948246.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

319. (*72)Ueno SI, Saiki S, Fujimaki M, Takeshige-Amano H, Hatano T, Oyama G, **Ishikawa KI**, Yamaguchi A, Nojiri S, Akamatsu W, **Hattori N**.
Zonisamide Administration Improves Fatty Acid β -Oxidation in Parkinson's Disease.
Cells. 2018 Dec 29;8(1). pii: E14. doi: 10.3390/cells8010014. PubMed PMID: 30597973.
320. Taniguchi D, Hatano T, Kamagata K, Okuzumi A, Oji Y, Mori A, Hori M, Aoki S, **Hattori N**.
Neuromelanin imaging and midbrain volumetry in progressive supranuclear palsy and Parkinson's disease.
Mov Disord. 2018 Sep;33(9):1488-1492. doi: 10.1002/mds.27365. Epub 2018 May 14. PubMed PMID: 29756366.
321. (*22)Takanashi M, Funayama M, Matsuura E, Yoshino H, Li Y, Tsuyama S, Takashima H, Nishioka K, **Hattori N**.
Isolated nigral degeneration without pathological protein aggregation in autopsied brains with LRRK2 p.R1441H homozygous and heterozygous mutations.
Acta Neuropathol Commun. 2018 Oct 17;6(1):105.
doi:10.1186/s40478-018-0617-y. PubMed PMID: 30333048; PubMed Central PMCID:PMC6192197.
322. (*23)Tabata Y, Imaizumi Y, Sugawara M, Andoh-Noda T, Banno S, Chai M, Sone T, Yamazaki K, Ito M, Tsukahara K, Saya H, **Hattori N**, Kohyama J, Okano H.
T-type Calcium Channels Determine the Vulnerability of Dopaminergic Neurons to Mitochondrial Stress in Familial Parkinson Disease.
Stem Cell Reports. 2018 Nov 13;11(5):1171-1184. doi: 10.1016/j.stemcr.2018.09.006. Epub 2018 Oct 18. PubMed PMID: 30344006; PubMed Central PMCID: PMC6234903.
323. Shimada Y, Shimura H, Tanaka R, Yamashiro K, Koike M, Uchiyama Y, Urabe T, **Hattori N**.
Phosphorylated recombinant HSP27 protects the brain and attenuates blood-brain barrier disruption following stroke in mice receiving intravenous tissue-plasminogen activator.
PLoS One. 2018 May 24;13(5):e0198039. doi:10.1371/journal.pone.0198039. eCollection 2018. PubMed PMID: 29795667; PubMed Central PMCID: PMC5993064.
324. (*24)Sato S, Uchihara T, Fukuda T, Noda S, Kondo H, Saiki S, Komatsu M,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Uchiyama Y, Tanaka K, **Hattori N.**

Loss of autophagy in dopaminergic neurons causes Lewy pathology and motor dysfunction in aged mice.

Sci Rep. 2018 Feb 12;8(1):2813.

325. (*25)Sato S, **Hattori N.**

Dopaminergic Neuron-Specific Autophagy-Deficient Mice.

Methods Mol Biol. 2018;1759:173-175.

326. Ren Q, Ma M, Yang J, Nonaka R, Yamaguchi A, **Ishikawa KI**, Kobayashi K, Murayama S, Hwang SH, Saiki S, Akamatsu W, **Hattori N**, Hammock BD, Hashimoto K.

Soluble epoxide hydrolase plays a key role in the pathogenesis of Parkinson's disease.

Proc Natl Acad Sci U S A. 2018 Jun 19;115(25):E5815-E5823.

327. (*26)Mikasa M, Kanai K, Li Y, Yoshino H, Mogushi K, Hayashida A, Ikeda A, Kawajiri S, Okuma Y, Kashihara K, Sato T, Kondo H, Funayama M, Nishioka K, **Hattori N.**

COQ2 variants in Parkinson's disease and multiple system atrophy.

J Neural Transm (Vienna). 2018 Jun;125(6):937-944.

328. Kono Y, Nishioka K, Li Y, Komatuzaki Y, Ito Y, Yoshino H, Tanaka R, Iguchi Y, **Hattori N.**

Heterozygous HTRA1 mutations with mimicking symptoms of CARASIL in two families.

Clin Neurol Neurosurg. 2018 Sep;172:174-176.

329. (*27)**Ishikawa KI**, Saiki S, Furuya N, Imamichi Y, Tsuboi Y, **Hattori N.**

p150(glued) deficiency impairs effective fusion between autophagosomes and lysosomes due to their redistribution to the cell periphery.

Neurosci Lett. 2018 Oct 23;690:181-187.

330. (*28)Inoshita T, Cui C, **Hattori N.**, Imai Y.

Regulation of membrane dynamics by Parkinson's disease-associated genes.

J Genet. 2018 Jul;97(3):715-725. Review.

331. Hira K, Ueno Y, Tanaka R, Miyamoto N, Yamashiro K, Inaba T, Urabe T, Okano H, **Hattori N.**

Astrocyte-Derived Exosomes Treated With a Semaphorin 3A Inhibitor Enhance Stroke Recovery via Prostaglandin D(2) Synthase.

Stroke. 2018

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

332. (*72) Fujimaki M, Saiki S, Li Y, Kaga N, Taka H, Hatano T, **Ishikawa KI**, Oji Y, Mori A, Okuzumi A, Koinuma T, Ueno SI, Imamichi Y, Ueno T, Miura Y, Funayama M, **Hattori N**.
Serum caffeine and metabolites are reliable biomarkers of early Parkinson disease.
 Neurology. 2018 Jan 30;90(5):e404-e411.
333. Daida K, Tanaka R, Yamashiro K, Ogawa T, Oyama G, Nishioka K, Shimo Y, Umemura A, **Hattori N**.
The presence of cerebral microbleeds is associated with cognitive impairment in Parkinson's disease.
 J Neurol Sci. 2018 Oct 15;393:39-44.
334. Cossu D, Yokoyama K, **Hattori N**.
Bacteria-Host Interactions in Multiple Sclerosis.
 Front Microbiol. 2018 Dec 4;9:2966. doi: 10.3389/fmicb.2018.02966.
 eCollection 2018. Review.
335. (*29)Conedera SA, Li Y, Funayama M, Yoshino H, Nishioka K, **Hattori N**.
Genetic analysis of TMEM230 in Japanese patients with familial Parkinson's disease.
 Parkinsonism Relat Disord. 2018 Mar;48:107-108.
336. Yamashiro K, Tanaka R, Shimo Y, Oyama G, Ogawa T, Umemura A, **Hattori N**.
Cerebral microbleeds and blood pressure abnormalities in Parkinson's disease.
 eNeurologicalSci. 2017 Dec 21;10:5-11.
337. Ueno Y, Tanaka R, Yamashiro K, Miyamoto N, Hira K, Kurita N, Sakurai M, Urabe T, Shimada K, Miyazaki T, Daida H, **Hattori N**.
Age Stratification and Impact of Eicosapentaenoic Acid and Docosahexaenoic Acid to Arachidonic Acid Ratios in Ischemic Stroke Patients.
 J Atheroscler Thromb. 2017 Dec 2.
338. Miyamoto N, Tanaka R, Ueno Y, Watanabe M, Kurita N, Hira K, Shimada Y, Kuroki T, Yamashiro K, Urabe T, **Hattori N**.
Analysis of the Usefulness of the WORSEN Score for Predicting the Deterioration of Acute Ischemic Stroke.
 J Stroke Cerebrovasc Dis. 2017 Dec;26(12):2834-2839.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

339. (*30)Fujimori K, Matsumoto T, Kisa F, **Hattori N**, Okano H, Akamatsu W.
Escape from Pluripotency via Inhibition of TGF- β /BMP and Activation of Wnt Signaling Accelerates Differentiation and Aging in hPSC Progeny Cells.
 Stem Cell Reports. 2017 Nov 14;9(5):1675-1691.
340. Mishima T, Fujioka S, Tomiyama H, Yabe I, Kurisaki R, Fujii N, Neshige R, Ross OA, Farrer MJ, Dickson DW, Wszolek ZK, **Hattori N**, Tsuboi Y.
Establishing diagnostic criteria for Perry syndrome.
 J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2017 Oct 31.
341. Fukuhara T, Kim J, Hokaiwado S, Nawa M, Okamoto H, Kogiso T, Watabe T, **Hattori N**.
A novel immunotoxin reveals a new role for CD321 in endothelial cells.
 PLoS One. 2017 Oct 13;12(10):e0181502.
342. (*31)Daida K, Nishioka K, Li Y, Nakajima S, Tanaka R, **Hattori N**.
CSF1R Mutation p.G589R and the Distribution Pattern of Brain Calcification.
 Intern Med. 2017 Sep 15;56(18):2507-2512. doi:
 10.2169/internalmedicine.8462-16. Epub 2017 Aug 21.
343. (*32)Yoshino H, Hirano M, Stoessel AJ, Imamichi Y, Ikeda A, Li Y, Funayama M, Yamada I, Nakamura Y, Sossi V, Farrer MJ, Nishioka K, **Hattori N**.
Homozygous alpha-synuclein p.A53V in familial Parkinson's disease.
 Neurobiol Aging. 2017
344. (*33)Shiba-Fukushima K, **Ishikawa KI**, Inoshita T, Izawa N, Takanashi M, Sato S, Onodera O, Akamatsu W, Okano H, Imai Y, **Hattori N**.
Evidence that phosphorylated ubiquitin signaling is involved in the etiology of Parkinson's disease.
 Hum Mol Genet. 2017 Aug 15;26(16):3172-3185.
345. (*71) Saiki S, Hatano T, Fujimaki M, **Ishikawa KI**, Mori A, Oji Y, Okuzumi A, Fukuhara T, Koinuma T, Imamichi Y, Nagumo M, Furuya N, Nojiri S, Amo T, Yamashiro K, **Hattori N**.
Decreased long-chain acylcarnitines from insufficient β -oxidation as potential early diagnostic markers for Parkinson's disease.
 Sci Rep. 2017 Aug 4;7(1):7328.
346. (*34)Inoshita T, Arano T, Hosaka Y, Meng H, Umezaki Y, Kosugi S, Morimoto T, Koike M, Chang HY, Imai Y, **Hattori N**.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Vps35 in cooperation with LRRK2 regulates synaptic vesicle endocytosis through the endosomal pathway in Drosophila.

Hum Mol Genet. 2017 Aug 1;26(15):2933-2948.

347. (*35)Hatano T, Daida K, Hoshino Y, Li Y, Saitsu H, Matsumoto N, **Hattori N.**

Dystonia due to bilateral caudate hemorrhage associated with a COL4A1 mutation.

Parkinsonism Relat Disord. 2017 Jul;40:80-82.

348. (*36)**Hattori N**, Arano T, Hatano T, Mori A, Imai Y.

Mitochondrial-Associated Membranes in Parkinson's Disease.

Adv Exp Med Biol. 2017;997:157-169. Review.

349. (*37)Hosaka Y, Inoshita T, Shiba-Fukushima K, Cui C, Arano T, Imai Y, **Hattori N.**

Reduced TDP-43 Expression Improves Neuronal Activities in a Drosophila Model of Perry Syndrome.

EBioMedicine. 2017 Jul;21:218-227.

350. Cossu D, Yokoyama K, Tomizawa Y, Momotani E, **Hattori N.**

Altered humoral immunity to mycobacterial antigens in Japanese patients affected by inflammatory demyelinating diseases of the central nervous system.

Sci Rep. 2017 Jun 9;7(1):3179.

351. (*38)Meng H, Yamashita C, Shiba-Fukushima K, Inoshita T, Funayama M, Sato S, Hatta T, Natsume T, Umitsu M, Takagi J, Imai Y, **Hattori N.**

Loss of Parkinson's disease-associated protein CHCHD2 affects mitochondrial crista structure and destabilizes cytochrome c.

Nat Commun. 2017 Jun 7;8:15500.

352. Fukae J, Fujioka S, Yanamoto S, Mori A, Nomi T, Hatano T, Fukuhara K, Ouma S, **Hattori N**, Tsuboi Y.

Serum uric acid level is linked to the disease progression rate in male patients with multiple system atrophy.

Clin Neurol Neurosurg. 2017

353. Hatano T, Okuzumi A, Kamagata K, Daida K, Taniguchi D, Hori M, Yoshino H, Aoki S, **Hattori N.**

Neuromelanin MRI is useful for monitoring motor complications in Parkinson's and PARK2 disease.

J Neural Transm (Vienna). 2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

354. Yamashita C, Funayama M, Li Y, Yoshino H, Yamada H, Seino Y, Tomiyama H, **Hattori N**.
Mutation screening of PLA2G6 in Japanese patients with early onset dystonia-parkinsonism.
J Neural Transm (Vienna). 2017 Apr;124(4):431-435.
355. Inoshita T, Shiba-Fukushima K, Meng H, **Hattori N**, Imai Y.
Monitoring Mitochondrial Changes by Alteration of the PINK1-Parkin Signaling in Drosophila.
Methods Mol Biol. 2017 Mar 22.
356. Kasemsuk C, Oyama G, **Hattori N**.
Management of impulse control disorders with deep brain stimulation: A double-edged sword.
J Neurol Sci. 2017 Mar 15;374:63-68. doi: 10.1016/j.jns.2017.01.019. Epub 2017 Jan 7. Review.
357. Fujimaki M, Saiki S, Sasazawa Y, **Ishikawa KI**, Imamichi Y, Sumiyoshi K, **Hattori N**.
Immunocytochemical Monitoring of PINK1/Parkin-Mediated Mitophagy in Cultured Cells.
Methods Mol Biol. 2017 Mar 31.
358. Yamashiro K, Tanaka R, Urabe T, Ueno Y, Yamashiro Y, Nomoto K, Takahashi T, Tsuji H, Asahara T, **Hattori N**.
Gut dysbiosis is associated with metabolism and systemic inflammation in patients with ischemic stroke.
PLoS One. 2017 Feb 6;12(2):e0171521.
359. (*39) Sato S, Koike M, Funayama M, Ezaki J, Fukuda T, Ueno T, Uchiyama Y, **Hattori N**.
Lysosomal Storage of Subunit c of Mitochondrial ATP Synthase in Brain-Specific Atp13a2-Deficient Mice.
Am J Pathol. 2016 Dec;186(12):3074-3082.
360. (*40) Kino Y, Washizu C, Kurosawa M, Yamada M, Doi H, Takumi T, Adachi H, Katsuno M, Sobue G, Hicks GG, **Hattori N**, Shimogori T, Nukina N.
FUS/TLS acts as an aggregation-dependent modifier of polyglutamine disease model mice.
Sci Rep. 2016 Oct 14;6:35236.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

361. (*41) Yamanaka T, Tosaki A, Miyazaki H, Kurosawa M, Koike M, Uchiyama Y, Maity SN, Misawa H, Takahashi R, Shimogori T, **Hattori N**, Nukina N.
Differential roles of NF-Y transcription factor in ER chaperone expression and neuronal maintenance in the CNS.
 Sci Rep. 2016 Sep 30;6:34575.
362. (*42) Cossu D, Yokoyama K, Sechi LA, Otsubo S, Tomizawa Y, Momotani E, **Hattori N**.
Humoral response against host-mimetic homologous epitopes of Mycobacterium avium subsp. paratuberculosis in Japanese multiple sclerosis patients.
 Sci Rep. 2016 Jun 30;6:29227.
363. (*43) Kuroki T, Tanaka R, Shimada Y, Yamashiro K, Ueno Y, Shimura H, Urabe T, **Hattori N**.
Exendin-4 Inhibits Matrix Metalloproteinase-9 Activation and Reduces Infarct Growth After Focal Cerebral Ischemia in Hyperglycemic Mice.
 Stroke. 2016 May;47(5):1328-35.
364. (*44) Conedera S, Apaydin H, Li Y, Yoshino H, Ikeda A, Matsushima T, Funayama M, Nishioka K, **Hattori N**.
FBXO7 mutations in Parkinson's disease and multiple system atrophy.
 Neurobiol Aging. 2016 Apr;40:192.e1-5.
365. (*45) Ochiishi T, Doi M, Yamasaki K, Hirose K, Kitamura A, Urabe T, **Hattori N**, Kinjo M, Ebihara T, Shimura H.
Development of new fusion proteins for visualizing amyloid- β oligomers in vivo.
 Sci Rep. 2016 Mar 16;6:22712.
366. (*46) Yamanaka T, Tosaki A, Kurosawa M, Shimogori T, **Hattori N**, Nukina N.
Genome-wide analyses in neuronal cells reveal that upstream transcription factors regulate lysosomal gene expression.
 FEBS J. 2016 Mar;283(6):1077-87.
367. Yamada D, Saiki S, Furuya N, **Ishikawa K**, Imamichi Y, Kambe T, Fujimura T, Ueno T, Koike M, Sumiyoshi K, **Hattori N**.
Ethambutol neutralizes lysosomes and causes lysosomal zinc accumulation.
 Biochem Biophys Res Commun. 2016 Feb 26;471(1):109-16.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

368. (*47) Kurosawa M, Matsumoto G, Sumikura H, Hatsuta H, Murayama S, Sakurai T, Shimogori T, **Hattori N**, Nukina N.
Serine 403-phosphorylated p62/SQSTM1 immunoreactivity in inclusions of neurodegenerative diseases.
 Neurosci Res. 2016 Feb;103:64-70.
369. (*48) Elahi M, Hasan Z, Motoi Y, Matsumoto SE, Ishiguro K, **Hattori N**.
Region-Specific Vulnerability to Oxidative Stress, Neuroinflammation, and Tau Hyperphosphorylation in Experimental Diabetes Mellitus Mice.
 J Alzheimers Dis. 2016;51(4):1209-24.
370. **Hattori N**.
Movement disorders: advances in 2015.
 Lancet Neurol. 2016 Jan;15(1):8-9.
371. (*49) Elahi M, Motoi Y, Matsumoto SE, Hasan Z, Ishiguro K, **Hattori N**.
Short-term treadmill exercise increased tau insolubility and neuroinflammation in tauopathy model mice.
 Neurosci Lett. 2016 Jan 1;610:207-12.
372. (*50) Ogaki K, Koga S, Heckman MG, Fiesel FC, Ando M, Labbé C, Lorenzo-Betancor O, Moussaud-Lamodière EL, Soto-Ortolaza AI, Walton RL, Strongosky AJ, Uitti RJ, McCarthy A, Lynch T, Siuda J, Opala G, Rudzinska M, Krygowska-Wajs A, Barcikowska M, Czyzewski K, Puschmann A, Nishioka K, Funayama M, **Hattori N**, Parisi JE, Petersen RC, Graff-Radford NR, Boeve BF, Springer W, Wszolek ZK, Dickson DW, Ross OA.
Mitochondrial targeting sequence variants of the CHCHD2 gene are a risk for Lewy body disorders.
 Neurology. 2015 Dec 8;85(23):2016-25.
373. (*51) Matsumoto SE, Motoi Y, Ishiguro K, Tabira T, Kametani F, Hasegawa M, **Hattori N**.
The twenty-four KDa C-terminal tau fragment increases with aging in tauopathy mice: implications of prion-like properties.
 Hum Mol Genet. 2015 Nov 15;24(22):6403-16.
374. (*52) Imai Y, Kobayashi Y, Inoshita T, Meng H, Arano T, Uemura K, Asano T, Yoshimi K, Zhang CL, Matsumoto G, Ohtsuka T, Kageyama R,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Kiyonari H, Shioi G, Nukina N, **Hattori N**, Takahashi R.
The Parkinson's Disease-Associated Protein Kinase LRRK2 Modulates Notch Signaling through the Endosomal Pathway.
 PLoS Genet. 2015 Sep 10;11(9):e1005503.

375. (*53) Matsumoto G, Shimogori T, **Hattori N**, Nukina N.
TBK1 controls autophagosomal engulfment of polyubiquitinated mitochondria through p62/SQSTM1 phosphorylation.
 Hum Mol Genet. 2015 Aug 1;24(15):4429-42.
376. Vaikath NN, Majbour NK, Paleologou KE, Ardah MT, van Dam E, van de Berg WD, Forrest SL, Parkkinen L, Gai WP, **Hattori N**, Takanashi M, Lee SJ, Mann DM, Imai Y, Halliday GM, Li JY, El-Agnaf OM.
Generation and characterization of novel conformation-specific monoclonal antibodies for α -synuclein pathology.
 Neurobiol Dis. 2015 Jul;79:81-99.
377. (*54) Fuse A, Furuya N, Kakuta S, Inose A, Sato M, Koike M, Saiki S, **Hattori N**.
VPS29-VPS35 intermediate of retromer is stable and may be involved in the retromer complex assembly process.
 FEBS Lett. 2015 Jun 4;589(13):1430-6.
378. (*55) Nishioka K, Oyama G, Yoshino H, Li Y, Matsushima T, Takeuchi C, Mochizuki Y, Mori-Yoshimura M, Murata M, Yamasita C, Nakamura N, Konishi Y, Ohi K, Ichikawa K, Terada T, Obi T, Funayama M, Saiki S, **Hattori N**.
High frequency of beta-propeller protein-associated neurodegeneration (BPAN) among patients with intellectual disability and young-onset parkinsonism.
 Neurobiol Aging. 2015 May;36(5):2004.e9-2004.e15.
379. (*56) Nishikawa N, Shimo Y, Wada M, **Hattori N**, Kitazawa S.
Effects of aging and idiopathic Parkinson's disease on tactile temporal order judgment.
 PLoS One. 2015 Mar 11;10(3):e0118331.
380. (*57) Ueno Y, Koike M, Shimada Y, Shimura H, Hira K, Tanaka R, Uchiyama Y, **Hattori N**, Urabe T.
L-carnitine enhances axonal plasticity and improves white-matter lesions after chronic hypoperfusion in rat brain.
 Cereb Blood Flow Metab. 2015 Mar;35(3):382-91.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

381. (*19) Funayama M, Ohe K, Amo T, Furuya N, Yamaguchi J, Saiki S, Li Y, Ogaki K, Ando M, Yoshino H, Tomiyama H, Nishioka K, Hasegawa K, Saiki H, Satake W, Mogushi K, Sasaki R, Kokubo Y, Kuzuhara S, Toda T, Mizuno Y, Uchiyama Y, Ohno K, **Hattori N**.
CHCHD2 mutations in autosomal dominant late-onset Parkinson's disease: a genome-wide linkage and sequencing study.
Lancet Neurol. 2015 Mar;14(3):274-82.
382. (*58) Asano T, Koike M, Sakata S, Takeda Y, Nakagawa T, Hatano T, Ohashi S, Funayama M, Yoshimi K, Asanuma M, Toyokuni S, Mochizuki H, Uchiyama Y, **Hattori N**, Iwai K.
Possible involvement of iron-induced oxidative insults in neurodegeneration.
Neurosci Lett. 2015 Feb 19;588:29-35.
383. (*59) Kurosawa M, Matsumoto G, Kino Y, Okuno M, Kurosawa-Yamada M, Washizu C, Taniguchi H, Nakaso K, Yanagawa T, Warabi E, Shimogori T, Sakurai T, **Hattori N**, Nukina N.
Depletion of p62 reduces nuclear inclusions and paradoxically ameliorates disease phenotypes in Huntington's model mice.
Hum Mol Genet. 2015 Feb 15;24(4):1092-105.
384. (*60) Kino Y, Washizu C, Kurosawa M, Oma Y, **Hattori N**, Ishiura S, Nukina N.
Nuclear localization of MBNL1: splicing-mediated autoregulation and repression of repeat-derived aberrant proteins.
Hum Mol Genet. 2015 Feb 1;24(3):740-56
385. (*61) Shiba-Fukushima K, Arano T, Matsumoto G, Inoshita T, Yoshida S, Ishihama Y, Ryu KY, Nukina N, **Hattori N**, Imai Y.
Phosphorylation of mitochondrial polyubiquitin by PINK1 promotes Parkin mitochondrial tethering.
PLoS Genet. 2014 Dec 4;10(12):e1004861.
386. (*62) Shiba-Fukushima K, Inoshita T, **Hattori N**, Imai Y.
Lysine 63-linked polyubiquitination is dispensable for Parkin-mediated mitophagy.
J Biol Chem. 2014 Nov 28;289(48):33131-6.
387. (*63) Miyazaki H, Oyama F, Inoue R, Aosaki T, Abe T, Kiyonari H, Kino Y, Kurosawa M, Shimizu J, Ogiwara I, Yamakawa K, Koshimizu Y, Fujiyama F, Kaneko T, Shimizu H, Nagatomo K, Yamada K, Shimogori T, **Hattori N**, Miura M, Nukina N.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Singular localization of sodium channel β 4 subunit in unmyelinated fibres and its role in the striatum.

Nat Commun. 2014 Nov 21;5:5525.

388. (*64) Hatano T, Funayama M, Kubo S, Mata IF, Oji Y, Mori A, Zabotian CP, Waldherr SM, Yoshino H, Oyama G, Shimo Y, Fujimoto K, Oshima H, Kunii Y, Yabe H, Mizuno Y, **Hattori N.**

Identification of a Japanese family with LRRK2 p.R1441G-related Parkinson's disease.

Neurobiol Aging. 2014 Nov;35(11):2656.e17-23.

389. (*65) Maraschi A, Ciammola A, Folci A, Sassone F, Ronzitti G, Cappellotti G, Silani V, Sato S, **Hattori N.** Mazzanti M, Chiergatti E, Mulle C, Passafaro M, Sassone J.

Parkin regulates kainate receptors by interacting with the GluK2 subunit.

Nat Commun. 2014 Oct 15;5:5182.

390. (*66) Amo T, Saiki S, Sawayama T, Sato S, **Hattori N.**

Detailed analysis of mitochondrial respiratory chain defects caused by loss of PINK1.

Neurosci Lett. 2014 Sep 19;580:37-40.

391. (*67) Yamashita C, Tomiyama H, Funayama M, Inamizu S, Ando M, Li Y, Yoshino H, Araki T, Ichikawa T, Ehara Y, Ishikawa K, Mizusawa H, **Hattori N.**

Evaluation of polyglutamine repeats in autosomal dominant Parkinson's disease.

Neurobiol Aging. 2014 Jul;35(7):1779.e17-21.

392. (*68) Fujimaki T, Saiki S, Tashiro E, Yamada D, Kitagawa M, **Hattori N.** Imoto M.

Identification of licopyranocoumarin and glycyrruol from herbal medicines as neuroprotective compounds for Parkinson's disease.

PLoS One. 2014 Jun 24;9(6):e100395.

393. (*69) Shiba-Fukushima K, Inoshita T, **Hattori N.** Imai Y.

PINK1-mediated phosphorylation of Parkin boosts Parkin activity in Drosophila.

PLoS Genet. 2014 Jun 5;10(6):e1004391.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

394. (*70) Nishioka K, Funayama M, Vilariño-Güell C, Ogaki K, Li Y, Sasaki R, Kokubo Y, Kuzuhara S, Kachergus JM, Cobb SA, Takahashi H, Mizuno Y, Farrer MJ, Ross OA, **Hattori N.**
EIF4G1 gene mutations are not a common cause of Parkinson's disease in the Japanese population.
 Parkinsonism Relat Disord. 2014 Jun;20(6):659-61.

(神経生物学)

395. Ikuno M, Yamakado H, Akiyama H, Parajuli LK, Taguchi K, Hara J, Uemura N, Hatanaka Y, Higaki K, Ohno K, Tanaka M, **Koike M**, Hirabayashi Y, Takahashi R.
GBA haploinsufficiency accelerates alpha synuclein pathology with altered lipid metabolism in a prodromal model of Parkinson's disease.
 Hum Mol Genet in press.

396. Piao, X., Miura, R., Miyake, S., Komazawa-Sakon, S., **Koike, M.**, Shido, R., Takeda, J., Hasegawa, A., Abe, R., Nishiyama, C., Mikami, T., Yagita, H., Uchiyama, Y., Nakano, H.
Blockade of TNFR1-dependent and -independent cell death is crucial for normal epidermal differentiation.
 J Allergy Clin Immunol. 143(1):213-28, 2019.

397. Komine O, Yamashita H, Fujimori-Tonou N, **Koike M**, Jin S, Moriwaki Y, Endo F, Watanabe S, Uematsu S, Akira S, Uchiyama Y, Takahashi R, Misawa H, Yamanaka K.
Innate immune adaptor TRIF deficiency accelerates disease progression of ALS mice with accumulation of aberrantly activated astrocytes.
 Cell Death Differ. 25(12):2130-2146, 2018.

398. Eguchi, T., Kuwabara, T., Sakurai, M., Komori, T., Fujimoto, T., Ito, G., Yoshimura, S., Harada, A., Fukuda, M., **Koike, M.**, Iwatsubo, T.
LRRK2 and its substrate Rab GTPases are sequentially targeted onto stressed lysosomes and maintain their homeostasis.
 Proc Natl Acad Sci U S A 115(39):E9115-E9124, 2018.

399. Osonoi, Y., Mita, T., Azuma, K., Nakajima, K., Matsuyama, A., Goto, H., Nishida, Y., Miyatsuka, T., Fujitani, Y., **Koike, M.**, Mitsumata, M., Watada, H.
Defective autophagy in vascular smooth muscle cells enhances cell death and atherosclerosis.
 Autophagy 14(11):1991-2006, 2018.

400. Shimada, Y., Shimura, H., Tanaka, R., Yamashiro, K., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Urabe, T., Hattori, N.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Phosphorylated recombinant HSP27 protects the brain and attenuates blood-brain barrier disruption following stroke in mice receiving intravenous tissue-plasminogen activator.

PLoS ONE 13(5):e0198039, 2018.

401. Tanida-Miyake E, **Koike M**, Uchiyama Y, Tanida I.

Optimization of mNeonGreen for Homo sapiens increases its fluorescent intensity in mammalian cells.

PLoS ONE 13(1):e0191108, 2018.

402. Takakura, K., Ito, S., Sonoda, J., Tabata, K., Shiozaki, M., Nagai, K., Shibata, M., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Gotow, T.

Cordyceps militaris improves the survival of Dahl salt-sensitive hypertensive rats possibly via influences of mitochondria and autophagy functions.

Heliyon 3(11):e00462, 2017.

403. Tsuiji, H., Inoue, I., Takeuchi, M., Furuya, A., Yamakage, Y., Watanabe, S., **Koike, M.**, Hattori, M., Yamanaka, K.

TDP-43 accelerates age-dependent degeneration of interneurons.

Sci Rep. 7(1):14972, 2017.

404. Iwamoto, S., Koga, T., Ohba, M., Okuno, T., **Koike, M.**, Murakami, A., Yokomizo, T.

Non-steroidal anti-inflammatory drug delays corneal wound healing by reducing 12-hydroxyheptadecatrienoic acid, an endogenous ligand for leukotriene B4 receptor 2, BLT2.

Sci Rep. 7(1):13267, 2017.

405. Inoshita, T., Arano, T., Hosaka, Y., Meng, H., Umezaki, Y., Kosugi, S., Morimoto, T., **Koike, M.**, Chang, HY., Imai, Y., Hattori, N.

Vps35 in cooperation with LRRK2 regulates neuronal synaptic functions through the endosomal pathway in Drosophila.

Hum Mol Genet. 26(15):2933-48, 2017.

406. (*74) **Koike, M.**, Shibata, M., Sunabori, T., Yamaguchi, J., Sakimura, K., Komatsu, M., Tanaka, K., Uchiyama, Y.

Purkinje cells are more vulnerable to the specific depletion of cathepsin D than to that of Atg7.

Am J Pathol. 187(7):1586-600, 2017.

407. Ishimoto, T., Ninomiya, K., Inoue, R., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Mori, H.

Mice lacking BCAS1, a novel myelin-associated protein, display

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

schizophrenia-like abnormal behaviors, and up-regulation of inflammatory genes in the brain.

Glia 65(5):727-39, 2017.

408. **Koike, M.**, Kawahara, A., Shibata, M., Uchiyama, Y.
Induction of autophagy in the hippocampus after hypoxic-ischemic injury to neonatal rats.
Arch Histol Cytol. 77(1):13-23, 2017.
409. Tsuboyama, K., Koyama-Honda, I., Sakamaki, Y., **Koike, M.**, Morishita, H., Mizushima, N.
The ATG conjugation systems are important for degradation of the inner autophagosomal membrane.
Science 354(6315):1036-41, 2016.
410. Yamanaka T, Tosaki A, Miyazaki H, Kurosawa M, **Koike M**, Uchiyama Y, Maity SN, Misawa H, Takahashi R, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.
Differential roles of NF-Y transcription factor in ER chaperone expression and neuronal maintenance in the CNS.
Sci Rep. 2016 Sep 30;6:34575.
411. (*75) Sato S, **Koike M**, Funayama M, Ezaki J, Fukuda T, Ueno T, Uchiyama Y, Hattori N.
Lysosomal Storage of Subunit c of Mitochondrial ATP Synthase in Brain-Specific Atp13a2-Deficient Mice.
Am J Pathol. 2016 Dec;186(12):3074-3082.
412. Hadano, S., Mitsui, S., Pan, L., Otomo, A., Kubo, M., Sato, K., Ono, S., Onodera, W., Abe, K., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Aoki, M., Warabi, E., Yamamoto, M., Ishii, T., Yanagawa, T., Shang, HF., Yoshii, F.
Functional links between SQSTM1 and ALS2 in the pathogenesis of ALS: Cumulative impact on the protection against mutant SOD1-mediated motor dysfunction in mice.
Hum. Mol. Genet. 25(15):3321-40, 2016
413. Sunabori, T., **Koike, M.**, Asari, A., Oonuki, Y., Uchiyama, Y.
Suppression of ischemia-induced hippocampal pyramidal neuron death by hyaluronan tetrasaccharide through inhibition of Toll-like receptor 2 signaling pathway.
Am. J. Pathol. 186(8):2143-51, 2016.
414. Shibata, M., **Koike, M.**, Kusumi, S., Sato, N., Uchiyama, Y.
A specific tripeptidyl substrate for tripeptidyl peptidase activity is

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

effectively hydrolyzed by alanyl aminopeptidase/aminopeptidase N/CD13 in the rat kidney.

Arch Histol Cytol. 76(1):1-8, 2016.

415. Sekine S., Yao, A., Hattori, K., Sugawara, S., Naguro, I., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Takeda, K., Ichijo, H.

PGAM5 deficiency confers resistance against metabolic stress in mice.

EBioMedicine 5:82-92, 2016.

416. Yamada D, Saiki S, Furuya N, Ishikawa K, Imamichi Y, Kambe T, Fujimura T, Ueno T, Koike M, Sumiyoshi K, Hattori N.

Ethambutol neutralizes lysosomes and causes lysosomal zinc accumulation.

Biochem Biophys Res Commun. 2016 Feb 26;471(1):109-16.

417. Yamamoto-Nonaka K., **Koike, M.**, Asanuma, K., Akiba-Takagi, M., Trejo, JA., Seki, T., Hidaka, T., Ichimura, K., Sakai, T., Tada, N., Ueno, T., Uchiyama, Y., Tomino, Y.

Cathepsin D in Podocytes Is Important in the Pathogenesis of Proteinuria and CKD.

J. Am. Soc. Nephrol. 27(9):2685-700, 2016.

418. Xie, C., Ginet, V., Sun, Y., **Koike, M.**, Zhou, K., Li, T., Li, H., Li, Q., Wang, X., Uchiyama, Y., Truttmann, AC., Kroemer, G., Puyal, J., Blomgren, K., Zhu, C.

Neuroprotection by selective neuronal deletion of autophagy-related gene ATG7 in neonatal brain injury.

Autophagy 12(2):410-23, 2016.

419. Fuse A, Furuya N, Kakuta S, Inose A, Sato M, **Koike M**, Saiki S, Hattori N.

VPS29-VPS35 intermediate of retromer is stable and may be involved in the retromer complex assembly process.

FEBS Lett. 2015 Jun 4;589(13):1430-6.

420. Rinchai, D., Riyapa, D., Buddhisa, S., Utispan, K., Titball, R.W., Stevens, P.M., Stevens, J.M., Ogawa, M., Tanida, I., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Ato, M., **Lertmemongkolchai, G.** **Macroautophagy is essential for killing of *Burkholderia pseudomallei* in human neutrophils.**

Autophagy 11(5):748-55, 2015.

421. Nanao, T.#, **Koike, M.#***, Yamaguchi, J., Sasaki, M., Uchiyama, Y.

Cellular localization and tissue distribution of endogenous DFCEP1 protein.

Biomed. Res. 36(2):121-33, 2015. (#These authors contributed equally to this work) (*Correspondence author)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

422. Uemura, N., **Koike, M.**, Asai, K., Kinoshita, M., Fujiwara-Ishikawa, T., Matsui, H., Naruse, K., Sakamoto, N., Uchiyama, Y., Todo, T., Takeda S.I., Yamakado, H., Takahashi, R.
Viable neuronopathic Gaucher disease model in medaka (*Oryzias latipes*) displays axonal accumulation of alpha-synuclein.
Plos Genet. 11(4):e1005065, 2015.
423. Nori, S., Okada, Y., Nishimura, S., Sasaki, T., Itakura, G., Kobayashi, Y., Renault-Mihara, F., Shimizu A., Koya, I., Yoshida, R., Kudoh, J., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Ikeda, E., Toyama, Y., Nakamura, M., Okano, H.
Long-term safety issues of iPSC-based cell therapy in a spinal cord injury model: oncogenic transformation with epithelial-mesenchymal transition.
Stem Cell Reports. 2015 Mar 10;4(3):360-73.
424. Asano, T.*, **Koike, M.***, Sakata, S., Takeda, Y., Nakagawa, T., Hatano, T., Ohashi, S., Funayama, M., Yoshimi, K., Asanuma, M., Toyokuni, S., Mochizuki, S., Uchiyama, Y., Hattori, N., Iwai, K.
Iron induces mitochondrial damage that recruits parkin.
Neurosci. Lett. 588:29-35, 2015. (*These authors contributed equally to this work)
425. Ueno, Y., **Koike, M.**, Shimada, Y., Shimura, H., Uchiyama, Y., Hattori, N., Urabe, T.
L-carnitine enhances axonal plasticity and improves white-matter lesions after chronic hypoperfusion in rat brain.
J. Cereb. Blood Flow Metab. 35(3):382-91, 2015.
426. Ichimura, K., Miyazaki, N., Sadayama, S., Murata, K., **Koike, M.**, Nakamura, K., Ohta, K., Sakai, T.
Three-dimensional architecture of podocytes revealed by block-face scanning electron microscopy.
Sci Rep. 2015 Mar 11;5:8993.
427. Shigihara N, Fukunaka A, Hara A, Komiya K, Honda A, Uchida T, Abe H, Toyofuku Y, Tamaki M, Ogihara T, Miyatsuka T, Hiddinga HJ, Sakagashira S, **Koike M**, Uchiyama Y, Yoshimori T, Eberhardt NL, Fujitani Y, Watada H.
Human IAPP-induced pancreatic β cell toxicity and its regulation by autophagy.
J Clin Invest. 2014 Aug;124(8):3634-44.
428. Bartolomé, A., Kimura-Koyanagi, M., Asahara, S., Guillén, C., Teruyama, K., Inoue, H., Shimizu, S., Kanno, A., García-Aguilar, A., **Koike, M.**, Uchiyama,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Y., Benito, M., Noda, T., Kido, Y.

Pancreatic β cell failure mediated by mTORC1 hyperactivity and autophagic impairment.

Diabetes 63(9):2996-3008, 2014.

(代謝内分泌内科)

429. Masuyama A., Mita T., Azuma K., Osonoi Y., Nakajima K., Goto H., Nishida Y., Miyatsuka T., Mitsumata M., Watada H.

Defective autophagy in vascular smooth muscle cells enhances atherosclerotic plaque instability.

Biochem Biophys Res Commun, 2018 Nov 10; 505(4): 1141-1147.

430. (*76) Miura M., Miyatsuka T., Katahira T., Sasaki S., Suzuki L., Himuro M., Nishida Y., Fujitani Y., Matsuoka T. A., Watada H.

Suppression of STAT3 signaling promotes cellular reprogramming into insulin-producing cells induced by defined transcription factors.

EBioMedicine, 2018 Oct; 36: 358-366.

431. Katahira T, Kanazawa A, Shinohara M, Koshibu M, Kaga H, Mita T, Tosaka Y, Komiya K, Miyatsuka T, Ikeda F, Azuma K, Takayanagi N, Ogihara T, Ohmura C, Miyachi A, Mieno E, Yamashita S, Watada H.

Postprandial plasma glucagon kinetics in type 2 diabetes mellitus: comparison of immunoassay and mass spectrometry.

J Endocr Soc. 2018 Oct 26;3(1):42-51.

432. Osonoi Y., Mita T., Azuma K., Nakajima K., Masuyama A., Goto H., Nishida Y., Miyatsuka T., Fujitani Y., Koike M., Mitsumata M., Watada H.

Defective autophagy in vascular smooth muscle cells enhances cell death and atherosclerosis.

Autophagy. 2018; 14(11): 1991-2006.

433. Suzuki L, Miyatsuka T., Himuro M, Nishio R, Goto H, Uchida T, Nishida Y, Kanazawa A, Watada H.

Everolimus directly suppresses insulin secretion independently of cell growth inhibition.

J Endocr Soc. 2018 May 22;2(7):589-596.

434. Kamitani M., Miyatsuka T., Miura M., Azuma K., Suzuki L., Himuro M., Katahira T., Nishida Y., Fujitani Y., Watada H.

Heterogeneity of autophagic status in pancreatic β cells under metabolic stress.

Biochem Biophys Res Commun. 2018 Feb 5;496(2):328-334.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

435. Uesato T, Ogihara T, Hara A, Iida H, **Miyatsuka T**, Fujitani Y, Takeda S, **Watada H**.
Enhanced expression of the key mitosis regulator cyclin B1 is mediated by PDZ-binding kinase in islets of pregnant mice.
 J Endocr Soc. 2018 Jan 30;2(3):207-219.
436. Honda A, Komiya K, Hara A, Fukunaka A, Suzuki L, **Miyatsuka T**, Ogihara T, Fujitani Y, **Watada H**.
Normal pancreatic β -cell function in mice with RIP-Cre-mediated inactivation of p62/SQSTM1.
 Endocr J. 2018 Jan 30;65(1):83-89.
437. Sato J, Kanazawa A, Hatae C, Makita S, Komiya K, Shimizu T, Ikeda F, Tamura Y, Ogihara T, Mita T, Goto H, Uchida T, Miyatsuka T, Ohmura C, Watanabe T, Kobayashi K, Miura Y, Iwaoka M, Hirashima N, Watada H.
One year follow-up after a randomized controlled trial of a 130 g/day low-carbohydrate diet in patients with type 2 diabetes mellitus and poor glycemic control.
 PLoS One. 2017 Dec 4;12(12):e0188892.
438. Fukunaka A, Fukada T, Bhin J, Suzuki L, Tsuzuki T, Takamine Y, Bin BH, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Naito H, **Miyatsuka T**, Takamiya S, Sasaki T, Inagaki T, Kitamura T, Kajimura S, **Watada H**, Fujitani Y.
Zinc transporter ZIP13 suppresses beige adipocyte biogenesis and energy expenditure by regulating C/EBP- β expression.
 PLoS Genet. 2017 Aug 30;13(8):e1006950.
439. Saito D, Kanazawa A, Shigihara N, Sato F, Uchida T, Sato J, Goto H, **Miyatsuka T**, Ikeda F, Ogihara T, Ohmura C, **Watada H**.
Efficacy and safety of vildagliptin as an add-on therapy in inadequately controlled type 2 diabetes patients treated with basal insulin.
 J Clin Med Res. 2017 Mar;9(3):193-199.
440. Ogihara T, Mita T, Osonoi Y, Osonoi T, Saito M, Tamasawa A, Nakayama S, Someya Y, Ishida H, Goshio M, Kanazawa A, **Watada H**.
Relationships between lifestyle patterns and cardio-renal-metabolic parameters in patients with type 2 diabetes mellitus: A cross-sectional study.
 PLoS One. 2017 Mar 8;12(3):e0173540.
441. Yamamoto Y, **Miyatsuka T**, Sasaki S, Miyashita K, Kubo F, Shimo N, Takebe S, **Watada H**, Kaneto H, Matsuoka TA, Shimomura I.
Preserving expression of Pdx1 improves β -cell failure in diabetic mice.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Biochem Biophys Res Commun. 2017 Jan 29;483(1):418-424.

442. Yamaguchi H, Arakawa S, Kanaseki T, **Miyatsuka T**, Fujitani Y, **Watada H**, Tsujimoto Y, Shimizu S.
Golgi membrane-associated degradation pathway in yeast and mammals.
 EMBO J. 2016 Sep 15;35(18):1991-2007.
443. Ikeda S, Tamura Y, Kakehi S, Sanada H, Kawamori R, **Watada H**.
Exercise-induced increase in IL-6 level enhances GLUT4 expression and insulin sensitivity in mouse skeletal muscle.
 Biochem Biophys Res Commun. 2016 May 13;473(4):947-52.
444. Kubo F, **Miyatsuka T**, Sasaki S, Takahara M, Yamamoto Y, Shimo N, **Watada H**, Kaneto H, Gannon M, Matsuoka TA, Shimomura I.
Sustained expression of GLP-1 receptor differentially modulates β -cell functions in diabetic and nondiabetic mice.
 Biochem Biophys Res Commun. 2016 Feb 26;471(1):68-74.
445. Imamura M, Takahashi A, Yamauchi T, Hara K, Yasuda K, Grarup N, Zhao W, Wang X, Huerta-Chagoya A, Hu C, Moon S, Long J, Kwak SH, Rasheed A, Saxena R, Ma RC, Okada Y, Iwata M, Hosoe J, Shojima N, Iwasaki M, Fujita H, Suzuki K, Danesh J, Jørgensen T, Jørgensen ME, Witte DR, Brandslund I, Christensen C, Hansen T, Mercader JM, Flannick J, Moreno-Macías H, Burt NP, Zhang R, Kim YJ, Zheng W, Singh JR, Tam CH, Hirose H, Maegawa H, Ito C, Kaku K, **Watada H**, Tanaka Y, Tobe K, Kawamori R, Kubo M, Cho YS, Chan JC, Sanghera D, Frossard P, Park KS, Shu XO, Kim BJ, Florez JC, Tusié-Luna T, Jia W, Tai ES, Pedersen O, Saleheen D, Maeda S, Kadowaki T.
Genome-wide association studies in the Japanese population identify seven novel loci for type 2 diabetes.
 Nat Commun. 2016 Jan 28;7:10531.
446. Uchida T, Suzuki R, Kasai T, Onose H, Komiya K, Goto H, Takeno K, Ishii S, Sato J, Honda A, Kawano Y, Himuro M, Yamada E, Yamada T, **Watada H**.
Cutoff value of thyroid uptake of (99m)Tc-pertechnetate to discriminate between Graves' disease and painless thyroiditis: a single center retrospective study.
 Endocr J. 2016;63(2):143-9.
447. (*46) Sasaki S, **Miyatsuka T**, Matsuoka TA, Takahara M, Yamamoto Y, Yasuda T, Kaneto H, Fujitani Y, German MS, Akiyama H, **Watada H**, Shimomura I.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Activation of GLP-1 and gastrin signalling induces in vivo reprogramming of pancreatic exocrine cells into beta cells in mice.
Diabetologia. 2015 Nov;58(11):2582-91.

448. Iida H, Ogihara T, Min MK, Hara A, Kim YG, Fujimaki K, Tamaki M, Fujitani Y, Kim H, **Watada H.**
Expression mechanism of tryptophan hydroxylase 1 in mouse islets during pregnancy.
J Mol Endocrinol. 2015 Aug;55(1):41-53.

449. Fujimaki K, Ogihara T, Morris DL, Oda H, Iida H, Fujitani Y, Mirmira RG, Evans-Molina C, **Watada H.**
SET7/9 Enzyme Regulates Cytokine-induced Expression of Inducible Nitric-oxide Synthase through Methylation of Lysine 4 at Histone 3 in the Islet β Cell.
J Biol Chem. 2015 Jul 3;290(27):16607-18.

450. Matsuba R, Sakai K, Imamura M, Tanaka Y, Iwata M, Hirose H, Kaku K, Maegawa H, **Watada H.**, Tobe K, Kashiwagi A, Kawamori R, Maeda S.
Replication Study in a Japanese Population to Evaluate the Association between 10 SNP Loci, Identified in European Genome-Wide Association Studies, and Type 2 Diabetes.
PLoS One. 2015 May 7;10(5):e0126363.

451. **Watada H.**, Fujitani Y.
Minireview: Autophagy in pancreatic β -cells and its implication in diabetes.
Mol Endocrinol. 2015 Mar;29(3):338-48.

452. Nakajima K, Mita T, Osonoi Y, Azuma K, Takasu T, Fujitani Y, **Watada H.**
Effect of Repetitive Glucose Spike and Hypoglycaemia on Atherosclerosis and Death Rate in Apo E-Deficient Mice.
Int J Endocrinol. 2015;2015:406394.

453. Yamamoto E, Uchida T, Abe H, Taka H, Fujimura T, Komiya K, Hara A, Ogihara T, Fujitani Y, Ueno T, Takeda S, **Watada H.**
Increased expression of ERp57/GRP58 is protective against pancreatic beta cell death caused by autophagic failure.
Biochem Biophys Res Commun. 2014 Oct 10;453(1):19-24.

454. **Miyatsuka T.**, Matsuoka TA, Sasaki S, Kubo F, Shimomura I, **Watada H.**, German MS, Hara M.
Chronological analysis with fluorescent timer reveals unique features of

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

newly generated β -cells.

Diabetes. 2014 Oct;63(10):3388-93.

455. Shigihara N, Fukunaka A, Hara A, Komiya K, Honda A, Uchida T, Abe H, Toyofuku Y, Tamaki M, Ogihara T, **Miyatsuka T**, Hiddinga HJ, Sakagashira S, Koike M, Uchiyama Y, Yoshimori T, Eberhardt NL, Fujitani Y, **Watada H**.

Human IAPP-induced pancreatic β cell toxicity and its regulation by autophagy.

J Clin Invest. 2014 Aug;124(8):3634-44.

456. Yasunari E, Mita T, Osonoi Y, Azuma K, Goto H, Ohmura C, Kanazawa A, Kawamori R, Fujitani Y, **Watada H**.

Repetitive hypoglycemia increases circulating adrenaline level with resultant worsening of intimal thickening after vascular injury in male Goto-Kakizaki rat carotid artery.

Endocrinology. 2014 Jun;155(6):2244-53.

(皮膚科)

457. Tani E, Ohnuma T, Hirose H, Nakayama K, Mao Wanyi, Nakadaira M, Orimo N, Yamashita H, Takebayashi Y, Miki Y, Katsuta N, Nishimon S, Hasegawa T, Komiyama E, Suga Y, **Ikeda S**, Arai H. **Skin advanced glycation end products as biomarkers of photosensitivity in schizophrenia.** Int J Methods Psychiatr Res e1769

458. Maeda Y, Hasegawa T, Komiyama E, Hirasawa Y, Tsuchihashi H, Oga wa T, Kim J, Ando S, Nagasaka A, Miura N, **Ikeda S**. **Analysis of vein variety in patients with various diseases using finger vein authentication technology.** J Biophotonics e201800354, 2018

459. Kim J, Tsuchihashi H, Hiruma M, Kano R, **Ikeda S**. **Tinea Corporis Due to Trichophyton erinacei Probably Transmitted from a Hedgehog.** Med Mycol J: E77-79, 2018

460. Kurosawa M, Uehara R, Takagi A, Aoyama Y, Iwatsuki K, Amagai M, Nagai M, Nakamura Y, Inaba Y, Yokoyama K, **Ikeda S**. **Results of a nationwide epidemiologic survey of autosomal recessive congenital ichthyosis and ichthyosis syndromes in Japan.** J Am Acad Dermatol S0190-9622(18)32363-6

461. Murase C, Takeichi T, Shibata A, Nakatochi M, Kinoshita F, Kubo A, Nakajima K, Ishii N, Amano H, Masuda K, Kawakami H, Kanekura T, Washio K, Asano M, Teramura K, Akasaka E, Tohyama M, Hatano Y,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Ochiai T, Moriwaki S, Sato T, Ishida-Yamamoto A, Seishima M, Kurosa wa M, **Ikeda S**, Akiyama M. **Cross-sectional survey on disease severity in Japanese patients with harlequin ichthyosis/ichthyosis: Syndromic forms and quality-of-life analysis in a subgroup.** J Dermatol Sci 92: 127-133, 2018
462. Sakamoto A, Kato K, Hasegawa T, **Ikeda S**. **An agonistic antibody to EphA2 exhibits anti-tumor effects on human melanoma cells.** Anticancer Res 38:3273-3282, 2018
463. Chieosilapatham P, **Ikeda S**, Ogawa H, Niyonsaba F. **Tissue-specific Regulation of Innate Immune Responses by Human Cathelicidin LL-37.** Curr Pharm Des 24: 1079-1091, 2018
464. Nishioka I, Takai T, Maruyama N, Kamijo S, Suchiva P, Suzuki M, Kunimine S, Ochi H, Shimura S, Sudo K, Ogawa H, Okumura K, **Ikeda S**. **Airway inflammation after epicutaneous sensitization of mice requires protease activity of low-dose allergen inhalation.** J Allergy Clin Immunol 141: 2271-2273, 2018
465. Ohnishi H, Kadowaki T, Mizutani Y, Nishida E, Tobita R, Abe N, Yamaguchi Y, Eto H, Honma M, Kanekura T, Okubo Y, Seishima M, Fukao T, **Ikeda S**. **Genetic background and therapeutic response in generalized pustular psoriasis patients treated with granulocyte and monocyte adsorption apheresis.** Eur J Dermatol 28: 108-111, 2018
466. (*78) Maeda Y, Hasegawa T, Wada A, Fukai T, Iida H, Sakamoto A, **Ikeda S**. **Adipose-derived stem cells express higher levels of type VII collagen under specific culture conditions.** J Arch Dermatol Res 309:843-849, 2017
467. Zhao QF, Hasegawa T, Komiyama E, **Ikeda S**. **Hailey-Hailey disease: review of 26 cases with special reference to the secondary infections and its control.** Dermatologica Sinica 35: 7-11, 2017
468. Kanekura T, Seishima M, Honma M, Etou T, Eto H, Okuma K, Okubo Y, Yamaguchi Y, Kambara T, Mabuchi T, Suga Y, Morita A, Yamanishi K, Tsuruta D, Itoh K, Yamaji K, **Ikeda S**. **Therapeutic depletion of myeloid lineage leukocytes by adsorptive apheresis for psoriatic arthritis: Efficacy of a non-drug intervention for patients refractory to pharmacologics.** J Dermatol 44: 1353-1359, 2017
469. Toyoki M, Hase M, Hirasawa Y, Umeyama T, Miyazaki Y, Kano R, Su

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- gita T, Hiruma M, Kodama Y, **Ikeda S**. **A Giant Dermatophyte Abscess Caused by *Trichophyton rubrum* in an Immunocompromised Patient.** Med Mycol J 58: E63-66, 2017
470. Chieosilapatham P, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Okumura K, **Ikeda S**, Ogawa H. **The antimicrobial peptide derived from insulin-like growth factor-binding protein 5, AMP-IBP5, regulates keratinocyte functions through Mas-related gene X receptors.** J Dermatol Sci 88: 117-125, 2017
471. Ochi H, Takai T, Shimura S, Maruyama N, Nishioka I, Kamijo S, Iida H, Nakae S, Ogawa H, Okumura K, **Ikeda S**. **Skin Treatment with Detergent Promotes Protease Allergen-Dependent Epicutaneous Sensitization in a Manner Different from Tape Stripping in Mice.** J Invest Dermatol. 2017 Mar 1.
472. Amagai M, **Ikeda S**, Hashimoto T, et al. **Bullous Pemphigoid Study Group: A randomized double-blind trial of intravenous immunoglobulin for bullous pemphigoid.** J Dermatol Sci 85: 77-84, 2017
473. Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Chieosilapatham P, Okumura K, **Ikeda S**, Ogawa H: **Angiogenic peptide (AG)-30/5C activates human keratinocytes to produce cytokines/chemokines and to migrate and proliferate via MrgX receptors.** J Dermatol Sci 83: 190-199, 2016
474. Shimura S, Takai T, Iida H, Maruyama N, Ochi H, Kamijo S, Nishioka I, Hara M, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Ogawa H, Okumura K, **Ikeda S**. **Epicutaneous Allergic Sensitization by Cooperation between Allergen Protease Activity and Mechanical Skin Barrier Damage in Mice.** J Invest Dermatol 136: 1408-1417, 2016
475. Kamijo S, Suzuki M, Hara M, Shimura S, Ochi H, Maruyama N, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Suto H, Ichikawa S, **Ikeda S**, Ogawa H, Okumura K, Takai T. **Subcutaneous Allergic Sensitization to Protease Allergen Is Dependent on Mast Cells but Not IL-33: Distinct Mechanisms between Subcutaneous and Intranasal Routes.** J Immunol 196: 3559-3569, 2016

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

476. Kamijo M, Wada A, Mineki R, Sakanishi T, **Ikeda S**.
Prostaglandin E receptor 4 inhibition restores UVB-induced downregulation of ATP2A2/SERCA2 in cultured normal human keratinocytes.
J Dermatol Sci. 2016 Jan;81(1):69-71.
477. Yoshihara N, Ueno T, Takagi A, Oliva Trejo JA, Haruna K, Suga Y, Komatsu M, Tanaka K, **Ikeda S**
The significant role of autophagy in the granular layer in normal skin differentiation and hair growth.
Arch Dermatol Res 307: 159-169, 2016
478. Tsutsui-Takeuchi M, Ushio H, Fukuda M, Yamada T, Niyonsaba F, Okumura K, Ogawa H, **Ikeda S**
Roles of retinoic acid-inducible gene-I-like receptors (RLRs), Toll-like receptor (TLR) 3 and 2'-5' oligoadenylate synthetase as viral recognition receptors on human mast cells in response to viral infection.
Immunol Res 61: 240-249, 2015
479. Hasegawa T, **Ikeda S**
Adipose-derived stromal/stem cells as potential source of skin regeneration.
Stem Cell and Translational Investigation 2015; 2: e787
480. (*77) Hasegawa T, Sakamoto A, Wada A, Fukai T, Iida H, **Ikeda S**.
Keratinocyte progenitor cells reside in human subcutaneous adipose tissue.
PLoS One. 2015 Feb 25;10(2):e0118402.
481. Arima K, Ohta S, Takagi A, Shiraishi H, msuoka M, Ontsuka K, Suto H, Suzuki S, Yamamoto K, Ogawa M, Simmons O, Yamaguchi Y, Toda S, Aihara M, Consway SJ, **Ikeda S**, Izuhara K
Periostin contributes to epidermal hyperplasia in psoriasis common to atopic dermatitis.
Allergol Int 64: 41-48, 2015
482. Smithrithee R, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Ushio H, **Ikeda S**, Okumura K, Ogawa H
Human β -defensin-3 increases the expression of interleukin-37 through CCR6 in human keratinocytes.
J Dermatol Sci 77: 46-53, 2016
483. Ishii S, Hasegawa T, Hirasawa Y, Tsunemi Y, Kawashima M, **Ikeda S**.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Acute generalized exanthematous pustulosis induced by oral prednisolone.

J Dermatol. 2014 Dec;41(12):1135-6

484. Nakahara T, Takagi A, Yamagami J, Kamiya K, Aoyama Y, Iwatsuki K, **Ikeda S.**

High anti-desmoglein 3 antibody ELISA index and negative indirect immunofluorescence result in a patient with pemphigus vulgaris in remission: evaluation of the antibody profile by newly developed methods.

JAMA Dermatol. 2014 Dec;150(12):1327-30.

485. Wakabayashi M, Hasegawa T, Yamaguchi T, Funakusi N, Suto H, Ueki R, Kobayashi H, Ogawa H, **Ikeda S**

Yokukansan, a traditional Japanese medicine, adjusts glutamate signaling in cultured keratinocytes.

Biomed Res Int 2014: 364092, 2014

486. Yoshihara N, Nakano H, Sawamura D, **Ikeda S**

Novel missense mutation of COL7A1 in a recessive dystrophic epidermolysis bullosa patient with mild clinical phenotype.

J Dermatol 41: 939-940, 2014

487. Mabuchi T, Ota T, Manabe Y, Ikoma N, Ozawa A, Terui T, **Ikeda S,** Inoko H, Oka A.

HLA-C*12:02 is a susceptibility factor in late-onset type of psoriasis in Japanese.

J Dermatol. 2014 Aug;41(8):697-704.

488. Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Smithrithee R, Akiyama T, Ushio H, Harada M, Okumura K, **Ikeda S,** Ogawa H.

Host defense (Antimicrobial) peptide, human β -defensin-3, improves the function of the epithelial tight-junction barrier in human keratinocytes.

J Invest Dermatol. 2014 Aug;134(8):2163-73.

489. Iida H, Takai T, Hirasawa Y, Kamijo S, Shimura S, Ochi H, Nishioka I, Maruyama N, Ogawa H, Okumura K, **Ikeda S.**

Epicutaneous administration of papain induces IgE and IgG responses in a cysteine protease activity-dependent manner.

Allergol Int. 2014 Jun;63(2):219-26.

490. Hiruma M, Cho O, Hiruma M, Kurakado S, Sugita T, **Ikeda S.**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Genotype analyses of human commensal scalp fungi, *Malassezia globosa*, and *Malassezia restricta* on the scalps of patients with dandruff and healthy subjects.

Mycopathologia. 2014 Jun;177(5-6):263-9.

491. Yoshihara N, Takagi A, Ueno T, Ikeda S.

Inverse correlation between microtubule-associated protein 1A/1B-light chain 3 and p62/sequestosome-1 expression in the progression of cutaneous squamous cell carcinoma.

J Dermatol. 2014 Apr;41(4):311-5.

(生化学第 1)

492. Saito T, Kuma A, Sugiura Y, Ichimura Y, Obata M, Okuda S, Lee CH, Ikeda K, Kanegae Y, Saito I, Auwerx J, Suematsu M, Soga T, Yokomizo T, Waguri S, Mizushima N, Komatsu M.

Autophagy regulates lipid metabolism through selective turnover of NCoR1.

Nat Commun. 2019 In press>(*corresponding author)

493. Hirakata T, Lee HC, Ohba M, Saeki K, Okuno T, Murakami A, Matsuda A, Yokomizo T.

Dietary omega-3 fatty acids alter the lipid mediator profile and alleviate allergic conjunctivitis without modulating Th2 immune responses.

FASEB J. 2019 Mar;33(3):3392-403.

494. Matsuda A*, Asada Y, Suita N, Iwamoto S, Hirakata T, Yokoi N, Ohkawa Y, Okada Y, Yokomizo T, Ebihara N.

Transcriptome profiling of refractory atopic keratoconjunctivitis by RNA sequencing.

J. Allergy Clin. Immunol. 2018 Nov 22>(*corresponding author)

495. Okuno T*, Yokomizo T.

Biological functions of 12(S)-hydroxyheptadecatrienoic acid as a ligand of leukotriene B4 receptor 2.

Inflamm Regen. 2018 Oct 29;38:29. (*corresponding author)

496. Ohba M, Saeki K, Koga T, Okuno T, Kobayashi Y, Yokomizo T.

Profiling of bioactive lipids in different dendritic cell subsets using an improved multiplex quantitative LC-MS/MS method.

Biochem. Biophys. Res. Commun. 2018 Oct 7;504(3):562-8.

497. Lee HC*, Yokomizo T.

Applications of mass spectrometry-based targeted and non-targeted

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

lipidomics.

Biochem. Biophys. Res. Commun. 2018 Oct 7;504(3):576-81.

(*corresponding author)

498. (*86) Sasaki F, Koga T, Ohba M, Saeki K, Okuno T, Ishikawa K, Nakama T, Nakao S, Yoshida S, Ishibashi T, Ahmadieh H, Kanavi MR, Hafezi-Moghadam A, Penninger JM, Sonoda KH, **Yokomizo T**.
Leukotriene B4 promotes neovascularization and macrophage recruitment in murine wet-type AMD models.
JCI Insight. 2018 Sep 20;3(18):96902.
499. Nakanishi Y, Tan M, Ichiki T, Inoue A, Yoshihara JI, Maekawa N, Takenoshita I, Yanagida K, Yamahira S, Yamaguchi S, Aoki J, Nagamune T, **Yokomizo T**, Shimizu T, Nakamura M*.
Stepwise phosphorylation of leukotriene B4 receptor 1 defines cellular responses to leukotriene B4.
Sci Signal. 2018 Aug 21;11(544):(*corresponding author)
500. (*79) Liu M*, Shen J, Yuan H, Chen F, Song H, Qin H, Li Y, Xu J, Ye Q, Li S, Saeki K, **Yokomizo T**.
Leukotriene B4 receptor 2 regulates the proliferation, migration, and barrier integrity of bronchial epithelial cells.
J. Cell. Physiol. 2018 Aug;233(8):6117-24. (*corresponding author)
501. (*84) **Yokomizo T**, Nakamura M, Shimizu T.
Leukotriene receptors as potential therapeutic targets.
J. Clin. Invest. 2018 Jul 2;128(7):2691-701.
502. Kawanishi N, Takagi K, Lee HC, Nakano D, Okuno T, **Yokomizo T**, Machida S*.
Endurance exercise training and high-fat diet differentially affect composition of diacylglycerol molecular species in rat skeletal muscle.
Am. J. Physiol. Regul. Integr. Comp. Physiol. 2018 Jun 1;314(6):R892-R901.
(*corresponding author)
503. Ishimine M, Lee HC*, Nakaoka H, Orita H, Kobayashi T, Mizuguchi K, Endo M, Inoue I, Sato K, **Yokomizo T**.
The Relationship between TP53 Gene Status and Carboxylesterase 2 Expression in Human Colorectal Cancer.
Dis. Markers. April 14; 2018:5280736. (*corresponding author)
504. Okuno T, Gijon MA, Zarini S, Martin SA, Barkley RM, Johnson CA, Ohba M, **Yokomizo T**, Murphy RC*.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Altered eicosanoid production and phospholipid remodeling during cell culture.

J. Lipid Res. 2018 Mar;59(3):542-9. (*corresponding author)

505. (*85) Hori T, Okuno T, Hirata K, Yamashita K, Kawano Y, Yamamoto M, Hato M, Nakamura M, Shimizu T, **Yokomizo T**, Miyano M, Yokoyama S*. **Na(+)-mimicking ligands stabilize the inactive state of leukotriene B4 receptor BLT1.**

Nat. Chem. Biol. 2018 Mar;14(3):262-9. (*corresponding author)

506. Shoji H*, Ikeda N, Kitamura T, Suganuma H, Ohba M, Okuno T, **Yokomizo T**, Shimizu T.

Urinary prostaglandin D2 metabolite excretion during the first six months of life was significantly lower in breast-fed than formula-fed infants.

Acta Paediatr. 2018 Jan;107(1):95-100. (*corresponding author)

507. Hijioka M, Anan J, Ishibashi H, Kurauchi Y, Hisatsune A, Seki T, Koga T, **Yokomizo T**, Shimizu T, Katsuki H*.

Inhibition of Leukotriene B4 Action Mitigates Intracerebral Hemorrhage-Associated Pathological Events in Mice.

J. Pharmacol. Exp. Ther. 2017 Dec 31;360(3):399-408. (*corresponding author)

508. Saeki K, **Yokomizo T**.

Identification, signaling, and functions of LTB4 receptors.

Semin. Immunol. 2017 Oct 19;33:30-6.

509. (*82) Iwamoto S, Koga T, Ohba M, Okuno T, Koike M, Murakami A, Matsuda A, **Yokomizo T**.

Non-steroidal anti-inflammatory drug delays corneal wound healing by reducing production of 12-hydroxyheptadecatrienoic acid, a ligand for leukotriene B4 receptor 2.

Sci Rep. 2017 Oct 16;7(1):13267.

510. Takeda T, Komiya Y, Koga T, Ishida T, Ishii Y, Kikuta Y, Nakaya M, Kurose H, **Yokomizo T**, Shimizu T, Uchi H, Furue M, Yamada H*.

Dioxin-induced increase in leukotriene B4 biosynthesis through the aryl hydrocarbon receptor and its relevance to hepatotoxicity owing to neutrophil infiltration.

J. Biol. Chem. 2017 Jun 23;292(25):10586-99. (*corresponding author)

511. Ikeda K, Koga T, Sasaki F, Ueno A, Saeki K, Okuno T, **Yokomizo T**.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Generation and characterization of a human-mouse chimeric high-affinity antibody that detects the DYKDDDDK FLAG peptide.

Biochem. Biophys. Res. Commun. 2017 May 13;486(4):1077-82.

512. Okuno T, Koutsogiannaki S, Ohba M, Chamberlain M, Bu W, Lin FY, Eckenhoff RG, **Yokomizo T**, Yuki K*. **Intravenous anesthetic propofol binds to 5-lipoxygenase and attenuates leukotriene B4 production.** FASEB J. 2017 Apr;31(4):1584-94. (*corresponding author)
513. Koutsogiannaki S, Schaeffers MM, Okuno T, Ohba M, **Yokomizo T**, Priebe GP, DiNardo JA, Sulpicio SG, Yuki K*. **From the Cover: Prolonged Exposure to Volatile Anesthetic Isoflurane Worsens the Outcome of Polymicrobial Abdominal Sepsis.** Toxicol. Sci. 2017 Apr 1;156(2):402-11. (*corresponding author)
514. Luo L, Tanaka R, Kanazawa S, Lu F, Hayashi A, **Yokomizo T**, Mizuno H. **A synthetic leukotriene B4 receptor type 2 agonist accelerates the cutaneous wound healing process in diabetic rats by indirect stimulation of fibroblasts and direct stimulation of keratinocytes.** J. Diabetes Complications. 2017 Jan;31(1):13-20.
515. Ichiki T, Koga T*, **Yokomizo T**. **Receptor for Advanced Glycation End Products Regulates Leukotriene B4 Receptor 1 Signaling.** DNA Cell Biol. 2016 Dec;35(12):747-50. (*corresponding author)
516. (*83)Shigematsu M, Koga T, Ishimori A, Saeki K, Ishii Y, Taketomi Y, Ohba M, Jo-Watanabe A, Okuno T, Harada N, Harayama T, Shindou H, Li JD, Murakami M, Hoka S, **Yokomizo T**. **Leukotriene B4 receptor type 2 protects against pneumolysin-dependent acute lung injury.** Sci Rep. 2016 Oct 5;6:34560.
517. Kojo K, Ito Y, Eshima K, Nishizawa N, Ohkubo H, **Yokomizo T**, Shimizu T, Watanabe M, Majima M. **BLT1 signalling protects the liver against acetaminophen hepatotoxicity by preventing excessive accumulation of hepatic neutrophils.** Sci Rep. 2016 Jul 11;6:29650.
518. Chiba T, Nakahara T, Hashimoto-Hachiya A, **Yokomizo T**, Uchi H, Furue M. **The leukotriene B4 receptor BLT2 protects barrier function via actin polymerization with phosphorylation of myosin phosphatase target subunit**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

1 in human keratinocytes.

Exp Dermatol. 2016 Jul;25(7):532-6.

519. Ichiki T, Koga T, Okuno T, Saeki K, Yamamoto Y, Yamamoto H, Sakaguchi M, **Yokomizo T**.

Modulation of leukotriene B4 receptor 1 signaling by receptor for advanced glycation end products (RAGE).

FASEB J. 2016 May;30(5):1811-22.

520. Oba J, Nakahara T, Hashimoto-Hachiya A, Liu M, Abe T, Hagihara A, **Yokomizo T**, Furue M.

CD10-Equipped Melanoma Cells Acquire Highly Potent Tumorigenic Activity: A Plausible Explanation of Their Significance for a Poor Prognosis.

PLoS One. 2016 Feb 16;11(2):e0149285.

521. (*81) Ishii Y, Saeki K, Liu M, Sasaki F, Koga T, Kitajima K, Meno C, Okuno T, **Yokomizo T**.

Leukotriene B4 receptor type 2 (BLT2) enhances skin barrier function by regulating tight junction proteins.

FASEB J. 2016 Feb;30(2):933-47.

522. Kubota S, Watanabe M, Shirato M, Okuno T, Higashimoto I, Machida K, **Yokomizo T**, Inoue H.

An inhaled phosphodiesterase 4 inhibitor E6005 suppresses pulmonary inflammation in mice.

Eur J Pharmacol. 2015 Dec 5;768:41-8.

523. Asahara M, Ito N, **Yokomizo T**, Nakamura M, Shimizu T, Yamada Y.

The absence of the leukotriene B4 receptor BLT1 attenuates peripheral inflammation and spinal nociceptive processing following intraplantar formalin injury.

Mol Pain. 2015 Mar 12;11:11.

524. Sawada Y, Honda T, Hanakawa S, Nakamizo S, Murata T, Ueharaguchi-Tanada Y, Ono S, Amano W, Nakajima S, Egawa G, Tanizaki H, Otsuka A, Kitoh A, Dainichi T, Ogawa N, Kobayashi Y, **Yokomizo T**, Arita M, Nakamura M, Miyachi Y, Kabashima K.

Resolvin E1 inhibits dendritic cell migration in the skin and attenuates contact hypersensitivity responses.

J Exp Med. 2015 Oct 19;212(11):1921-30.

525. Okuno T, Ishitani T, **Yokomizo T**.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Biochemical characterization of three BLT receptors in zebrafish.

PLoS One. 2015 Mar 4;10(3):e0117888.

526. Zandi S, Nakao S, Chun K H, Fiorina P, Sun D, Arita R, Zhao M, Kim E, Schueller O, Campbell S, Taher M, Melhorn M I, Schering A, Gatti F, Tezza S, Xie F, Vergani A, Yoshida S, Ishikawa K, Yamaguchi M, Sasaki F, Schmidt-Ullrich R, Hata Y, Enaida H, Yuzawa M, **Yokomizo T**, Kim Y B, Sweetnam P, Ishibashi T, Hafezi-Moghadam A.

ROCK-Isoform-Specific Polarization of Macrophages Associated with Age-Related Macular Degeneration.

Cell reports. 10, 1173-1186, 2015

527. **Yokomizo T**.

Two distinct leukotriene B4 receptors, BLT1 and BLT2.

J Biochem. 2015 Feb;157(2):65-71.

528. Liu M, **Yokomizo T**.

The role of leukotrienes in allergic diseases.

Allergol Int. 2015 Jan;64(1):17-26.

529. Obinata H, Gutkind S, Stitham J, Okuno T, **Yokomizo T**, Hwa J, Hla T.

Individual variation of human S1P₁ coding sequence leads to heterogeneity in receptor function and drug interactions.

J Lipid Res. 2014 Dec;55(12):2665-75.

530. Sato Y, Hara H, Okuno T, Ozaki N, Suzuki S, **Yokomizo T**, Kaisho T, Yoshida H.

IL-27 affects helper T cell responses via regulation of PGE2 production by macrophages.

Biochem Biophys Res Commun. 451, 215-221, 2014

531. Dugu L, Nakahara T, Wu Z, Uchi H, Liu M, Hirano K, **Yokomizo T**, Furue M. **Neuronatin is related to keratinocyte differentiation by up-regulating involucrin.** J Dermatol Sci. 73, 225-231, 2014

532. (*80) Liu M, Saeki K, Matsunobu T, Okuno T, Koga T, Sugimoto Y, Yokoyama C, Nakamizo S, Kabashima K, Narumiya S, Shimizu T, **Yokomizo T**. **12-hydroxyheptadecatrienoic acid promotes epidermal wound healing by accelerating keratinocyte migration via the BLT2 receptor.**

J Exp Med. 211, 1063-1078, 2014

和文

(ゲノム・再生医療センター)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

1. 志賀孝宏, 赤松和土. 第 6 章 第 3 節 ヒト iPS 細胞からの神経細胞の効率的作成法, iPS 細胞の安全・高品質な作成技術, pp356-360, 2016.
2. 石川景一, 赤松和土, 服部信孝. 「iPS細胞を用いたパーキンソン病の病態解析」, 『再生医療 -新たな医療を求めて-』, 日本臨床, 73巻, 増刊号5, pp391-395, 2015.

(臨床検査医学)

3. 三井田孝: 予期せぬ検査データに慌てずに対処するには. Medical Technology (印刷中)
4. 三井田孝: 脂質関連検査の選択とその読みかた. Medical Practice 36: 34-38, 2019.
5. 三井田孝: 自覚症状がない病気の早期発見に役立つ「血液検査」で調べること・わかること. けあ・ふる 97: 2-4, 2018.
6. 三井田孝: LDL コレステロール直接法の実際. 日医雑誌 147: 980, 2018.
7. 平山哲, 長坂博範, 中川沙織, 大和進, 三井田孝: 脂質関連マーカーの Update. 中枢神経系の代謝マーカーとしての血清オキシステロール. 臨床病理 66: 429-434, 2018.
8. 三井田孝: LDL-C 値の測定法 には計算式と直接法がありますが、使い分けや注意点はありますか? 検査と技術 46: 794-798, 2018.
9. 三井田孝: 採血スピッツと検査結果. ドクターサロン 62: 654-657, 2018.
10. 三井田孝: LDL コレステロール(直接法)と non-HDL コレステロール. 臨床病理 66: 1102-1109, 2018.
11. 三井田孝, 上野剛: 尿の生化学項目では、検査前に遠心の操作が必要ですか? Medical Technology 46: 816-817, 2018.
12. 三井田孝: 血清アルブミンが低いと言われました. ラボ: 471, 8, 2018.
13. 三井田孝: 動脈硬化の新しいバイオマーカー. 医療と検査機器・試薬 40: 275-276, 2017.
14. 三井田孝: 新ガイドラインに基づいた脂質異常症の診断と治療. Schneller 104: 9-13, 2017.
15. 渡部俊之, 平山 哲, 三井田孝, 根間敏郎, 武城英明: トリグリセライド(TG)の代謝と測定法の問題点. 臨床化学 46: 127-132, 2017.
16. 上野剛, 平山 哲, 三井田孝: BCG 法は、 $\alpha 2$ -マクログロブリンとの反応により、ネフローゼ症候群における血清アルブミン濃度を過大評価するが、BCP 改良法ではその影響を受けない. 臨床化学 46: 335-336, 2017.
17. 三井田孝: LDL-C と non-HDL-C の利点と限界. 医学のあゆみ 260: 991-992, 2017.
18. 森田温, 山浦洵, 佐藤友, 堀敦詞, 上野剛, 渡部俊之, 三井田孝, 日高宏哉: ガスクロマトグラフィー質量分析による血清遊離グリセロール測定. 生物試料分析 40: 279-284, 2017
19. 三井田孝: 食後トリグリセリド値の診断基準は存在するか? 日本医事新報 4832: 61-62, 1216.
20. 三井田孝: non HDL-C/レムナント. 動脈硬化予防 1: 92-93, 2016.
21. 平山安希子, 三井田孝: 検査 Q&A「高 HDL-C 血症は、どのように考えれば良いでしょうか?」 臨床検査 60: 1600-1604, 2016.
22. 三井田孝: アポリポ蛋白 E(アポ E)の検査の仕組みは? [phenotype と genotype の違い]. 日本医事新報 4807: 61, 2016.
23. 三井田孝: 脂質異常症と動脈硬化. 臨床と研究 93: 31-36, 2016.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

24. 三井田孝: TG の測定について. メディカルビューポイント 37: 5, 2016.
25. 三井田孝: 食事時間と検査値について. ラボ 444: 14, 2016.
26. 三井田孝: 脂質検査. レジデント 9: 54-61, 2016.
27. 三井田孝、上野 剛: 「アミラーゼ」と「ストレス」の深い関係. Medical Technology 43: 186 -192, 2015.
28. 中川央充、三井田孝: トリグリセライド もと暗し. Medical Technology 43: 390 -397, 2015.
29. 上野 剛、三井田孝: トランスアミナーゼとビタミンパワー. Medical Technology 43: 627 -635, 2015.
30. 三井田孝、上野 剛: 悪玉が悪玉にだまされる:LDL-C. Medical Technology 43: 878 -885, 2015.
31. 中川央充、三井田孝: ビリルビンは縁の下の力持ち! Medical Technolog 43: 1101 -1109, 2015.
32. 上野 剛、平山安希子、三井田孝: ケトン体の 2 つの顔. Medical Technology 43: 1323 -1331, 2015.
33. 平山 哲、三井田孝: 総コレステロール、LDL コレステロール、HDL コレステロール. Medicina 52: 262-264, 2015.
34. 三井田孝: TG(トリグリセライド). Medicina 52: 265-267, 2015.
35. 三井田孝: 脂質異常症治療薬. 医薬ジャーナル増刊号(新薬展望 2015)51(S-1): 256-261, 2015.
36. 三井田孝: HDL-C 増加薬の現状. 血管医学 16: 29-35, 2015.
37. 三井田孝、平山安希子: 今日の新しい臨床検査—選び方・使い方—「脂質異常症」. 日本医事新報 4772: 38-43, 2015.
38. 三井田孝: 急性冠症候群では入院後すぐに脂質検査を. Medical Practice 31: 670, 2014.
39. 平山 哲、三井田孝: 動脈硬化の新たなバイオマーカーを探る. Vascular Medicine 10: 10-15, 2014.
40. 三井田孝: 中性脂肪の検査について. ラボ 424: 8, 2014.
41. 三井田孝: 平山 哲. 亜分画からみた HDL 機能. The Lipids 25: 225-231, 2014.
三井田孝: non HDL-C. Current Therapy 32: 225-231, 2014.
42. 三井田孝: バイオマーカーとしての脂質・リポ蛋白関連検査, Lab Clin Pract 32: 43-47, 2014.
43. 三井田孝: 血清分離剤入り採血管を 2 回以上度遠心してはいけない理由は? Medical Technology 42: 1256-1257, 2014.

(循環器内科)

44. 船水岳大 岩田洋 代田浩之. 冠動脈合併心房細動患者における抗血栓療法. 循環器内科, 2018; 84(1): 53-58
45. 船水岳大 岩田洋 代田浩之. 急性冠症候群の疾患概念と病態生理. 日本臨牀, 2018; 76 (12): 2089-2095
46. 内藤亮、代田浩之, 心臓病学研究の進歩, 日本循環器学会専門医誌, 2017; 25: 219-222
47. 土井信一郎、代田浩之, 弁膜症治療の現在と展望, Medical Science Digest, 2017; 43(2):

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

13-14

48. 坪井秀太、代田浩之，虚血性心疾患の診断・治療，最新医学 別冊 糖尿病合併症 2017:131-138
49. 島田和典，西崎祐史，吉原琢磨，塩澤知之，相川達郎，大内翔平，門口智泰，Hamad Al Shahi，喜多村健一，高橋秀平，宮崎哲朗，代田浩之，心血管疾患における DHA・EPA の臨床的有用性，食品と開発. 2017:52:33-35
50. 福田健太郎、岩田 洋、代田浩之，急性冠症候群の検査・診断，日本臨床 74 巻増刊号 6(通巻 1104 号) (2016) pp207
51. 内藤亮、代田浩之，疾病の回復を促進する薬 循環器系に作用する薬(1)，放送大学
52. Dohi T, Daida H. JAPAN-ACS (Japan Assessment of Pitavastatin and Atorvastatin in Acute Coronary Syndrome). Nihon Rinsho. 2016 Jun 20;74 Suppl 4 Pt 1:697-702.
53. 荻田学 代田浩之，新時代の臨床糖尿病学(下) -より良い血糖管理をめざして-XI. 糖尿病合併症の病態・診断・治療 2. 慢性合併症 (5) 冠動脈疾患 4)糖尿病に起因する冠動脈疾患の治療，内科的治療，雑誌[日本臨床] 2016 年 4 月増刊号
54. 荻田学 代田浩之，特集「進化する糖尿病治療！ ～話題の新薬と治療法～」I-3. 【内服薬】循環器内科から見た SGLT2 阻害薬 (EMPA-REG アウトカム試験を受けての期待)”，「月刊糖尿病」2016 年 10 月号 Vol.8 No.10
55. 荻田学 代田浩之，特集/糖尿病治療薬の心血管アウトカム，糖尿病治療薬の心血管アウトカム抑制効果，3. 糖尿病治療薬の心血管アウトカム抑制効果が求められるようになった背景，雑誌[ホルモンと臨床，2016 Vol.62 p771-774
56. 荻田学 代田浩之，特集:糖尿病を合併した循環器疾患 6. 糖尿病患者の冠動脈疾患に対する血行再建の考え方，月刊新聞[Medical View Point] Vol37, No5 (2016 年 4 月 20 日発行)
57. 島田和典，西 祐史，吉原琢磨，相川達郎，大内翔平，塩澤知之，門口智泰，高橋秀平，住吉克彦，宮崎哲朗，代田浩之，心血管疾患予防における多価不飽和脂肪酸の臨床的有用性，成人病と生活習慣病. 45:539-544;2016.
58. 島田和典，喜多村健一，代田浩之，PCSK9 阻害薬の臨床効果，Progress in Medicine. 36:631-637;2016

(形成外科)

59. 田中里佳。日本人の糖尿病性足潰瘍の特徴と対策。BIO Clinica 33(13):79-84、2018
60. 藤村聡、田中里佳。難治性四肢潰瘍患者を対象とした次世代の血管・組織再生治療。内分泌・糖尿病・代謝内科 47(1):18-23、2018
61. 田中里佳。再生医療による創傷治癒の未来。WOC Nursing 6(7):26-34、2018
62. 田中里佳。日本人の糖尿病性足潰瘍の特徴と対策，BIO Clinica 33(5):67-72，2018
63. 藤村聡、田中里佳。難治性四肢潰瘍患者に対する次世代の血管・組織再生治療。再生医療 16 巻:26-31、2017
64. 田中里佳。再生医療を利用した先進的創傷治療。PEPARS 126 巻:30-37、2017
65. 田中里佳。血管幹細胞を用いた組織再生医療。日本形成外科学会会誌 37 巻:173-179、2017
66. 田中里佳。末梢血単核球生体外培養増幅法(QQc 法)を用いた血管再生治療。メディカル・サイエンス・ダイジェスト 43 巻:2-3、2017
67. 田中里佳。日本人の糖尿病性足潰瘍の特徴と対策。BIO Clinica 32 巻:65-70、2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

68. 田中里佳、門真起子、福田太郎、市川佑一、水野博司。糖尿病足潰瘍・壊疽の治療、新時代の臨床糖尿病学(下)—より良い血糖管理をめざして— 日本臨牀 74: 363-367, 2016
69. 田中里佳、金澤成行、水野博司。Wound bed preparation における再生医療の役割 医学のあゆみ 258: 860-864, 2016
70. 大下高志、飛田護邦、田島聖士、水野博司。予防的幹細胞投与によるステロイド性骨粗鬆症の次世代治療 Osteoporosis Japan PLUS 1: 45-47, 2016
71. 萩原裕子、田中里佳。重症下肢虚血に対する血管再生療法の現状。日本下肢救済・足病学会誌 8 巻:123-9、2016

(生化学第 2)

72. 山本貴之、森貞夫、深川光彦、朝長昭仁、守田稔、長岡功。コラーゲンペプチド摂取による膝関節の自覚症状へ及ぼす効果—ランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験— 薬理と治療 46: 837-847, 2018.
73. 百村励、内藤聖人、五十嵐庸、渡泰士、寺門厚彦、大池新次、金子和夫、長岡功。自転車競技選手の軟骨代謝に及ぼすグルコサミンの効果—軟骨・骨代謝マーカーを用いた層別解析— 薬理と治療 45: 1843-1850, 2017.
74. 朝長昭仁、深川光彦、三井幸雄、佐藤麻紀、藤田さゆり、長岡功。酵母 SM-10 を含む食品の膝関節痛を有する被験者の関節機能に対する有効性に関する研究—無作為化二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験— 薬理と治療 45: 11031-1044, 2017.
75. 吉儀彩乃、信夫正、澤田陽子、五十嵐庸、長岡功。滑膜細胞の炎症応答に対するグルコサミンとリンゴポリフェノールの効果. Functional Food Research 13: 50-56, 2017.
76. 井上節子、小松ちひろ、遠藤美智子、中島滋、長岡功。UV-A 照射によるマウス皮膚の脂質過酸化と血管分岐に対する緑茶摂取の効果。日本化粧品学会誌 41: 106-112, 2017.
77. 山本哲郎、長岡功。機能性表示食品制度の現状と今後の展望。栄養 2: 57-68, 2017.
78. 長岡功、五十嵐庸、染谷明正:グルコサミンと健康—グルコサミンによる軟骨保護、炎症抑制とサーチュイン遺伝子の活性化— 機能性食品と薬理栄養 11: 4-10, 2017
79. 朝長昭仁、渡邊景太、仲宗根靖、渡部一詔、長岡功。グルコサミン塩酸塩、コンドロイチン硫酸、メチルスルフォニルメタンおよびグアバ葉エキスを含む食品の膝関節にかかわる被験者の生活の質 QOL に対する有効性に関する研究 Kellgren-Lawrence 分類による層別解析—薬理と治療 45: 437-446, 2017.
80. 井上節子、今野千尋、遠藤美智子、中島滋、長岡功。タマネギ外皮の摂取がマウス脳中の過酸化脂質濃度に及ぼす影響機。能性食品と薬理栄養 1081-1088, 2016.
81. 服部達昭、村田理恵、深川光彦、朝長昭仁、長岡功。移動機能の低下を感じている健常者を対象とした、グルコサミンとコンドロイチンを主体とするサプリメントの歩行能力改善効果:ランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験。薬理と治療 44: 725-735, 2016.
82. 神崎範之、出雲貴幸、柴田浩志、渡邊景太、朝長昭仁、長岡功。グルコサミン塩酸塩、コンドロイチン硫酸およびケルセチン配糖体を含む食品の膝関節機能に対する有効性に関する研究—K-L 分類による層別解析。薬理と治療 43: 1017-1023, 2015.
83. 長岡功、五十嵐庸、染谷明正:グルコサミンと健康—グルコサミンによる軟骨保護、炎症抑制とサーチュイン遺伝子の活性化— 機能性食品と薬理栄養 11: 1-7, 2017
84. 長岡功、華見、蓬田伸、坂本廣司:グルコサミンの抗血小板作用と抗動脈硬化作用. BIO INDUSTRY 33: 28-34, 2016.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

85. 胡忠双, 長岡功: ピロトーシスによる炎症惹起と抗菌ペプチドによる制御. *Thrombosis Medicine* 3: 210-215, 2016.
86. 長岡功, 五十嵐庸, 鶴田暁史: 軟骨代謝マーカーを用いた機能性食品であるグルコサミンの評価. *機能性食品と薬理栄養* 10: 72-78, 2016.
87. 鈴木香, 村上泰介, 胡忠双, 長岡功: 肝類洞内皮細胞の血液浄化作用に対するヒト生体防御ペプチド LL-37 の効果 -エンドトキシン除去作用に着目して- *日本血管血流学会誌* 1: 2016 (in press)
88. 鶴田暁史: スポーツにおける関節ケアとグルコサミン. *Medical Science Digest* 42: 46-50, 2016.
89. 石島旨章, 内藤聖人, 渡泰士, 金子晴香, 二見一平, 長岡功, 黒澤尚, 金子和夫: 初期変形性膝関節症におけるバイオマーカーを用いた疼痛と軟骨代謝の連関. *別冊整形外科* 67: 51-56, 2015.
90. 山岸淑恵, 今井乾介, 長尾淳二, 長岡功: 滑膜細胞に対するグルコサミンをはじめとする機能性素材の抗炎症作用の評価. *日本未病システム学会雑誌* 21: 156-161, 2015.
91. 胡忠双, 長岡功: LPS 誘導性ピロトーシスと抗菌ペプチド. *医学のあゆみ* 253: 1087-1091, 2015.
92. 長岡功: サプリメントと変形性関節症関節 -マーカーを用いた評価、特にグルコサミンについて- *日本未病システム学会誌* 20: 49-54, 2014.
93. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡功: グルコサミンは転写因子 Sp1 の O-N-アセチルグルコサミン修飾を介して IL-8 の発現を抑制する. *日本未病システム学会雑誌* 20: 89-93, 2014.
94. 長岡功, 胡忠双, 鈴木香, 田村弘志: 抗菌ペプチドによる敗血症ショックの制御. *化学療法の領域* 30: 615-623, 2014.

(免疫学)

95. 村山豪, 千葉麻子, 三宅幸子: 全身性エリテマトーデスにおける IFN α 産生と TLR. *リウマチ科* 60(1): 84-89, 2018.
96. 千葉麻子, 三宅幸子: 免疫疾患と MAIT 細胞. *医学のあゆみ* 265(4):283-286, 2018
97. 能登大介, 三宅幸子: 病態連関の新知見 腸内細菌と疾患. *循環 plus* 18(1):10-12, 2017
98. 能登大介, 三宅幸子: 脳炎症と腸内細菌. *炎症と免疫*. 26(1):66-70, 2017
99. 能登大介, 三宅幸子: 腸内細菌による免疫調節. *小児科*. 57(2):129-136, 2016
100. 三宅幸子: 免疫性神経疾患と腸管免疫. *最新医学*. 71(2):47-53, 2016
101. 能登大介, 三宅幸子: 腸内細菌と免疫応答. *腎臓内科・泌尿器科*. 3(3):264-270, 2016
102. 能登大介, 三宅幸子: 免疫性神経疾患の基礎科学-免疫学の立場から. *Modern Physician*. 36(7):613-617, 2016
103. 能登大介, 三宅幸子: 腸内細菌と免疫疾患. *医学のあゆみ*. 258(10):909-914, 2016
104. 芳賀慶一, 長田太郎, 渡辺純夫, 千葉麻子, 三宅幸子: Mucosal Associated Invariant T(MAIT)細胞. *G.I. Research*. 24(5):67-68, 2016
105. 三宅幸子: 腸内細菌と自己免疫. *Keynote R・A.*,3(1):14-18, 2015
106. 三宅幸子: 神経免疫. *炎症と免疫*. 23(2):105, 2015
107. 三宅幸子: 自己免疫疾患と腸内細菌. *Medical Science Digest* 41(4):146-149, 2015
108. 三宅幸子: 自己免疫疾患と腸内細菌. *細胞* 47(2):57-60, 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

109. 能登大介、三宅幸子 : 免疫性神経疾患の発症と自然免疫. 日本臨床. 73(7):23-32, 2015
110. 三宅幸子 : 腸内細菌と自己免疫疾患: リウマチ疾患を中心として. Pharma Medica., 33(10):39-43, 2015
111. 三宅幸子 : 免疫性神経疾患の病態と腸管免疫. 医学のあゆみ. 255(5): 339-343, 2015
112. 三宅幸子 : MAIT 細胞と自己免疫. Jpn.J.Clin.Immunol., 37(1):19-24, 2014
113. 三宅幸子 : 自然リンパ球. 医学のあゆみ. 251(6):479, 2014
114. 三宅幸子 : 腸内細菌と自己免疫. Jpn.J.Clin.Immunol., 37(5):398-402, 2014

(脳神経内科)

115. 服部信孝. 【認知症の新たな潮流】疾患概念 Up date PDD と DLB、クリニシアン 62(4-5):418-425, 2015
116. 石川景一、服部信孝、赤松和土: 疾患モデル細胞, iPS 細胞を用いた毒性評価と創薬研究, iPS 細胞を用いたパーキンソン病の病態解析: 日本臨床 2015 年 6 月増刊号
117. 石川景一、服部信孝. パーキンソン病の病態メカニズムからみた根本治療の可能性 臨床雑誌内科 118(2): 175-180, 2016
118. 船山学、服部信孝. 家族性パーキンソン病 up to date 臨床雑誌内科 118(2): 269-272, 2016
119. 石川景一、服部信孝. ペリー症候群の現状とその対応 新薬と臨床 65(3):87-91, 2016
120. 常深泰司、服部信孝. 日本におけるパーキンソン病治療の変遷と展望 日本臨床 75(1):14-20, 2017
121. 今居 譲、柴佳保里、服部信孝. 遺伝子から探るパーキンソン病病態へのミトコンドリアの関与、ミトコンドリア研究 UPDATE、医学のあゆみ、260: 85-91, 2017
122. 池田 彩、服部信孝. 【パーキンソン病の新展開-発症の分子機構と新規治療】分子機構解明の新しい展開 CHCHD2 とパーキンソン病のかかわり、医学のあゆみ、262:627-630, 2017.08
123. 今居 譲、柴 佳保里、服部信孝. 【ミトコンドリア研究 UPDATE】臨床への展開 遺伝子から探るパーキンソン病病態へのミトコンドリアの関与、医学のあゆみ、260:85-91, 2017.01
124. 常深泰司、服部信孝. 日本におけるパーキンソン病治療の変遷と展望、日本臨床、75(1):14-20, 2017
125. 服部信孝、今居 譲、柴 佳保里. 【認知症 発症前治療のために解明すべき分子病態は何か?】(第 1 章)脳神経病理変化 劣性遺伝性若年性パーキンソン病(AR-JP)の臨床、病理、分子遺伝学、実験医学 35:1947-1952, 2017.08
126. 服部信孝. パーキンソン病治療の up-to-date, 日本医事新報, 4861:36-41, 2017.06
127. 船山 学、西岡健弥、池田 彩、服部信孝. 【新しく発見された神経疾患遺伝子】家族性 Parkinson 病の新しい遺伝子, 神経内科, 87:129-135, 2017.08
128. 船山学、服部信孝. 家族性・小発性パーキンソン病. CLINICAL NEUROSCIENCE 36(2):216-218, 2018
129. 波田野琢、齊木臣二、服部信孝 【Parkinson 病の診断と治療 update】Parkinson 病のバイオマーカー 神経内科 89 巻 Page 227-233 2018 年

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

130. 下泰司、波田野琢、武田篤、服部信孝 【パーキンソン病(第2版)-基礎・臨床のアップデート-】治療 新しいガイドライン 日本臨床 76 巻増刊 4 パーキンソン病 Page 403-407 2018 年
131. 波田野琢、服部信孝 【パーキンソン病(第2版)-基礎・臨床のアップデート-】治療 早期パーキンソン病治療 日本臨床 76 巻増刊 4 パーキンソン病 Page 408-412 2018 年
132. 波田野琢, 下 泰司, 武田 篤, 服部信孝. Parkinson 病 新規の診療ガイドライン Parkinson 病の運動症状の治療方針, 神経治療学 35 巻 3 号 Page265-271,2018

(神経生物学)

133. 小池正人: ライソゾーム分解系. 生体の科学 66: 496-497, 2015.
134. 小池正人: 電子顕微鏡三次元立体再構築による組織細胞の観察の有用性と今後の課題. LISA 25: 79-89, 2018.

(代謝内分泌内科)

135. 宮塚健, 綿田裕孝「膵内分泌細胞の可塑性」グルカゴン革命 糖尿病の真の分子病態を追え! 実験医学 33(6): 887-891, 2015

(生化学第 1)

136. 佐伯和子, 劉珉, 横溝岳彦. アスピリンによる生理活性脂質 12-HHT の産生阻害は皮膚創傷治癒の遅延をひきおこす. 実験医学. 2014 32(14):2267-70.
137. 佐伯和子, 横溝岳彦. ロイコトリエンの生体内における役割. 医学のあゆみ. 2014 248(13):970-6.
138. 横溝岳彦. アスピリンを服用すると血液が凝固しにくくなるメカニズムとは. LiSA. 2014 21(8):739-41.
139. (*49) 佐伯和子, 劉珉, 横溝岳彦. 血小板由来の脂質メディエーター12-HHT は角化細胞の移動を亢進させ皮膚創傷治癒を促進する. 血栓止血. 2015 26(611-8).
140. 五十嵐靖之, 清水孝雄, 徳村彰, 西島正弘, 村上誠, 横溝岳彦. あなたの知らない「脂質」の世界 脂質研究の過去、現在、そして未来. 実験医学. 2015;33(15):2336-43.
141. (*50) 佐伯和子, 劉珉, 横溝岳彦. 12-HHT 皮膚創傷治癒に働く新しい COX 代謝物. 医学のあゆみ. 2015 2015.09;254(12):1121-5.
142. 横溝岳彦. 第 1 世代脂質メディエーター エイコサノイド. 実験医学. 2015;33(15):2344-8.
143. 横溝岳彦. 【アセトアミノフェン】薬理的側面から 古くて新しい謎だらけの薬. LiSA. 2015;22(9):874-7.
144. 李賢哲, 奥野利明, 横溝岳彦. 脂質メディエーターによる免疫・炎症応答の制御. 臨床免疫・アレルギー科. 2015;64(4):386-90.
145. 市木貴子, 古賀友紹, 横溝岳彦. 【GPCR 研究の最前線 2016】GPCR 機能の新展開【免疫・炎症】ロイコトリエン受容体. 医学のあゆみ. 2016;256(5):554-60.
146. 横溝岳彦. 【脂質ワールド】新規脂質メディエーターと受容体 古くて新しい脂質メディエーター・12-ヒドロキシヘプタデカトリエン酸の生理作用. 生体の科学. 2016;67(3):232-6.
147. 横溝岳彦. 快人快説 最先端の研究テクノロジー紹介 微量サンプル中の微量脂質

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

を定量化する驚異の質量分析技術. LiSA. 2016;23(12):1179-88.

148. 横溝岳彦. 「脂質マシナリー」研究 脂質メディエーターの最新の研究成果. 腎臓内科・泌尿器科. 2016 2016.12;4(6):610-7
149. 石井由美子, 劉珉, 佐伯和子, 横溝岳彦. 皮膚保護作用を有する脂質メディエーター-12-HHT. 臨床免疫・アレルギー科. 2017 Jan;67(1):106-14.
150. 古賀友紹, 佐伯和子, 横溝岳彦. 生理活性脂質ロイコトリエン B4 とその受容体による免疫調節機構. 臨床免疫・アレルギー科. 2018 March;70(3):209-15.
151. 横溝岳彦. 【脂質クオリティ 生命機能と健康を支える脂質の多様性】(第3章)リポクオリティによる疾患制御 ロイコトリエン受容体の生理・病態における役割. 実験医学. 2018 June;36(10):1681-6.
152. 岩本 怜, 横溝岳彦. 【生理活性脂質研究の最前線】BLT2 受容体の上皮保護作用. 炎症と免疫. 2018 Aug;26(5):380-3.
153. 平形寿彬, 李賢喆, 横溝岳彦. 脂肪酸由来の脂質メディエーターによるアレルギー炎症の制御. 臨床免疫・アレルギー科. 2018 Sep;70(3):209-15.
154. 佐々木文之, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第1受容体は滲出型加齢黄斑変性症の新規治療標的となる. 実験医学. 2019 Mar;37(3):411-4.

<図書>

(腎臓内科)

1. 鈴木祐介、富野康日己 :IgA 腎症における責任細胞の臓器選択的移動 Annual Review2014 腎臓: 60-66, 2014
2. 鈴木祐介、鈴木仁、柳川宏之、松崎慶一、牧田郁子、高畑暁子、富野康日己 :IgA 腎症の新しいバイオマーカー 腎と透析 :76; 31-35, 2014
3. 鈴木祐介 :「Oxford 分類 コメント」CJASN 日本語版 8: 1, 2014
4. 鈴木祐介 巻頭言 「企画にあたって」腎・高血圧の最新治療 特集「血尿の診断と臨床判断の標準化」、2014
5. 鈴木仁、鈴木祐介 :「IgA 腎症早期発見のための新規バイオマーカーを用いた血尿の2次スクリーニングの試み」腎・高血圧の最新治療 2015
6. 鈴木祐介、鈴木仁、富野康日己 : 病因に基づくバイオマーカーを用いた IgA 腎症の早期発見・診断・治療の試み 「Annual Review 腎臓 2015」2015
7. 高畑暁子、鈴木祐介 :IgA 腎症における性差一性ホルモンの関与— 腎臓内科・泌尿器科 1; 485-490, 2015
8. 鈴木祐介 第1章 原発性糸球体疾患、3. 慢性腎炎症候群、4)IgA 腎症、New エッセンシャル 腎臓内科学、医歯薬出版 富野康日己(編)2015
9. 鈴木祐介 :「血尿」内科外来診断 NAVI 2016、中外医学社、東京
10. 鈴木祐介、鈴木仁、武藤正浩 :IgA 腎症の根治治療を目指した病因関連バイオマーカーの臨床応用と基礎的背景「Annual Review 腎臓 2016」2016
11. 村越真紀、苑田祐二、丸山俊太郎、鈴木仁、鈴木祐介、堀越哲、合田朋仁: 高血圧患者におけるテルミサルタンが炎症・腎機能マーカーに与える影響 血圧 23: 56-60, 2016
12. 鈴木仁、木原正夫、鈴木祐介 : IgA 腎症と IgA 血管炎の共通病態 東京内科医学会誌 33: 169-170, 2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

13. 鈴木仁、鈴木祐介 : Tonsil induced autoimmune/inflammatory syndrome(TIAS)としての IgA 腎症. アレルギー・免疫 Allergology & Immunology Vol.25 No.6. 25(6): 76-83, 2018.
14. 濱田千江子、野原奈緒、中田純一郎、町田修一、中潟崇、内藤久士、鈴木祐介 : リストバンド型加速度センサー付ライフログレコーダを使った透析患者の身体活動の評価. 日本透析医学会雑誌. 33(1) : 157-162, 2018.
15. 狩野俊樹、鈴木祐介 :【腸内細菌叢と腎泌尿器疾患】腎におよぼす腸管免疫の作用 腎臓内科・泌尿器科 7(6) :533-538, 2018.
16. 狩野 俊樹、鈴木祐介 :扁桃活性化機序からみた IgA 腎症 医学のあゆみ 267(3) : 236-238, 2018.
17. 狩野俊樹、鈴木仁、鈴木祐介 :【腸管細菌叢と腎疾患】腸管粘膜免疫異常と腸腎関連 日本腎臓学会会誌 59; 552-556, 2017
18. 木原正夫、鈴木祐介 :IgA 腎症治療の国際比較. 腎臓内科・泌尿器科. 7: 84-88, 2018.
19. 狩野俊樹、鈴木祐介 :【腎疾患診療の未来 最新知見のエッセンシャル: 腎疾患の疫学・病因の研究の進歩】IgA 腎症の発症機構. 診断と治療. 106(4): 423-428, 2018.
20. 鈴木仁、鈴木祐介 :IgA 腎症の新規分子標的薬の可能性 IgA 腎症の臨床 Clinical medicine of IgA nephropathy 187-189, 2018.
21. 高橋敬子、鈴木祐介 :「6.IgA 腎症(成人):ステロイド療法の適応と実際」腎疾患・透析最新の治療 2017-2019、山縣邦弘、南学正臣(編)、南江堂、東京、2017
22. 佐藤大介、鈴木祐介 :【CKD(慢性腎臓病)慢性腎臓病のこれまでと今後:最新の実地診療のポイントの整理と活用】IgA 腎症の診断と治療、Medical Practice、文光堂、東京、135(10) :1547-1552,2018.
23. 長澤肇、上田誠二、鈴木祐介 :「10.ADMA,SDMA」、透析患者の検査値の読み方、深川雅史(監修)、日本メディカルセンター、4:254-255,2018.

(臨床検査医学)

24. 三井田孝 :「家族性高コレステロール血症」今日の疾患辞典』(永井良三、大曲貴夫、神田善信、倉林正彦、中島淳、藤尾圭志、水澤英洋編); カイ書林 東京, (印刷中)
25. 三井田孝 :「高 HDL コレステロール血症」今日の疾患辞典』(永井良三、大曲貴夫、神田善信、倉林正彦、中島淳、藤尾圭志、水澤英洋編); カイ書林 東京, (印刷中)
26. 三井田孝 :「低コレステロール血症」今日の疾患辞典』(永井良三、大曲貴夫、神田善信、倉林正彦、中島淳、藤尾圭志、水澤英洋編); カイ書林 東京, (印刷中)
27. 三井田孝 :「高リポ蛋白(a)血症」今日の疾患辞典』(永井良三、大曲貴夫、神田善信、倉林正彦、中島淳、藤尾圭志、水澤英洋編); カイ書林 東京, (印刷中)
28. 三井田孝 :「6. 脂質異常症の診断基準と手順. 6-2. 鑑別診断手順」脂質異常症診療ガイド 2018 年版 (日本動脈硬化学会編); 日本動脈硬化学会, 東京 26-28, 2018
29. 三井田孝 :「22. Q&A. Q5 LDL-C 測定法に計算式と直接法がありますがどう使い分ければよいですか? 違いと使い方を教えてください。」脂質異常症診療ガイド 2018 年版 (日本動脈硬化学会編); 日本動脈硬化学会, 東京 142, 2018

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

30. **三井田孝** : 「22. Q&A. Q6 LDL-C 直接法は不正確だと聞きましたが本当ですか？」
脂質異常症診療ガイド 2018 年版 (日本動脈硬化学会編); 日本動脈硬化学会, 東京
142, 2018
31. **三井田孝** : 「中性脂肪」 50 人の専門医が教える検査と検査値のはなし (日本衛生検
査所協会編); 日本衛生検査所協会, 東京 26-28, 2018
32. **三井田孝** : 「食事時間と検査値」 50 人の専門医が教える検査と検査値のはなし (日
本衛生検査所協会編); 日本衛生検査所協会, 東京 128-129, 2018
33. **三井田孝** : 「TG の測定法と標準化」 高 TG 血症 (最新医学別冊 診断と治療の ABC
138) (倉林正彦企画); 最新医学社, 大阪 94-100, 2018
34. **三井田孝** : 「HDL コレステロール値と冠動脈疾患発症率に相関関係があるのはなぜで
すか？」 脂質異常症の最新食事療法のなぜに答える 基礎編 (寺本民生, 木庭新治,
本田佳子, 朝倉比都美編); 医歯薬出版 東京 61-65, 2017
35. **三井田孝** : 「脂質検査の採血は空腹時それとも非空腹時?—何を測りどう解釈する?
—」 そうだったんだ! 脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる— (伊藤 浩
編); 文光堂 東京 118-123 2016
36. 平山 哲, **三井田孝** : 「酸化 LDL の計測と問題点」 そうだったんだ! 脂質異常症—メカ
ニズムがわかれば治療が変わる— (伊藤 浩編); 文光堂 東京 84-86, 2016
37. 平山 哲, **三井田孝** : 「Small dense LDL, レムナントの存在を血液検査からどう推定す
る?」 そうだったんだ! 脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる— (伊藤
浩編); 文光堂 東京 124-125 2016
38. **三井田孝** : 「LDL-C 測定法の現状と将来の課題」 高 LDL-C 血症 低 HDL-C 血症 (倉
林正彦企画); 最新医学社 大阪 119-125 2015
39. **三井田孝** : 「総コレステロール (TC)・LDL-コレステロール (LDL-C)」 日常診療のた
めの検査値のみかた (野村文夫, 村上正巳, 和田隆志, 末岡榮三郎編); 中外医学社
東京 193-195 2015
40. **三井田孝** : 「HDL-コレステロール」 日常診療のための検査値のみかた (野村文夫, 村
上正巳, 和田隆志, 末岡榮三郎編); 中外医学社 東京 198-199, 2015.

(循環器内科)

41. 大内翔平, 宮崎哲朗, **代田浩之**, 8 章 糖尿病治療薬の循環器疾患関連エビデンス 3.
チアゾリジン薬, 糖尿病と循環器病 一歩進んだ糖尿病循環器学 —Diabetic
Cardiology—, 2017 年 3 月発行, 311-317
42. 平野景子 **代田浩之**, <書籍:永井 良三 (監修), 伊藤 浩 (編集), 山下 武志 (編集)
>, 循環器疾患最新の治療 2018-2019 「III. 循環器診療における医療安全」, 循環器
疾患最新の治療 2018-2019 ;2018;p65-67

(形成外科)

43. Tajima S, Tobita M and **Mizuno H**: (分担) Bone regeneration with a combination of
adipose-derived stem cells and platelet-rich plasma 「Adipose Derived Stem Cells:
Methods and Protocols, Second Edition」
Editors: Bunnell BA and Gimble JM , 2018; pp261-272, Springer, New York, NY
44. **田中里佳**: (分担) 「再生医療」フットケアと足病変治療ガイドブック、日本フットケア学会、
医学書院、東京、204-208、2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

45. **水野博司**:「感染創に対し、銀含有創傷被覆材は有用である」創傷治癒コンセンサスドキュメントー手術手技から周術期管理までー(日本創傷治癒学会ガイドライン委員会) 全日本病院出版会 東京 pp178-179, 2016
46. **水野博司**:「皮膚汚染創においても塩基性線維芽細胞増殖因子 bFGF スプレーを使用してもよい」創傷治癒コンセンサスドキュメントー手術手技から周術期管理までー(日本創傷治癒学会ガイドライン委員会) 全日本病院出版会 東京 pp186-187, 2016

(生化学第 2)

47. **長岡功**, 細田浩司, 中村果歩, 胡忠双, 村上泰介, **鈴木香**, 田村弘志: 宿主細胞の細胞死の調節を介した、cathelicidin ファミリーの抗菌ペプチド LL-37 の敗血症マウスモデルに対する効果. エンドトキシン・自然免疫研究 21- エンドトキシン・自然免疫研究のフロンティアをめざして. 小谷穰治, **長岡功** 編集, 医学図書出版株式会社, 東京, 56-61, 2018.
48. **長岡功**: グルコサミン. 血流改善成分の開発と応用. 大澤俊彦 監修, シーエムシー出版, 東京, 222-231, 2018.
49. 五十嵐庸, 中村果歩, 坂本廣司, **長岡功**: グルコサミンの軟骨細胞におけるオートファジーに対する機能解析. Functional Food Research 14 -ファンクショナルフードの未来. 野村義宏, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村 洋, 福井尚志, 和田政裕, **長岡功** 編集, インフォノーツパブリッシング, 神奈川, 10-13, 2018.
50. **長岡功**, 朝長昭仁, 深川光彦, 三井幸雄, 佐藤麻紀, 藤田さゆり: 酵母 SM-10 含有食品の膝関節痛を有する被験者の関節機能に対する効果. Functional Food Research 14 -ファンクショナルフードの未来. 野村義宏, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村洋, 福井尚志, 和田政裕, **長岡功** 編集, インフォノーツパブリッシング, 神奈川, 48-56, 2018.
51. **長岡功**, 百村励, 内藤聖人, 五十嵐庸, 渡泰士, 寺門厚彦, 大池新, 金子和夫: 自転車競技選手の軟骨代謝に及ぼすグルコサミン摂取の効果. Functional Food Research 14 -ファンクショナルフードの未来. 野村義宏, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村洋, 福井尚志, 和田政裕, **長岡功** 編集, インフォノーツパブリッシング, 神奈川, 57-64, 2018.
52. 鈴木香: ヒト生体防御ペプチド LL-37 の血管内皮細胞に対する作用 ~エンドトキシンとの相互作用について~. エンドトキシン・自然免疫研究 20 -自然免疫における化学生物学の貢献. 隅田泰生, **長岡功** 編集, 医学図書出版株式会社, 東京, 7-13, 2017.
53. **長岡功**, 吉村雅文, 坂本廣司, 鶴田暁史: II 型コラーゲン分解マーカー、合成マーカーおよび I 型コラーゲン分解マーカーを用いた軟骨・骨代謝の評価 - 変形性関節症患者および大学各種運動競技選手での検討. Functional Food Research 13 -ファンクショナルフードを中心とした医工農獣連携. 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, **長岡功** 編集, エイド出版, 東京, 7-16, 2017.
54. 山岸淑恵, 染谷明正, 今井乾介, 長尾淳二, **長岡功**: 滑膜細胞に対するグルコサミンをはじめとする機能性食品素材の抗炎症効果の評価. Functional Food Research 13 -ファンクショナルフードを中心とした医工農獣連携. 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, **長岡功** 編集, エイド出版, 東京, 23-27, 2017.
55. **長岡功**: はじめに - 太古の昔から存在する生体防御分子を用いた応用技術. 抗菌ペプチドの機能解明と技術利用. **長岡功** 監修, シーエムシー出版, 東京, 2017.
56. 田村弘志, Johannes Reich, **長岡功**: エンドトキシン測定法と抗菌ペプチド. 抗菌ペプチドの機能解明と技術利用. **長岡功** 監修, シーエムシー出版, 東京, 134-147, 2017.
57. 鈴木香, **長岡功**: Cathelicidin 抗菌ペプチドの作用メカニズムと敗血症治療への応用. 抗菌ペプチドの機能解明と技術利用. **長岡功** 監修, シーエムシー出版, 東京, 151-162,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 2017.
58. 鶴田暁史, 長岡功: プロラグビー選手に対するゼリードリンク型機能食品の効果. Functional Food Research 12 -ファンクショナルフード学会発足にあたって. 福井尚志, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡功 編集, エイド出版, 東京, 39-41, 2016.
 59. 伊坂聡子, 染谷明正, 野沢雅彦, 井上直樹, 杉原富人, 長岡功, 金子和夫: ラット変形性関節症モデルに対するコラーゲンペプチド摂取の効果. Functional Food Research 12 -ファンクショナルフード学会発足にあたって. 福井尚志, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡功 編集, エイド出版, 東京, 17-25, 2016.
 60. 五十嵐庸, 坂本廣司, 長岡功: グルコサミンは軟骨細胞においてサーチュイン 1 を介して II 型コラーゲン遺伝子の発現を亢進する. Functional Food Research 12 -ファンクショナルフード学会発足にあたって. 福井尚志, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡功 編集, エイド出版, 東京, 26-30, 2016.
 61. 橋口素子, 鈴木香, 金子和夫, 長岡功: ヒト滑膜細胞の細胞増殖とアポトーシスに及ぼすアロエエモジンの効果. Functional Food Research 12 -ファンクショナルフード学会発足にあたって. 福井尚志, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡功 編集, エイド出版, 東京, 31-38, 2016.
 62. 鶴田暁史, 長岡功: プロラグビー選手に対するゼリードリンク型機能食品の効果. Functional Food Research 12 -ファンクショナルフード学会発足にあたって. 福井尚志, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡功 編集, エイド出版, 東京, 39-41, 2016.
 63. 鈴木香, 長岡功: Cathelicidin ファミリーの抗菌ペプチド LL-37 によるエンドトキシン除去作用. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡功, 谷徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 1-6, 2015.
 64. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功: ピロトーシスに対する抗菌ペプチド LL-37 の作用. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡功, 谷徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 86-88, 2015.
 65. 多田浩之, 松下健二, 松山考司, 長岡功, 高田春比古: *Porphyromonas gingivalis* ジンジパインによるヒト歯肉上皮細胞の IL-33 誘導を介した CAP18/LL-37 ダウンレギュレーション機構. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡功, 谷徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 93-97, 2015.
 66. 長岡功, 坂本廣司, 山本哲郎: 軟骨代謝マーカーを用いたグルコサミンの評価 -機能性表示食品を目指して. グルコサミン研究 11 -グルコサミン研究: 10 年間の軌跡と新たな時代への挑戦. 橋本三四郎, 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, 長岡功 編集, エイド出版, 東京, 10-19, 2015.
 67. 五十嵐庸, 鈴木香, 坂本廣司, 長岡功: グルコサミンは軟骨細胞において II 型コラーゲン遺伝子の発現を亢進する. グルコサミン研究 11 -グルコサミン研究: 10 年間の軌跡と新たな時代への挑戦. 橋本三四郎, 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, 長岡功 編集, エイド出版, 東京, 20-22, 2015.
 68. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡功: グルコサミンは糖化修飾作用を介して転写因子 Sp1 の細胞内局在を調節する. グルコサミン研究 11 -グルコサミン研究: 10 年間の軌跡と新たな時代への挑戦. 橋本三四郎, 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, 長岡功 編集, エイド出版, 東京, 23-27, 2015.
 69. 斉木彩乃, 信夫正, 澤田陽子, 五十嵐庸, 長岡功: 滑膜細胞の炎症応答に対するグルコサミンとリンゴポリフェノールの効果. グルコサミン研究 11 -グルコサミン研究: 10 年間の軌跡と新たな時代への挑戦. 橋本三四郎, 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村洋, 野村

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 義宏, 福井尚志, 和田政裕, **長岡功** 編集, エイド出版, 東京, 46-50, 2015.
70. 鶴田暁史, **長岡功**: 女性アスリートにおける軟骨代謝とゼリードリンク型機能性食品の効果. グルコサミン研究 11 –グルコサミン研究: 10 年間の軌跡と新たなる時代への挑戦. 橋本三四郎, 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, **長岡功** 編集, エイド出版, 東京, 55-57, 2015.
71. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, **長岡功**: 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージ系細胞のピロトーシスの制御. エンドトキシン・自然免疫研究 17 –エンドトキシン・自然免疫の展開: 新しい機序、診断、応用. 谷徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 73-75, 2014.
72. 五十嵐庸, 鈴木香, 坂本廣司, **長岡功**: グルコサミンおよび N-アセチルグルコサミンは軟骨細胞においてサーチユイン 1 の遺伝子発現を亢進する. グルコサミン研究 10 –グルコサミンをめぐる科学的証拠と研究の展開. 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村洋, 野村義宏, 和田政裕, **長岡功** 編集, エイド出版, 東京, 27-30, 2014.

(脳神経内科)

73. **服部信孝**. 7. 大脳変性疾患、II 錐体外路系疾患、1~9、監修: 平山恵造、編集: 廣瀬源二郎、田代邦雄、葛原茂樹、臨床神経内科学、第 6 版 1 刷、pp409-441、ページ数 36 /ページ総数 968、2016 年 2 月 15 日、南山堂、東京
74. 佐藤 猛、**服部信孝**、村田美穂. パーキンソン病・パーキンソン症候群の在宅ケア –合併症・認知症の対応、看護ケア–、2016 年 5 月 30 日、中央法規出版株式会社、東京
75. マイケル S. オークン 著、大山彦光・**服部信孝** 訳. パーキンソン病とともに生きる–幸福のための 10 の鍵–(日本語版)、アルタ出版、2017 年 1 月 10 日第 1 版第 1 刷、東京
76. **Hattori N**, Saiki S. Editors, Mitophagy, Methods and Protocols, Methods in Molecular Biology 1759, John M. Walker, Series Editor, Humana Press, 2018
77. **服部信孝**、藤本健一. 監修、【脳の病気】パーキンソン病 脳の異常によってからだの運動機能に障害が表れる病気、差がつく 70 歳からの病気 サインと最新治療、人生 100 年時代に備える、pp14-20、朝日新聞出版、2018
78. **服部信孝**. 抗パーキンソン病薬、治療薬ハンドブック 2018、監修: 高久史磨、編集: 堀正二、菅野健太郎、門脇孝、乾賢一、林昌洋、発行所: 株式会社 じほう、pp79-99 (総ページ数 1538)、平成 30 年 1 月 15 日、東京
79. **服部信孝**. 総括、パーキンソン病診療ガイドライン委員長、パーキンソン病診療ガイドライン 2018、監修・日本神経学会監修、編集・「パーキンソン病診療ガイドライン」作成委員会、総ページ数 288、2018 年 5 月 15 日、第 1 版第一刷、医学書院、東京
80. 桜井隆、**服部信孝**. 【放送大学教材・テレビ】「疾病の回復を促進する薬」、**服部信孝**: 末梢神経に作用する薬、中枢神経系に作用する薬(1),(2)、放映は 2017 年 4 月~5 月、再放送 7 月~8 月、p35-79(総ページ数 263)、2017 年 3 月 20 日第 1 刷、編集者: 桜井隆、服部信孝、発行所: 一般在団法人放送大学教育振興会、東京
81. **服部信孝** (編集・執筆)、波田野琢、梅村淳、頼高朝子、羽鳥浩三 (執筆). 最新版 順天堂大学が教えるパーキンソン病の自宅療法、2019 年 1 月 31 日、主婦の友社、東京
82. 鈴木則宏 (シリーズ監修者)、**服部信孝**、下泰司、波田野琢 (編集・執筆)、王子悠、濃沼崇博、岩室宏一 (執筆). パーキンソン病診療総論 p19-24, p25-29、パーキンソン病の治療 p138-142, 181-183, 228-233、神経内科 Clinical Questions & Pearls パーキンソン病、総ページ数 335、2019 年 2 月 10 日、(株)中外医学社、東京

(神経生物学)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

83. Tanida I, **Koike M.** John Wiley & Sons Inc., Techniques for studying autophagy. In: *Autophagy, Infection, and the Immune Response*. Ed. William Jackson, 19-32; 2014
84. **小池正人**: TEMを使った免疫電子顕微鏡法の実践, 組織細胞化学 2018 (日本組織細胞化学会編集. 学際企画, 91-107, 2018).

(代謝内分泌内科)

85. **宮塚健, 綿田裕孝**「膵/膵島再生の最前線」(編)羽田勝計, 門脇孝, 荒木栄一『糖尿病最新の治療 2016-2018』南江堂, 7-11, 2016
86. **宮塚健, 綿田裕孝**, 河盛隆造「糖代謝」(編)門脇孝, 荒木栄一, 稲垣暢也, 植木浩二郎, 羽田勝計, 綿田裕孝『糖尿病学』西村書店, 2-7, 2015
87. **宮塚健, 綿田裕孝**「膵臓β細胞再生研究の現状」(編)井村裕夫, 清野進, 石井秀始『膵島の再生医療—膵β細胞の発生と再生をめぐる新展開—』診断と治療社, 108-112, 2015

(生化学第1)

88. 古賀友紹, **横溝岳彦**「ロイコトリエン」疾患モデルの作製と利用; エル・アイ・シー 東京 187-96 2015
89. **横溝岳彦**「脂質メディエーター 概論」サイトカイン・増殖因子キーワード事典; 羊土社 東京 326-30 2015
90. **横溝岳彦**「ロイコトリエン」サイトカイン・増殖因子キーワード事典; 羊土社 東京 333-4 2015
91. Koga T, **Yokomizo T**「Leukotriene B4 Receptors」Bioactive Lipid Mediators: Current Reviews and Protocols; Springer Tokyo 85-93 2015
92. Okuno T, **Yokomizo T**「Basic techniques for lipid extraction from tissues and cells」Bioactive Lipid Mediators: Current Reviews and Protocols; Springer Tokyo 331-6 2015
93. Sasaki F, **Yokomizo T**「A novel anti-FLAG monoclonal antibody useful for GPCR study」Bioactive Lipid Mediators: Current Reviews and Protocols; Springer Tokyo 409-17 2015
94. Narumiya S, **Yokomizo T**, Aoki J「Lipid mediators in inflammation」Inflammation: From Molecular and Cellular Mechanisms to the Clinic; Wiley-VCH Weinheim, Germany 651-94 2016
95. **横溝岳彦**「細胞内のシグナル伝達」人体の細胞生物学; 日本医事新報社 東京 164-77 2018

<学会発表>

(ゲノム・再生医療センター)

1. 山口昂大, **石川景一**, 藤森康希, 岡野栄之, **服部信孝, 赤松和土**: パーキンソン病iPS細胞由来神経細胞を用いた創薬スクリーニング: ハイスループットアッセイ系の構築とその利用 第16回日本再生医療学会総会 2017年3月7-9日 仙台
2. 野中里紗, **石川景一**, 志賀孝宏, 斉木臣二, 岡野栄之, **服部信孝, 赤松和土**: フィーダーフリー培養系 iPS 細胞を用いた中脳特異神経細胞分化誘導検討, 第16回日本再生医療学会総会, 2017年3月7-9日, 宮城・仙台
3. 寺尾梢, 志賀孝宏, 山口昂大, 田代悦, **石川景一**, 斉木臣二, 岡野 栄之, **服部 信孝**, 井本正哉, **赤松和土**, パーキンソン病患者iPS由来ドパミン神経細胞を用いた神経保護化合物の薬効評価 第16回日本再生医療学会総会, 2017年3月7-9日, 宮城・仙台

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

4. 志賀孝宏, 三好さくら, 葛巻直子, 石川景一, 服部信孝, 岡野栄之, 赤松和土, 神経変性疾患iPS細胞モデルの表現型の発現を加速する低分子化合物の探索と評価 第16回日本再生医療学会総会、2017年3月7-9日、宮城・仙台
5. Risa Nonaka, Kei-ichi Ishikawa, Ryota Nakamura, Takayuki Jo, Takahiro Shiga, Genko Oyama, Shinji Saiki, Hideyuki Okano, Nobutaka Hattori, Wado Akamatsu., DIFFERENTIATION OF HIGHLY-ENRICHED MIDBRAIN SPECIFIC DOPAMINERGIC NEURONS FROM HUMAN INDUCED PLURIPOTENT STEM CELLS (iPSCs) ON FEEDER-FREE CULTURE., International Society for Stem Cell Research 2017 (ISSCR 2017), 2017/6/14-17 Boston, USA
6. Yamaguchi A, Ishikawa KI, Fujimori K, Okano H, Hattori N, Akamatsu W : A high-throughput disease-specific phenotype detection system of Parkinson's disease for drug screening ISSCR (International Society for Stem Cell Research) 2017 ANNUAL MEETING 2017/6/14-17 Boston
7. Takahiro Shiga, Sakura Miyoshi, Naoko Kuzumaki, Ke-ichi Ishikawa, Nobutaka Hattori, Hideyuki Okano, Wado Akamatsu. Screening of compounds promoting maturation and ageing in iPSC-derived neurons. International Society for Stem Cell Research 2017 (ISSCR 2017), 2017/6/14-17 Boston, USA
8. 山口昂大, 石川景一, 藤森康希, 斉木臣二, 金井数明, 船山学, 岡野栄之, 服部信孝, 赤松和土 : 家族性パーキンソン病iPS由来神経細胞における細胞特異的表現型のハイスループット解析法の確立と病態解明 第17回日本再生医療学会総会 2018年3月21-23日 横浜
9. 津川直輝, 山口昂大, 石川景一、志賀孝宏、船山学、波多野琢、木村活生、岡野栄之、服部信孝、赤松和土 : iPS細胞を用いた遺伝性パーキンソン病 PARK14、PARK22 の病態解析 第17回日本再生医療学会総会 2018年3月21-23日 横浜
10. 月星慶一、山口昂大、石川景一、金井数明、岡野栄之、服部信孝、赤松和土 : iPS細胞を用いた遺伝性パーキンソン病 PARK9 の Autophagy 異常を改善する薬剤の検索 第17回日本再生医療学会総会 2018年3月21-23日 横浜
11. 野中里紗、石川景一、志賀孝宏、城崇之、中村亮太、大山彦光、斉木臣二、岡野栄之、服部信孝、赤松和土、フィーダーフリー培養系 iPS 細胞を用いた中脳特異ドーパミン作動性神経の分化誘導法の検討、第17回日本再生医療学会総会、2018年3月21-23日、横浜・神奈川
12. 志賀孝宏, 三好さくら, 葛巻直子, 石川景一, 服部信孝, 岡野栄之, 赤松和土, 神経分化と老化を加速する低分子化合物を用いた神経変性疾患iPS解析システムの構築、第17回日本再生医療学会総会、2018年3月21-23日、横浜・神奈川
13. 野中里紗、石川景一、志賀孝宏、城崇之、中村亮太、大山彦光、斉木臣二、岡野栄之、服部信孝、赤松和土 フィーダーフリー培養系 iPS 細胞を用いた中脳特異ドーパミン作動性ニューロンの分化誘導法の検討 第41回日本神経科学大会 2018年7月26-29日、神戸・兵庫
14. 志賀孝宏, 三好さくら, 葛巻直子, 石川景一, 服部信孝, 岡野栄之, 赤松和土, 老化を加速する低分子化合物を用いた神経変性疾患 iPS 解析システムの構築、第41回日本神経科学大会 2018年7月26-29日、神戸・兵庫
15. 志賀孝宏, 三好さくら, 葛巻直子, 石川景一, 服部信孝, 岡野栄之, 赤松和土, ATM 阻害はヒト iPS 細胞由来神経細胞の老化を加速させる 第41回日本分子生物学会 2018年

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

11 月 28-30 日、横浜

16. 野中里紗、石川景一、志賀孝宏、中村亮太、城崇之、大山彦光、服部信孝、赤松和土 : フィーダーフリー培養系 iPS 細胞を用いた中脳特異ドパミン作動性ニューロンの分化誘導法の検討、第 18 回日本再生医療学会総会、2019 年 3 月 21-23 日、神戸・兵庫
17. 山口昂大、石川景一、齊木臣二、船山学、金井数明、岡野栄之、服部信孝、赤松和土 : パーキンソン病 iPS 細胞を用いた病態解明・創薬スクリーニング 第 18 回日本再生医療学会総会 2019 年 3 月 21-23 日 神戸
18. 志賀孝宏、三好さくら、葛巻直子、石川景一、服部信孝、岡野栄之、赤松和土、老化を加速する低分子化合物を用いた神経変性疾患 iPS 解析システムの構築、第 18 回日本再生医療学会総会 2019 年 3 月 21-23 日 神戸

(腎臓内科)

19. 高橋敬子、上田誠二、小林敬、西山成、藤沢良秀、本田大介、堀越哲、鈴木祐介 : 睡眠時無呼吸由来高血圧発症における腎交感神経の役割の解明、第 40 回日本高血圧学会総会、愛媛、2017 年 10 月 20-22 日
20. 上田誠二、鈴木祐介 : 臓器連関機序としての血管内皮障害、第 47 回日本腎臓学会西部学術大会、岡山、2017 年 10 月 13 日-14 日
21. 鈴木祐介 : IgA 腎症の治療ターゲットとしての扁桃・粘膜免疫の可能性、第 60 回日本腎臓学会学術総会・サテライトシンポジウム、札幌、2017 年 7 月 1 日
22. 鈴木祐介 : IgA 腎症治療としての APRIL/BAFF 阻害薬の可能性、第 60 回日本腎臓学会学術総会、仙台、2017 年 5 月 26-28 日、シンポジウム 13「難治性腎疾患における新規治療標的分子」
23. 鈴木祐介、鈴木仁 : 新規バイオマーカーを用いたスコア法による IgA 腎症早期発見・早期診断を介した透析移行ゼロ化に向けた試み、第 60 回日本腎臓学会学術総会、仙台、2017 年 5 月 26-28 日
24. 高畑暁子、新井郷子、北田研人、荒木喜美、禾千絵子、牧田侑子、鈴木仁、中田純一郎、宮崎徹、鈴木祐介 : IgA 腎症の起炎性免疫複合体形成は AMI に依存する、第 60 回日本腎臓学会学術総会、仙台、2017 年 5 月 26-28 日
25. 高橋敬子、上田誠二、小林敬、西山成、藤澤良秀、菅谷健、堀越哲、鈴木祐介 : 腎交感神経除神経は慢性間欠的低酸素によるレニン-アンジオテシン系と酸化ストレス亢進を抑制することで睡眠時無呼吸症候群における高血圧発症を抑制する、第 60 回日本腎臓学会学術総会、仙台、2017 年 5 月 26-28 日
26. 井尾浩章、中田純一郎、原一彰、神田怜生、井下博之、中野貴則、石坂匡則、関口嘉、発田陽子、武田之彦、前田国見、鈴木祐介 : 慢性腎臓病患者における橈骨動脈石灰化の影響因子の検討、第 60 回日本腎臓学会学術総会、仙台、2017 年 5 月 26-28 日
27. 村越真紀、合田朋仁、苑田祐二、市川沙紀、鈴木仁、堀越哲、鈴木祐介 : IgA 腎症患者における扁桃摘出術+ステロイドパルス療法が血清可溶性 TNF 受容体濃度に与える影響、第 60 回日本腎臓学会学術総会、仙台、2017 年 5 月 26-28 日
28. 高橋敬子、上田誠二、小林敬、西山成、鈴木祐介 : 腎交感神経除神経は慢性間欠的低酸素によるレニン-アンジオテシン系と酸化ストレス亢進を抑制することで睡眠時無呼吸症候群における高血圧発症を抑制する、第 2 回日本血管不全学会学術集会、東京、2017 年 4 月 16 日
29. 二瓶義人、鈴木仁、木原正夫、金口泰彦、小林敬、鈴木祐介 : 透析患者における血管

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 石灰化とその関連因子の検討、第 62 回日本透析医学会学術集会・総会、横浜、2017 年 6 月 16-18 日
30. 野原奈緒、濱田千江子、鈴木祐介 :透析患者の性差間での身体機能評価, フレイル評価の検討第 62 回日本透析医学会学術集会・総会、横浜、2017 年 6 月 16-18 日
 31. 西紋 昌平、大沼 徹、竹林 佑人、勝田 成昌、武田 真侑、中村 徹、三戸 高大、東山 涼子、木本 絢子、柴田 展人、合田 朋仁、鈴木 祐介、山岸 昌一、富野 康日己、新井 平伊:血清可溶性腫瘍壊死因子受容体 1 の高値は急性期統合失調症において治療反応不良を予測する、第 39 回日本生物学的精神医学会・第 47 回日本神経精神薬理学会 合同年会、札幌、2017 年 9 月 28 日-30 日
 32. 上田誠二、岩谷龍治、鈴木祐介、山岸昌一:メタボリック症候群におけるインスリン抵抗世発症についての検討-血管内皮障害因子 ADMA の役割の解明-、第 32 回日本糖尿病合併症学会、東京、2017 年 10 月 27-29 日
 33. 鈴木祐介、狩野俊樹、鈴木 仁:【シンポジウム:『腎腸関連』】 IgA 腎症の病因としての消化管関連リンパ組織の可能性、第 61 回日本腎臓学会学術総会、新潟、2018 年 6 月 8 日-10 日
 34. 村越真紀、合田朋仁、鈴木祐介、亀井望:正常アルブミン尿糖尿病患者の腎機能低下を規定するマーカーの検討、第 61 回日本腎臓学会学術総会、新潟、2018 年 6 月 8 日-10 日
 35. 牧田侑子、鈴木 仁、狩野俊樹、高畑暁子、Bruce Julian、Jan Novak、鈴木祐介 :TLR9 活性化による IL-6 および APRIL を介した糖鎖異常 IgA および免疫複合体形成機序の解明、第 61 回日本腎臓学会学術総会、新潟、2018 年 6 月 8 日-10 日
 36. 藪内純子、上田誠二、野原奈緒、長澤肇、高橋敬子、金口泰彦、小林敬、濱田千江子、三枝大輔、鈴木祐介 :透析患者におけるサルコペニア/フレイルの発症因子としての ADMA、第 61 回日本腎臓学会学術総会、新潟、2018 年 6 月 8 日-10 日
 37. 齋藤友広、和田幸寛、伊與田雅之、安田隆、安田宜成、川村哲也、丸山彰一、鈴木祐介、成田一衛、柴田孝則:ネフローゼ症候群を呈した IgA 腎症の臨床的検討と腎予後、第 61 回日本腎臓学会学術総会、新潟、2018 年 6 月 8 日-10 日
 38. 鈴木仁、木原正夫、小林敬、鈴木祐介 :透析患者における血管石灰化と脂質異常症との関連、第 63 回日本透析医学会学術総会、神戸、2018 年 6 月 30-7 月 1 日
 39. 藪内純子、上田誠二、長澤肇、野原奈緒、高橋敬子、金口泰彦、小林敬、合田朋仁、濱田千江子、三枝大輔、佐々木健一郎、福本 義弘、鈴木祐介 :CKD 患者におけるサルコペニア/フレイルの発症因子としての ADMA、第 41 回日本高血圧学会総会、旭川、2018 年 9 月 14 日-9 月 16 日
 40. 長澤肇、上田誠二、藪内純子、小林敬、金口泰彦、高橋敬子、合田 朋仁、山岸昌一、鈴木祐介 :CKD 患者において終末糖化産物(AGEs)は血管石灰化の発症に関与する、第 41 回日本高血圧学会総会、旭川、2018 年 9 月 14 日-9 月 16 日
 41. 高橋敬子 上田誠二 小林敬 長澤肇 大塚智之 鈴木祐介 :睡眠時無呼吸症候群マウスモデルにおける高血圧・心血管病発症進展における腎交感神経除神経活性の役割、第 54 回高血圧関連疾患モデル学会、熊本、2018 年 12 月 6 日-7 日
 42. 藪内純子、上田誠二、長澤肇、高橋敬子、大塚智之、鈴木祐介 :透析患者におけるサルコペニア/フレイルの発症因子としての ADMA、第 53 回 日本成人病(生活習慣病)学会学術集会、東京、2019 年 1 月 12 日
 43. 高橋敬子、大塚智之、上田誠二、藪内純子、長澤肇、小林敬、鈴木祐介 :睡眠時無呼

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

吸症候群による血圧上昇機序及び腎交感神経除神経の効果の検証、第 53 回 日本成人病(生活習慣病)学会学術集会、東京、2019 年 1 月 12 日

44. Suzuki H, Kano T, Kihara M, Hidaka T, Gohda T, **Suzuki Y** : Asymptomatic sleep apnea syndrome in end-stage renal disease: implications of volume overload for obstructive sleep apnea syndrome. ISN World Congress of Nephrology, Mexico City, Apr 21-25, 2017
45. **Suzuki Y**, Barratt J, Chin W, Bassi R, Kao A, Wax S, Appel G: A Phase II, Randomized, Double blind, Placebo Controlled Study to Evaluate the Efficacy and Safety of Atacicept in IgA Nephropathy. ISN World Congress of Nephrology, Mexico City, Apr 21-25, 2017
46. **Suzuki Y**: Mucosal immune dysregulation and galactose-deficient IgA1 production in IgA nephropathy. The 37th Annual Meeting of the Korean Society of Nephrology (KSN2017), Seoul, Korea, May 18-21, 2017
47. Takahashi K, Ueda S, Kobayashi T, Nishiyama A, Sugaya T, **Suzuki Y** : Renal Sympathetic Nerve Denervation Inhibits Chronic Intermittent Hypoxia-Induced Hypertension by Decreasing Renin-Angiotensin System and Oxidative Stress in a Mouse Model of Sleep Apnea Syndrome. 54th EDA-EDTA CONGRESS, Spain Madrid, Jun 3-6, 2017
48. Suzuki H, Yasutake J, Makita Y, Yamasaki K, Kano T, **Suzuki Y**: Galactose-Deficient IgA1 Monoclonal Antibody Specifically Identifies Primary IgA Nephropathy and IgA Vasculitis with Nephritis. The American Society of Nephrology (ASN)Kidney Week 2017, New Orleans, LA, Oct 31-Nov 5, 2017
49. Nihei Y, Suzuki H, Kihara M, **Suzuki Y** : Evaluation of major factors for vascular calcification in patients with hemodialysis. The American Society of Nephrology (ASN)Kidney Week 2017, New Orleans, LA, Oct 31-Nov 5, 2017
50. Takahashi K, Ueda S, Kobayashi T, Nishiyama A, Fujisawa Y, Sugaya T, Horikoshi S, **Suzuki Y**: Chronic intermittent hypoxia-mediated renal sympathetic nerve activation is involved in the development of hypertension and cardiovascular disease. ISN FRONTIERS meeting, Tokyo, Feb 22-25, 2018
51. Shimizu Y, Nakata J, Hashimoto A, Hara K, Wakabayashi K, Io H, Nohara N, Maiguma M, **Suzuki Y**: Effects of the operation technique of PD catheter insertion or a period of PD induction on complications; SMAP versus non-SMAP. ISN FRONTIERS meeting, Tokyo, Feb 22-25, 2018
52. Murakoshi M, Gohda T, Tomino Y, **Suzuki Y**, Kamei N: Association of circulating TNF-related biomarkers and estimated GFR in type 2 diabetes. ISN FRONTIERS meeting, Tokyo, Feb 22-25, 2018
53. **Suzuki Y**: **[Invited lecture]**B cells in IgA nephropathy and the rationale for B cells directed therapies. The 15th International Symposium on IgA Nephropathy, Buenos Aires, Argentina, Sep 29, 2018
54. Nihei Y, Haniuda K, Suzuki H, Kano T, Fukao Y, Kitamura D, **Suzuki Y**: Characteristics of Germinal Center B Cells in Murine IgA Nephropathy. The 15th International Symposium on IgA Nephropathy, Buenos Aires, Argentina, Sep 29, 2018
55. Suzuki H, Kano T, Makita Y, Fukao Y, **Suzuki Y**: Urinary Galactose-Deficient IgA1

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Represent a Disease-Specific Marker of

IgA Nephropathy. The American Society of Nephrology (ASN)Kidney Week 2018, San Deigo, USA, Oct 23 - 28, 2018

56. Nagasawa H, Ueda S, Kobayashi T, Kanaguchi Y, Yamagishi S, **Suzuki Y**: Involvements of AGEs on Vascular Calcification in Hemodialysis Patients. The American Society of Nephrology (ASN)Kidney Week 2018, San Deigo, USA, Oct 23 - 28, 2018
57. Sasaki Y, Takagi M, Asanuma K, **Suzuki Y**: Sorting Nexin 9 facilitates podocin endocytosis in the injured podocyte. The American Society of Nephrology (ASN)Kidney Week 2018, San Deigo, USA, Oct 23 - 28, 2018
58. Muto M, **Suzuki Y**, Huard B, Joh K, Suzuki H, Izui S, **Tomino Y**: Aberrant APRIL expression in tonsillar germinal center B cells in IgA nephropathy. European Society of Nephrology (ERA/EDTA, London) 2015.5.28-31
59. **Suzuki Y**, Suzuki H, Muto M, Okazaki K, Nakata J, **Tomino Y**: Pathological role of palatine tonsil in IgA nephropathy. The 14th Asian Pacific Congress of Nephrology 2014 (Tokyo, invited lecture) 2014年5月14日～17日
60. **Suzuki Y**, Suzuki H, Yasutake J, Tomino Y: Serum Galactose-Deficient IgA1 Detected by Specific Monoclonal Antibody KM55 Is Increased in IgA Nephropathy Patients. Annual Congress of American Society of Nephrology (Philadelphia) 2014年11月11日—16日

(臨床検査医学)

61. 矢野康次, 平山哲, 上野剛, 海老沼宏幸, 武城英明, **三井田孝**: 可溶性LR11は髄液中高比重リポタンパクに結合しアミロイドβ蛋白のクリアランスを阻害する. 第58回日本臨床化学会年次学術集会 2018年8月26日 名古屋
62. **三井田孝**: 招待講演: 脂質検査を基本からていねいに. 第58回日本臨床化学会年次学術集会 2018年8月26日 名古屋
63. Kouji Yano, Tomohiko Ai, Takahiro Shiga, Wado Akamatsu, Satoshi Hirayama, **Takashi Miida**: Establishment of neuroelectrophysiological model for Alzheimer disease derived from human iPSCs. 第50回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2017年7月13日 大阪
64. **三井田孝**: シンポジウム「実症例から学ぶ動脈硬化性疾患と臨床検査の関係」: 心血管イベント抑制を目指した臨床検査の役割. 第50回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2018年7月13日 大阪
65. 田村昌大, **三井田孝**, 平山哲, 上野剛, 金持拓身, 廣瀬伸良: 大学柔道選手における練習前後の血液成分の変化について. 第27回日本柔道整復接骨医学会学術大会 2018年11月17-18日 名古屋
66. 大野賀世, 室田直紀, 藤村純也, 石橋武士, 田部陽子, **三井田孝**: 若年性特発性関節炎の診断・治療中に芽球様細胞が出現した前駆Bリンパ芽球性白血病の1症例. 第65回日本臨床検査医学会学術集会 2018年11月15-18日 東京
67. 平山哲, 宗田聡, 中川沙織, 上野剛, 杉原匡美, 古田絢女, 西家里奈, 矢野康次, 一色美和, 平山安希子, 金持拓身, 田村昌大, 大和進, **三井田孝**: 2型糖尿病における頸動脈硬化症とオキシステロール濃度の関連. 第65回日本臨床検査医学会学術集会 2018年11月15-18日 東京
68. 山谷琴子, 齋藤香里, 梁夏恩, 一色美和, **三井田孝**, 田部陽子: 急性骨髄性白血病細

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 胞のチロシンキナーゼ阻害薬耐性獲得機構の解明. 第 65 回日本臨床検査医学会学術集会 2018 年 11 月 15-18 日 東京
69. 出居真由美, 阿部雅明, 濱田千江子, 一色美和, 三宅一徳, 田部陽子, 樋野興夫, 三井田孝: 腹膜透析排液中の ERC/mesothelin の腹膜劣化指標としての有用性の検討. 第 65 回日本臨床検査医学会学術集会 2018 年 11 月 15-18 日 東京
70. 杉原匡美, 柿木亮, 村山尚, 平山哲, 森本幸生, 呉林なごみ, 三井田孝. 拡張型心筋症モデルマウスにおける自発運動の頻度と心不全進行との関係. 第 65 回日本臨床検査医学会学術集会 2018 年 11 月 15-18 日 東京
71. 村上優子[渡並], 清成信一, 田部陽子, 門松健治, 三井田孝, 関戸好孝: がん研究における女性研究者(第 5 回) 悪性中皮腫における BAP1 遺伝子変異に対する合成致死遺伝子の網羅的探索(Women scientists in cancer research (WSCR symposia) Analysis of the genes which showed synthetic lethal phenotype with BAP1 mutations in malignant mesothelioma cells). 第 77 回日本癌学会学術総会 2018 年 9 月 27-29 日 大阪
72. 清水美穂[太田], 不破史子, 中川沙織, 大和進, 三井田孝: 培養細胞系を用いたコレステロール異化代謝経路に対するゲニピンの作用評価. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会 2018 年 8 月 24-26 日 名古屋
73. 矢野康次, 平山哲, 上野剛, 海老沼宏幸, 武城英明, 三井田孝: 可溶性 LR11 は髄液中高比重リポタンパクに結合しアミロイド β 蛋白のクリアランスを阻害する. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会 2018 年 8 月 24-26 日 名古屋
74. 西家里奈, 平山哲, 田村昌大, 金持拓身, 矢野康次, 上野剛, 廣瀬伸良, 三井田孝. 柔道部員における日常練習後の血清鉄濃度変動の検討. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会 2018 年 8 月 24-26 日 名古屋
75. 大野賀世, 平山哲, 上野剛, 西岡笑子, 牧野真太郎, 矢野康次, 三井田孝: 正常妊婦における血清カルニチン値の変動の検討. 臨床化学 Vol. 47 Suppl.1: 375, 2018
76. 中川沙織, 不破史子, 清水美穂[太田], 大和進, 三井田孝: 茶カテキン類の機能を臨床応用に資する基礎研究. . 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会 2018 年 8 月 24-26 日 名古屋
77. 平山哲, 長坂博範, 中川沙織, 大和進, 三井田孝: シンポジウム「脂質関連マーカーの Update」: 中枢神経系の代謝マーカーとしての血清オキシステロール. 第 64 回日本臨床検査医学会学術集会 2017 年 11 月 17 日 京都
78. 平山哲, 三井田孝: プロジェクト報告「リポ蛋白関連指標」: HDL 機能評価に関連する HDL-C 測定の標準化と今後の課題. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会 2017 年 10 月 6 日: 札幌
79. 三井田孝: 招待講演: 脂質検査を巡る最近の話題. 日本臨床検査自動化学会第 49 回大会 2017 年 9 月 23 日 横浜
80. Kouji Yano, Kenta Sasamoto, Tomohiko Ai, Takahiro Shiga, Hideyuki Okano, Wado Akamatsu, Satoshi Hirayama, Takashi Miida: Loading of Ca²⁺ indicator in the human iPSC-derived neurons with PSN1/2 mutations. 第 49 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2017 年 7 月 7 日 広島
81. 平山哲, 三井田孝: 脂質異常症診療の Update. どうすべきか、トリグリセライドの標準化. 第 49 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2017 年 7 月 7 日 広島
82. 三井田孝: 招待講演: 動脈硬化性疾患予防に脂質検査が果たす役割～ガイドライン改訂と特定健診見直しの動向～. 第 66 回医学検査学会 2017 年 6 月 17 日 千葉

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

83. 三井田孝: 招待講演: いまさら聞けない脂質検査のコツ～ACS から外来患者まで～. 第 81 回日本循環器学会学術集会, 2017 年 3 月 18 日 金沢
84. 三井田孝: 教育講演: 脂質検査を使いこなす. 第 48 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2016 年 7 月 15 日 東京
85. 三井田孝: シンポジウム「包括的リスク管理と JAS ガイドライン」: 脂質検査の選択と診断. 第 48 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2016 年 7 月 15 日 東京
86. 三井田孝: 教育講演: 脂質異常症診療の Update～脂質検査から治療の進歩まで～. 日本臨床検査医学会関東甲信越支部例会 2017 年 5 月 27 日 東京
87. 中川沙織, 不破史子, 太田(清水)美穂, 平山哲, 三井田孝, 大和進: 柑橘類に含まれるフラバノンによるコレステロール合成経路に対する新規抑制作用. 第 57 回日本臨床化学学会年次学術集会 2017 年 10 月 6-8 日 札幌
88. 一色美和, 平山哲, 上野剛, 伊藤正行, 矢野康次, 古田絢女, 出居真由美, 三井田孝: 栄養状態の指標としての脂肪酸代謝関連マーカーおよび微量金属の意義. 第 57 回日本臨床化学学会年次学術集会 2017 年 10 月 6-8 日 札幌
89. 上野剛, 平山哲, 古田絢女, 山谷琴子, 一色美和, 平山安希子, 矢野康次, 三井田孝: アルブミン測定法がネフローゼ症候群のアルブミン測定値に及ぼす影響. 第 57 回日本臨床化学学会年次学術集会 2017 年 10 月 6-8 日 札幌
90. 杉原匡美, 柿木亮, 村山尚, 平山哲, 森本幸生, 呉林なごみ, 三井田孝: 拡張型心筋症モデルマウスにおける自発運動と強制運動. 第 64 回日本臨床検査医学会学術集会 2017 年 11 月 16-19 日 京都
91. 藍智彦, 三井田孝, 堀江 稔: A SCN5A variant associated with drug induced Brugada type ECG. 第 64 回日本臨床検査医学会学術集会 2017 年 11 月 16-19 日 京都
92. 一色美和, 平山哲, 上野剛, 古田絢女, 矢野康次, 山谷琴子, 杉原匡美, 出居真由美, 三井田孝: 炎症に影響を受けにくい栄養マーカーの検索. 第 64 回日本臨床検査医学会学術集会 2017 年 11 月 16-19 日 京都
93. 平山哲, 長坂博範, 矢野康次, 上野剛, 多久和麻由子, 中長摩利子, 古田絢女, 平山安希子, 田村昌大, 杉原匡美, 依藤亨, 近藤宏樹, 三井田孝: 成長ホルモン(GH)欠乏症における GH 補充の血清脂質への影響はアポ E フェノタイプにより異なる. 第 64 回日本臨床検査医学会学術集会, 京都市 2017 年 11 月 16-19 日 京都
94. 出居真由美, 田部陽子, 阿部雅明, 濱田千江子, 一色美和, 三宅一徳, 樋野興夫, 三井田孝: 腹膜透析排液中の ERC/mesothelin と腹膜機能の関係. 第 64 回日本臨床検査医学会学術集会 2017 年 11 月 16-19 日 京都
95. 田部陽子, 土屋浩二, 臼井健悟, 大川貴裕, 由利麻衣子, 三澤成毅, 堀井隆, 三井田孝, 山中康成, 大坂顯通: BCR-ABL p210 陽性例での低値 BCR-ABL p190 同時検出における Eprobe 定量 PCR の有用性. 第 64 回日本臨床検査医学会学術集会 2017 年 11 月 16-19 日 京都
96. 田村昌大, 平山哲, 上野剛, 廣瀬伸良, 三井田孝: 柔道の練習環境における血液成分の変化について. 第 26 回日本柔道整復接骨医学会学術大会, 大阪市 (11/3-11/4), 日本柔道整復接骨医学会学術大会プログラム・抄録集 26 回: 90, 2017
97. 三井田孝: シンポジウム「ガイドラインはどの方向に向かうのか」: non HDL-C と LDL-C 直接測定法の特徴とピットフォール. 第 16 回動脈硬化教育フォーラム 2016 年 2 月 7 日 東京
98. 三井田孝: 教育講演: 脂質検査を使いこなす. 第 48 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2016 年 7 月 14-15 日 東京
99. 三井田孝: 教育講演: 二次性脂質異常症. 平成 28 年度日臨技北日本支部医学検査

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 学会(第5回) 2016年10月1-2日 新潟
100. 三井田孝: シンポジウム「包括的リスク管理と JAS ガイドライン」: 脂質検査の選択と診断. 第 48 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2016 年 7 月 14-15 日 東京
 101. 大和進, 中川沙織, 不破史子, 木村晋也, 平山哲, 三井田孝: LC-MS/MS を用いた血漿中ファルネシルピロリン酸の高感度定量. 第 26 回生物試料分析科学会年次学術集会 2016 年 2 月 20-21 日 宜野湾
 102. 出居真由美, 田部陽子, 阿部雅明, 濱田千江子, 三宅一徳, 樋野興夫, 三井田孝: 腹膜透析患者における N-ERC/mesothelin および C-ERC/mesothelin の検討. 第 63 回日本臨床検査医学会学術集会 2016 年 9 月 1-4 日 神戸
 103. 藍智彦, 三井田孝, マッテオ・バッタ: QT 延長と心筋症を合併した症例で発見された Syntrophin と RBM20 の遺伝子異常. 第 63 回日本臨床検査医学会学術集会 2016 年 9 月 1-4 日 神戸
 104. 長尾侑紀, 平山哲, 笹本健太, 平山安希子, 一色美和, 宮崎修, 三井田孝: 喫煙がコレステロール代謝における HDL 成熟に及ぼす影響. 第 63 回日本臨床検査医学会学術集会 2016 年 9 月 1-4 日 神戸
 105. 笹本健太, 平山哲, 上野剛, 長尾侑紀, 杉原匡美, 三井田孝: 脂質異常血清における検体保存時の HDL-C 測定値とアポ E の関係. 第 63 回日本臨床検査医学会学術集会 2016 年 9 月 1-4 日 神戸
 106. 平山哲, 宗田聡, 中川沙織, 不破史子, 上野剛, 笹本健太, 長尾侑紀, 田村昌大, 平山安希子, 杉原匡美, 大和進, 三井田孝: 2 型糖尿病における血清脂質とコレステロール合成および吸収の関連. 第 63 回日本臨床検査医学会学術集会 2016 年 9 月 1-4 日 神戸
 107. 中川沙織, 不破史子, 荒金尚子, 佐藤明美, 木村晋也, 平山哲, 三井田孝, 大和進: LC-MS/MS を用いた血漿中ファルネシルピロリン酸の定量とがん患者検体への応用. 日本薬学会第 136 年会 2016 年 3 月 26-29 日 横浜
 108. 関原和正, 斉藤香里, 三井田孝, 田部陽子: Targeting mantle cell lymphoma metabolism and survival through simultaneous blockade of mTOR and nuclear transporter exportin-1. 第 4 回がん代謝研究会 2016 年 7 月 7-8 日 鹿児島
 109. 杉原匡美, 柿木亮, 村山尚, 三井田孝, 櫻井隆, 森本幸生, 呉林 なごみ: DCM モデルマウスにおける自発運動と強制運動による効果の相違. 第 89 回日本薬理学会年会 2016 年 3 月 11 日 横浜
 110. 三井田孝: シンポジウム「残余リスク」に対する治療戦略: HDL を標的とした動脈硬化の抑制. 第 47 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2015 年 7 月 10 日 仙台,
 111. Miida T: 招待講演: Clinical Features and Treatment of Familial Hypercholesterolemia. The Satellite Symposium of the ISA 2015 in Tokyo 2015 年 5 月 21 日 東京
 112. 三井田孝: シンポジウム「地域・職域における動脈硬化リスクの管理」: 地域・職域における脂質異常症の管理と対策. 第 15 回動脈硬化教育フォーラム 2015 年 2 月 8 日 大阪
 113. 三井田孝: 特別講演: 脂質検査の標準化を考える. 第 33 回日本臨床化学会甲信越支部総会 2015 年 6/6-7 松本
 114. 三井田孝: シンポジウム「残余リスクに対する治療戦略」: HDL を標的とした動脈硬化の抑制. 第 47 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2015 年 7 月 9-10 日 仙台
 115. 吉田 博, 三井田孝: プロジェクト報告(リポ蛋白検査専門委員会): Lp(a)の臨床的有用性と課題. 第 55 回日本臨床化学会年次学術集会 2015 年 9/6-8 吹田

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

116. 平山 哲, 三井田孝: シンポジウム「二次性高脂血症の原因と脂質検査値異常」: 薬剤性脂質異常症の診断と治療. 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会 2015 年 11 月 29-22 日 岐阜
117. 渡部俊之, 横村 守, 石田恵梨, 佐藤耐喜, 河野正臣, 中川央充, 根間敏郎, 村野武義, 武城英明, 三井田孝: トリグリセライド(TG)測定法の違いにおける脂肪組織の関与について. 第 55 回日本臨床化学学会年次学術集会 2015 年 9 月 6-8 日 吹田
118. 横村 守, 石田恵梨, 渡部俊之, 河野正臣, 佐藤耐喜, 中川央充, 三浦ひとみ, 三井田孝, 佐藤麻子: 絶食時と食後のグリセロール消去法・非消去法の TG 値の比較検討. 第 55 回日本臨床化学学会年次学術集会 2015 年 9 月 6-8 日 吹田
119. 宮崎哲朗, 高橋秀平, 島田和典, 上野 剛, 加藤隆生, 須田翔子, 比企 優, 松森理枝, 葛西隆敏, 高木篤俊, 宮内克己, 三井田孝, 代田浩之: 急性非代償性心不全患者における血中カルニチン濃度の臨床的意義. 第 63 回日本心臓病学会学術集会 2015 年 9 月 18-20 日 横浜
120. 鈴木路可, 後藤広昌, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 三井田孝, 藤原典子, 川崎誠治, 綿田裕孝: 薬剤過敏症候群に合併しリポ蛋白 X 上昇を伴った脂質異常症の 1 例. 第 88 回日本内分泌学会学術総会 2015 年 4 月 23-25 日 東京
121. 向田 宏, 松下 訓, 猪谷卓弘, 二木志乃, 高野明日香, 渡辺美奈子, 中村昭也, 森田照正, 三井田孝, 天野 篤: 近赤外分光法(NIRS)を使用した人工心肺中における骨格筋の末梢循環評価. 第 25 回日本臨床工学会および平成 27 年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会 2015 年 5 月 23-24 日 福岡
122. 田村昌大, 平山 哲, 上野 剛, 笹本健太, 長尾侑紀, 小野塚麻里, 杉原匡美, 川上智弘, 坂本大記, 廣瀬伸良, 三井田孝: 自発的運動は拡張型心筋症モデルマウスの心不全進行を遅延させる. 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会 2015 年 11 月 19-22 日 岐阜
123. 杉原匡美, 柿木 亮, 村山 尚, 平山 哲, 森本幸生, 呉林なごみ, 三井田孝: 自発的運動は拡張型心筋症モデルマウスの心不全進行を遅延させる. 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会 2015 年 11 月 19-22 日 岐阜
124. 平山 哲, 上野 剛, 笹本健太, 長尾侑紀, 田村昌大, 平山安希子, 小野塚麻里, 杉原匡美, 西岡笑子, 牧野真太郎, 竹田 省, 三井田孝: 妊娠時の糖代謝指標に及ぼす貧血および甲状腺機能の影響. 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会 2015 年 11 月 19-22 日 岐阜
125. 上野 剛, 平山 哲, 田村昌大, 笹本健太, 長尾侑紀, 小野塚麻里, 杉原匡美, 西岡笑子, 牧野真太郎, 阿部勝美, 竹田 省, 三井田孝: 妊娠時の血中 ALP アイソザイム(胎盤由来 ALP4 型)活性の変動. 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会 2015 年 11 月 19-22 日 岐阜
126. 藍 智彦, 出居真由美, 堀内裕紀, 佐藤尚武, 藤村純也, 東海林宏道, 池野 充, 清水俊明, 笹原洋二, 森尾友宏, 田部陽子, 三井田孝: 巨核球の増加と大型血小板を認めた Wiscott-Aldrich 症候群の 1 例. 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会 2015 年 11 月 19-22 日 岐阜
127. 出居真由美, 三宅一徳, 眞野 訓, 築根 豊, 脇田 満, 川上美由紀, 堀井 隆, 杉原匡美, 田部陽子, 富野康日己, 小松則夫, 大坂顯通, 三井田孝: 血清クレアチニンが著明な偽高値を呈した IgM-MGUS の 1 例. 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会 2015 年 11 月 19-22 日 岐阜
128. 河野正臣, 佐藤耐喜, 渡部俊之, 横村 守, 石田恵梨, 中川央充, 石橋みどり, 三井田孝: トリグリセライド(TG)測定法の違いにおける検体保存安定性について. 第 62 回日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 本臨床検査医学会学術集会 2015年11月19-22日 岐阜
129. 高橋秀平, 宮崎哲朗, 島田和典, 上野 剛, 松森理枝, 葛西隆敏, 高木篤俊, 宮内克己, 三井田孝, 代田浩之: 急性非代償性心不全患者における血中アシルカルニチン/遊離カルニチン比の臨床的意義. 第112回日本内科学会総会・講演会 2015年4月10-12日 京都
130. 近藤成美, 中村文子, 三澤成毅, 笹野 央, 大坂顯通, 三井田孝: 当院における抗緑膿菌薬の使用量の変化と薬剤感受性の推移. 第61回日本臨床検査医学会学術集会 2014年11月22-25日 福岡
131. 平山 哲, 宗田 聡, 上野 剛, 糟谷 優, 杉原匡美, 三井田孝: 2型糖尿病患者のLPL濃度に及ぼす肥満および関連因子の影響. 第61回日本臨床検査医学会学術集会 2014年11月22-25日 福岡
132. 杉原匡美, 小田切史徳, 鈴木 剛, 村山 尚, 櫻井 隆, 代田浩之, 森本幸生, 呉林なごみ, 三井田孝: 自発的運動測定は拡張型心筋症モデルマウスのうっ血性心不全の判定に有用である. 第61回日本臨床検査医学会学術集会 2014年11月22-25日 福岡
133. 田部陽子, 山田宏美, 堀井 隆, 木村晋也, 三井田孝, 大坂顯通: WHO国際標準準拠BCR-ABL補正パネルを用いた施設固有RQ-PCR法の変換係数算出と検出感度評価. 第61回日本臨床検査医学会学術集会 2014年11月22-25日 福岡
134. 上野 剛, 平山 哲, 小野塚麻里, 杉原匡美, 糟谷 優, 安部勝美, 三井田孝: 妊娠時の血中および尿中カルニチン濃度の変動. 第61回日本臨床検査医学会学術集会 2014年11月22-25日 福岡
135. 脇田 満, 山本美由紀, 伊藤聡史, 三澤成毅, 久野 豊, 堀井 隆, 田部陽子, 三宅一徳, 三井田孝, 大坂 顯通: 直接ビリルビン測定における分析装置の比較検討. 日本臨床検査自動化学会第46回大会 2014年10月10-12日 横浜
136. 上野 剛, 平山 哲, 小野塚麻里, 昆 美香, 杉原匡美, 糟谷 優, 安部勝美, 三井田孝: 妊娠時の血中微量金属濃度の経時的変化と胎児発育の関連. 第54回日本臨床化学会年次学術集会 2014年9月5-7日 東京
137. 杉原匡美, 三井田孝, 平山 哲, 上野 剛: non-HDLを使った脂質異常症のスクリーニングにおけるカットオフ値の有用性. 第54回日本臨床化学会年次学術集会 2014年9月5-7日 東京
138. 三井田孝: シンポジウム「バイオマーカーの進歩」: バイオマーカーとしての脂質・リポ蛋白関連検査. 第24回日本臨床検査専門医会春季大会 2014年5月31日 札幌
139. 三井田孝: シンポジウム「脂質検査の現状及び将来展望」: 血清脂質・リポ蛋白検査の正確性について. 第46回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2014年7月11日 東京
140. 三井田孝: リポ蛋白検査専門委員会報告: CDCリファレンス法によるHDL-Cホモジニアス法の正確性の検討結果. 第54回日本臨床化学会年次学術集会 2014年9月5日 東京
141. 出居真由美, 田部陽子, 三宅一徳, 濱田千江子, 三井田孝: 学術プロジェクト研究最終報告: 腹膜透析排液検査法の開発と腹膜劣化指標としての有用性の検討. 第61回日本臨床検査医学会学術集会 2014年11月23日 福岡

(循環器内科)

142. Eiryu Sai, Kazunori Shimada, Tatsuro Aikawa, Takayuki Yokoyama, Makoto Hiki, Shohei Ouchi, Yuko Kawaguchi, Shinichiro Doi, Tetsuro Miyazaki, Shinichiro Fujimoto, Shinya

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Okazaki, Shigeki Aoki, **Hiroyuki Daida**. Myocardial triglyceride content and cardiac function in patients with left ventricular hypertrophy: comparison between severe aortic valve stenosis, hypertensive heart disease, and hypertrophic cardiomyopathy. CMR2018, Balcerona, 2nd/Feb/2018
143. Asuka Takano, Hiroshi Iwata, Katsutoshi Miyosawa, Tomoyuki Shiozawa, Takehiro Funamizu, Haruna Tabuchi, Hidemori Hayashi, Gaku Sekita, **Hiroyuki Daida**, Cholesterol Efflux Capacity of HDL is Impaired in Patients With Persistent Atrial Fibrillation. American Heart Association Scientific Sessions 2018, Chicago, USA
144. Katsutoshi Miyosawa, Hiroshi Iwata, Asuka Takano, Hidemori Hayashi, Takehiro Funamizu, Shinichiro Doi, Haruna Tabuchi, Gaku Sekita, **Hiroyuki Daida**, Elevated CC Chemokine Receptor 2 Expression and Higher Migratory Activity of Monocytes in Atrial Fibrillation Patients With Progressive Structural Remodeling. American Heart Association Scientific Sessions 2018, Chicago, USA
145. Yuko Kawaguchi, Eiryu Sai, Kazunori Shimada, Tatsuro Aikawa, Takayuki Yokoyama, Makoto Hiki, Shohei Ouchi, Shinichiro Doi, Tetsuro Miyazaki, Shinichiro Fujimoto, Shinya Okazaki, Shigeki Aoki, **Hiroyuki Daida**. Myocardial triglyceride content and cardiac function in patients with left ventricular hypertrophy: comparison between severe aortic valve stenosis, hypertensive heart disease, and hypertrophic cardiomyopathy. APSC2018.
146. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Chihiro Aoshima, Kato etsuro, Yuko Kawaguchi, Yuki Kamo, Makoto Hiki, Kanako K Kumamaru, **Hiroyuki Daida**. The association between coronary artery disease and carotid intima-media thickness in asymptomatic diabetes mellitus patients. American Heart Association Scientific Sessions 2018, Chicago, USA
147. Kato E, Fujimoto S, Kumamaru K, Otsuka Y, Kawaguchi Y, Tsujimoto S, Watanabe H, Takamura K, Aoshima C, Aoki S, **Daida H**. A Initial Study on Three-Dimensional Convolution Neural Network Analyses using Coronary CT Angiography Image data. SCCT 2018 12th Annual Scientific meeting, Texas, USA 2018.7
148. Kato E, Fujimoto S, Kawaguchi Y, Kumamaru K, Dohi T, Takamura K, Aoshima C, Hiki M, Kato Y, Okazaki S, **Daida H**. Incremental Diagnostic Value of CT-Fractional Flow Reserve Using Subtraction coronary CT Angiography for Patients with Severe Calcification. ESC congress, Munich, Germany 2018. 8
149. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kumamaru KK, Otsuka Y, Kato E, Aoshima C, Takamura K, Hiki M, Aoki S, **Daida H**. Fully Automated 3D Deep-Learning Analysis of Coronary CT Angiography: Prediction of Fractional Flow Reserved H. American Heart Association Scientific Sessions 2018, Chicago, USA
150. Takeuchi M, Wada H, Dohi T, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Miyauchi K, **Daida H** Relationship Between the Prognostic Nutritional Index and Long-term Clinical Outcomes in Patients with Stable Coronary Artery Disease ACC.2018-67th Annual Scientific Session&Expo, Orlando, USA 2018/3/10
151. Shoichiro Yatsu, Takatoshi Kasai, Hiroki Matsumoto, Shoko Suda, Nanako Shiroshita, Mitsue Kato, Fusae Kawana, Jun Shitara, Azusa Murata, Megumi Shimizu, Takao Kato, Masaru Hiki, **Hiroyuki Daida** Utility of Cyclic Variation of Heart Rate Index as a

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Screening Tool for Sleep Disordered Breathing.American Thoracic Society international conference 2018 San Diego, United States 2018/5/18-23
152. Shoichiro Yatsu, Ryo Naito, Takatoshi Kasai, Hiroki Matsumoto, Jun Shitara, Megumi Shimizu, Azusa Murata, Takao Kato, Shoko Suda, Masaru Hiki, Eiryu Sai, Katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida** Influence of sleep-disordered breathing assessed by pulse oximetry on long-term clinical outcomes in patients who underwent percutaneous coronary intervention European Society of Cardiology • Munich • 2018/8/28
 153. Shitara J, Kasai T, Miyauchi K, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Okazaki S Isoda K, **Daida H.** Differing efficacy of beta blockers on long-term clinical outcomes between ischemic heart failure patients with reduced and mid-range ejection fraction following percutaneous coronary intervention.European Society of Cardiology • Munich • 2018/8/28
 154. Iso T, Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Tsuboi S, Ogita M, Iwata H, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H.** Mean platelet volume and long-term cardiovascular outcomes in patients with stable coronary artery disease.American Heart Association’s Scientific Sessions 2018 • Chicago • 2018/11/10
 155. Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Ryo Naito, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Shinya Okazaki, **Hiroyuki Daida** Culprit plaque characteristics in patients with sleep disorder breathing undergoing percutaneous coronary intervention: An intravascular ultrasound study.American Heart Association’s Scientific Sessions 2018 • Chicago • 2018/11/10
 156. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Takeuchi M, Endo H, Ogita M, Suwa S, **Daida H.** Combined effect of nutritional status on long-term outcomes in patients with coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention.American Heart Association’s Scientific Sessions 2018 • Chicago • 2018/11/11
 157. Takahashi N, Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Takeuchi M, Endo H, Ogita M, Suwa S, **Daida H.** Pre-Procedural Neutrophil to Lymphocyte Ratio on Long-Term Clinical Outcomes in Coronary Artery Disease Patients With Low High-Sensitivity C-Reactive Protein Level.American Heart Association’s Scientific Sessions 2018 • Chicago • 2018/11/11
 158. Takeuchi M, Ogita M, Tsuboi S, Takahashi N, Sonoda T, Wada H, Suwa S, **Daida H.** Impact of Living Alone on Long-Term Mortality in Patients With Acute Coronary Syndrome Treated With Percutaneous Coronary Intervention.American Heart Association’s Scientific Sessions 2018 • Chicago • 2018/11/11
 159. Shinichiro Doi, Hiroshi Iwata, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida**, Low serum triglyceride level (TG) and low body mass index (BMI) associate increased risk of long-term cardiovascular mortality in patients undergoing percutaneous coronary intervention (PCI), 20 years follow-up , , AHA scientific session 2016, New Orleans, 2016/11/13
 160. Hiroki Nishiyama, Hiroshi Iwata, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida**, Low apolipoprotein A1 predicts 10year mortality in patients after PCI, a residual therapeutic target in the statin era , AHA scientific session 2016, New Orleans, 2016/11/13
 161. Jun Shitara, Shuta Tsuboi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Tomotaka Dohi, Hirokazu Konishi, Ryo Naito, Shinichiro Doi, Hideki Wada, Hirohisa Endo, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, **Hiroyuki Daida**: Impact of red cell distribution

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- width on long-term mortality in patients treated with statin after percutaneous coronary intervention, , American Heart Association's Scientific Sessions 2016・ニューオリンズ・2016/11/14
162. H. Wada, K. Miyauchi, M. Ogita, H. Endo¹, S. Doi¹, H. Konishi², R. Naito, S. Tsuboi, T. Dohi, T. Kasai, H. Tamura, S. Okazaki, K. Isoda, S. Suwa, **H. Daida**, Impact of high-density lipoprotein cholesterol increase on long-term clinical outcomes in patients following percutaneous coronary intervention, European Society of Cardiology 2016・ローマ・2016/8/29
163. R. Naito, K. Miyauchi, J. Shitara, H. Endo, H. Wada, S. Doi, H. Konishi, S. Tsuboi, M. Ogita, T. Dohi, T. Kasai¹, H. Tamura, S. Okazaki, K. Isoda, **H. Daida** Synergistic Effect of BMI and eGFR on All-cause Mortality in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention, European Society of Cardiology 2016・ローマ・2016/8/29
164. Shitara J, Ogita M, Miyauchi K, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H**, Association between sustained increase of c-reactive protein (CRP) and long-term mortality in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention, European Society of Cardiology 2016・ローマ・2016/8/30
165. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Tabuchi T, Hayashi H, Al Shahi H, Kadoguchi T, Sugita Y, Ouchi S, Aikawa T, Takahashi S, Miyazaki T, Fujimoto S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, **Daida H**, Atrial Fibrillation Recurrence After Catheter Ablation is Associated With Left Atrial Appendage Volume and Plasma Docosahexaenoic Acid Levels. Circulation. 2016;134:A13231
166. Kadoguchi T, Shimada K, Shiozawa T, Takahashi S, Hamad Al Shahi, Aikawa T, Ouchi S, Sugita Y, Miyazaki T, Akita K, Isoda K, **Daida H**. Inhibition of NAD(P)H Oxidase 4 Ameliorates Angiotensin II-Induced Protein Degradation via Improving Mitochondrial Dysfunction in Skeletal Myocytes. Circulation. 2016;134:A15468
167. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kato T, Aikawa T, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Kasai T, Miyauchi K, **Daida H**. Decreased Circulating Omega-6 Fatty Acid Levels Are Associated With Total Mortality in Patients Admitted to Cardiac Intensive Care Unit. Circulation. 2016;134:A13995
168. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Komatsu S, Tabuchi H, Hayashi H, Kawaguchi Y, Takamura K, Fujimoto S, Kadoguchi T, Takahashi S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, **Daida H**. Are low DHA levels associated with left atrial appendage volume and atrial fibrillation recurrence after catheter ablation?, European Heart Journal 2016, 37 (Abstract Supplement), 1078-1079
169. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Aikawa T, Kato T, Suda S, Hiki M, Takahashi S, Kasai T, Miyauchi K, **Daida H**; Decreased circulating omega-6 fatty acids levels, but not omega-3 fatty acids levels, are associated with total mortality in patients admitted to cardiac intensive care unit, European Heart Journal 2016, 37 (Abstract Supplement)
170. Kadoguchi T, Shimada K, Shiozawa T, Takahashi S, Al Shahi H, Miyazaki T, Akita K, Isoda K, H. **Daida H**. NAD(P)H oxidase 4 plays a key role in Angiotensin II-induced protein degradation in skeletal muscle cells. European Heart Journal 2016, 37 (Abstract Supplement), 1104
171. Kunitomo M, Shimada K, Yokoyama M, Hoshino Y, Takahashi S, Shiozawa T, Yamamoto T, Amano A, **Daida H**; Effects of First Session of Phase II Cardiac Rehabilitation on Novel Markers of Arterial Stiffness in Patients with Cardiovascular Diseases. EuroPREVENT 2016.
172. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Takeshi Kondo, Makoto Hiki, Yuko Kawaguchi, Etsuro Kato, Shoko Suda, Shinichi Takase, **Hiroyuki Daida** Incremental Prognostic Value of CCTA High Risk Plaque Characteristics in Asymptomatic Patients.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- American College of Cardiology(ACC)2016:65th Annual Scientific Session & Expo
173. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kumamaru KK, Dohi T, Ri K, Takamura K, Kato Y, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Kato E, **Daida H**. Diagnostic Performance of Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis using 4D-CT image. 89th Scientific Session, New Orleans, USA 2016.11
 174. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Okabayashi, Yuko Ishii, Kazunori Shimada, **Hiroyuki Daida** ,An IL-6 receptor antibody suppresses IkBNS deficiency induced atherosclerosis in LDL receptor-deficient mice, ESC congress 2016・Roma・H28 年 8 月 27-31 日
 175. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Tetsuro Miyazaki, Koji Akita, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida** ,NAD(P)H Oxidase 4 plays a key role in Angiotensin II-induced protein degradation in skeletal muscle cells, ,ESC congress 2016・Roma・H28 年 8 月 37-31 日
 176. Jun Shitara, Ogita M, Miyauchi K, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H**. Association between sustained increase of C-reactive protein (CRP) and Long-term mortality in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention, ,ESC congress 2016・Roma・H28 年 8 月 27-31 日
 177. Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, Synergistic effect of BMI and eGFR on all-cause mortality in the elderly following percutaneous coronary intervention, ESC congress 2016・Roma・H28 年 8 月 27-31 日
 178. Hideki Wada, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Hirohisa Endo, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, **Hiroyuki Daida**, Impact of high-density lipoprotein cholesterol increase on long-term clinical outcomes in patients following percutaneous coronary intervention, ,ESC congress 2016・Roma・H28 年 8 月 27-31 日
 179. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Koji Akita, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, Inhibition of NAD(P)H Oxidase 4 Ameliorates Angiotensin II-Induced Protein Degradation via improving Mitochondrial Dysfunction in Skeletal Myocytes, AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28 年 11 月 12-16 日
 180. Yuko Kawaguchi, Shinichirou Fujimoto, Kanako Kumamaru, Tomotaka Dohi, Keiken Ri, Kazuhisa Takamura, Etsuro Kato, Yoshiteru Kato, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda and **Hiroyuki Daida**, Diagnostic Performance of Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis Using 4D-CT Image ,AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28 年 11 月 12-16 日
 181. Hiroki Nishiyama, Hiroshi Iwata, Ryo Naito, Hirohisa Endo, Takashi Shimizu, Shinichiro Doi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi and **Hiroyuki Daida**, Low Apolipoprotein A1 Predicts 10year-Cardiovascular Mortality in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention With or Without Statin Therapy, a Possible Useful Biomarker and Residual Therapeutic Target in the Statin Era ,AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28 年 11 月 12-16 日
 182. Jun Shitara, Shuta Tsuboi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Tomotaka Dohi, Hirokazu Konishi, Ryo Naito, Shinichirou Doi, Hideki Wada, Hirohisa Endo, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa and **Hiroyuki Daida**, Impact of Red Cell Distribution

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Width on Long-term Mortality in Patients Treated With Statin After Percutaneous Coronary Intervention ,AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28 年 11 月 12-16 日
183. Takamura K, Fujimoto S, Kondo T, Hiki M, Matsumori R, Kawaguchi Y, Suda S, Kato E, Kumamaru K, Takase S, **Daida H**, Incremental prognostic value of coronary computed tomographic angiography high risk plaque characteristics in asymptomatic patients., The American College of Cardiology 65nd Annual Scientific Session, Chicago, USA 2016.4
184. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Tabuchi H, Hayashi H, Shahi HA, Kadoguchi T, Sugita Y, Ouchi S, Aikawa T, Takahashi S, Miyazaki T, Fujimoto S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, **Daida H**, Atrial fibrillation recurrence after catheter ablation is associated with left appendage volume and plasma docosahexaenoic acid levels , American Heart Association, 89th Scientific Session, New Orleans, USA 2016.11
185. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kumamaru KK, Dohi T, Ri K, Takamura K, Kato Y, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Kato E, **Daida H**, Diagnostic Performance of Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis using 4D-CT image., American Heart Association, 89th Scientific Session, New Orleans, USA 2016.11
186. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Hiroki Matsumoto, Takao Kato, Shoko Suda, Masaru Hiki, **Hiroyuki Daida**, Relationship between overnight rostral fluid shift and severity of central sleep apnea in hospitalized heart failure patients following acute decompensation , Cardiosleep, Prague, 2016.5.2
187. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, **Hiroyuki Daida**, Relationship between Blood Urea Nitrogen-to-Creatinine ratio at Hospital Admission and Long-term Post-discharge Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure, European Society of Cardiology, Rome, 2016.8.29
188. 相川達郎, 島田和典, 蔡榮龍, 青島千紘, 川口裕子, 高村和久, 比企誠, 横山貴之, 宮崎哲朗, 藤本進一郎, **代田浩之**. 1H-MRS 法により心筋内中性脂肪含有量高値を確認した. 中性脂肪蓄積心筋血管症の 6 例. 中性脂肪学会. 奈良. 2018 年 11 月 17 日
189. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Etsuro Kato, Yuko Kawaguchi, Chihiro Aoshima, Makoto Hiki, tomotaka Dohi, Kanako K Kumamaru, **Hiroyuki Daida**. Usefulness of a novel plaque analysis software using a labeling method in low-tube voltage protocol. The 82th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka, Japan 2018. 3
190. Kato E, Fujimoto S, Kawaguchi Y, Kumamaru KK, Dohi T, Takamura K, Aoshima C, Hiki M, Kato Y, Okazaki S, **Daida H**. The Predictive Factors Affecting False Positive in On-Site Operated CT-Fractional Flow Reserve Based on Fluid and Structural Interaction. The 82th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka, Japan 2018. 3
191. 川口 裕子、藤本 進一郎、加藤 悦郎、隈丸 加奈子、土肥 智貴、青島 千紘、高村 和久、華藤 芳輝、岡崎 真也、青木 茂樹、**代田 浩之**。流体構造連成解析を用いた CT-FFR 値と FFR、iFR の関連について。第 66 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018 9
192. 野崎 侑衣、吉岡 直紀、藤本 進一郎、隈丸 加奈子、高村 和久、川口 裕子、加藤 悦郎、青島 千紘、青木 茂樹、**代田 浩之**。ディープランニングを用いた胸腹部単純 CT における大動脈径自動計測システム開発の試み。第 66 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018 9
193. 加藤 悦郎、藤本 進一郎、隈丸 加奈子、大塚 裕次朗、川口 裕子、高村 和久、青島 千紘、青木 茂樹、**代田 浩之**。冠動脈 CT を用いた 3 次元畳み込みニューラルネッ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- トワークの適用方法の初期検討. 第 66 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018 9
194. 大塚裕次朗、隈丸加奈子、藤本進一郎、川口裕子、加藤悦郎、高村和久、辻本峰二、渡邊英恵、代田浩之、青木茂樹. 心臓CT画像データ解析における畳み込みニューラルネットワークの適用方法の検討. 第 28 回日本心血管画像動態学会、東京、2018. 1
195. 川口裕子、藤本進一郎、隈丸加奈子、大塚裕次朗、加藤悦郎、辻本峰二、渡邊英恵、高村和久、青島千紘、青木茂樹、代田浩之. 畳み込みニューラルネットワークを用いた冠動脈 CT 解析の初期検討: 年齢性別判定. 第 28 回日本心血管画像動態学会、東京、2018. 1
196. 和田 英樹、土肥 智貴、宮内 克己、代田 浩之 インスリン抵抗性と経皮的冠動脈インターベンション後の脳卒中発症の関連について日本成人病(生活習慣病)学会・東京・2018/1/13
197. Konishi H, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Daida H Effect of Pemafibrate (K-877) in Atherosclerosis Model Using Low Density Lipoprotein Receptor Knock-out Swine with Balloon Injury. 第 82 回日本循環器学会学術集会・大阪・2018/3/23
198. Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida. Relationship Between the Prognostic Nutritional Index and Long-term Clinical Outcomes in Patients with Stable Coronary Artery Disease. 第 82 回日本循環器学会学術集会・大阪・2018/3/23
199. 和田 英樹、宮内 克己、代田 浩之 脂質管理の二次予防 心血管疾患のコレステロール管理日本心血管脳卒中学会・東京・2018/6/16
200. 西尾 亮太、土井 信一郎、岡崎 真也、船水 岳大、宮崎 彩記子、土肥 静之、桑木 健次、稲田 英一、天野 篤、代田 浩之 重度慢性閉塞性肺疾患、両側総腸骨動脈ステント留置後に対して麻酔およびアプローチ法をハートチームで熟考し経カテーテルの大動脈弁植え込み術を施行した 1 例第 9 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会・大阪・2018/7/8
201. Shoichiro Yatsu, Takatoshi Kasai, Hiroki Matsumoto, Shoko Suda, Nanako Shiroshita, Mitsue Kato, Fusae Kawana, Jun Shitara, Azusa Murata, Megumi Shimizu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida 睡眠時無呼吸スクリーニングにおける Cyclic Variation of Heart Rate (CVHR) の有用性 第 43 回日本睡眠学会・札幌・2018/7/11-13”
202. Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Ryo Naito, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Shinya Okazaki, Hiroyuki Daida. Culprit plaque characteristics in patients with sleep disorder breathing undergoing percutaneous coronary intervention: An intravascular ultrasound study. 日本心血管インターベンション治療学会・兵庫・2018/8/4
203. 堂垂 大志、坪井 秀太、竹内 充裕、高橋 徳仁、園田 健人、和田 英樹、荻田 学、土肥 智貴、諏訪 哲、宮内 克己、代田 浩之 当院における急性冠症候群の臨床的特徴と長期予後に関する研究第 66 回日本心臓病学会学術集会・大阪・2018/9/7
204. Shoichiro Yatsu, Takatoshi Kasai, Hiroki Matsumoto, Shoko Suda, Nanako Shiroshita, Mitsue Kato, Fusae Kawana, Jun Shitara, Azusa Murata, Megumi Shimizu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida 睡眠呼吸障害スクリーニングとしての Cyclic Variation of Heart Rate (CVHR) の一般化第 66 回日本心臓病学会・大阪・2018/9/7-9
205. 谷津翔一郎、内藤亮、葛西隆敏、松本紘毅、設楽準、清水めぐみ、村田梓、加藤隆生、須田翔子、比企優、蔡榮龍、宮内克己、代田浩之 パルスオキシメーターで評価した睡眠

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 呼吸障害と冠動脈疾患患者の長期予後との関連第 66 回日本心臓病学会・大阪・2018/9/7-9
206. 谷津翔一郎, 葛西隆敏, 松本紘毅, 設楽準, 清水めぐみ, 村田梓, 加藤隆生 須田翔子, 比企優, 高木篤俊, 代田浩之 急性非代償性心不全で入院した患者における低アルブミン血症と予後との関連第 66 回日本心臓病学会・大阪・2018/9/7-9
207. 和田 英樹, 土肥 智貴, 葛西 隆敏, 谷津 翔一郎, 内藤 亮, 華藤 芳輝, 荻田 学, 岡井 巖, 岩田 洋, 磯田 菊生, 岡崎 真也, 諏訪 哲, 宮内 克己, 代田 浩之 睡眠呼吸障害を有する患者の冠動脈プラークの特徴第 66 回日本心臓病学会学術集会・大阪・2018/9/9
208. 西尾 亮太, 土井 信一郎, 船水 岳大, 遠藤 裕久, 宮崎 彩記子, 岡崎 真也, 代田 浩之 心室中部閉塞性肥大型心筋症に PTSMa を施行した際、中隔枝の ablation に難渋した 1 例ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2018・岡山・2018/9/28-29
209. 谷津翔一郎, 葛西隆敏, 松本紘毅, 設楽準, 清水めぐみ, 村田梓, 加藤隆生 須田翔子, 比企優, 代田浩之 心不全患者における 夜間の動脈スティフネスの変化第 22 回日本心不全学会・東京・2018/10/11-13
210. 塩澤淳, 石島旨章, 永山正隆, 金子晴香, 宮崎哲朗, 清水めぐみ, 劉立足, 高澤祐治, 池田浩, 代田浩之, 金子 和夫, 末期変形性膝関節症における無症候性深部静脈血栓症の保有率とリスク因子, 日本整形外科学会雑誌 2:S441,2017 仙台
211. Al Shahi H, Shimada K, Kadoguchi T, Akita K, Shiozawa T, Takahashi S, Aikawa T, Ouchi S, Sato Y, Matsushita S, Isoda K, Miyazaki T, Daida H, Exercise training ameliorates cardiac inflammation and improves left ventricular function after myocardial infarction in a mouse model, 第 81 回日本循環器学会学術集会 金沢 PE-249,2017
212. Takahashi S, Shimada K, Miyauchi K, Ronglung T, Miyazaki T, Shiozawa T, Ouchi S, Aikawa T, Al shahi H, Kadoguchi T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H, Exacerbated levels of 1,5-anhydroglucitol are associated with cardiovascular events in non-diabetic patients after first-time elective percutaneous coronary intervention, 第 81 回日本循環器学会学術集会・金沢・2017/3/18
213. Shimizu M, Miyazaki T, Sugita Y, Aikawa T, Ouchi S, Hiki M, Shimada K, Daida H, Polyunsaturated fatty acids levels were associated with the occurrence of asymptomatic venous thromboembolism in patients with locomotive syndrome, 第 81 回日本循環器学会学術集会 金沢 PE-519,2017
214. 横山美帆, 島田和典, 星野祐里子, 高橋秀平, 塩澤知之, 相川達郎, 大内翔平, 深尾宏祐, 岩田洋, 宮崎哲朗, 山本平, 天野篤, 代田浩之, Validity of the “Kihon Checklist” as an index of frailty and fatty acid levels in elderly patients receiving cardiac rehabilitation, 第 81 回日本循環器学会学術集会 金沢 PJ-267,2017
215. 清水めぐみ, 宮崎哲朗, 塩澤淳, 杉田有里那, 相川達郎, 大内翔平, 比企優, 金子晴香, 永山正隆, 石島旨章, 島田和典, 金子 和夫, 代田浩之, Locomotive 症候群患者において多価不飽和脂肪酸は無症候性深部静脈血栓症の発症に関連する, 日本動脈硬化学会総会プログラム・抄録集 49:210,2017 広島
216. 大内翔平, 宮崎哲朗, 島田和典, 高橋秀平, 杉田有里那, 清水めぐみ, 加藤隆生, 相川達郎, 須田翔子, 蔡榮龍, 比企優, 葛西隆敏, 宮内克己, 代田浩之, HbA1c7.0%未満の急性冠症候群患者における予後予測に関連する血糖コントロール指標, 日本動脈硬化学会総会プログラム・抄録集 49:219,2017 広島
217. 比企優, 岩田洋, 谷津翔一郎, 村田梓, 加藤隆生, 須田翔子, 高須清, 葛西隆敏, 宮崎哲朗, 代田浩之, 急性非代償性心不全(ADHF)患者における日内変動の発症と予後

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- との関連, 日本心臓病学会学術集会抄録 65:O-153,2017 大阪
218. 相川達郎, 宮崎哲朗, 杉田有里那, 國本充洋, 清水めぐみ, 大内翔平, 門口智泰, 塩澤知之, 比企優, 高橋秀平, 島田和典, 代田浩之, Vitamin D 低値は omega-3 脂肪酸および炎症と関連し急性心疾患患者の長期予後に影響する, 日本心臓病学会学術集会抄録 65:DP-24,2017 大阪
219. 國本充洋, 島田和典, 横山美帆, 本沢晶雄, 山田みき, 松原友美, 相川達郎, 大内翔平, 清水めぐみ, 深尾宏祐, 宮崎哲朗, 嶋田晶江, 山本平, 天野篤, 代田浩之, 高齢心臓リハビリテーション患者における「基本チェックリスト」を用いたフレイル判定と血中脂肪酸との関係, 日本心臓病学会学術集会抄録. 65:P-181,2017 大阪
220. 磯 隆史、小西宏和、設楽準、和田英樹、内藤 亮、坪井秀太、荻田 学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之, Impact of Body Mass Index on Long-Term Cardiac Outcomes in Patients after Percutaneous Coronary Intervention, 第 81 回日本循環器学会学術集会・金沢・2017/3/17
221. Yuko Kawaguchi, Shinichirou Fujimoto, Kanako Kumamaru, Tomotaka Dohi, Keiken Ri, Sou Yamada, Kazuhisa Takamura, Etsuro Kato, Yoshiteru Kato, Makoto Hiki, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida, Diagnostic Accuracy of On-Site Operated Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis, 第 81 回日本循環器学会学術集会・金沢・2017/3/18
222. 岡井巖,土肥智貴,岡崎真也,重城健太郎,中島真,大槻尚男,田中一樹,川嶋秀幸,奈良有悟,興野寛幸,山口淳一,宮内克己,代田浩之,上妻謙,萩原誠久,ロータブレード施行症例の長期予後に関する検討:J2T レジストリーより, 第 26 回 日本心血管インターベンション治療学会, 京都, 2017 年 7 月 6 日
223. 塩澤 知之、林 英守、松本 紘毅、川口 裕子、田淵 晴名、関田 学、諏訪 哲、住吉正孝、中里 祐二、代田 浩之, 特発性心室頻拍に対する右室流出路アブレーション後に Dressler's syndrome を合併した一例, カテーテルアブレーション関連大会 2017、札幌、2017 年 7 月 7 日
224. 土井信一郎,土肥智貴,宮内克己,遠藤裕久,和田英樹,内藤亮,小西宏和,坪井秀太,荻田学,華藤芳輝,岡井巖,葛西隆敏,岡崎真也,磯田菊生,代田浩之, 急性冠症候群発症の季節性と長期予後について, 第 26 回 日本心血管インターベンション治療学会, 京都, 2017 年 7 月 7 日
225. 和田英樹,土肥智貴,宮内克己,土井信一郎,内藤亮,小西宏和,坪井秀太,荻田学,葛西隆敏,岡崎真也,磯田菊生,諏訪哲,代田浩之, CONUT スコアによる栄養指標と冠動脈疾患を有する患者の 予後についての検討, 第 26 回 日本心血管インターベンション治療学会, 京都, 2017 年 7 月 6 日-8 日 CVIT
226. 喜多村健一,磯田菊生,岡崎真也,華藤芳輝,青木映莉子,岩田洋,西山大樹,遠藤裕久,清水孝史,土井信一郎,和田英樹,土肥智貴,小西宏和,坪井秀太,荻田学,諏訪哲,代田浩之, 大動脈内に突出した右冠動脈ステントを gooseneck snare とロータブレードの併用で良好に処理した 1 例, 第 26 回 日本心血管インターベンション治療学会, 京都, 2017 年 7 月 8 日
227. 比企 優、磯田 菊生、高橋 徳仁、岩田 洋、藤本 進一郎、岡崎 真也、代田 浩之, 巨大血栓を補足した一時的な大静脈フィルター回収に、血栓溶解療法と吸引が有効だった 1 例, 第 1 回日本集中治療学会関東甲信越支部学術集会・大宮・H29 年 7 月 29 日
228. 西尾 亮太、磯田 菊生、岡崎 真也、華藤 芳輝、岡井 巖、西山 大樹、喜多村 健一、土肥 智貴、岩田 洋、代田 浩之, 右冠動脈入口部より突出したステントに対し、ロータブレードとスネアの併用で処置した 1 例, 第 1 回日本集中治療学会関東甲信越支部学術集会・大宮・H29 年 7 月 29 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

229. 遠藤 裕久,土肥 智貴,宮内 克己,和田 英樹,土井 信一郎,内藤 亮,小西 宏和,坪井 秀太, 荻田 学,華藤 芳輝,岩田 洋,葛西 隆敏,岡崎 真也,磯田 菊生,代田 浩之, 冠動脈形成術後の男性患者における年齢と肥満度の予後に与える影響, 第 65 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017 年 9 月 29 日
230. 守屋 壮志,遠藤 裕久,岩田 洋,藤原 圭,川口 裕子,高須 清,比企 優,土肥 智貴,代田 浩之, 保存的加療で軽快した縦隔炎に合併した A 群 β 溶連菌による急性化膿性心膜炎の一例, 第 65 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017 年 9 月 29 日
231. 岩田 洋,内藤 亮,宮内 克己,代田 浩之, 抗炎症, ApoA1 上昇を標的とした抗動脈硬化治療-新たな PPAR α アゴニスト, ペマフィブラートの可能性, 第 65 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017 年 10 月 1 日
232. 岡崎真也、土井信一郎、西山大樹、宮崎彩記子、藤本進一郎、土肥静之、桑木賢次、天野篤、代田浩之, MVR 術後 AS 症例に対して TAVI を施行した 1 例, ストラクチャークラブ・ジャパン 2017, 福岡, 2017 年 11 月 4 日
233. 船水岳大、土井信一郎、岡崎真也、藤本進一郎、土肥静之、桑木賢次、稲田英一、天野篤、代田浩之, EV-R 非推奨の石灰化弁を S-XT で治療した一例, ストラクチャークラブ・ジャパン 2017, 福岡, 2017 年 11 月 4 日
234. 土井信一郎、岡崎真也、船水岳大、宮崎彩記子、藤本進一郎、土肥静之、桑木賢次、天野篤、代田浩之, Evolut R の後拡張で balloon stuck を生じた 1 例, ストラクチャークラブ・ジャパン 2017, 福岡, 2017 年 11 月 5 日
235. 西尾亮太、土井信一郎、岡崎真也、船水岳大、宮崎彩記子、代田浩之, PFO+small ASD に治療した一例, ストラクチャークラブ・ジャパン 2017, 福岡, 2017 年 11 月 5 日
236. 和田英樹、土肥智貴、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、土井信一郎、坪井秀太、荻田学、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之, 好中球リンパ球数比と待機的に経皮的冠動脈インターベンションを施行した患者の 長期予後についての検討, 第 31 回冠疾患学会学術集会, 大阪, 2017 年 12 月 15 日
237. 遠藤裕久、土肥智貴、宮内克己、和田英樹、土井信一郎、岩田洋、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之, 冠動脈形成術後における肥満度の予後に与える影響, 第 31 回冠疾患学会学術集会, 大阪, 2017 年 12 月 15 日
238. 船水岳大、岩田洋、土井信一郎、遠藤裕久、和田英樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、宮内克己、代田浩之, 経皮的冠動脈形成術症例における持続的なヘモグロビン低値は、死亡率上昇のリスクである, 第 31 回冠疾患学会学術集会, 大阪, 2017 年 12 月 15 日
239. 高野明日香、岩田洋、久保田京子、木村敦志、岡崎真也、諏訪哲、住吉正孝、宮内克己、天野篤、代田浩之, IABP 使用中の血小板減少は、抜去後の心血管死亡と関係する, 第 31 回冠疾患学会学術集会, 大阪, 2017 年 12 月 15 日
240. 土井信一郎、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、岡井 巖、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之, Persistent anemia associates long-term higher mortality in patients after percutaneous coronary intervention, The 81th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・金沢・H29 年 3 月 17 日-19 日
241. 設楽 準、土肥智貴、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田 学、岩田洋、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之, 経皮的冠動脈形成術後遠隔期の高感度 CRP 値と BMI が長期予後に与える影響, 第 65 回日本心臓病学会学術集会・大阪・H29 年 9 月 29 日-10 月 1 日
242. 和田英樹、土肥智貴、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、土井信一郎、坪井秀太、荻田学、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之, 安定狭心症患者における待機的

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 経皮的冠動脈インターベンション後の長期予後と好中球・リンパ球数比についての検討, 第 65 回日本心臓病学会学術集会・大阪・H29 年 9 月 29 日-10 月 1 日
243. 土井信一郎、岩田洋、宮内克己、和田英樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、岡井巖、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之, PCI 施行患者における血清低総コレステロールと低中性脂肪は生命予後増悪因子であった, 第 65 回日本心臓病学会学術集会・大阪・H29 年 9 月 29 日-10 月 1 日
244. 園田健人、荻田学、坪井秀太、和田英樹、内藤亮、小西宏和、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、宮内克己、代田浩之, PCI 施行後の冠動脈疾患患者における腎機能増悪と長期予後の関連, 第 65 回日本心臓病学会学術集会・大阪・H29 年 9 月 29 日-10 月 1 日
245. 遠藤裕久、土肥智貴、宮内克己、和田英樹、土井信一郎、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、岡井巖、岩田洋、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之, 安定冠動脈疾患患者の長期予後における高感度 CRP と性差の関連, 第 65 回日本心臓病学会学術集会・大阪・H29 年 9 月 29 日-10 月 1 日
246. 横山美帆、島田和典、葛西隆敏、加藤隆生、比企優、國本充洋、山田みき、本沢晶雄、渡邊英孝、代田浩之, 当院における心不全退院前カンファレンスの立ち上げと心不全チーム医療の実際, 第 21 回心不全学会 2017 年 10 月 14 日 秋田
247. 本沢晶雄、横山美帆、島田和典、山田みき、松原友美、相川達郎、大内翔平、清水めぐみ、國本充洋、深尾宏祐、岩田洋、宮崎哲朗、嶋田晶江、山本平、天野篤、代田浩之, 高齢心臓リハビリテーション施行患者における基本チェックリストスコアと不安レベルとの関連, 第 65 回日本心臓病学会学術集会 2017 年 9 月 29 日 大阪
248. 桑原瑛里、横山美帆、深山直実、盛光昭子、武藤香、山田みき、本沢晶雄、松原友美、深尾宏祐、相川達郎、大内翔平、清水めぐみ、國本充洋、島田和典、代田浩之, 慢性心不全患者における心不全手帳の有用性, 日本心臓リハビリテーション学会第 2 回関東甲信越支部地方会 2017 年 9 月 16 日 松本市
249. 本沢晶雄、横山美帆、島田和典、山田みき、渡邊英孝、諏訪太一、山崎優太、菊地佑太、吉野このか、高橋秀平、塩澤知之、相川達郎、松原友美、星野祐里子、土井信一郎、岡崎真也、桑木賢次、藤原俊之、天野篤、代田浩之, 経カテーテル大動脈弁植え込み術施行例における Failure score の変化, 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術大会 7 月 岐阜
250. Yokoyama M, Shimada K, Hoshino Y, Takahashi S, Shiozawa T, Aikawa T, Ouchi S, Fukao K, Iwata H, Miyazaki T, Shimada A, Yamamoto T, Amano A, Daida H, The Validity of the "Kihon Check-list" as an Index of frailty and fatty Acids in Elderly Patients Participating Cardiac Rehabilitation, 81th Annual Meeting of JCS, Kanazawa, 2017.3.18
251. Yatsu S, Kasai T, Matsumoto H, Murata A, Kato K, Suda S, Hiki M, Takagi A, Daida H, Relationship between hypoalbuminemia on admission and long-term mortality in Japanese patients with acute decompensated heart failure, 第 81 回日本循環器学会, 金沢, 2017/3/17-19
252. Murata A, Kasai T, Yatsu S, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Hiki M, Daida H, Relationship Between Overnight Fluid Shift and Severity of Sleep Apnea in Patients with Moderate-to-Severe Mitral Regurgitation and Preserved Ejection Fraction, 第 81 回日本循環器学会, 金沢, 2017/3/17
253. 加藤隆生、土井信一郎、平野景子、葛西隆敏、岡崎真也、代田浩之, 心室中部閉塞性肥大型心筋症を合併した家族性心 Fabry 病の 1 例, 第 3 回心筋症研究会, 岐阜, 長良川国際会議場, 2017/4/22

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

254. Yatsu S, Kasai T, Murata A, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Hiki M, Konish H, **Daida H.**, 心不全患者におけるレストレスレッグス症候群の臨床的意義, 第 42 回日本睡眠学会学術集会, 神奈川, パシフィコ横浜, 2017/6/29
255. 加藤隆生、葛西隆敏、谷津翔一郎、松本紘毅、村田梓、須田翔子、比企優、**代田浩之**, 睡眠呼吸障害を有する心不全患者におけるアスタキサンチン服用効果の主観的眠気への効果, 第 42 回日本睡眠学会学術集会, 神奈川, パシフィコ横浜, 2017/6/30
256. 谷津翔一郎, 葛西隆敏, 村田梓, 松本紘毅, 加藤隆生, 須田翔子, 比企優, 宮崎彩記子, **代田浩之**, 大動脈弁狭窄症患者における気道陽圧による血行動態への影響, 第 65 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 大阪府国際会議場, 2017/9/29-10/1
257. 比企 優、葛西隆敏、**代田浩之**, 急性非代償性心不全患者における腓外分泌機能に関する検討, 第 65 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 大阪府国際会議場, 2017/9/30
258. Murata A, Kasai T, Yatsu S, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Hiki M, **Daida H.**, Association Between Overnight Fluid Shift and Sleep Apnea Severity in Patients with Moderate-to-Severe Mitral Valve Regurgitation and Preserved Ejection Fraction, 第 65 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 大阪府国際会議場, 2017/9/30
259. 清水めぐみ、葛西隆敏、島田和典、**代田浩之**, 冠動脈疾患患者における尿酸の日内変動および酸化ストレスとの関連, 第 65 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 大阪府国際会議場, 2017/10/1
260. Shitara J, Konishi H, Kasai T, Miyauchi K, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Tamura H, Okazaki S, **Daida H.**, Impact of lipoprotein(a) levels on long-term outcomes of patients with left ventricular systolic dysfunction after percutaneous coronary intervention., 第 21 回日本心不全学会学術集会, 秋田, 秋田にぎわい交流館 au, 2017/10/12
261. Hiki M, Kasai T, Matsumoto H, Murata A, Kato T, Suda S, Yatsu S, **Daida H.**, Serum sodium level within the low-normal range is associated with long-term clinical outcomes in patients with acute decompensated heart failure, 第 21 回日本心不全学会学術集会, 秋田, 秋田キャッスルホテル, 2017/10/12
262. 比企 優、葛西隆敏、**代田浩之**, 急性非代償性心不全患者における 腓外分泌機能に関する検討, 第 21 回日本心不全学会学術集会, 秋田, 秋田キャッスルホテル, 2017/10/13
263. Hiki M, Iwata H, Kasai T, **Daida H.**, Low heart rate in combination with low systolic blood pressure at initial presentation predicts high mortality in patients with acute decompensated heart failure, 第 21 回日本心不全学会学術集会, 秋田, 秋田キャッスルホテル, 2017/10/13
264. Kato T, Kasai T, Yatsu S, Murata A, Shitara J, Shimizu M, Matsumoto H, Suda S, Hiki M, Takagi A, **Daida H.**, Influence of low admission levels of arterial carbon dioxide on clinical outcomes in patients with acute decompensated heart failure, 第 21 回日本心不全学会学術集会, 秋田, 秋田キャッスルホテル, 2017/10/13
265. Kato T, Kasai T, Yatsu S, Matsumoto H, Murata A, Suda S, Hiki M, **Daida H.**, Effects of 3-month astaxanthin supplementation on sleepiness, physical activity and health related quality-of-life in heart failure patients with sleep-disordered breathing., 第 21 回日本心不全学会学術集会, 秋田, 秋田キャッスルホテル, 2017/10/13
266. Kato T, Kasai T, Yatsu S, Matsumoto H, Murata A, Suda S, Hiki M, **Daida H.**, Acute effects of positive airway pressure on functional mitral regurgitation in systolic heart failure patients, 第 21 回日本心不全学会学術集会, 秋田, 秋田キャッスルホテル, 2017/10/13
267. 清水めぐみ、葛西隆敏、島田和典、**代田浩之**, 高血圧を合併した冠動脈疾患患者にお

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- ける尿酸の日内変動および酸化ストレスとの関連, 第 40 回日本高血圧学会総会, ひめぎんホール, 2017/10/20
268. 大村寛敏, 三田智也, 綿田裕孝, 代田浩之, on behalf of SPIRITS-J Investigators, 日本人 2 型糖尿病患者に対する DPP-IV 阻害薬による血糖管理と心血管イベント発症率に関する長期追跡調査: SPIRITS-J(最終報告), 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会・愛知・2017.05.18
269. 川口裕子、藤本進一郎、隈丸加奈子、李慶賢、山田想、土肥智貴、高村和久、加藤悦郎、代田浩之、流体構造連成解析を用いた CT-FFR オンサイト解析ソフトウェアにおける再現性の検討、第 27 回日本心血管画像動態学会、津、2017. 1”
270. 高村和久、藤本進一郎、比企誠、川口裕子、加藤悦郎、隈丸加奈子、代田浩之、剖検例における Labeling method による新しいプラーク性状解析ソフトの有用性に関する検討、第 27 回日本心血管画像動態学会、津、2017. 1
271. Kanako K. Kumamaru, Shinichiro Fujimoto, Yuko Kawaguchi, Tomotaka Dohi, Keiken Ri, Sou Yamada, Kazuhisa Takamura, Hiroyuki Daida, Shigeki Aoki., Diagnostic Performance of CT-derived Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis: Comparison with Invasive Fractional Flow Reserve, 第 76 回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2017.4.
272. 川口 裕子、藤本 進一郎、隈丸 加奈子、土肥 智貴、加藤 悦郎、青島 千紘、高村和久、比企 誠、華藤 芳輝、岡崎 真也、代田 浩之、流体構造連成解析を用いた CT-FFR の診断能に影響を与える因子の検討, 第 65 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017. 9.
273. 加藤 悦郎、藤本 進一郎、高村 和久、川口 裕子、青島 千紘、比企 誠、隈丸 加奈子、代田 浩之、320 列冠動脈 CT による 1 回転撮像から解析した Transluminal attenuation gradient (TAG) の機能的狭窄診断における臨床的意義, 第 65 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017. 9.
274. Wada Hideki, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Norihito Takahashi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida, Combined Serum Albumin and C-Reactive Protein Levels Predict Long-term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease after Percutaneous Coronary Intervention, 第 81 回日本循環器学会学術集会・金沢・2017/3/17 (FRS)
275. 遠藤裕久, 和田英樹, 荻田学, 宮内克己, 設楽準, 土井信一郎, 内藤亮, 小西宏和, 坪井秀太, 土肥智貴, 葛西隆敏, 諏訪哲, 代田浩之, Gender Difference in Association with Insulin Resistance and Long-term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease after Percutaneous Coronary Intervention, 第 81 回日本循環器学会学術集会・金沢・2017/3/19
276. Shohei Ouchi, Tetsuro Miyazaki, Kazunori Shimada, Yurina Sugita, Megumi Shimizu, Azusa Murata, Takao Kato, Tatsuro Aikawa, Shoko Suda, Tomoyuki Shiozawa, Masaru Hiki, Shuuhei Takahashi, Takatoshi Kasai, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida, Decreased circulating DGLA levels and DGLA/AA are associated with total mortality in patients with acute decompensated heart failure, 日本循環器学会総会 2017, 金沢, 2017/3/17
277. 大内翔平, 宮崎哲朗, 島田和典, 杉田有里那, 清水めぐみ, 加藤隆生, 相川達郎, 須田翔子, 塩澤知之, 比企優, 高橋秀平, 葛西隆敏, 岩田洋, 宮内克己, 代田浩之, 急性心不全患者における GNRI と多価不飽和脂肪酸値の長期予後の検討, 日本心臓病学会総会 2017, 大阪, 2017/9/30
278. 清水めぐみ, 宮崎哲朗, 杉田有里那, 大内翔平, 相川達郎, 比企優, 島田和典, 代田浩

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 之, 急性期心血管疾患患者において血清コエンザイム Q10 値は長期予後と相関する, 第 65 回日本心臓病学会学術集会 2017 年 9 月 29 日 大阪
279. 大内翔平, 宮崎哲朗, 島田和典, 杉田有里那, 清水めぐみ, 村田梓, 加藤隆生, 相川達郎, 須田翔子, 塩澤知之, 比企優, 高橋秀平, 葛西隆敏, 岩田洋, 宮内克己, 代田浩之, 急性心不全患者の長期予後に対する GNRI と多価不飽和脂肪酸の臨床的意義の検討, 第 65 回日本心臓病学会学術集会 2017 年 9 月 29 日 大阪
280. 駒野悠太, 藤井敏雄, 内藤久士, 石原美彦, 深尾宏祐, 島田和典, 代田浩之, Lactococcus lactis JCM 5805 (JCM5805) 摂取が高負荷運動後の樹状細胞 (DC) 活性に及ぼす影響, 第 72 回 日本体力医学会大会 2017 年 9 月 18 日 松山市
281. 相川達郎, 宮崎哲朗, 島田和典, 吉原琢磨, 杉田有里那, 喜多村健一, 國本充洋, 清水めぐみ, 大内翔平, 門口智泰, 塩澤知之, 横山康孝, 比企優, 高橋秀平, 土肥静之, 天野篤, 代田浩之, 腹部大動脈瘤の発症と進展における $\omega 3$ 脂肪酸の役割, 第 64 回六甲カルディアックセミナー 2017 年 8 月 5 日 神戸
282. 清水めぐみ, 宮崎哲朗, 塩澤淳, 杉田有里那, 相川達郎, 大内翔平, 比企優, 金子晴香, 永山正隆, 石島旨章, 島田和典, 金子和夫, 代田浩之, 静脈血栓症と多価不飽和脂肪酸との関連 - $\omega 3$ 脂肪酸は静脈血栓症の予防ターゲットとなり得るか -, 第 3 回 J-ISCIP 学術集会. 2017 年 6 月 17 日 東京
283. Al Shahi H, Shimada K, Kadoguchi T, Akita K, Takahashi S, Shiozawa T, Aikawa T, Ouchi S, Matsushita S, Isoda K, Miyazaki T, Daida H, Voluntary exercise ameliorates cardiac inflammation and improves left ventricular function after myocardial infarction in a mouse model., 81th Annual Meeting of JCS, Kanazawa, 2017.3.17
284. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Hayashi H, Tabuchi H, Miura S, Kawaguchi Y, Fujimoto S, Aikawa T, Ouchi S, Takahashi S, Kitamura K, Sugita Y, Kadoguchi T, Miyazaki T, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H, Are Left Atrial Appendage Volume and Plasma Docosahexaenoic Acid Levels Associated with Atrial Fibrillation Recurrence after Catheter Ablation?, 81th Annual Meeting of JCS, Kanazawa, 2017.3.18
285. Takamura K, Fujimoto S, Katou E, Kawaguchi Y, Hiki M, Kumamaru K, Daida H, Usefulness of Novel Plaque Characteristics Analysis Software Employing the Labeling Method in Autopsy Cases, The 81th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Kanazawa, Japan 2017. 3
286. 藤本 進一郎、隈丸 加奈子、川口 裕子、土肥 智貴、高村 和久、加藤 悦郎、華藤 芳輝、比企 誠、岡崎 真也、代田 浩之, オンサイト解析ソフトウェアによる流体構造連成解析を用いた CT-FFR の現況, 第 65 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017. 9
287. Hisaya Endo, Yuji Nishizaki, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida Prognostic Implication of Atrial Fibrillation in Acute Coronary Syndrome; Sub-analysis from PACIFIC Registry, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/18
288. Hideki Wada, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hirokazu Konishi, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida, Relation between Oral Beta-Blocker Therapy and Outcome in Patients with Acute Coronary Syndrome Preserved Left Ventricular Ejection Fraction, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/18
289. Jun Shitara, Manabu Ogita, Katsumi Miyauchi, Hideki Wada, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida Association between Sustained Increase of Creactive Protein (CRP) and Longterm Mortality in Patients with Coronary Artery Disease Treated with PCI, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/18

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

290. Hideki Wada, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Hiroshi Tamura, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida**, Gender Differences in Mid-term Outcomes among Patients with Acute Coronary Syndrome Treated by Percutaneous Coronary Intervention ,第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
291. Shinichiro Doi Makoto Suzuki , Takehiro Funamizu , Kei Nishikawa, Kei Mabuchi, Kenichi Hagiya ,Ryosuke Higuchi , Michiaki Higashitani, Itaru Takamisawa, Atsushi Seki, Tetsuya Tohbaru, Nobuo Iguchi, Morimasa Takayama, Jun Umemura, Tetsuya Sumiyoshi, Hitonobu Tomoike Prediction of cardiac events in silent myocardial ischemia treated with percutaneous coronary intervention, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
292. Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Takatoshi Kasai, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, FRS: Prognostic Utility of Lipid Parameters or hs-CRP on Long-term Outcomes in Patients Undergoing PCI Treated with/without Statin Therapy ,第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
293. Ryo_Naito, Katsumi_Miyauchi, Jun_Shitara, Hirohisa_Endo, Hideki_Wasa, Shinichiro_Doi, Hirokazu_Konishi, Shuta_Tsuboi, Manabu_Ogita, Tomotaka_Dohi, Takatoshi_Kasai, Hiroshi_Tamura, Shinya_Okazaki, Kikuo_Isoda, **Hiroyuki Daida**, Clinical Features and Outcomes in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention between 1985 and 2010 ,第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
294. Hiroki_Nishiyama, Katsumi_Miyauchi, Ryo_Naitoh, Hirokazu_Konishi, Yoshiteru_Katoh, Tomotaka_Dohi, Hiroshi_Tamura, Shinya_Okazaki, Kikuo_Isoda, **Hiroyuki Daida**, Impact of Glycemic Control on the Long-term Outcome in Patients After Percutaneous Coronary Intervention, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
295. Toshihito_Onda, Kenji_Inoue, Satoru_Suwa, Takatoshi_Kasai, Yuichi_Chikata, Masayuki_Shiozaki , Tatsuro_Aikawa, Yuki_Kimura, Kentaro_Fukuda, Iwao_Okai, Akihisa_Nishino, Yoshiyuki_Masaki, Yasumasa_Fujiwara, Masataka_Sumiyoshi, **Hiroyuki Daida** A Comparison of Biomarkers and Risk Scores on Risk Stratification for Patients with Acute Coronary Syndrome, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
296. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi , Jun Shitara , Hirohisa Endo , Hideki Wada , Shinichiro Doi , Ryo Naitoh , Shuta Tsuboi , Manabu Ogita , Tomotaka Dohi , Takatoshi Kasai , Shinya Okazaki , Kikuo Isoda , **Hiroyuki Daida**, Lipoprotein (a) Predicts Long-term Cardiovascular Events in Patients after Percutaneous Coronary Intervention, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
297. Taketo Sonoda, Manabu Ogita , Katsumi Miyauchi , Hirokazu Konishi , Hideki Wada , Ryo Naitoh , Shuta Tsuboi , Tomotaka Dohi , Takatoshi Kasai , Hiroshi Tamura , Shinya Okazaki , Kikuo Isoda , Satoru Suwa , **Hiroyuki Daida**, Impact of Lipoprotein (a) as Residual Risk on Clinical Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin after PCI ,第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
298. Takashi Shimizu Katsumi Miyauchi , Tomotaka Dohi , Ryo Naitoh , Hirokazu Konishi , Shuta Tsuboi , Yoshiteru Katoh , Manabu Ogita , Takatoshi Kasai , Hiroshi Tamura , Shinya Okazaki , Kikuo Isoda , **Hiroyuki Daida**, Body Mass Index and Long-Term Clinical Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention: Results from the Juntendo PCI Registry ,第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/20

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

299. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru Kato, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, Comparison of Benefits between Second-Generation Drug-Eluting Stents Versus Bare Metal Stents in Hemodialysis Patients, 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
300. 田村浩、岡崎 真也、遠藤 裕久、和田 英樹、清水 孝史、西山 大樹、内藤 亮、華藤 芳輝、土井 智貴、岡井 巖、磯田 菊生、宮内 克己、**代田 浩之**, BMSにて冠動脈瘤を治療した5症例に対する検討 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
301. 宮内 克己、和田 英樹、土井 信一郎、小西 宏和、内藤 亮、坪井 秀太、荻田 学、土肥 智貴、梶本 完、葛西 隆敏、田村 浩、岡崎 真也、磯田 菊生、天野 篤、**代田 浩之**, 慢性腎臓病を有する糖尿病患者における第一世代の薬剤溶出性ステントと冠動脈バイパス手術の予後比較, 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
302. 高橋 徳仁、磯田 菊生、比企 優、藤本 進一郎、田村 浩、岡崎 真也、宮内 克己、**代田 浩之**, 巨大深部静脈血栓を伴う妊婦に対し、一時的な下大静脈フィルター留置で良好な経過が得られた1例, 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
303. 和田英樹、荻田 学、宮内 克己、坪井 秀太、小西 宏和、設楽 準、國本 充洋、園田 健人、磯 隆史、海老名 秀城、青木 絵里子、喜多村 健一、田村 浩、諏訪 哲、**代田 浩之**, 左主幹動脈に対して PCI を施行した ASC 患者の背景比較と入院中死亡の因子についての検討, 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9
304. 和田英樹、荻田 学、宮内 克己、設楽 準、遠藤 裕久、土井 信一郎、小西 宏和、内藤 亮、坪井 秀太、土肥 智貴、葛西 隆敏、田村 浩、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、**代田 浩之**, インスリン抵抗性と PCI 後の脳血管イベントの関連についての検討, 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9
305. 土井 信一郎、岡崎 真也、圓山 雅己、藤本 進一郎、掛水 真帆、土肥 静之、桑木 賢次、稲田 英一、天野 篤、**代田 浩之**, BAVによる Bridge therapy により TA ハイリスク症例を TF TAVIに移行できた CKD 患者の一例, 第 7 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会・大阪・2016/8/11
306. 遠藤裕久、土肥智貴、宮内克己、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田、菊生、**代田浩之**, 急性冠症候群患者の長期予後における BMI と性差の関連, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/23
307. Shinichiro Doi, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru Kato, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, Impact of Seasonal Variation on Long-term Outcomes in Acute Coronary Syndrome who Underwent Percutaneous Coronary Intervention, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/23
308. 西山大樹、土肥智貴、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤 亮、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田、菊生、**代田浩之**, 冠動脈疾患患者の長期予後における hs-CRP 値の性差について, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

309. 和田英樹、荻田学、諏訪哲、代田浩之、劇症型肺炎球菌感染症に合併した劇症型心筋炎の一例, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24
310. 園田 健人、荻田 学、宮内 克己、小西 宏和、坪井 秀太、内藤 亮、土肥 智貴、葛西隆敏、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、代田 浩之, Gender difference of lipoprotein (a) and long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease after percutaneous coronary intervention, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24
311. 和田英樹、荻田学、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之, Gender Differences in Patients with Statin Therapy Following Percutaneous Coronary Intervention, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/25
312. 内藤亮、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之, Synergistic Effect of BMI and eGFR on All-cause Mortality in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/25
313. 設楽 準、坪井 秀太、宮内 克己、荻田 学、葛西 隆敏、土肥 智貴、小西 宏和、内藤 亮、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、代田 浩之, 冠動脈形成術後のスタチン内服患者における赤血球容積粒度分布幅(RDW)の有用性 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/25
314. Shinichiro Doi, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Takashi Shimizu, Hiroki Nishiyama, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Tomotaka Dohi, Hiroshi Iwata, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida, A Case of successful PCI in LAD-CTO with large severe calcified aneurysm in young adult with history of Kawasaki disease, Complex Cardiovascular Therapeutics 2016・神戸・2016/10/21
315. Shinichiro Doi, Morimasa Takayama, Shinya Okazaki, Hiroyuki Daida, PTSCMA により心室性不整脈の改善が得られた閉塞性肥大型心筋症の 1 例, 東京 HOCM フォーラム 2016・東京・2016/10/29
316. 土井信一郎、岡崎 真也、遠藤 裕久、川口 裕子、圓山 雅己、華藤 芳輝、宮崎彩記子、藤本進一郎、掛水 真帆、土肥 静之、桑木 賢次、
稲田 英一、宮内 克己、天野 篤、代田 浩之, 急性心不全を発症した重症冠動脈病変、大動脈弁狭窄症、高度腎機能低下を伴う低左心機能、超高齢患者の一例, 第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/10
317. 和田 英樹、土肥 智貴、宮内 克己、代田 浩之, Impact of Albumin on prognosis in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention 第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/11
318. 内藤 亮、宮内 克己、代田 浩之, 心血管イベント高危険群における経皮的冠動脈形成術後臨床成績の時代的変遷について, 第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/11
319. 川口 裕子、藤本 進一郎、高村 和久、比企 誠、須田 翔子、加藤 悦郎、石浦 純子、隈丸 加奈子、代田 浩之, 高度石灰化症例における低被ばく subtraction CTA の有効性の検討 第 26 回心血管画像動態学会. 2016.1.
320. 高村 和久、藤本 進一郎、川口 裕子、比企 誠、須田 翔子、加藤 悦郎、石浦 純子、隈丸 加奈子、代田 浩之, The usefulness of low radiation dose subtraction coronary CT angiography for coronary segments with calcification and stent using 320-row Area Detector CT, 80Th JCS. Sendai. 2016. 03.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

321. Etsuro kato, Shinichiro Fujimoto, Rie Matsumori, Rani Bhivasankar, Kanako Kumamaru, yuko Kawaguchi, Kazuhisa Takamura, Frank J Rybicki , Dimitrios Mitsouras, katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida**. Retrospective Evaluation of CT angiography Transluminal Attenuation Gradient for the Detection of Compromised Fractional Flow Reserve , 80Th JCS. Sendai. 2016. 03.
322. Yuko kawaguchi, Shinichiro fujimoto, Kazuhisa Takamura, Syoko Suda, Etsuro Kato, Rie Matsumori, Makoto Hiki, Kanako K. Kumamaru, **Hiroyuki Daid**, Submillisievert Imaging Protocol Using Full Reconstruction and Advanced patient motion Correction in 320-row Area Detector CT angiography. 80Th JCS. Sendai. 2016. 03.
323. 高村 和久、藤本進一郎、比企 誠、川口 裕子、加藤 悦郎、青島 千紘、隈丸 加奈子、**代田 浩之** , The usefulness of low radiation dose subtraction coronary CT angiography for patients with calcification using 320 ADCT. ,日本心臓病学会 東京 2016.09
324. 加藤 悦郎、藤本 進一郎、高村 和久、川口 裕子、青島 千紘、比企 誠, 隈丸 加奈子、**代田 浩之**, 320 列冠動脈 CT による 1 回転撮影像から解析した Transluminal attenuation gradient (TAG)の意義 ,日本心臓病学会 東京 2016.09
325. 藤本 進一郎、高村和久、川口 裕子、加藤 悦郎、比企 誠、土肥 智貴、隈丸 加奈子、**代田浩之** Development of comprehensive plaque evaluation by coronary CT angiography. 第 48 回日本動脈硬化学会学術集会, 東京, 2016.7 (シンポジウム)
326. 李慶賢、藤本進一郎、隈丸加奈子、山田想 、川口裕子、土肥智貴 、高村和久、加藤悦郎、木暮陽介、青木茂樹、**代田浩之** 流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討, 第 10 回 SCCT 研究会、2016 年 9 月、東京(口頭発表)
327. 李慶賢、隈丸加奈子、藤本進一郎、高村和久、川口裕子、木暮陽介、**代田浩之**、青木茂樹 流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討, SAMI2016、2016 年 7 月、東京(ポスター発表)
328. Maruyama M, Katou T, Morimoto R, Miyazaki S, M, Daimon M, Ohmura H, Amano A, **Daida H**. 腰部神経線維腫で経過観察中に、左室心尖部腫瘍を 指摘された一例, 日本心エコー図学会第 27 回学術集会 大阪 2016 年 4 月 22 日
329. Maruyama M, Katou T, Morimoto R, Miyazaki S, M, Daimon M, Ohmura H, Amano A, **Daida H**. 大動脈弁狭窄症患者における弁置換術施行例における術後心房細動発症に関わる因子の検討, 第 64 回日本心臓病学会学術集会 東京 2016 年 9 月 23 日
330. Kazunori Shimada, Takuma Yoshihara, Miho Nishitani-Yokoyama, Tomoyasu Kadoguchi, Eiryu Sai, Tomoyuki Shiozawa, Koji Akita, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida**, Anti-inflammatory Strategies for Preventing Cardiovascular Events, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
331. 高野明日香、岩田洋、大澤翔太、田村浩、磯田菊生、岡崎真也、宮内克己、天野篤、**代田浩之** , Higher Heart Rate Increases the Risk of Thrombocytopenia in Patients with Intra-Aortic Balloon Pump (IABP) counterpulsation, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
332. 設楽準、荻田学、宮内克己、和田英樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、**代田浩之** , Association between Sustained Increase of C-reactive Protein (CRP) and Long-term Mortality in Patients with Coronary Artery Disease Treated with PCI, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
333. 園田健人、荻田学、宮内克己、小西宏和、和田英樹、内藤亮、坪井秀太、土肥智貴、葛

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之、Impact of Lipoprotein (a) as Residual Risk on Clinical Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin after PCI, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
334. Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida, Clinical Features and Outcomes in the Elderly Following Percutaneous Coronary Intervention between 1985 and 2010, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
335. Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Takatoshi Kasai, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida, Prognostic Utility of Lipid Parameters or hs-CRP on Long-term Outcomes in Patients Undergoing PCI Treated with/without Statin Therapy, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
336. 小西宏和、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、内藤亮、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之、Lipoprotein(a) Predicts Long-term Cardiovascular Events in Patients after Percutaneous Coronary Intervention, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
337. 西山大樹、宮内克己、内藤亮、小西宏和、華藤芳輝、土肥智貴、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之、Impact of Glycemic Control on the Long-term Outcome in Patients after Percutaneous Coronary Intervention, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
338. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Koji Akita, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida, Angiotensin II-induced NAD(P)H Oxidase 4 Activation is Involved in Protein Degradation in Skeletal Muscle Cells, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
339. 清水孝史、宮内克己、土肥智貴、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、華藤芳輝、荻田学、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之、Body Mass Index and Long-term Clinical Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention: Results from the Juntendo PCI Registry, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
340. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Okabayashi, Yuko Ishii, Kazunori Shimada, Hiroyuki Daida, The Lack of IkBNS Accelerates Atherosclerosis in LDL Receptor-deficient Mice via Increased Interleukin-6 Production by Macrophages, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
341. 国内学会発表,94,,慢性腎臓病を有する糖尿病患者における第_世代の薬剤溶出性ステントと冠動脈バイパス術の予後_較,遠藤裕久、宮内克、和 英樹、_井信_郎、_宏和、内藤亮、坪井秀太、荻_学、_肥智貴、梶本完、葛_隆敏、_村浩、岡崎真也、磯_菊生、天野篤、代田浩之,CVIT2016・東京・平成 28 年 7 月 7-9 日
342. 門口 智泰、田村 浩、岡崎 真也、磯田 菊生、代田 浩之、経皮的冠動脈形成術施行患者における血清 1,5-anhydroglucitol 低下と心血管イベントとの関連、喜多村健一、島田 和典、高橋 秀平、宮内 克己、蔡 榮龍、宮崎 哲朗、塩澤 知之、大内 翔平、相

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 川 達郎、ハマド サーリム、第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14-15 日
343. 門口 智泰、島田 和典、塩澤 知之、高橋 秀平、Hamad Al Shahi、大内 翔平、相川 達郎、秋田 耕嗣、宮崎 哲朗、磯田 菊生、代田 浩之、骨格筋タンパク合成および分解調節における NAD(P)H oxidase 4 の役割の検討、第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14-15 日
344. 秋田 耕嗣、磯田 菊生、島田 和典、代田 浩之、IKBNS 欠損は LDL 受容体欠損マウスにおいてマクロファージの IL-6 産生増加を誘導し、動脈硬化を促進する、第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14-15 日
345. 磯 隆史、小西宏和、宮内克己、設楽準、和田英樹、内藤亮、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之、経皮的冠動脈形成術施行患者の予後と出血事象における ORBIT スコアの意義、第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
346. 園田健人、荻田学、宮内克己、小西宏和、坪井秀太、内藤亮、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之、Gender difference of lipoprotein (a) and long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease after percutaneous coronary intervention., 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
347. 内藤亮、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之、Synergistic effect of BMI and eGFR on all-cause mortality in the elderly following percutaneous coronary intervention, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
348. インターロイキン 1 受容体アンタゴニストはアンジオテンシン II 投与で喚起される動脈の炎症及び瘤形成を抑制する、秋田 耕嗣、磯田 菊生、代田 浩之、第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
349. 遠藤裕久、土肥智貴、宮内克己、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之、急性冠症候群発症の長期予後における BMI と性差の関連、第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
350. 門口 智泰、島田 和典、塩澤 知之、高橋 秀平、Hamad Al Shahi、大内 翔平、相川 達郎、秋田 耕嗣、磯田 菊生、宮崎 哲朗、代田 浩之、アンジオテンシン II に依存した酸化ストレスは骨格筋タンパク分解を引き起こす、第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
351. 高橋徳仁、磯田菊生、岩田 洋、秋田耕嗣、遠藤裕久、和田英樹、大内翔平、西山大樹、土井信一郎、華藤芳輝、土肥智貴、田村 浩、岡崎真也、諏訪 哲、宮内克己、代田 浩之、ベアメタルステント留置 13 年後に生じた超遅発性ステント血栓症の 1 例、第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
352. 国内学会発表、112、冠動脈疾患患者の長期予後における hs-CRP 値の性差について、西山大樹、土肥智貴、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之、第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
353. 高橋 秀平、島田 和典、宮内 克己、蔡 榮龍、宮崎 哲朗、塩澤 知之、大内 翔平、相川 達郎、Hamad Al Shahi、門口 智泰、田村 浩、岡崎真也、磯田 菊生、代田 浩之、経皮的冠動脈形成術施行患者における血清 1,5-anhydroglucitol 測定の意義、第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
354. 設楽 準、坪井秀太、宮内克己、荻田 学、葛西隆敏、土肥智貴、小西宏和、内藤 亮、

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之，冠動脈形成術後のスタチン内服患者における赤血球容積粒度分布幅(RDW)の有用性，第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
355. 和田英樹、荻田 学、宮内克己、設楽 準、遠藤裕久、土井信一郎、内藤 亮、小西宏和、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之，Gender difference in patients with statin therapy following percutaneous coronary intervention. 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
356. 川口 裕子、藤本 進一郎、高村 和久、比企 誠、須田 翔子、加藤 悦郎、石浦 純子、隈丸 加奈子、代田 浩之，高度石灰化症例における低被ばく Subtraction Coronary CTA の有効性の検討，第 26 回日本心血管画像動態学会、東京、2016. 1
357. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Makoto Hiki, Rie Matsumori, Yuuko Kawaguchi, Shoko Suda , Etsuro Kato, Kanako Kumamaru, Hirovuki Daida: The Usefulness of Low Radiation Dose Subtraction Coronary CT Angiography for Coronary Segments with Calcification and Stent., , The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, Japan 2016. 3
358. Yuko Kawaguchi, Shinichiro Fujimoto, Shoko Suda, Etsuro Kato, Rie Matsumori, Kazuhisa Takamura, Makoto Hiki, Kanako Kumamaru, Hirovuki Daida, Submillisievert Imaging Protocol Using Full Reconstruction and Advanced Patient Motion Correction in 320-row Area Detector CT Angiography. , The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, Japan 2016. 3
359. Etsuro Kato, Shinichiro Fujimoto, Yuko Kawaguchi, Rie Matsumori, Kazuhisa Takamura, Katsumi Miyauchi, Sweattkar Rani, Agarwal Mukta, Giannopoulos Andreas, Kanako Kumamaru, Rybicki Frank, Hirovuki Daida, Retrospective Evaluation of CT Angiography Transluminal Attenuation Gradient for the Detection of Compromised Fractional Flow Reserve, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, Japan 2016. 3
360. 李慶賢、隈丸加奈子、藤本進一郎、高村和久、川口裕子、木暮陽介、代田浩之、青木茂樹，流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討，SAMI2016、東京、2016.7
361. 李慶賢、藤本進一郎、隈丸加奈子、山田想、川口裕子、土肥智貴、高村和久、加藤悦郎、木暮陽介、青木茂樹、代田浩之，流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討，第 10 回 SCCT 研究会、東京、2016.9
362. 高村 和久、藤本進一郎、比企 誠、川口 裕子、加藤 悦郎、青島 千紘、隈丸 加奈子、代田 浩之，The usefulness of low radiation dose subtraction coronary CT angiography for patients with calcification using 320 ADCT, ,第 64 回日本心臓病学会学術集会，東京，2016. 9
363. 加藤 悦郎、藤本 進一郎、高村 和久、川口 裕子、青島 千紘、比企 誠、隈丸 加奈子、代田 浩之，冠動脈 CT による 1 回転撮影像から解析した Transluminal attenuation gradient (TAG)の意義.: 第 64 回日本心臓病学会学術集会，東京，2016. 9
364. 藤本 進一郎、高村和久、川口 裕子、加藤 悦郎、比企 誠、土肥 智貴、隈丸 加奈子、代田浩之，Development of comprehensive plaque evaluation by coronary CT angiography, 第 48 回日本動脈硬化学会学術集会，東京，2016.7 (シンポジウム)
365. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, Hirovuki Daida, Relationship between Blood Urea Nitrogen-to-Creatinine ratio at Hospital Admission and Long-term Post-discharge Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure,日本循環器学会、仙台、2016.3.19

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

366. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, **Hiroyuki Daida**, Relationship between Blood Urea Nitrogen-to-Creatinine ratio at Hospital Admission and Long-term Post-discharge Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure, 日本心臓病学会、東京、2016.9.25
- (形成外科)
367. The 13th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (2016/5/15-17, Kanazawa)
Tanaka R, Mizuno H, et al. Challenges of stem cell therapy clinical trial for non-healing extremity wounds. Efficacy and safety evaluation of QQc cultured ex vivo expanded peripheral blood stem cell therapy prior to clinical translation.
368. 第 59 回日本形成外科学会総会・学術集会 (2016/4/13-15、福岡)
田中里佳、水野博司、et al.
 再生新法下における難治性潰瘍に対する次世代血管再生治療の研究再開までの道のりと今後の展望(シンポジウム)
369. 第 8 回日本下肢救済・足病学会学術集会 (2016/5/27-28, 虎ノ門)
 門 真起子、**田中里佳、水野博司**、et al.
 細胞治療が担う創傷治癒の役割(シンポジウム)
370. 20th Annual Scientific Meeting of Indonesian Association of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgeons (2016/5/26-28, Makassar, Indonesia)
Hiroshi Mizuno. The future of adipose-derived stem cells in plastic surgery
Rica Tanaka. Vascular Stem Cells Therapy for Tissue Regeneration. (シンポジウム)
Rica Tanaka. Instructional Course on Stem-Cell. Instructional Course,
Rica Tanaka. Introduction to Bone Marrow Drived Stem Cells
Rica Tanaka. Harvesting and Isolation of Bone Marrow Stem Cells
Rica Tanaka. Clinical Application of Bone Derived Marrow Stem Cells
371. First Indonesian International Stem Cells Conference (2016/5/28-29, Makassar, Indonesia)
Rica Tanaka. Clinical Application of Bone Derived Marrow Stem Cells
372. The 1st Makassar International Conference on Stem Cells and Regenerative Medicine (2016/5/28-29, Makassar, Indonesia)
Hiroshi Mizuno. Role of adipose derived stem cells in tissue repair and regeneration
373. 3rd Chinese Academic Conference On Adipose Plastic Surgery & Symposium On Adipose Transplantation (2016, Shanghai, Republic of China)
Hiroshi Mizuno. My 15 years experiences with adipose-derived stem cells.
374. ISSCR 2016 (2016/6/22-25, San Francisco)
Rica Tanaka. Efficacy and safety evaluation of QQc cultured ex VIVO expanded peripheral blood stem cell therapy prior to clinical translation
375. 1st Congress of Diabetic Limb Salvage in Asia (2016/7/8-9, Seoul, Korea)
Rica Tanaka, Hiroshi Mizuno, et al.
 Next Generation Autologous Vascular Stem Cell Therapy for Diabetic Limb Salvage. (シンポジウム)
376. 第 8 回日本創傷外科学会総会・学術集会 (2016/7/21-22、東京)
田中里佳、水野博司、et al
 細胞再生治療の奥義: 実用化を見据えた技術の確立 (パネルディスカッション)
377. 第 25 回日本形成外科学会基礎学術集会 (2016/9/15-16、大阪)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 田中里佳、水野博司、et al.
血管再生治療が担う血管形成の役割とその限界 (パネルディスカッション)
門 真起子、田中里佳、水野博司、et al.
糖尿病皮膚組織 Macrophage 活性異常による創傷治癒遅延分子メカニズムの解明
萩原 裕子、田中里佳、水野博司、et al.
血管内皮前駆細胞を含む末梢血単核球の微小重力環境下における培養法の確立
平野 理恵、田中里佳、水野博司、et al.
無血清体外培養増幅膠原病マウス血管内皮前駆細胞の機能解析
Maxim Geeroms, Rica Tanaka, Hiroshi Mizuno, et al.
Effect of quality and quantity control cultured murine EPCs in fat grafting.
藤村 聡、田中里佳、向後泰司、水野博司
形成外科領域における再生医療臨床研究の新法対応～その対策と課題
田島聖士、田中里佳、水野博司、et al.
組織再生修復における脂肪組織幹細胞の直接的効果と間接的効果
378. ASPS 2016 (2016/9/23-27, LA, USA)
Rica Tanaka. New Generation Peripheral Blood Stem Cell Therapy for Non-healing Extremity Wounds. (パネルディスカッション)
379. 第 64 回日本心臓病学会(2016/9/23-24、東京)
門真起子、田中里佳、有田佳代、藤村 聡、向後泰司、水野博司
CLI に対する次世代型血管・組織再生治療の開発 (パネルディスカッション)
380. 第 31 回日本臨床リウマチ学会 (2016/10/29-30、東京)
田中里佳、平野 理恵、播野 裕子、有田 佳代、藤村 聡、水野博司
難治性四肢潰瘍を対象とした新・血管組織再生治療の開発(シンポジウム)
381. 第 21 回日本臨床毛髪学会学術集会(2016/11/26-27、横浜)
田中里佳、藤村 聡、水野博司
再生医療臨床研究の新法対応～その対策と課題(招待講演)
382. 第 16 回日本再生医療学会総会(2017/ 3/7-3/9、仙台)
田中里佳、藤村 聡、有田佳代、萩原裕子、平野理恵、門真起子、水野博司
難治性四肢潰瘍患者を対象とした新規血管・組織再生治療法の開発(シンポジウム)
萩原裕子、田中里佳、東端 晃、小川志保、金澤成行、水野博司
血管内皮前駆細胞の培養効率化を目指した微小重力環境下生体外増幅培養法の確立
Geeroms M, Tanaka R, Moustapha H and Mizuno H.
QQc cultured endothelial progenitor cells (EPC) improve the fat graft vascularization and survival.
平野理恵、田中里佳、萩原裕子、播野裕子、水野博司
膠原病マウス無血清生体外増幅培養血管内皮前駆細胞の機能解析
田中里佳
アカデミアにおける再生医療研究開発の現状と対策(ランチオンセミナー)
383. 第 60 回日本形成外科学会総会・学術集会(2017/ 4/12-4/14、大阪)
田中里佳
下肢救済における次世代の血管・組織再生治療(シンポジウム)
384. PRSC 2017(2017/ 5/4-5/7、アメリカ)
Maxim Geeroms, Moustapha Hamdi, Hiroshi Mizuno, Rica Tanaka
Serum-free Ex Vivo Quality and Quantity Cultured Endothelial Progenitor Cells Improve the Fat Graft Vascularization and Survival.
Hiroko Hagiwara, Akira Higashibata, Shiho Ogawa, Shigeyuki Kanazawa, Hiroshi

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Mizuno, Rica Tanaka**
Quality and Quantity Control Cell Culture with Microgravity increases CD34-positive fraction and angiogenic potential of endothelial progenitor cells.
385. European Chapter Meeting of the Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society 2017(2017年 スイス)
Hiroko Hagiwara, Akira Higashibata, Shiho Ogawa, Shigeyuki Kanazawa, **Hiroshi Mizuno, Rica Tanaka**
Quality and quantity control cell culture with microgravity for to enhance vasculogenesis of peropheral blood endothelial progenitor cells.
386. 第 26 回形成外科学会基礎学術集会(2017/ 10/19-10/2、大阪)
田中里佳, 梅山悠伊、萩原裕子、平野理恵、藤村 聡、小川 令、**水野博司**
ケロイド患者末梢血における血管内皮前駆細胞の機能評価
田中里佳, 沈 燕、門真起子、柿沼裕介、金澤成行、**水野博司**
糖尿病性潰瘍におけるシグナルトランスダクション障害の解明(パネルディスカッション)
門真起子, **田中里佳**、有田佳代、金澤成行、萩原裕子、**水野博司**
MNC-QQ 細胞のもたらす創傷治癒促進効果の解明
387. 第 47 回日本創傷治癒学会(2017/10/19-10/2、京都)
田中里佳, 門真起子、柿沼裕介、平野理恵、藤村聡、**水野博司**
末梢血 MNC-QQ 細胞移植がもたらす創傷治癒学の未来(シンポジウム)
門真起子, **田中里佳**、有田佳代、金澤成行、萩原裕子、**水野博司**
末梢血単核球無血清生体外培養細胞の In vitro における創傷治癒促進効果
金澤成行, 藤原貴史、馬込卓弥、市堀涼子、谷川智子、富田興一、久保盾貴、**田中里佳**、**水野博司**、細川瓦
アルギニン(アミノ酸)の繊維芽細胞増殖作用のシグナル
388. 10th Juntendo University in collaboration with 17th Mae Fah Luang International Conference in Dermatology Aesthetic Dermatology and Anti Aging Medicine (Bangkok, Thailand, 2018)
Mizuno H
Recent trends of adipose derived stem cells for skin restoration, repair and Regeneration (招待講演)
389. 1st Annual Scientific Meeting of REJASELINDO (Surakarta, Indonesia, 2018)
Mizuno H
Mechanism of adipose-derived stem cells in regenerative medicine (招待講演)
Fat grafting in plastic and regenerative surgery (招待講演)
390. 第 41 回日本美容外科学会総会(2018年 東京)
水野博司、山下理絵、宮田成章、林 寛子
再生医療等製品および細胞増殖因子を用いた注入療法の現状調査結果(シンポジウム)
391. 第 16 回日本フットケア学会年次学術集会(2018/2/9-2/11、福岡)
田中里佳
下肢救済に挑む再生医療の可能性(シンポジウム)
播野裕子, **田中里佳**、華藤 芳輝、田村 浩、**水野博司**
当院における重症下肢虚血患者の下肢大切断症例の検討
392. 第 17 回日本再生医療学会総会(2018/3/21-3/23、横浜)
田中里佳, 藤村聡、有田佳代、**水野博司**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

順天堂大学における細胞調製施設運営の現状と課題(シンポジウム)

田中里佳, 門真起子、有田佳代、萩原裕子、柿沼祐介、平野理恵、藤村聡、**水野博司**

難治性潰瘍患者に対する四肢救済を目的とした新規血管・組織再生治療法の開発(シンポジウム)

萩原裕子, **田中里佳**、東端晃、小川志保、金澤成行、**水野博司**

微小重力環境が血管内皮前駆細胞に及ぼす影響と効果の検証

門真起子, **田中里佳**、有田佳代、金澤成行、萩原裕子、**水野博司**

末梢血単核球無血清生体外培養細胞のもたらす創傷治癒促進効果の検証

393. Diabetic Limb Salvage Conference 2018(2018/4/5-7、ワシントン DC)

Rica Tanaka

Stem Cells and Wound Healing: Are We There Yet?(招待講演)

394. 第 61 回日本形成外科学会総会・学術集会(2018/4/11-13、博多)

田中里佳、門真起子、有田佳代、藤村聡、**水野博司**

重症虚血肢に対する再生医療による血流と QOL リカバリーの可能性(シンポジウム)

395. 2nd DSL in Asia(2018/7/6-7/7、ソウル)

Rica Tanaka, Taro Fukuta, Satoshi Fujimura, Kayo Arita, Rie Hirano, **Hiroshi Mizuno**

Future of Stem Cell Therapy for Diabetic Limb Salvage. Cell Therapy in Diabetic Foot(シンポジウム)

396. Topic 2018(2018/7/12-7/14、東京)

Rica Tanaka

血管新生への期待

397. 第 10 回日本下肢救済・足病学会学術集会(2018/7/13-14、札幌)

田中里佳

慢性創傷の定義、創傷治癒の定義、既存治療とは何をさすか

398. 第 5 回国際組織工学・再生医療学会 世界会議 2018(2018/9/4-9/7、京都)

Rica Tanaka, Taro Fukuta, Satoshi Fujimura, Kayo Arita, Rie Ito-Hirano, **Hiroshi Mizuno**

Phase 1 Clinical trial of Autologous Quality and Quantity Cultures vascular and tissue regenerative cell therapy for Chronic Non-Healing Limb Ulcer(シンポジウム)

Hiroko Hagiwara, Akira Higashibata, Shiho Ogawa, Shigeyuki, Kanazawa, **Hiroshi**

Mizuno, Rica Tanaka

Simulated microgravity promotes the angiogenic potential of endothelial progenitor cells in a quality- and quantity-control cellculture system

Mizuno H

“Plastic and Regenerative Surgery”: historical review and state-of-the-art clinical science(シンポジウム)

399. 第 15 回フットケア学術セミナー(2018/10/13、函館)

田中里佳、福田太郎、**水野博司**

Blue toe における細胞治療による血管・組織再生治療の可能性(シンポジウム)

400. 第 27 回日本形成外科学会基礎学術集会(2018/10/18-19、東京)

田中里佳

培養末梢血単核球製剤を用いた難治性潰瘍の製品開発(シンポジウム)

萩原裕子, **田中里佳**、金澤成行、東端晃、小川志保、**水野博司**

微小重力環境下生体外血管内皮前駆細胞増幅培養は CD34 陽性細胞数と血管再生能を向上させる

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

401. PRS Korea 2018(2018/11/9-11/11、ソウル)
Rica Tanaka, Tsubame Nishikai-Yan Shen, Rie Hirano, Yusuke Kakinuma, Taro Fukuta, Hiroshi Mizuno
 Mechanisms of wound healing and vascular regeneration by Peripheral blood Quality and Quantity cultured mononuclear cell therapy(シンポジウム)
Rica Tanaka, Taro Fukuta, Satoshi Fujimura, Kayo Arita, Rie Hirano, Hiroshi Mizuno
 Stem cell therapy on chronic wounds(シンポジウム)
402. Conference of Stem Cell Research in Chinese Plastic Surgery(2018/11/10-12、Shenzhen)
Rica Tanaka
 Next generation vascular and tissue generation therapy(シンポジウム)
403. 第 48 回日本創傷治癒学会(2018/11/29-11/30、東京)
田中里佳、西貝燕、柿沼祐介、平野理恵、藤村 聡、水野博司
 糖尿病における皮膚再生の破綻メカニズム及び細胞移植による修復機構(ワークショップ)
 福田太郎、田中里佳、有田佳代、藤村聡、市川佑一、新行内芳明、水野博司
 難治性四肢潰瘍に対する生体外培養自己末梢血単核球を用いた血管再生治療(ワークショップ)
404. 第 13 回癬痕・ケロイド治療研究会(2018/12/1、東京)
田中里佳、梅山悠伊、萩原裕子、平野理恵、藤村聡、小川令、水野博司
 ケロイド患者末梢血における血管内皮前駆細胞に機能評価(シンポジウム)
405. 第 18 回日本再生医療学会総会(2019/3/21-3/23、神戸)
田中里佳、藤村聡、福田太郎、有田佳代、平野理恵、水野博司
 アカデミアで行う臨床研究のメリットと治験への橋渡し(シンポジウム)
田中里佳、福田太郎、有田佳代、平野理恵、藤村聡、水野博司
 虚血性潰瘍に対する新規細胞・再生治療の開発(シンポジウム)
- (生化学第 2)
406. 鈴木香, 大熊真理, 長岡功: 老化血管内皮細胞における LPS 炎症応答の増幅効果. 第 92 回日本細菌学会総会, 北海道札幌市, Apr 23-25, 2019.
407. 長岡功: 機能性食品の軟骨代謝に及ぼす影響. 日本農芸化学会 2019 年度大会, 東京都世田谷区, Mar 26, 2019.(招待講演)
408. 長岡功: 機能性食品のアスリートの軟骨代謝に及ぼす影響. 第 15 回ファンクショナルフード学会学術集会抄録集, 10, 第 15 回ファンクショナルフード学会学術集会, 東京都千代田区, Jan 5, 2019. (招待講演)
409. 長岡功: 宿主細胞の細胞死に注目した、抗菌ペプチド LL-37 の敗血症マウスモデルに対する効果. 第 33 回日本 Shock 学会総会, 東京都千代田区, June 30, 2018.(招待講演)
410. 熊谷由美, 村上泰介, 榎原京子, Reich Johannes, 田村弘志, 長岡功: 抗菌ペプチド LL-37 による好中球細胞外小胞(エクソソーム)の産生を介したマウス敗血症の病態改善. 第 24 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 一般演題 33, 神奈川県横浜市, Dec 1, 2018.
411. 熊谷由美, 村上泰介, 榎原京子, 射場敏明, 長岡功: 好中球細胞外小胞の産生を介した LL-37 によるマウス敗血症の病態改善. 第 101 回日本細菌学会関東支部総会 講演要旨集, 54, 東京都港区, Nov 2, 2018.
412. Kumagai Y, Murakami T, Reich J, Tamura H, Nagaoka I: Human cathelicidin peptide LL-37 ameliorates sepsis in a mouse model through induction of microparticles with

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- antibacterial potential from neutrophils. 2018 Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology & the International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract 90, Phoenix, Oct 16, 2018.
413. Murakami T, Suzuki K, Niyonsaba F, Reich J, Tamura H, **Nagaoka I**: MrgX2-mediated internalization of LL-37 and degranulation of human LAD2 mast cells. 2018 Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology & the International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract 114, Phoenix, Oct 16, 2018.
414. 鈴木香, 大熊真理, **長岡功**: ヒト抗菌ペプチド LL-37 による血管内皮細胞のオートファジーと細胞死に対する作用. 第 91 回日本生化学会大会 プログラム 2P-297, 京都府京都市, Sep 25, 2018.
415. 村上泰介, 森林叔子, 鈴木香, **長岡功**: Mas-related gene X2 を介した、マスト細胞への抗菌ペプチド LL-37 細胞内移行と脱顆粒応答. 第 91 回日本生化学会大会 プログラム 3P-033, 京都府京都市, Sep 26, 2018.
416. 熊谷由美, Li Yan, 村上泰介, 田村弘志, **長岡功**: Antimicrobial peptide LL-37 induces microparticle release from neutrophils in a mouse sepsis model. 第 91 回日本細菌学会総会 プログラム集 P-347, 福岡県福岡市, Mar 27-28, 2018.
417. 鈴木香, 大熊真理, **長岡功**: ヒト抗菌ペプチド LL-37 による血管内皮細胞のオートファジー誘導. 第 91 回日本細菌学会総会 プログラム集 P-350, 福岡県福岡市, Mar 27-28, 2018.
418. Li Yan, 熊谷由美, 鈴木香, **長岡功**: Analysis of the components of neutrophil-derived microparticles with antibacterial activity. 第 91 回日本細菌学会総会 プログラム集 P-354, 福岡県福岡市, Mar 27-28, 2018.
419. 村上泰介, 鈴木香, **長岡功**: Involvement of MrgX2-mediated LL-37 internalization in degranulation of human mast cells. 第 91 回日本細菌学会総会 プログラム集 P-356, 福岡県福岡市, Mar 27-28, 2018.
420. 細田浩司, 中村果歩, 胡忠双, 田村弘志, **長岡功**: 抗菌ペプチド LL-37 は NET 形成を誘導して敗血症マウスモデルの生存率を改善する. 第 64 回トキシシンポジウム予稿集, 92-96, 神戸, Jul 12, 2017. (招待講演)
421. **長岡功**, 細田浩司, 中村果歩, 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志: NETs 形成に注目した、抗菌ペプチド LL-37 の敗血症マウスモデルに対する効果の検討. 第 23 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 一般演題 4-2, 兵庫県西宮市, Dec 2, 2017.
422. 鈴木香, **長岡功**: ヒト抗菌ペプチド LL-37 は血管内皮細胞のオートファジーを活性化する. 第 4 回日本血管血流学会学術集会 プログラム, 14, 東京都世田谷区, Nov 26, 2017.
423. 鈴木香, **長岡功**: ヒト抗菌ペプチド LL-37 による肝類洞内皮細胞の LPS 取り込み促進作用. 第 100 回日本細菌学会関東支部会総会 プログラム・抄録集, 29, 東京都板橋区, Sep 29, 2017.
424. Murakami T, Suzuki K, **Nagaoka I**: Involvement of MrgX2 in the internalization of LL-37 and degranulation of LAD2 human mast cells. Society for Leukocyte Biology 50th Annual Meeting, Poster Program Abstract 40, Vancouver, Oct 7, 2017.
425. **Nagaoka I**, Hosoda H, Hu Z, Nakamura K, Murakami T, Tamura H, Reich J: Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 protects septic mice by modulating macrophage pyroptosis and neutrophil NETosis. Society for Leukocyte Biology 50th Annual Meeting, Poster Program Abstract 59, Vancouver, Oct 6, 2017.
426. 鈴木香, **長岡功**: ヒト抗菌ペプチド LL-37 は血管内皮細胞にオートファジーを誘導する.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 第 64 回トキシシンポジウム予稿集, 9, 神戸, Jul 10, 2017.
427. 村上泰介, 長岡功: 抗菌ペプチド LL-37 によるマスト細胞脱顆粒. 第 64 回トキシシンポジウム予稿集, 9, 神戸, Jul 10, 2017.
428. 細田浩司, 中村果歩, 胡忠双, 李燕, 田村弘志, 長岡功: 抗菌ペプチド LL-37 は NET 形成を増加させマウス CLP 敗血症モデルの生存期間を延長する. 日本細菌学雑誌 72: 148, 第 90 回日本細菌学会総会, 仙台, Mar 19-20, 2017.
429. 村上泰介, 鈴木香, 長岡功: Involvement of Mas-related genes X2 in the internalization of LL-37 into mast cells. 日本細菌学雑誌 72: 151, 第 90 回日本細菌学会総会, 仙台, Mar 19-20, 2017.
430. 鈴木香, 田村弘志, 長岡功: ヒト抗菌ペプチド LL-37 は血管内皮細胞にオートファジーを誘導する. 日本細菌学雑誌 72: 157, 第 90 回日本細菌学会総会, 仙台, Mar 19-20, 2017.
431. 鈴木香: エンドトキシンによる宿主細胞応答に対する生体防御ペプチドの制御機構. 第 22 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 最優秀賞受賞講演, 鹿児島, Dec 3, 2016. (受賞講演)
432. 長岡功, 胡忠双, 鈴木香: 敗血症の基礎研究の最前線 – 生体防御ペプチドの働きと敗血症治療への応用. 第 42 回日本熱傷学会総会・学術集会・教育講演, プログラム・抄録集 48, 浦安, Jul 3, 2016.(教育講演)
433. Hu Z, Suzuki K, Murakami T, Reich J, Tamura H, Nagaoka I: Neutrophil extracellular traps (NETs) induces the IL-1 β production by macrophages in combination with lipopolysaccharide. 14th Biennial Meeting International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract book PO 17, Hamburg, Sept 23, 2016.
434. Suzuki K, Murakami T, Nagaoka I: The mechanism for a cathelicidin peptide LL-37-mediated LPS uptake by liver sinusoidal endothelial cells. 14th Biennial Meeting International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract book PO 63, Hamburg, Sept 24, 2016.
435. 村上泰介, 鈴木香, 森林淑子, 長岡功: 抗菌ペプチド LL-37 によるマスト細胞の活性化機序. 第 89 回日本生化学会大会 プログラム 3P-036, 仙台, Sep 27, 2016.
436. Hu Zhongshuang, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功: Neutrophil extracellular traps (NETs) induces the IL-1 β production by macrophages. 日本細菌学雑誌 71: 150, 第 89 回日本細菌学会総会, 大阪, Mar 2016.
437. Nagaoka I, Hu Z, Suzuki K, Tamura H: Potential effects of human antimicrobial peptide LL-37 on macrophage pyroptosis and sepsis 第 88 回日本薬理学会年会, プログラム S1F-15-4, 名古屋, Mar 2015.(特別講演)
438. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I: NETs (neutrophil extracellular traps) induces the the IL-1 β production by macrophages. 第 21 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 21, 東京, Dec 2015.
439. 胡忠双, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功: マクロファージ系細胞における IL-1 β 産生に対する NETs (neutrophil extracellular traps) の作用. 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会合同大会 プログラム 3P1132, 神戸, Dec 2015.
440. 鈴木香, 村上泰介, 胡忠双, 長岡功: 肝類洞内皮細胞による血液浄化作用に対するヒト生体防御ペプチド LL-37 の効果. 第 2 回日本血管血流学会学術集会. 抄録集, 14, 東京, Nov 2015.
441. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I: The role of NETs (neutrophil extracellular traps) in the IL-1 β production by macrophages. 第 98 回日本細菌学会関東支部会総会プログラム・抄録集 41, 東京, Oct 2015.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

442. Suzuki K, Murakami T, Moribayashi T, **Nagaoka I**: A novel mechanism for the human host defense peptide LL-37-Induced mast cell degranulation. 48Th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology –Immunity in Health and Disease, Abstract book 17, Raleigh, Sep 2015.
443. Murakami T, Hu Z, Suzuki K, Tamura H, **Nagaoka I**: Mechanism for the lipopolysaccharide-induced release of high mobility group nucleosome-binding domain-1 from murine macrophage like RAW264.7. 48Th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology –Immunity in Health and Disease, Abstract book 85, Raleigh, Sep 2015.
444. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, **Nagaoka I**: NETs (neutrophil extracellular traps) induce IL-1 β production by macrophages in the presence of lipopolysaccharide. 48Th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology –Immunity in Health and Disease, Abstract book 115, Raleigh, Sep 2015.
445. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, **長岡功**: NETs (Neutrophil extracellular traps) と LPS による共刺激がマクロファージからの IL-1 β 放出を誘導する. 第 62 回トキシシンポジウム予稿集, 11, 志摩, Jul 2015.
446. 細田浩司, 胡忠双, 田村弘志, **長岡功**: 炎症増強因子 TREM-1 のリガンド同定の試み. 第 62 回トキシシンポジウム予稿集, 11, 志摩, Jul 2015.
447. 鈴木香, 村上泰介, **長岡功**: ヒト抗菌ペプチド LL-37 によるかゆみ誘発 (マスト細胞の活性化). 第 62 回トキシシンポジウム予稿集, 15, 志摩, Jul 2015.
448. 村上泰介, 田村弘志, **長岡功**: LPS 刺激 RAW264.7 細胞からの HMGN1 の放出機序. 第 26 回日本生体防御学会学術総会 講演抄録集 55, 東京, Jul 2015.
449. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, **Nagaoka I**: The role of NETs (neutrophil extracellular traps) in the IL-1 β production by macrophages. 第 26 回日本生体防御学会学術総会 講演抄録集 54, 東京, Jul 2015.
450. 鈴木香, 田村弘志, **長岡功**: Cell surface HS proteoglycans mediate the uptake of antimicrobial peptide LL-37-LPS complex by LSECs. 日本細菌学雑誌 70: 231, 第 88 回日本細菌学会総会, 岐阜, Mar 2015.
451. 胡忠双, 鈴木香, 田村弘志, **長岡功**: NETs (neutrophil extracellular traps) induce the IL-1 β production by macrophages. 日本細菌学雑誌 70: 232, 第 88 回日本細菌学会総会, 岐阜, Mar 2015.
452. 鈴木香, 村上泰介, 胡忠双, 細田浩司, **長岡功**: Cathelicidin ファミリーの抗菌ペプチド LL-37 によるエンドトキシン除去作用. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 45, 東京, Dec 2014.(招待講演)
453. **長岡功**: 機能性ペプチド(特に生体防御ペプチド)の構造と多様性. ペプチド研究の新潮流. “未来へのバイオ技術”勉強会. バイオインダストリー協会 (JBA) バイオセミナーシリーズ. 東京, Nov 2014.(特別講演)
454. **長岡功**, 鈴木香: ヒト抗菌ペプチド LL-37 による血管内皮細胞の LPS に対する反応性の制御. 第 1 回日本血管血流学会学術集会. 抄録集, 3, 東京, Nov 2014.(招待講演)
455. Suzuki K, Hu Z, Tamura H, **Nagaoka I**: Human host defense peptide LL-37 enhances the LPS uptake by endothelial cells without cell activation: a possible role in the LPS clearance. Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology and the International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract book S25, Salt Lake City, Oct 2014.(招待講演)
456. 鈴木香, 胡忠双, 田村弘志, **長岡功**: 血管内皮細胞による LPS の取り込みに対するヒト抗菌ペプチド LL-37 の促進作用. 第 61 回トキシシンポジウム予稿集, 68-72, 鳴門,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Sep 2014.(招待講演)

457. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, **長岡功**: 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージのピロトーシス制御. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 22, 東京, Dec 2014.
458. 多田浩之, 松下健二, **長岡功**, 高田春比古: Porphyromonas gingivalis ジンジパインは IL-33 誘導を介してヒト歯肉上皮細胞の CAP18/LL-37 産生をダウンレギュレーションする. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 52, 東京, Dec 2014.
459. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, **Nagaoka I**: Antimicrobial peptide LL-37 inhibits pyroptosis of macrophages and protects sepsis in a murine model. Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology and the International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract book S57, Salt Lake City, Oct 2014.
460. 細田浩司, 田村弘志, **長岡功**: C/EBP 転写調節遺伝子群によるヒト単球・マクロファージ系細胞における TREM-1 の転写制御. 生化学 86: 187, 第 87 回日本生化学会大会, 京都, Oct 2014.
461. 村上泰介, 田村弘志, **長岡功**: LPS 刺激によるマクロファージ細胞からの HMGN1 の放出機構. 生化学 86: 188, 第 87 回日本生化学会大会, 京都, Oct 2014.
462. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, **長岡功**: 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージの細胞死ピロトーシスの制御. 第 61 回トキシンシンポジウム予稿集, 41-43, 鳴門, Sep 2014.
463. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, **長岡功**: マクロファージの pyroptosis に対する抗菌ペプチド LL-37 の効果. 第 23 回日本 Cell Death 学会学術集会プログラム・抄録集: 59, 東京, Jul 2014.
464. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, **Nagaoka I**: The effects of LL-37 on the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages and a murine sepsis model. 日本細菌学会雑誌 69: 137, 第 87 回日本細菌学会総会, 東京, Mar 2014.
465. Suzuki K, **Nagaoka I**: Antimicrobial peptide LL-37 enhances the LPS uptake without cell activation in endothelial cells. 日本細菌学会雑誌 69: 185, 第 87 回日本細菌学会総会, 東京, Mar 2014.
466. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, **Nagaoka I**: The effects of antimicrobial peptide LL-37 on the pyroptosis of macrophages and a polymicrobial sepsis model. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 58, Tokyo, Mar 2014.
467. Suzuki K, Tamura H, **Nagaoka I**: Human antimicrobial peptide LL-37 enhances the LPS uptake without cell activation in endothelial cells. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 59, Tokyo, Mar 2014.
468. Murakami T, Tamura H, **Nagaoka I**: Characterization of release mechanism of HMGN1, an alarmin, from LPS-stimulated RAW264.7 cells. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 64, Tokyo, Mar 2014.
469. Hosoda H, Tamura H, **Nagaoka I**: Regulation of TREM-1 gene expression in LPS-stimulated human monocytes/macrophages. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 65, Tokyo, Mar 2014.

(免疫学)

470. Tanabe Y, Akiba H, Harada N, Matsuno K, Ito J, Takahashi K, **Miyake S**: Circulating levels of soluble TIM-4 in the patients with asthma. 第 47 回日本免疫学会学術集会,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 2018(12月・福岡)
471. Hoshino Y, Noto D, Yokoyama K, Hattori N, Miyake S: Immunophenotyping of PMBC from patients with multiple sclerosis and neuromyelitis optica spectrum disorder. 第 47 回日本免疫学会学術集会, 2018 (12月・福岡)
472. Nomura A, Noto D, Murayama G, Chiba A, Miyake S: Expansion of TLR7 expressing monocyte derived cells in imiquimod-induced lupus model. 第 47 回日本免疫学会学術集会, 2018 (12月・福岡)
473. Murayama G, Chiba A, Makiyama A, Yamaji K, Tamura N, Miyake S: Enhanced TLR7 and STING pathways in systemic lupus erythematosus. 第 47 回日本免疫学会学術集会, 2018 (12月・福岡)
474. Makiyama A, Chiba A, Murayama G, Yamaji K, Tamura N, Miyake S: Expansion of peripheral helper T cell are associated with disease activity and B cell differentiation in systemic lupus erythematosus. 第 47 回日本免疫学会学術集会, 2018 (12月・福岡)
475. Chiba A, Murayama G, Mizuno T, Amano H, Hirose S, Yamaji K, Tamura N, Miyake S: MAIT cells as a new therapeutic target for systemic lupus erythematosus. 第 47 回日本免疫学会学術集会, 2018 (12月・福岡)
476. 牧山彩子、千葉麻子、村山豪、山路健、田村直人、三宅幸子. 全身性エリテマトーデス患者における peripheral helper T 細胞の解析. 第 46 回日本臨床免疫学会総会, 2018 (11月・軽井沢)
477. 村山豪、千葉麻子、水野智弘、天野浩史、廣瀬幸子、山路健、田村直人、三宅幸子. 全身性エリテマトーデス新規治療標的としての MAIT 細胞. 第 46 回日本臨床免疫学会総会, 2018 (11月・軽井沢)
478. 村山豪、千葉麻子、牧山彩子、山路健、田村直人、三宅幸子. 全身性エリテマトーデスにおける I 型インターフェロン過剰産生機構の解析. 第 46 回日本臨床免疫学会総会, 2018 (11月・軽井沢)
479. 三宅幸子: 腸内細菌叢による炎症修飾. 第 46 回日本臨床免疫学会総会 (招待講演), 2018 (11月・軽井沢)
480. 三宅幸子: 腸内環境と中枢神経炎症. 第 37 回日本認知症学会学術集会(招待講演), 2018 (10月・札幌)
481. 能登大介、星野泰延、陈通、水野美歩、三宅幸子. Gut microbiota and their metabolites affect cuprizone-induced demyelination. 第 59 回日本神経学会学術大会, 2018 (5月・札幌)
482. 星野泰延、能登大介、横山和正、Davide Cossu、服部信孝、三宅幸子. 多発性硬化症と視神経脊髄炎患者の末梢血におけるリンパ球サブセットの解析. 第 59 回日本神経学会学術大会, 2018 (5月・札幌)
483. 三宅幸子: SLEの基礎研究. Lupus Erythematosus Expert Meeting (招待講演), 2018 (5月・東京)
484. 三宅幸子: 腸内細菌と自己免疫疾患. 第 14 回城南地区リウマチ研究会(招待講演), 2018 (5月・東京)
485. 三宅幸子: 自然リンパ球と自己免疫疾患. 第 43 回大阪リウマチカンファレンス(招待講演), 2018 (4月・東京)
486. 松崎紘佑、小川文昭、三宅幸子. プロテオーム解析から HLA-B27 の機能を探る. 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2018 (4月・東京)
487. 村山豪、千葉麻子、天野浩文、山路健、田村直人、三宅幸子. ループモデルにおける MAIT 細胞に関する解析. 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2018 (4月・東

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 京)
488. 村山豪、千葉麻子、山路健、田村直人、三宅幸子. 全身性エリテマトーデスpDCの interferon- α 過剰産生とTLR7の局在変化. 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2018(4月・東京)
 489. 牧山彩子、千葉麻子、村山豪、山路健、田村直人、三宅幸子. 全身性エリテマトーデス患者における peripheral helper T細胞(TPH)の解析. 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2018(4月・東京)
 490. 村山豪、千葉麻子、牧山彩子、山路健、田村直人、三宅幸子. 全身性エリテマトーデスにおける STING 経路を介した骨髄系細胞の interferon- α 産生増加. 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2018(4月・東京)
 491. 三宅幸子: Tissue specific immune-regulation. 第46回日本免疫学会学術集会(招待講演), 2017(12月・仙台)
 492. Chiba A, Kamei M, Nagaishi T, Haga K, Miyake S: MAIT cells exacerbate the disease course of oxazolone colitis. 第46回日本免疫学会学術集会, 2017(12月・仙台)
 493. Murayama G, Chiba A, Amano H, Yamaji K, Tamura N, Miyake S: Role of Mucosal-associated invariant T cells in lupus pathogenesis. 第46回日本免疫学会学術集会, 2017(12月・仙台)
 494. Kamei M, Chiba A, Nagaishi T, Haga K, Miyake S: MAIT cells exacerbate the disease course of oxazolone colitis. 第46回日本免疫学会学術集会, 2017(12月・仙台)
 495. Nomura A, Noto D, Murayama G, Chiba A, Miyake S: Comparative analysis of neuroinflammation in Lupus-prone mice. 第46回日本免疫学会学術集会, 2017(12月・仙台)
 496. Isshiki T, Akiba H, Nakayama M, Harada N, Okumura K, Miyake S: Anti-TIM3 treatment exacerbates pulmonary inflammation and fibrosis in mice. 第46回日本免疫学会学術集会, 2017(12月・仙台)
 497. 小川文昭、三宅幸子. ミクログリアはミエリン-シナプスそれぞれの貪食時に異なる反応性を示す. 2017年度生命科学系学会合同年次大会, 2017(12月・神戸)
 498. 三宅幸子: 腸管免疫についての概説. 第21回日本適応医学会学術集会(招待講演), 2017(12月・東京)
 499. 三宅幸子: リウマチ治療薬を使いこなすための免疫学. 第21回田園都市リウマチフォーラム(招待講演), 2017(10月・横浜)
 500. 星野泰延、能登大介、横山和正、コッスダビデ、服部信孝、三宅幸子. 多発性硬化症・視神経脊髄炎患者の末梢血における骨髄系細胞の解析. 第29回日本神経免疫学会学術集会, 2017(10月・札幌)
 501. 村山豪、千葉麻子、山路健、田村直人、三宅幸子. ループモデルにおける MAIT 細胞の解析. 第45回日本臨床免疫学会総会, 2017(9月・東京)
 502. 三宅幸子: 腸内細菌と炎症性疾患について. 第25回相模原リウマチ研究会(招待講演), 2017(5月・神奈川)
 503. 野村篤史、村山豪、千葉麻子、三宅幸子. Fc γ RIIB^{-/-}Yaa マウスにおける中枢神経免疫病態-新たな精神神経ループモデルの可能性. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2017(4月・福岡)
 504. 林絵利、千葉麻子、多田久里守、山路健、田村直人、三宅幸子. 強直性脊椎炎における MAIT 細胞の関与について. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2017(4月・福岡)
 505. 村山豪、千葉麻子、天野 浩文、山路健、田村直人、三宅幸子. ループモデルにおける MAIT 細胞に関する解析. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2017(4月・福

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

岡)

506. Kamei M, Chiba A, Nagaishi T, Haga K, Miyake S: MAIT cells exacerbate the disease course of oxazolone colitis. 第 45 回日本免疫学会, 2016(12 月・沖縄)
507. Isshiki T, Akiba H, Nakayama M, Harada N, Okumura K, Miyake S: TIM-3 regulates pulmonary fibrosis through apoptotic cell clearance. 第 45 回日本免疫学会, 2016(12 月・沖縄)
508. Nomura A, Noto D, Murayama G, Chiba A, Miyake S: Innate immune response in the brain of lupus-prone FcyR II B^{-/-}Yaa mice-implication to the mechanism of neuropsychiatric SLE. 第 45 回日本免疫学会, 2016(12 月・沖縄)
509. Murayama G, Chiba A, Amano H, Yamaji K, Tamura N, Miyake S: Role of Mucosal-associated Invariant T(MAIT) Cells In Lupus Dermatitis. 第 45 回日本免疫学会, 2016(12 月・沖縄)
510. Toda H, Murayama G, Chiba A, Miyake S: Protective role of mucosal-associated invariant T Cells in an imiquimod-induced psoriasis model. 第 45 回日本免疫学会, 2016(12 月・沖縄)
511. 三宅幸子: リウマチの治療薬を理解するための免疫学. 第 1 回自己免疫セミナー (招待講演), 2016 (11 月・東京)
512. 三宅幸子: 腸と免疫. 第 3 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス (招待講演), 2016 (10 月・東京)
513. 三宅幸子: 免疫応答を制御する免疫システムと免疫療法への応用. 第 23 回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム(招待講演), 2016 (10 月・石川)
514. 三宅幸子: 炎症性疾患と MAIT 細胞. 第 44 回日本臨床免疫学会総会 (招待講演), 2016 (9 月・東京)
515. 村山豪、千葉麻子、山路健、田村直人、三宅幸子. ループモデルにおける MAIT 細胞に関する解析. 第 44 回日本臨床免疫学会総会, 2016 (9 月・東京)
516. 三宅幸子: 腸管での免疫調節と炎症性疾患. 第 34 回日本骨代謝学会学術集会/第 3 回アジア太平洋骨代謝学会議 (招待講演), 2016 (7 月・大阪)
517. 三宅幸子: 自己免疫疾患と腸内細菌. 第 20 回腸内細菌学会、(招待講演) 2016 (6 月・東京)
518. 三宅幸子: 多発性硬化症における腸内細菌叢解析. 第 57 回日本神経学会学術大会 (招待講演), 2016 (5 月・神戸)
519. 能登大介、佐藤和貴郎、荒木学、三宅幸子、林幼偉、岡本智子、村田美穂、山村隆. Investigator-Initiated Clinical Trail(first-in-human,Phase I)of invariant NKT cell ligand OCH. 第 57 回日本神経学会学術大会, 2016 (5 月・神戸)
520. 門脇淳、三宅幸子、佐賀亮子、千葉麻子、望月秀樹、山村隆.Gut intraepithelial myelin responsive CD4⁺T cells suppress CNS autoimmunity via LAG-3. 第 57 回日本神経学会学術大会, 2016 (5 月・神戸)
521. 池口亮太郎、佐藤和貴郎、岡本智子、村田美穂、清水優子、北川一夫、山村隆、三宅幸子. 慢性炎症性脱髄性多発神経炎における自然リンパ球に関する研究. 第 57 回日本神経学会学術大会, 2016 (5 月・神戸)
522. 雑賀玲子、佐久間啓、能登大介、佐賀亮子、山口修平、山村隆、三宅幸子. MicroRNA-101a regulates microglial morphology and phenotype. 第 57 回日本神経学会学術大会, 2016 (5 月・神戸)
523. 三宅幸子: リウマチ医のための免疫学 ABC 日本リウマチ学会総会・学術集会 (招待講演), 2016 (4 月・横浜)
524. 千葉麻子、田村直人、村山豪、北垣内みえ、山路健、高崎芳成、三宅幸子. MAIT 細胞

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- の活性化状態は全身性エリテマトーデスの疾患活動性と病態を反映している. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2016 (4 月・横浜)
525. 村川洋子、村島温子、金子佳代子、中川夏子、船久保ゆう、中島亜矢子、阿部麻美、窪田綾子、河野肇、三輪裕介、住田孝之、原岡ひとみ、三宅幸子、宮前多佳子. 日本リウマチ学会男女共同参画委員会の取り組み-男女共同参画に関するアンケート結果についてⅡ. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2016 (4 月・横浜)
526. 林絵利、千葉 麻子、多田 久里守、山路 健、田村 直人、高崎 芳成、三宅 幸子. 強直性脊椎炎における MAIT 細胞の解析. 第 113 回日本内科学会総会・講演会、2016 (4 月・東京)
527. 三宅幸子: 腸管免疫と自己免疫疾患について. 自己免疫疾患を考える会 (招待講演), 2016 (4 月・長崎)
528. 三宅幸子: 自己免疫と腸管免疫. 腸管免疫から関節リウマチを考える会 (招待講演), 2016 (4 月・福島)
529. 三宅幸子: よくわかる免疫学. 第 12 回 MS NMO フォーラム (招待講演), 2015 (12 月・東京)
530. 三宅幸子: 免疫の基礎と最近のトピックス～腸内環境と免疫～. 第 2 回 Ichinomiya RA Network Seminar (招待講演), 2015 (12 月・愛知)
531. 三宅幸子: 多発性硬化症と腸管免疫. 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会 合同大会 (招待講演), 2015 (12 月・神戸)
532. Nakajima A, Habu S, Miyake S: The effect of dietary fiber during pregnancy on Foxp3+Tregs of offspring. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015 (11 月・札幌)
533. Lin Y, Miyake S, Yamamura T: Hybrid Treg possessed high antigen-specificity and stabilized in under antigen stimulation. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015 (11 月・札幌)
534. Noto D, Araki M, Sato W, Lin Y, Miyake S, Yamamura T: First-in-Human phase 1 study of invariant NKT cell ligand OCH. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015 (11 月・札幌)
535. Kadowaki A, Saga R, Sato W, Lin Y, Miyake S, Yamamura T: Regulation of CNS autoimmune diseases by the gut specific CD4+T cells. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015 (11 月・札幌)
536. Saika R, Sakuma H, Noto D, Saga R, Yamamura T, Miyake S: MicroRNA-101a regulates microglial morphology and inflammation. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015 (11 月・札幌)
537. Haga K, Chiba A, Miyake S: MAIT cells are activated and accumulated in the inflamed mucosa of ulcerative colitis. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015 (11 月・札幌)
538. Sakaguchi K, Kawasaki A, Kamachi F, Chiba A, Akiba H, Shimizu T, Miyake S: Breast milk conditions intestinal immune system and gut barrier of the infant. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015 (11 月・札幌)
539. Kamachi F, Isshiki T, Harada N, Akiba H, Miyake S: ICOS promotes group 2 innate lymphoid cell activation in lungs. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015 (11 月・札幌)
540. Chiba A, Murayama G, Tamura N, Takasaki Y, Miyake S: Hyperactivation of MAIT cells due to activation potency of lupus monocytes. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015 (11 月・札幌)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

541. 三宅幸子 : 腸管在住リンパ球による免疫調節. 第 15 回難治性免疫疾患先端治療開発研究会 (招待講演), 2015(11 月・東京)
542. 三宅幸子 : 腸内細菌叢と自己免疫. 第 43 回日本臨床免疫学会総会 (招待講演), 2015(10 月神戸)
543. 門脇淳、佐賀亮子、佐藤和貴郎、林幼偉、三宅幸子、山村隆. 腸管特異的 CD4+T 細胞による中枢神経炎症疾患の制御. 第 43 回日本臨床免疫学会総会, 2015(10 月神戸)
544. 芳賀慶一、千葉麻子、澁谷智義、長田太郎、石川大、小谷知弘、渡辺純夫、三宅幸子. 潰瘍性大腸炎における MAIT 細胞に関する検討. 第 43 回日本臨床免疫学会総会, 2015(10 月神戸)
545. 雑賀玲子、佐久間啓、能登大介、佐賀亮子、山口修平、山村隆、三宅幸子. miR-101a は MAPK phosphatase-1 を標的とし、ミクログリア様細胞の分化と活性化を調節する. 第 43 回日本臨床免疫学会総会, 2015(10 月神戸)
546. 三宅幸子 : 免疫の基礎と最近のトピックス～腸管免疫の話題. 第 15 回仙台 MS セミナー (招待講演), 2015(10 月・仙台)
547. 三宅幸子 : 腸内細菌と自己免疫疾患. 日本大学大学院医学研究科特別講義(招待講演), 2015(10 月・東京)
548. 三宅幸子 : 腸管免疫による自己免疫調整. リウマチ膠原病・よつやセミナー(招待講演), 2015(9 月・東京)
549. 三宅幸子 : 腸管免疫と多発性硬化症. 第 13 回岩手県神経免疫疾患セミナー(招待講演), 2015(9 月・盛岡)
550. 門脇淳、佐賀亮子、佐藤和貴郎、林幼偉、三宅幸子、山村隆. 腸管特異的 CD4+T 細胞による中枢神経炎症性疾患の制御. 第 27 回日本神経免疫学会学術集会, 2015(9 月・岐阜)
551. 佐久間啓、鈴木智典、五十嵐鮎子、神山邦子、林雅晴、三宅幸子. CD11b 陽性細胞を除去した混合グリア培養におけるミクログリアの再増殖. 第 27 回日本神経免疫学会学術集会, 2015(9 月・岐阜)
552. 雑賀玲子、佐久間啓、能登大介、佐賀亮子、山口修平、山村隆、三宅幸子. miR-101a はミクログリア様細胞の分化と M1M2 シフトを調節する. 第 27 回日本神経免疫学会学術集会, 2015(9 月・岐阜)
553. 三宅幸子 : 腸管免疫と神経炎症. 千里ライフサイエンスセミナー (招待講演), 2015 (7 月・大阪)
554. 千葉麻子、三宅幸子. 11 カラーフローサイトメーターを用いたヒト末梢血単核球の解析. 第 25 回日本サイトメトリー学会学術集会 (招待講演), 2015 (7 月・東京)
555. 三宅幸子 : 腸管免疫と自己免疫. 第 6 回東京千葉免疫研究会, (招待講演) 2015 (6 月・千葉)
556. 中村雅一、荒木学、松岡貴子、佐藤和貴郎、林幼偉、岡本智子、村田美穂、荒浪利昌、三宅幸子、山村隆. Mechanistic insight into IL-6 signal blockade therapy for multiple sclerosis. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 (5 月・新潟)
557. 雑賀玲子、佐久間啓、能登大介、山村隆、三宅幸子. IL-34 induces differentiation of microglia-like cell from hematopoietic cells. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 (5 月・新潟)
558. 林幼偉、三宅幸子、山村隆. Inverse vaccination for multiple sclerosis model by superior dominant peptide. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 (5 月・新潟)
559. 能登大介、荒木学、佐藤和貴郎、林幼偉、岡本智子、村田美穂、三宅幸子、山村隆. 免疫修飾薬 OCH の医師主導治験におけるバイオマーカー解析. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 (5 月・新潟)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

560. 三宅幸子 : リウマチ医のための免疫学 ABC. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (招待講演), 2015 (4 月・名古屋)
561. 三宅幸子 : 腸管免疫と自己免疫. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (招待講演), 2015 (4 月・名古屋)
562. 林絵利、千葉麻子、北垣内みえ、中嶋志穂子、草生真規雄、関谷文男、多田久里守、小笠原倫大、山路健、田村直人、高崎芳成、三宅幸子. MAIT 細胞の慢性炎症性関節炎における関与について. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2015 (4 月・名古屋)
563. 中嶋志穂子、千葉麻子、林絵利、北垣内みえ、草生真規雄、今高之、関谷文男、小笠原倫大、山路健、田村直人、高崎芳成、三宅幸子. リウマチ性多発筋痛症における自然リンパ球. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2015 (4 月・名古屋)
564. 北垣内みえ、千葉麻子、中嶋志穂子、林絵利、山路健、田村直人、高崎芳成、三宅幸子. 全身性エリテマトーデス患者における免疫担当細胞と CCR5 の解析. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2015 (4 月・名古屋)
565. 三宅幸子 : 腸管免疫と自己免疫－関節リウマチを予防できるか？－. バイオ・クリニカルカンファレンス (招待講演), 2015 (3 月・東京)
566. 三宅幸子 : 腸内細菌による免疫調節. 第 33 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学 (招待講演), 2015 (2 月・東京)
567. 三宅幸子 : 腸管免疫による自己免疫調節. 多発性硬化症講演会 in KANSAI (招待講演), 2015 (2 月・大阪)
568. 三宅幸子 : MS における B 細胞の役割. 第 11 回多発性硬化症/視神経脊髄炎フォーラム (招待講演), 2014 (12 月・東京)
569. 三宅幸子 : ヒトの免疫性疾患に関与する免疫細胞の解析. ヒューマンイムノロジーフォーラム (招待講演), 2014 (12 月・京都)
570. 三宅幸子 : AS の免疫病態. 高知 AS カンファレンス (招待講演), 2014 (12 月・高知)
571. Lin Y, Miyake S, Yamamura T: Inverse vaccination for autoimmune diseases by sensitization of superior dominant peptide through efficient induction of functionally stable regulatory T cells possessing high antigen-specificity. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2014 (12 月・京都)
572. Kadowaki A, Miyake S, Chiba A, Saga R, Yamamura T: Regulation of organ specific autoimmunity by gut resident T cells. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2014 (12 月・京都)
573. Nakajima A, Negishi N, Tsurui H, Nanno M, Yagita H, Okumura K, Miyake S, Habu S: Commensal bacteria regulate thymic Aire expression. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2014 (12 月・京都)
574. Chiba A, Tamura N, Takasaki Y, Miyake S: Involvement of MAIT cells in human autoimmune diseases. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2014 (12 月・京都)
575. Iwabushi K, Shimano K, Satoh M, Gilfillan S, Miyake S, Van Kaer Luc, Yamamura T: Atherosclerotic lesion development in CD1d/MR1/apolipoprotein E-deficient mice. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2014 (12 月・京都)
576. 三宅幸子 : 腸内細菌による免疫調節－最近の話題－. 第 11 回順天堂 Kampo 先端治療研究会 (招待講演), 2014 (10 月・東京)
577. 三宅幸子 : 腸管免疫による自己免疫制御. 第 41 回日本小児栄養消化器肝臓学会 (招待講演), 2014 (10 月・東京)
578. 三宅幸子 : 自己免疫疾患における腸内細菌糞解析. 第 42 回日本臨床免疫学会総会 (招

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 待講演), 2014(9 月・東京)
579. 北垣内みえ、千葉麻子、林絵利、中嶋志穂子、多田久里守、田村直人、山路健、高崎芳成、三宅幸子。関節リウマチ患者における自然リンパ球の解析。第 42 回日本臨床免疫学会総会, 2014(9 月・東京)
580. 門脇淳、三宅幸子、千葉麻子、佐賀亮子、山村隆。腸管 T 細胞による自己免疫制御。第 42 回日本臨床免疫学会総会, 2014(9 月・東京)
581. 三宅幸子 : 自然免疫 ABC。第 26 回日本神経免疫学会学術集会 (招待講演), 2014(9 月・金沢)
582. 能登大介、荒木学、佐藤和貴郎、岡本智子、村田美穂、三宅幸子、山村隆。多発性硬化症を対象とした免疫修飾薬 OCH の医師主導治験。第 26 回日本神経免疫学会学術集会, 2014(9 月・金沢)
583. 門脇淳、三宅幸子、千葉麻子、山村隆。腸管ミエリン反応性 T 細胞は実験的自己免疫性脳脊髄炎 (EAE) を LAG-3 によって制御する。第 26 回日本神経免疫学会学術集会, 2014(9 月・金沢)
584. 三宅幸子 : NKT 細胞を標的とした自己免疫制御。第 16 回免疫サマースクール (招待講演), 2014(7 月・香川)
585. 三宅幸子 : 自然リンパ球と自己免疫。第 9 回リウマチヤングアカデミー (招待講演), 2014(7 月・北海道)
586. 三宅幸子 : 腸管免疫による自己免疫制御。第 29 回難病治療研究会 (招待講演), 2014(7 月・東京)
587. 林絵利、千葉麻子、北垣内みえ、中嶋志穂子、草生真規夫、関谷文男、多田久里守、山路健、田村直人、高崎芳成、三宅幸子。関節リウマチと強直性脊椎炎における免疫病態の相違に関する研究。第 35 回日本炎症・再生医学会, 2014(7 月・沖縄)
588. 中村雅一、松岡貴子、荒木学、林幼偉、佐藤和貴郎、岡本智子、村田美穂、下地啓五、佐藤典子、三宅幸子、荒浪利昌、山村隆。再発寛解型多発性硬化症病態における IL-6 依存性プラズマブラストの関与。第 55 回日本神経学会学術大会, 2014(5 月・福岡)
589. 門脇淳、三宅幸子、千葉麻子、山村隆。腸管のミエリン反応性 T 細胞は実験的自己免疫性脳脊髄炎 (EAE) を制御する。第 55 回日本神経学会学術大会, 2014(5 月・福岡)
590. 荒木学、松岡貴子、宮本勝一、楠進、岡本智子、村田美穂、三宅幸子、荒浪利昌、山村隆。視神経脊髄炎に対する抗 IL-6 受容体抗体トシリズマブ治療の有効性の検討。第 55 回日本神経学会学術大会, 2014(5 月・福岡)
591. 荒木学、佐藤和貴郎、岡本智子、村田美穂、三宅幸子、山村隆。多発性硬化症を対象とした免疫修飾薬 OCH の医師主導治験。第 55 回日本神経学会学術大会, 2014(5 月・福岡)
592. 三宅幸子 : リウマチ医のための免疫学 ABC。第 58 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (招待講演), 2014(4 月・東京)
593. 林絵利、千葉麻子、多田久里守、山路健、田村直人、高崎芳成、三宅幸子。強直性脊椎炎患者における免疫細胞の解析。第 58 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2014(4 月・東京)
594. 三宅幸子、千葉麻子。NKT 細胞による自己免疫疾患の制御。第 58 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2014(4 月・東京)
595. 三宅幸子 : 腸管免疫による自己免疫調節。第 10 回埼玉 MS 治療研究会 (招待講演), 2014(4 月・埼玉)
596. 三宅幸子 : 腸管免疫による自己免疫調節。第 21 回自己抗体と自己免疫シンポジウム (招待講演), 2014 (4 月・東京)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

(脳神経内科)

597. Eguchi H, Imaizumi M, Funayama M, Hatano T, Saiki S, Sato S, Imai Y, Miwa H, **Hattori N**. Juntendo University Nerima Hospital, Neurology, Tokyo, Japan. Association between PARK2 and diabetes and related pathologies, XXIII World Congress of Neurology, Kyoto International Conference Center, Sept 16-21, 2017, Kyoto
598. Hatano T, Okuzumi A, Saiki S, Sato S, **Hattori N**. Comprehensive metabolome analysis of serum of Parkinson knockout mice, XXIII World Congress of Neurology, Kyoto International Conference Center, Sept 16-21, 2017, Kyoto
599. Mori A, Hatano T, Saiki S, Ishikawa KI, Oji Y, Okuzumi A, Fujimaki M, Koinuma T, **Hattori N**. Plasma metabolomics reveals low levels of antioxidants in PSP, Poster, XXIII World Congress of Neurology, Kyoto International Conference Center, Sept 16-21, 2017, Kyoto
600. Okuzumi A, Hatano T, Saiki S, **Hattori N**. COMPREHENSIVE METABOLOMIC ANALYSIS OF SERUM OF PARK2 PATIENTS, XXIII World Congress of Neurology, Kyoto International Conference Center, Sept 16-21, 2017, Kyoto
601. **Hattori N**. Lecturer, Pathomechanisms, Clinical Features, and Treatments for Parkinson's Disease, Basic Scientists Summer School - Suzhou Course 2016, The International Parkinson and Movement Disorder Society, MDS-AOS Education Program, Aug 4-6, 2016, Jiangsu, China
602. **Hattori N**. Speaker, Luncheon Symposium, Comparison of Ropinirole Controlled- and Immediate-release in Japanese Patients with Advanced Parkinson's Disease, 2017 TIC-PDMD, Mar 19, 2017, Taipei, Taiwan
603. **Hattori N**. Plenary, Genetics of movement disorders in clinical practice: Movement disorder society of Sri Lanka (MDSL): Launch and the Inaugural scientific congress, Feb. 12-13, 2016, Colombo, Sri Lanka
604. **Hattori N**. Speaker, Genetics forms of Movement Disorders- hits from them provide us concepts of pathogenesis of nigral degeneration, MDS-AOS, Ambassador Program, Shanghai 2016(Fourth International Conference of PD and Movement Disorders Shanghai and the 2016 Ruijin International Congress on Translational Neurodegeneration in Shanghai), Shanghai Jiao-Tong University, National Educational Depart. Apr. 21-23, 2016, Shanghai, China
605. **Hattori N**. Speaker, Based on the pathogenesis of Parkinson's disease (PD), the current therapeutic strategies for PD, 5th memorial IBIC, July 29, 2016, National Center of Neurology and Psychiatry, Kodaira, Tokyo, Japan.
606. **Hattori N**. Speaker; Clinical; Gene products of monogenic forms for Parkinson's disease and their links to mitochondrial and protein degradation pathways, GEPD(Genetic Epidemiology of Parkinson Disease), Luxembourg 2016, 11th Annual Meeting, October 5th - 8th, Luxembourg
607. **Hattori N**. Speaker, Treatment of Parkinson's Disease, Plenary Session 1, 1st International Conference of Korean Movement Disorder Society KMDS, Oct. 28-30, 2016, Lotte Hotel Jeju, Jeju-do, Korea
608. **服部信孝**. 日本神経学会 2017 年度学会賞・楳林賞受賞者招待講演, パーキンソン病の発症機序の解明, 2018 年 5 月 24 日, さっぽろ芸術文化の館
609. 石黒雄太, 常深泰司, 鎧坂朝子, **赤松和土**, **服部信孝**. The increased a-syn expression inhibits exosome secretion, 2018 年 5 月 24 日, ロイトン札幌
610. **石川景一**, 山口昂大, **服部信孝**, 岡野栄之, **赤松和土**. High throughput assays to detect disease-specific abnormalities in familial PD-iPSC derived neurons, 2018 年 5 月 23 日, ロイトン札幌
611. 常深泰司, 石黒雄太, 鎧坂朝子, **赤松和土**, Dimitri Krain, **服部信孝**. Lysosomal exocytosis and astrocytic uptake control the alpha-synuclein levels in PARK9 DA

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- neurons, 2018 年 5 月 23 日, ロイトン札幌
612. 佐藤栄人, 野田幸子, 福田隆浩, 内原俊記, **服部信孝**. Autophagy regulates synuclein homeostasis and contributes Lewy Body formation, 2018 年 5 月 25 日, ロイトン札幌
613. 上野真一, 波田野琢, 王子悠, 斉木臣二, 池田均, **服部信孝**. Human non-mercaptoalbumin as novel biomarker in Parkinson's disease and PARK2 patients, 2018 年 5 月 24 日, ロイトン札幌
614. 奥住文美, 斉木臣二, 波田野琢, **石川景一**, 藤巻基紀, 森聡生, 王子悠, 濃沼崇博, **服部信孝**. Metabolome analysis over three consecutive analyses for parkinson's disease, 2018 年 5 月 25 日, ロイトン札幌
615. 小川崇, 波田野琢, 奥住文美, 上野真一, 王子悠, 森聡生, 斉木臣二, **服部信孝**. Identification of putative serum biomarkers for PARK2 by Metabolome analysis, 2018 年 5 月 25 日, ロイトン札幌
616. 斉木臣二, 笹澤有紀子, 藤巻基紀, 森聡生, 波田野琢, 古屋徳彦, 王子悠, **石川景一**, 奥住文美, **服部信孝**. Serum polyamine metabolic changes in neurodegenerative diseases, 2018 年 5 月 25 日, ロイトン札幌, 口演
617. 中鏡暁子, 斉木臣二, 藤巻基紀, 笹澤有紀子, 波田野琢, **石川景一**, 王子悠, 森聡生, 奥住文美, 上野真一, **服部信孝**. Plasma biomarker from L-dopa metabolite for pathological condition assessment of Parkinson's Disease, 2018 年 5 月 24 日, ロイトン札幌
618. 藤巻基紀, 斉木臣二, 李元哲, 加賀直子, 高ひかり, 波田野琢, **石川景一**, 王子悠, 森聡夫, 奥住文美, 濃沼崇博, 上野真一, 今道洋子, 上野隆, 三浦芳樹, 船山学, **服部信孝**. Serum caffeine and metabolites are reliable biomarkers of early Parkinson's disease, 2018 年 5 月 23 日, 札幌市教育文化会館, 優秀口演賞セッション
619. 上野真一, 波田野琢, 王子悠, 斉木臣二, 奥住文美, 池田均, **服部信孝**. パーキンソン病における早期診断マーカーとしての酸化型・還元型アルブミン測定、第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres、品川プリンスホテル、2017 年 10 月 26 日～28 日、東京
620. **服部信孝**. 口演、「オートファジー促進によるミトコンドリアクリアランス上昇薬理作用とする新たなパーキンソン病治療薬開発」、岡野拠点、AMED 疾患特異的 iPS 細胞を活用した難病研究事業の成果報告会、TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター、2017 年 2 月 24 日、東京
621. **服部信孝**. 講演、「神経難病の治療に関する最新情報」(パーキンソン病友の会福井県支部)、福井県済生会病院本館2階研修講堂、2016 年 4 月 10 日、福井県
622. **服部信孝**. 講演、医療講演会「パーキンソン病の未来」、第 38 回定期総会・医療講演会、ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール、2016 年 4 月 24 日、岐阜市
623. **服部信孝**. 講演「パーキンソン病の診療で押さえておくべきポイントについて」、第一回神経治療学会教育研修会、大阪大学中之島センター10F 佐治敬三メモリアルホール、2016 年 5 月 8 日、大阪
624. **服部信孝**. 講演、MDS-AOS の今後のあり方 そして日本との関わり、MDS トピックス、第 10 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres、2016 年 10 月 6 日～8 日、京都ホテルオークラ、京都
625. **服部信孝**. 講演、パーキンソン病の発症メカニズム 一病態解明から創薬へー、臨床研究支援業務従事者向け研究会(公益財団法人先端医療振興財団主催)、神戸臨床研究情報センター、2016 年 10 月 20 日、神戸市
626. **服部信孝**. 講演、パーキンソン病の病態とその治療、新しいパーキンソン病治療を考える会、ホテルラングウッド新潟、2016 年 11 月 17 日、新潟市

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

627. **服部信孝** . 講演、同志社大学京田辺キャンパス訪知館、2016年12月15日、京都市
628. **服部信孝** . 講演、パーキンソン病における腸脳連関現象、パーキンソン病と消化管 ネットワーク研究会、ヒルトン大阪、2017年3月25日、大阪
629. **服部信孝** . 教育講演2、パーキンソン病の治療：過去・現在・未来、第114回日本内科学会総会・講演会、東京フォーラム、平成29年4月14日(会期は4月14日～16日)、東京
630. **服部信孝** . シンポジスト、シンポジウム「神経変性疾患の最前線2016」、第46回日本神経精神薬理学会年会、2016年7月2-3日、ソウル、韓国
631. **服部信孝** . プレスセミナー、「パーキンソン病治療の現状と将来への期待」～患者さんの声をふまえて～、丸ビルコンファレンススクエア、2016年4月6日、東京
632. **服部信孝** . 講演、パーキンソン病研究最前線、ランチョンセミナー、第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、ビッグパレットふくしま、2016年3月30日、郡山市
633. **服部信孝** . レクチャーマラソン講演、パーキンソン病及び他の神経変性疾患におけるバイオマーカーの位置づけ、第57回日本神経学会学術大会、神戸国際展示場、2016年5月20日、神戸

(神経生物学)

634. Laxmi Kumal Parajuli, Ken Wako, Suiki Maruo, Ryosuke Takahashi, **Masato Koike**: 日本顕微鏡学会関東支部第43回講演会 ポスター発表: "Distinct age-dependent subcellular changes in a model mouse of Parkinson's disease as revealed by volumetric FIB/SEM imaging of striatum" 2019年3月16日 東京
635. Laxmi Kumal Parajuli, Ken Wako, Suiki Maruo, Ryosuke Takahashi, **Masato Koike**: 革新脳国際シンポジウム ISBM2019: From Structure to Function ポスター発表: "Distinct age-dependent subcellular changes in a model mouse of Parkinson's disease as revealed by volumetric FIB/SEM imaging of striatum" 2019年1月29日 東京
636. **Masato Koike**: Tokuyasu Workshop 2019 招待講演: "An Example of Application for Visualising Autophagy" 2019年1月23日 沖縄
637. **Masato Koike**: Tokuyasu Workshop 2019 招待講演: "Basic Sample Preparation" 2019年1月22日 沖縄
638. **小池正人**: 第43回組織細胞化学講習会 招待講演: 「TEMを使った免疫電子顕微鏡法の実践」2018年8月2日 奈良
639. 生野真嗣、山門穂高、秋山央子、Laxmi Kumar Parajuli、田口勝敏、原純子、上村紀仁、畑中悠佑、檜垣克美、大野耕策、田中雅樹、**小池正人**、平林義雄、高橋良輔: 第41回日本神経科学大会 ポスター発表: 「遺伝的リスクファクターを用いた孤発性パーキンソン病モデルマウスの作成」2018年7月28日 神戸
640. **Koike M**, De Mazière A, van Dijk S, Klumperman J: 第74回日本顕微鏡学会学術講演会 口演 "The improvement of Tokuyasu method for the detection of autophagosomes" 2018年5月30日 久留米
641. 横田睦美、角田宗一郎、志賀孝宏、服部信孝、赤松和土、**小池正人**: 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表「PARK2 iPS細胞を用いたパーキンソン病におけるドパミン神経特異的病態発症機構の解明」2018年3月28日 吉祥寺
642. 曾友深、角田宗一郎、前田祐輔、木下タロウ、崎村建司、内山安男、**小池正人**: 第40回日本分子生物学会年会 第90回日本生化学会大会 ポスター発表: 「小脳神経細胞におけるゴルジ体酸性環境の重要性」2017年12月7日 神戸
643. **小池正人**: JEOL - Nikon CLEMソリューションセンター 開設セミナー 招待口演: 「試料作成からみた光顕と電顕を繋ぐ practical な技術」2017年11月6日 昭島
644. 井下強、崔長旭、荒野拓、穂坂有加、孟紅蕊、梅崎勇次郎、小杉紗紀子、森本 高子、**小池正人**、Chang Hui-Yun、今居 譲、服部 信孝: 第40回日本神経科学大会 ポスター発表: "Vps35 in cooperation with LRRK2 regulates synaptic vesicle recycling through the endosomal pathway" 2017年7月21日 幕張
645. **小池正人**、柴田昌宏、**砂堀毅彦**、山口隼司、崎村建司、小松雅明、田中啓二、内山安男: 第40回日本神経科学大会 ポスター発表: 「特異的カテプシン D 欠損プルキンエ細胞の脆弱性 - 特に、同 Atg7 欠損プルキンエ細胞との比較において」2017年7月21日 幕張

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

646. **小池正人**:第 73 回日本顕微鏡学会学術講演会 口演:「凍結超薄切片法の改良による内在性 LC3 の検出と単層培養標本を用いた切片作成」2017 年 5 月 31 日 札幌
647. **小池正人**:第 73 回日本顕微鏡学会学術講演会 口演:「徳安法の発展から見た本シンポジウムのねらいについて」2017 年 5 月 31 日 札幌
648. **小池正人**:第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会 口演:「中枢神経系特異的ゴルジ体機能不全モデルマウスの形態学的解析」2017 年 3 月 31 日 長崎
649. **小池正人**:第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会 招待講演:「FIB/SEMによる神経細胞のオルガネラの 3 次元立体再構築の現状と展望」2017 年 3 月 31 日 長崎
650. 曾高深、角田宗一郎、前田祐輔、木下タロウ、渡辺雅彦、崎村 建司、内山 安男、**小池正人**:第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表「ゴルジ体酸性環境不全に起因する病態発症機序の解明」2017 年 3 月 31 日 長崎
651. 谷田以誠、**小池正人**:第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表:「酸性 pH 感受性緑色蛍光タンパク質 pHluorin を用いたマイトファジーモニタープローブの作成」2017 年 3 月 29 日 長崎
652. **砂堀毅彦**、名田茂之、岡田雅人、内山安男、**小池正人**:第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表:「髄鞘形成におけるリソソーム膜タンパク質 LAMTOR1 の役割」2017 年 3 月 29 日 長崎
653. **M.Koike**:KOB (Kyusyu Oral Biology)2017 招待講演:” The role of autophagy and lysosomal proteolysis for the maintenance of the normal environment of central nervous system”:2017 年 2 月 11 日 福岡
654. **小池正人**、柴田 昌宏、**砂堀 毅彦**、山口 隼司、内山 安男、:第 39 回日本神経科学大会 ポスター発表:「カテプシン D および Atg7 欠損に伴うブルキンエ細胞変性軸索における Atg9A 陽性の膜構造物の検討」2016 年 7 月 20 日 神戸
655. **小池正人**:日本解剖学会 関東支部 懇話会 招待講演:「光顕と電顕を繋ぐために必要な practical な技術」2016 年 7 月 9 日 東京
656. 曾高友深、角田宗一郎、前田祐輔、木下タロウ、渡辺 雅彦、崎村 建司、内山安男、**小池正人**:第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表:「ゴルジ体の形成異常に起因する神経病態発症機序の解明」2016 年 3 月 28 日 福島
657. **砂堀毅彦**、名田 茂之、岡田 雅人、内山 安男、**小池 正人**:第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 口演:「オリゴデンドロサイト分化における mTORC1 活性化の意義」2016 年 3 月 28 日 福島
658. **Koike M**, Nanao, T., Yamaguchi, J., Sasaki, M., Uchiyama, Y:第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表:” Cellular localization and tissue distribution of endogenous DFCEP1 protein” 2016 年 3 月 28 日 福島
659. Ann De Maziere, Suzanne van Dijk, **Masato Koike**, Cilia de Heus, Judith Klumperman:Gordon Research Conference Autophagy in Stress, Development & Disease ポスター発表:” An immunoelectron microscopy protocol for high resolution endogenous LC3 localization” 2016 年 3 月 20 日 アメリカ ベンチュラ
660. 三井駿、久保瑞希、潘雷、大友麻子、**小池正人**、内山安男、青木正志、山本雅之、石井哲郎、柳川徹、Hui-Fang Shang、吉井文均、秦野伸二:第 38 回日本神経科学大会 口演:「変異 SOD1 発現 ALS マウスモデルの運動ニューロン変性は Nrf2 ではなく、p62/SQSTM1 の機能喪失により悪化する」2015 年 7 月 28 日 神戸
661. 山中智行、戸崎麻子、宮崎晴子、黒澤大、**小池正人**、内山安男、Sankar N Maity、三澤日出巳、服部信孝、貫名信行:第 38 回日本神経科学大会 ポスター発表:「転写因子 NF-Y の機能欠損は細胞種特異的な神経変性病態を示す」2015 年 7 月 28 日 神戸
662. **小池正人**、七尾友久、山口隼司、内山安男:第 38 回日本神経科学大会 ポスター発表:「オメガソームマーカー DFCEP1 の内在性分子の細胞内局在と組織分布」2015 年 7 月 28 日 神戸
663. **Koike, M.**, Nanao, T., Yamaguchi, J., Sasaki, M., Uchiyama, Y:第 67 回日本細胞生物学会大会 ポスター発表:” Cellular localization and tissue distribution of endogenous DFCEP1 protein” 2015 年 6 月 30 日 東京
664. 七尾友久、山口 隼司、**小池正人**、小松 雅明、内山 安男:第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会・第 92 回日本生理学会大会 ポスター発表:「カテプシン D 欠損神経細胞において、細胞極性が p62 と NBR1 を介した選択的オートファジーを制御する」2015 年 3 月 23 日 神戸
665. **砂堀毅彦**、**小池正人**、内山安男:第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会・第 92 回日本生理学会大会 ポスター発表:「カテプシン D 遺伝子欠損マウス脳における Toll 様受容体の機能解析」2015 年 3 月 23 日 神戸
666. 山口隼司、七尾友久、**小池正人**、小松雅明、内山安男:第 120 回日本解剖学会総会・

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 全国学術集会・第 92 回日本生理学会大会 ポスター発表:「カテプシン D 欠損マウスの神経細胞内に蓄積する異常なリソソームは p62 および NBR1 を介した選択的オートファジーの標的となる」2015 年 3 月 23 日 神戸
667. 小池正人、内山安男:第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会・第 92 回日本生理学会大会 ポスター発表:「カテプシン D 欠損および Atg7 欠損プルキンエ細胞の比較解析による軸索内環境の維持におけるオートファジー・リソソームタンパク質分解系の役割」2015 年 3 月 23 日 神戸
668. 曾高友深、内山安男、小池正人:第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会・第 92 回日本生理学会大会 ポスター発表:「カテプシン D 欠損脳における異常リソソーム蓄積タンパク質の探索」2015 年 3 月 21 日 神戸
669. 曾高友深、小池正人:第 20 回グリアクラブ 口演:「ゴルジ体局在型イオンチャネル GPHR の中枢神経系における役割」2015 年 1 月 28 日 函館
670. 砂堀毅彦、小池正人:第 20 回グリアクラブ 口演:「オリゴデンドロサイト分化における mTORC1 活性化の意義」2015 年 1 月 27 日 函館
671. 小池正人、砂堀毅彦、内山安男:第 20 回グリアクラブ 口演:「プルキンエ細胞特異的カテプシン D 欠損および Atg7 欠損マウスの比較解析」2015 年 1 月 27 日 函館
672. M. Koike: INTERNATIONAL SYMPOSIUM 2014 (CURRENT TRENDS ON NEUROBIOLOGY) 招待講演:“The role of autophagy and lysosomal proteolysis for the maintenance of the normal environment of neuronal cells: a genetic study of mouse models for rare neurodegenerative diseases for understanding of common ones” 2014 年 11 月 28 日 韓国 蔚山
673. Y. UENO, M. KOIKE, Y. SHIMADA, H. SHIMURA, K. HIRA, Y. UCHIYAMA, N. HATTORI, T. URABE: Society for Neuroscience 2014 ポスター発表: “L-carnitine enhances axonal plasticity and improves white matter lesions after chronic hypoperfusion in rat brain” 2014 年 11 月 19 日 アメリカ ワシントン DC
674. M. KOIKE, I. TANIDA, T. NANA, N. TADA, J. IWATA, T. UENO, E. KOMINAMI, Y. UCHIYAMA: Society for Neuroscience 2014 ポスター発表: “Enrichment of GABARAP relative to LC3 in the axonal initial segments of neurons” 2014 年 11 月 18 日 アメリカ ワシントン DC
675. J. YAMAGUCHI, T. SUNABORI, M. KOIKE, T. NANA, M. SHIBATA, A. FURUTA, Y. UCHIYAMA: Society for Neuroscience 2014 ポスター発表: “Hippocampal pyramidal neurons lacking LC3A and LC3B are resistant to hypoxic-ischemic brain injury in neonatal mice” 2014 年 11 月 16 日 アメリカ ワシントン DC
676. 小池正人:日本顕微鏡学会次世代顕微サイエンス若手研究部会 創設記念シンポジウム・若手討論会 招待講演:「”Practical”ですが、何か? -医学部における電子顕微鏡-」2014 年 11 月 4 日 淡路島

(代謝内分泌内科)

677. 宮塚 健 第 31 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 シンポジウム「β細胞新生機構解明に向けた Insulin-Timer マウスの開発」2017 年 2 月 10 日 横浜市
678. 三浦正樹、宮塚 健、松岡孝昭、佐々木周吾、藤谷与士夫、綿田裕孝:第 59 回日本糖尿病学会年次集会 口演「Stat3 シグナルの抑制は膵腺房細胞から β細胞へのリプログラミングを亢進させる」2016 年 5 月 19 日 京都市
679. 佐々木周伍、宮塚 健、松岡孝昭、綿田裕孝、下村伊一郎:第 59 回日本糖尿病学会年次集会 口演 β細胞新生には 2 つの異なる分化様式が存在する」・2016 年 5 月 19 日 京都市
680. 三浦正樹、宮塚 健、綿田裕孝:Advans 研究会 口演「Stat3 シグナルの活性化は腺房細胞から β細胞へのリプログラミングを制御する」2015 年 12 月 13 日
681. 宮塚 健:第 58 回日本糖尿病学会年次集会 シンポジウム「糖尿病再生医療に向けた膵 β細胞新生・成熟機構の解明」2015 年 5 月 21 日・下関市

(皮膚科)

682. Iida H, Hasegawa T, Sakamoto A, Wada A, Fukai T, Ikeda S: Keratinocyte progenitor cells in human subcutaneous adipose tissue. The Society for Investigative Dermatology 2015 Annual Meeting, 2015, Atlanta, GA
683. 前田佑一郎、長谷川敏男、飯田秀雄、坂本淳、和田章乃、池田志孝:組織由来幹細胞に

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- よる表皮再生医療の可能性. 第33回日本美容皮膚科学会総会・学術大会, 2015, 大阪
684. Maeda Y, Hasegawa T, Hirasawa Y, Okuma K, **Ikeda S**: Eight years of maintenance hemodialysis using a permanent vascular catheter in a patient with severe generalized recessive dystrophic epidermolysis bullosa. The 4th Eastern Asia Dermatology Congress, Chiba, 2016
685. 前田佑一郎, 長谷川敏男, 和田章乃, **池田志孝**: Differentiation potential of adipose-derived stem cells into keratinocytes. 第30回表皮細胞研究会, 2016, 弘前
686. 前田佑一郎, 長谷川敏男, 和田章乃, 深井達夫, 坂本淳, **池田志孝**: Differentiation potential of adipose-derived stromal/stem cells into keratinocytes. 第41回日本研究皮膚科学会, 2016, 仙台
687. Maeda Y, Hasegawa T, Wada A, Sakamoto A, Fukai T, **Ikeda S**: Approximately 45% of adipose-derived stem cells can differentiate into keratinocytes and express higher type VII collagen under the specific culture conditions. The Society for Investigative Dermatology 2017 Annual Meeting, 2017, Portland, OR
688. 金宗訓, 長谷川敏男, 前田佑一郎, 和田章乃, 飯田秀雄, 小川秀興, **池田志孝**. 脂肪組織由来幹細胞を用いた皮膚再生医療の可能性. 第31回表皮細胞研究会, 2017, 名古屋
689. **Ikeda S**, Kim J, Hasegawa T, Maeda Y, Wada A: Possibility of skin regenerative medicine with adipose-derived stem cells (ADSCs). The 3rd Indochina Conference of Dermatology The World Academy Dermatology Summit Meeting Annual Conference of Dermatology of the VSDV, 2017, Hanoi, Vietnam
690. Kim J, Hasegawa T, Maeda Y, Wada A, **Ikeda S**: The potential of adipose-derived stem cells for the treatment of recessive dystrophic epidermolysis bullosa. International Investigative Dermatology 2018, 2018, Orlando, FL
- (生化学第1)
691. **横溝岳彦**: 皮膚創傷治癒における12-HHT受容体BLT2の役割 第56回日本脂質生化学会 2014年6月6-7日 大阪
692. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 奥野利明, **横溝岳彦**: 新規樹状細胞サブセットマーカー分子としてのロイコトリエンB4受容体 第35回日本炎症・再生学会(シンポジウム) 2014年7月1-4日 沖縄
693. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 市木貴子, 奥野利明, **横溝岳彦**: 新規樹状細胞サブセットマーカー分子としてのロイコトリエンB4受容体 第35回日本炎症・再生学会(シンポジウム) 2014年7月1-4日 沖縄
694. **横溝岳彦**: 生理活性脂質と免疫・炎症・組織修復 第35回日本炎症・再生学会(教育講演) 2014年7月1-4日 沖縄
695. 佐伯和子, Liu M, **横溝岳彦**: アスピリンによる皮膚創傷治癒の遅延は12-HHT産生低下によって引き起こされる 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
696. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 市木貴子, 奥野利明, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第一受容体BLT1陽性樹状細胞はTh1分化誘導を促進する 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
697. 城(渡辺)愛理, 大瀬貴元, 西松寛明, 高橋政夫, 池田洋一郎, 和田健彦, 白河潤一, 永井竜児, 宮田敏男, 長野哲雄, **横溝岳彦**, 平田恭信, 稲城玲子, 南学正臣: 糖化抑制酵素G

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- LO1は加齢に伴う内皮機能障害を軽減する 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
698. 岩本怜, 古賀友紹, Liu M, 奥野利明, 松田彰, 村上晶, **横溝岳彦**:ロイコトリエンB4第二受容体BLT2の角膜創傷治癒における役割 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
699. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 阪口政清, **横溝岳彦**:ロイコトリエンB4第一受容体BLT1とRAGEの相互作用 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
700. **横溝岳彦**:12-HHT受容体BLT2は皮膚創傷治癒を促進する 第87回日本生化学会大会 シンポジウム 2014年10月15-18日 京都
701. 石井由美子, 佐伯和子, Liu M, 奥野利明, **横溝岳彦**:上皮細胞間接着におけるロイコトリエンB4第二受容体(BLT2)の役割の解明 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
702. 重松美沙子, 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, **横溝岳彦**:Pneumolysin誘導性急性肺傷害モデルにおけるBLT2の肺保護作用 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
703. 高橋七瀬, 奥野利明, 大場麻生, 牧野真太郎, 竹田省, **横溝岳彦**:質量分析計を用いた妊産婦血中エイコサノイドの測定 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
704. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 阪口政清, **横溝岳彦**:ロイコトリエンB4第一受容体BLT1とRAGEの相互作用 第11回東京呼吸器リサーチフォーラム 2014年11月1日 東京
705. **横溝岳彦**:古くて新しい生理活性脂質12-HHTの機能 8th Metabolic Research Cutting Edge 2014年11月22日 東京
706. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, **Yokomizo T**:Leukotriene B4 receptor 1 signaling promotes neovascular age-related macular degeneration 第43回日本免疫学会総会 2014年12月10-12日 東京
707. **Yokomizo T**:BLT1 and BLT2, receptors for bioactive lipid mediators Topics in regenerative biology 2015/1/16 Santiago
708. Ichiki T, Koga T, Okuno T, Saeki K, Yamamoto Y, Sakaguchi M, **Yokomizo T**:Functional Interplay between the Leukotriene B4 receptor BLT1 and RAGE 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
709. Ishii Y, Saeki K, Min L, Okuno T, **Yokomizo T**:Leukotriene B4 receptor BLT2 enhances the formation of epithelial barrier by increasing claudin-4 expression 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
710. Iwamoto S, Liu M, Matsuda A, Murakami A, **Yokomizo T**:12-HHT accelerates corneal wound healing through leukotriene B4 receptor 2 (BLT2) 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
711. Koga T, Sasaki F, Saeki K, Ichiki T, Okuno T, **Yokomizo T**:BLT1 defines dendritic cell subsets with different characteristics in differentiation and proliferation of T cells 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
712. Okuno T, Ishitani T, **Yokomizo T**:Identification and characterization of zebrafish BLT1 and BLT2 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
713. Saeki K, Min L, Matsunobu T, Okuno T, Koga T, Nakamizo S, Kabashima K, **Yoko**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- mizo T**:12-HHT promotes epidermal wound healing by accelerating keratinocyte migration via the BLT2 receptor 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
714. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, **Yokomizo T**:M2 macrophages promote neovascular age-related macular degeneration through the activation of the leukotriene B4 receptor 1 signaling 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
715. Shigematsu M, Koga T, Okuno T, Saeki K, Hoka S, **Yokomizo T**:BLT2 protects against mouse acute lung injury induced by pneumococcal toxin pneumolysin 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
716. Takahashi N, Okuno T, Ooba M, Makino S, Takeda S, **Yokomizo T**:Multiplexed quantitative analysis of eicosanoids in pregnant women 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
717. **Yokomizo T**:Distinct roles of two leukotriene B4 receptors 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators (Symposium) 2015/2/10-12 Tokyo
718. Koga T, Sasaki F, Saeki K, Ichiki T, Okuno T, **Yokomizo T**:Distinct roles of BLT1hi DCs and BLT1lo DCs in activating T cells Keystone Symposium 2015/3/8-13 Montreal
719. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, **Yokomizo T**:Leukotriene B4 receptor 1 signaling promotes neovascular age-related macular degeneration Keystone Symposium 2015/3/8-13 Montreal
720. Iwamoto S, Koga T, Liu M, Matsuda A, **Yokomizo T**, Murakami A:12-HHT accelerates corneal wound healing through leukotriene B4 receptor 2 (BLT2) Annual meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology 2015 2015/5/3-7 Denver
721. Asahara M, Ito N, **Yokomizo T**, Nakamura M, Shimizu T, Yamada Y:The absence of the leukotriene B4 receptor BLT1 attenuates peripheral inflammation and spinal nociceptive processing following intraplantar formalin injury 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases 2015/7/12-15 Budapest
722. Liu M, Saeki K, Okuno T, Koga T, **Yokomizo T**:Crucial role of the 12-HHT receptor BLT2 in epidermal wound healing 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, Santosh Nigam Memorial Young Scientist Award 2015/7/12-15 Budapest
723. Shigematsu M, Koga T, Saeki K, Okuno T, Hoka S, **Yokomizo T**:BLT2 protects against mouse acute lung injury caused by a pneumococcal toxin pneumolysin 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases 2015/7/12-15 Budapest
724. **Yokomizo T**:Distinct roles of two leukotriene B4 receptors 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, Plenary Lecture 2015/7/12-15 Budapest
725. 岩本怜, 古賀友紹, Liu M, 奥野利明, 松田彰, **横溝岳彦**, 村上晶:ロイコトリエンB4第二受容体 (BLT2) は角膜創傷治癒を促進する 日本眼科学会総会 2015年4月16-19日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

札幌

726. Saeki K, Liu M, **Yokomizo T**: Platelet-derived lipid mediator, 12-HHT promotes epidermal wound healing by accelerating keratinocyte migration via the BLT2 receptor. 第37回日本血栓止血学会学術集会 シンポジウム(招待講演) 2015年5月21-23日 甲府
727. 武田知起, 小宮由季子, 木庭彰彦, 仲矢道雄, 黒瀬等, **横溝岳彦**, 清水孝雄, 内博史, 古江増隆, 石井祐次, 山田英之: ダイオキシンによる肝障害の新たな機構 ロイコトリエンB4合成亢進の役割 第42回日本毒性学会 2015年6月29日-7月1日
728. 岩本怜, 古賀友紹, 奥野利明, 村上晶, **横溝岳彦**, 松田彰: 角膜損傷の新規治療薬としての脂質メディエーターの可能性 第35回日本眼薬理学会 2015年9月5-6日 東京
729. **横溝岳彦**: 生理活性脂質受容体BLT1とBLT2: 眼疾患治療応用の可能性 第35回日本眼薬理学会 特別講演 2015年9月5-6日 東京
730. 若山貴則, 齋田良知, 小林洋平, 奥野利明, **横溝岳彦**, 倉田憲一, 鎌野俊哉, 深作進, 金子と夫, 根本昌幸: 変形性膝関節症患者における関節内酸化ストレスと ω 3不飽和脂肪酸の検討 第88回日本整形外科学会基礎学術集会 2015年10月22日
731. 重松美沙子, 古賀友紹, 佐伯和子, 奥野利明, **横溝岳彦**: Pneumolysin誘導性急性肺傷害におけるBLT2の肺保護作用 第12回東京呼吸器リサーチフォーラム 最優秀発表賞受賞 2015年11月14日 東京
732. 佐伯和子, 石井由美子, **横溝岳彦**: 上皮バリア機能維持における12-HHT受容体BLT2の役割 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 ワークショップ 2015年12月1-4日 神戸
733. 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, 中村衣里, 多田昇弘, **横溝岳彦**: CRISPR/Cas9によるロイコトリエンA4水解酵素欠損マウスの作製 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 2015年12月1-4日 神戸
734. 岩本怜, 古賀友, 奥野利, 松田彰, 村上晶, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第二受容体(BLT2)は角膜創傷治癒を促進する 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 2015年12月1-4日 神戸
735. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, 阪口政清, 山本靖彦, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第一受容体BLT1とRAGEは機能的に相互作用する 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 2015年12月1-4日 神戸
736. 池田恒基, 佐々木文之, 上野あゆみ, 佐伯和子, 奥野利明, 古賀友紹, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第一受容体(BLT1)とFLAGタグに対するマウス単クローン抗体のヒトキメラ化 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 2015年12月1-4日 神戸
737. 重松美沙子, 古賀友紹, 佐伯和子, 奥野利明, 外須美夫, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第二受容体BLT2は急性肺傷害時に肺保護作用を発揮する 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 ワークショップ 2015年12月1-4日 神戸
738. **Yokomizo T**, Kabashima K, Ishii Y, Liu M, Saeki K: Roles of leukotriene B4 receptor type 2 in skin barrier function and wound healing Keystone Symposium, Immunity in Skin Development, Homeostasis and Disease 2016/2/28-3/2 Granlibakken Tahoe
739. Ichiki T, Koga T, Okuno T, Saeki K, Yamamoto Y, Sakaguchi M, **Y Yokomizo T**: Receptor for advanced glycation endproducts modulates leukotriene B4 receptor 1 signaling ASBMB meeting 2016/4/2-6 San Diego
740. Ikeda K, Sasaki F, Ueno A, Okuno T, Koga T, **Yokomizo T**: Generation of chimeric

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- high-affinity monoclonal antibody for FLAG tag ASBMB meeting 2016/4/2-6 San Diego
741. Ishii Y, Saeki K, **Yokomizo T**:Leukotriene B4 receptor type 2 (BLT2) enhances skin barrier function by regulating tight junction proteins ASBMB meeting 2016/4/2-6 San Diego
742. Shigematsu M, Koga T, Saeki K, Okuno T, **Yokomizo T**:BLT2 receptor protects against lethal acute lung injury induced by a pneumococcal toxin pneumolysin ASBMB meeting 2016/4/2-6 San Diego
743. **Yokomizo T**:Roles of leukotriene B4 receptor type 2 on skin barrier function and wound healing 2016 Korea-Japan Bioactive Lipid Joint Symposium 2016/5/11-13 Jeju, Korea
744. Luo L, Tanaka R, Lu F, Kanazawa S, **Yokomizo T**, Mizuno H:A synthetic BLT2 agonist accelerates impaired wound healing by enhancing keratinocyte migration and fibroblast proliferation in diabetic rat Joint meeting of American association of plastic surgeons and plastic surgery research council 2016/5/19-22 New York
745. Shigematsu M, Koga T, Saeki K, Okuno T, **Yokomizo T**:The roles of 12-hydroxyheptadecatrienoic acid/BLT2 axis in skin 57th ICBL, International Conference on the Bio science of Lipids 2016/9/4-8 Chamonix-Mont-Blanc, France
746. **Yokomizo T**, Y I, Shimegatsu M, Saeki K, Okuno T:12-hydroxyheptadecatrienoic acid (12-HHT) as a novel lipid mediator 第58回日本脂質生化学会シンポジウム 2016年6月9-10日 秋田
747. 川西範明, 高木香奈, 李賢哲, 奥野 利, **横溝岳彦**, 町田修一:持久的運動トレーニングおよび高脂肪食餌負荷が骨格筋のリン脂質分子種濃度に及ぼす影響 第58回日本脂質生化学会 2016年6月9-10日 秋田
748. **横溝岳彦**:ロイコトリエン受容体と皮膚機能 第31回日本乾癬学会 教育講演 2016年9月2日 宇都宮
749. 中島慎吾, 玉田賢弥, 佐藤聡, 吉森篤史, 市木貴子, 佐々木文之, **横溝岳彦**, 田沼靖一:HMGB1及びLPSに誘導される炎症を抑制する新規低分子化合物の創製 第89回日本生化学会 2016年9月25-27日 仙台
750. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, 阪口政清, 山本靖彦, **横溝岳彦**:RAGEはロイコトリエンB4第一受容体BLT1と機能的に相互作用する 第89回日本生化学会 2016年9月25-27日 仙台
751. 李賢哲, ベンジャミン クラバット, **横溝岳彦**:N-アシルリン脂質代謝酵素ABHD4の生化学的解析および脂質解析 第89回日本生化学会 2016年9月25-27日 仙台
752. 玉田賢弥, 中島慎吾, 佐藤聡, 吉森篤史, 市木貴子, 佐々木文之, **横溝岳彦**, 鈴木雄祐, 渡邊伸央, 井上茂亮, 田沼靖一:HMGB1/RAGE相互作用を阻害する新規低分子化合物の創製 第89回日本生化学会 2016年9月25-27日 仙台
753. **横溝岳彦**:上皮創傷治癒を促進する生理活性脂質の同定とその応用 第1回Ocular Surface & Glaucoma Seminar 2016年10月21日 東京
754. **横溝岳彦**:皮膚バリア機能を維持する生理活性脂質12-HHT 第9回セラミド研究会 2016年10月27-28日 東京
755. Shigematsu M, Koga T, Saeki K, Ohba M, Okuno T, **Yokomizo T**:Protective roles of 12-hydroxyheptadecatrienoic acid/BLT2 in acute lung injury Keystone Symposium, L

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- ipidomics and Bioactive Lipids in Metabolism and Disease 2017/2/26-3/3 Granlibakken Tahoe
756. Hirakata T, Lee CH, Ohba M, Matsuda A, Murakami A, **Yokomizo T**: The effect of dietary omega-3 fatty acids on allergic conjunctivitis in mice. ARVO 2017 2017/5/7-12 Baltimore
757. Saeki K, Shigematsu M, Koga T, Ohba M, Okuno T, **Yokomizo T**: 12-HHT/BLT2 axis protects against pneumolysin-dependent acute lung injury. Keystone Symposium, Integrating Metabolism and Immunity 2017/5/29-6/2 Dublin, Ireland
758. Saeki K, Shigematsu M, Koga T, Ohba M, Okuno T, **Yokomizo T**: 12-HHT/BLT2 axis protects against pneumolysin-dependent acute lung injury Keystone Symposium, Integrating Metabolism and Immunity 2017/5/29-6/2 Dublin, Ireland
759. **Yokomizo T**: 12-HHT/BLT2 axis protects acute lung injury 58th ICBL, International Conference on the Bioscience of Lipids, Invited lecture 2017/9/10-14 Zurich, Switzerland
760. **Yokomizo T**: Biological roles of BLT receptors 15th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, Invited Lecture 2017/10/22-26 Puerto Vallarta, Mexico
761. Hara T, Saeki K, **Yokomizo T**: C-terminal region of BLT2 receptor restricts its localization to the lateral membrane 15th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases 2017/10/22-26 Puerto Vallarta, Mexico
762. Okuno T, Koutsogiannaki S, Ohba M, Chamberlain M, Bu W, Lin F-Y, Eckenhoff RG, **Yokomizo T**, Yuki K: Intravenous anesthetic propofol binds to 5-lipoxygenase and attenuates LTB4 production in vivo and in vitro 15th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases 2017/10/22-26 Puerto Vallarta, Mexico
763. Hashimoto Y, Asahara M, Ito N, Yamada Y, **Yokomizo T**, Shimizu T: Role of LTB4-BLT1 signaling in mice pain model following hind paw incision 15th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases 2017/10/22-26 Puerto Vallarta, Mexico
764. Hirakata T, Lee CH, Ohba M, Okuno T, Matsuda A, Murakami A, **Yokomizo T**: Dietary omega-3 fatty acids alleviate the allergic conjunctivitis in mice 15th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases 2017/10/22-26 Puerto Vallarta, Mexico
765. 岩本怜, 岡野美樹子, **横溝岳彦**, 村上晶, 松田彰: マウスアレルギー性結膜炎モデルにおけるレゾルビンの効果 第121回日本眼科学会 2017年4月6-9日 東京
766. 平形寿彬, 李賢哲, 村上晶, 松田彰, **横溝岳彦**: マウス眼球部位別の脂質の網羅的脂肪酸分子種解析 第121回日本眼科学会 2017年4月6-9日 東京
767. **横溝岳彦**: 炎症、免疫、バリア機能における2つのロイコトリエンB4受容体の役割 第14回肺研究フォーラム 2017年4月22日 東京
768. 川西範明, 高木香奈, 李賢哲, 奥野 利, **横溝岳彦**, 町田修一: 第59回日本脂質生化学会 2017年6月15-16日 京都
769. 李賢哲, 濱弘太郎, 横山和明, **横溝岳彦**: LC-MS/MSを用いた簡便な遊離脂肪酸測定法の開発 第59回日本脂質生化学会 2017年6月15-16日 京都

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

770. 奥野利明, 大場麻生, Chamberlain M, Bu W, Liu F-Y, Eckenhoff RG, **横溝岳彦**, 結城公一: 静脈麻酔薬プロポフォールは5リポキシゲナーゼに直接結合しロイコトリエンB4産生を抑制する 第59回日本脂質生化学会 2017年6月15-16日 京都
771. **横溝岳彦**: BLT2受容体の上皮保護作用 第38回日本炎症・再生学会 (シンポジウム) 2017年7月18-19日 大阪
772. 川西範明, 高木香奈, 李賢哲, 奥野利明, **横溝岳彦**, 町田修一: 長期間の高強度持久的運動トレーニングによる骨格筋内のアシルカルニチン分子種濃度の変動 第72回日本体力医学会大会 2017年9月16-18日 松山
773. **横溝岳彦**: 生理活性脂質研究の醍醐味 57回日本臨床化学会総会 特別講演 2017年10月6-8日 札幌
774. 奥野利明, **横溝岳彦**, 結城公一: 麻酔薬プロポフォールの抗炎症作用機序の解明 第14回東京呼吸器リサーチフォーラム 2017年11月18日 東京
775. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 奥野利明, 中尾光善, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第一受容体BLT1による免疫活性化機構の解析 2017年度生命科学系学会合同年次大会(ConBio2017) 2017年12月6-9日 神戸
776. 伊志嶺百々子, 李賢哲, 折田創, 遠藤未来美, 水口このみ, 佐藤浩一, 中岡博史, 井ノ上逸朗, **横溝岳彦**: 薬物代謝酵素カルボキシルエステラーゼのヒト大腸癌における発現調節機構の解明 2017年度生命科学系学会合同年次大会(ConBio2017) 2017年12月6-9日 神戸
777. 泉宜秀, 李賢哲, **横溝岳彦**: トリグリセリド減少効果を有するサプリメントの複数同時添加による効果の検討 2017年度生命科学系学会合同年次大会(ConBio2017) 2017年12月6-9日 神戸
778. 鵜澤博嗣, 古賀友紹, 佐伯和子, 宮塚健, 綿田裕孝, **横溝岳彦**: ロイコトリエンA4水解酵素の代謝における解析 2017年度生命科学系学会合同年次大会(ConBio2017) 2017年12月6-9日 神戸
779. 原琢弥, 佐伯和子, **横溝岳彦**: BLT2のC末端領域はBLT2の細胞間接着部位への局在に重要である 2017年度生命科学系学会合同年次大会(ConBio2017) 2017年12月6-9日 神戸
780. 奥野利明, Koutsogiannaki S, 大場麻生, Chamberlain M, Bu W, Lin F-Y, Eckenhoff R, **横溝岳彦**, 結城公一: 静脈麻酔薬プロポフォールは5-リポキシゲナーゼに結合してロイコトリエンの産生を抑制する 2017年度生命科学系学会合同年次大会(ConBio2017) 2017年12月6-9日 神戸
781. **Yokomizo T**, Iwamoto S, Koga T, Ohba M, Okuno T, Koike M, Murakami A, Matsuda A: A fatty acid 12-hydroxyheptadecatrienoic acid accelerates corneal wound healing through leukotriene B4 receptor 2, BLT2 Keystone Symposium, GPCR Structure and Function 2018/2/16-20 Santa Fe
782. **Yokomizo T**: 12-hydroxyheptadecatrienoic acid accelerates epithelial wound healing through leukotriene B4 receptor 2, BLT2 Keystone Symposium, the resolution of inflammation in health and disease 2018/3/24-28 Dublin, Ireland
783. Hirakata T, Lee CH, Ohba M, Okuno T, Murakami A, Matsuda A, **Yokomizo T**: Dietary omega-3 fatty acids alleviate allergic conjunctivitis in a mouse model ARVO 2018 2018/4/29-5/2 Honolulu

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

784. Iwamoto S, **Yokomizo T**, Murakami A, Matsuda A: Control of mouse allergic conjunctivitis by resolvins ARVO 2018 2018/4/29-5/2 Honolulu
785. **Yokomizo T**: BLT1 and BLT2, two GPCRs for lipid mediators International GPCR symposium, Plenary lecture 2018/6/29-30 Kyoto
786. Okuno T, Hori T, Yokoyama S, **Yokomizo T**: Crystal structure of leukotriene B4 receptor 1 bound with an inverse agonist International GPCR symposium 2018/6/29-30 Kyoto
787. Okuno T, Gijón MA, **Yokomizo T**, Murphy RC: Phospholipid remodeling altered eicosanoid production during cell culture European Lipid Meeting 2018 2018/9/26-30 Leipzig
788. Jagusch H, Werner M, Okuno T, **Yokomizo T**, Watz O, Pohnert G: An algal precursor rearranges in a new 1,8-diol forming reaction to bioactive LTB4 enantiomers European Lipid Meeting 2018 2018/9/26-30 Leipzig
789. **横溝岳彦**: 生理活性脂質受容体研究への質量分析計の応用 第31回Future of Radiology 2018年5月17日 東京
790. 平形寿彬, 李賢哲, 大場麻衣, 佐伯和子, 奥野利明, 松田彰, 村上晶, **横溝岳彦**: アレルギー性結膜炎におけるオメガ3脂肪酸の効果の検証 第60回日本脂質生化学会 2018年5月31日-6月1日 八王子
791. 鵜澤博嗣, 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, **横溝岳彦**: ロイコトリエンA4水解酵素の代謝における解析 第60回日本脂質生化学会 2018年5月31日-6月1日 八王子
792. **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4受容体に関する最近の知見 Kobe Biological Science Forum 2018年6月8日 神戸
793. **横溝岳彦**: 生理活性脂質受容体の機能解析:ゼロから創薬への挑戦 New Insight Crosstalk Meeting 2018 2018年6月16日 東京
794. **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4受容体BLT1発現が規定する単球・樹状細胞サブセット 第28回日本樹状細胞研究会 特別講演 2018年6月29-30日 名古屋
795. 平形寿彬, 李賢哲, 大場麻衣, 佐伯和子, 奥野利明, 松田彰, 村上晶, **横溝岳彦**: マウスアレルギー性結膜炎モデルにおけるオメガ3脂肪酸食効果の検証 第1回日本眼科アレルギー学会学術集会 2018年9月9日 東京
796. 佐伯和子, 重松美沙子, 古賀友紹, 奥野利明, **横溝岳彦**: 生理活性脂質12-HHTのBLT2受容体を介した生体保護的役割 第91回日本生化学会 シンポジウム 2018年9月24-26日 京都
797. 鵜澤博嗣, 古賀友紹, 佐伯和子, 宮塚健, 綿田裕孝, **横溝岳彦**: ロイコトリエンA4水解酵素の代謝における役割の解析 第91回日本生化学会 2018年9月24-26日 京都
798. 折田創, 伊志嶺百々子, 李賢喆, 小泉明博, 村井勇太, 加藤永記, 山本陸, 上田脩平, 櫻庭駿介, 徳田智史, 朝倉孝延, 氷室貴規, 榎田知志, 櫻田睦, 田中頭一郎, 前川博, **横溝岳彦**, 佐藤浩一: 薬物代謝酵素カルボキシエステラーゼの消化器癌における発現調節機構の解明 第56回日本癌治療学会学術集会 2018年10月19日 横浜
799. **横溝岳彦**: 生理活性脂質と受容体 第4回川島カンファレンス 2018年11月17日 東京
800. Jo-Watanabe A, Shigematsu M, Saeki K, Koga T, Ohba M, Okuno T, **Yokomizo T**: Leukotriene B4 receptor type 2 protects against CysLT1 signaling-related acute lung injury Keystone Symposium, GPCR Structure and Function 2018/2/16-20 Santa Fe
801. Uzawa H, **Yokomizo T**: The role of leukotriene A4 hydrolase in metabolism Keystone Symposium, Obesity and Adipose Tissue Biology 2019/2/10-14 Banff, Canada

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

802. **Yokomizo T**: The roles of leukotriene B4 receptor in macrophage and dendritic cell The kick-off symposium of advanced graduate program for future medicine and health care, Invited lecture 2019/3/5-7 Sendai, Japan
803. **Yokomizo T**, Sasaki F: Leukotriene B4 promotes neovascularization and macrophage recruitment in age-related macular degeneration (AMD) Keystone Symposium, Lipidomics and Functional Metabolic Pathways in Disease 2019/3/31-4/4 Steamboat Grand, Colorado

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

シンポジウム

1. 順天堂大学大学院医学研究科 ゲノム・再生医療センターおよび本研究事業キックオフシンポジウム
平成 28 年 1 月 15 日 (金)

https://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/lab0/lecture/1_261.html

その他の研究成果公開

(ゲノム・再生医療センター)

1. ゲノム・再生医療センターホームページ

https://www.juntendo.ac.jp/graduate/genome/info_index.html

(腎臓内科)

2. 腎臓内科学ホームページ

http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/lab0/zinzo_naika/

3. 佐々木有、日高輝夫、**鈴木祐介**. プレスリリース、慢性腎臓病の病態メカニズム解明の鍵「SNX9」を同定—順天大、2017年3月30日

<http://www.juntendo.ac.jp/news/20170330-05.html>

(臨床検査医学)

4. 臨床検査医学ホームページ

https://www.juntendo.ac.jp/med/lab0/rinsyo_byori3.html

5. **三井田孝**: 採血スピッツと検査結果. ドクターサロン. ラジオ NIKKEI 2018年4月10日
6. **三井田孝** non HDL-C, LDL-C の脳・心血管病発症予測能について. 厚生労働省科学研究発表会全国公演 2016年2月20日 札幌

(形成外科)

7. 血管組織再生医療研究室ホームページ

<https://www.juntendo.ac.jp/hospital/clinic/keisei/kenkyu/grp03/>

8. **田中里佳**. 次世代型血管再生細胞治療の開発: 基礎と臨床. 日本医科大学第 18 回 形成外科 講演会、2018年11月5日
9. **田中里佳**. 再生医療を用いた新規治療法開発への道のり. 金沢医科大学特別講義、2018年9月11日
10. **田中里佳**. TV 出演 「Growing New Vessels, Medical Frontiers」 NHK World, 2018

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

年 4 月 17 日

11. 田中里佳。次世代の血管・組織再生医療で足を救う！～低侵襲・高効果な下肢救済・再生治療を目指して～。順天堂大学第 41 回都民公開講座、2018 年 2 月 17 日
12. 水野博司。脂肪組織幹細胞の基礎と臨床
AMED 平成 30 年度再生医療実用化研究事業「重症下肢虚血に対する脱分化脂肪細胞 (DFAT) を用いた再生医療の実用化」キックオフ公開シンポジウム (2018 年 東京)
13. 田中里佳、水野博司。フットケアから再生医療を駆使した順天堂下肢救済チーム医療。順天堂医院：透析医療における病診連携を共に考える会、2017 年 12 月 9 日
14. 田中里佳。糖尿病の下肢救済～フットケアから最先端治療～。第 33 回武蔵野糖尿病研究会、2017 年 10 月 14 日
15. 田中里佳。難治性四肢潰瘍患者を対象とした自己末梢血単核球生体外増幅培養細胞移植による血管・組織再生治療。平成 29 年度 AMED 再生医療・研究交流、2017 年 9 月 15 日
16. 田中里佳。透析患者さんの足を救う！明日から役立つフットケア～下肢救済の知識。第 3 回透析患者の糖尿病診療セミナー、2017 年 7 月 20 日
17. 田中里佳。次世代の血管・組織治療開発～現状と今後の展望～。第 19 回 KMU 研究推進セミナー、2017 年 6 月 29 日
18. 田中里佳。難治性潰瘍に対する 次世代型血管・組織再生治療の開発。2017 ワールド・アライアンス・フォーラム IT あわじ会議、淡路夢舞台国際会議場、2017 年 3 月 27 日
19. 田中里佳。東西の連携から発信できる再生医療。市民フォーラム「これからの未来医療～未来医療、新時代！！～」、大阪大学市民フォーラム、2017 年 2 月 12 日
20. 田中里佳。下肢救済治療への挑戦：地域連携から最先端治療を駆使して。第 19 回多摩腎不全フォーラム、2016 年 11 月 9 日
21. 田中里佳。創傷管理の HOW TO～基本から最先端治療まで～。チーム医療で足救済に挑む！、2016 年 11 月 8 日
22. 田中里佳。「フットケアのコツ」明日から出来る早期診断と治療。フットケア地域連携セミナー in 両国～皆で足を守ろう！～、2016 年 9 月 6 日
23. 田中里佳。難治性潰瘍のベストプラクティス。第 6 回横須賀三浦下肢創傷研究会、2016 年 6 月 1 日
24. 田中里佳。難治性四肢潰瘍患者を対象とした自己末梢血単核球生体外増幅培養細胞移植による血管・組織再生治療。平成 28 年度再生医療プログラム間連携のための情報交換会、2016 年 5 月 30 日
25. 田中里佳。難治性四肢潰瘍患者を対象とした自己末梢血単核球生体外増幅培養細胞移植による血管・組織再生治療の臨床研究。先端医療振興財団研修、2016 年 3 月 24 日
26. 田中里佳。順天堂大学再生医療第 1 臨床研究プロジェクト：開始のための準備方法と今後の展望。お茶の水再生医療懇話会、2016 年 3 月 4 日
27. 田中里佳。救肢で一生を得る集学的治療最先端技術～地域連携を駆使して～。第 7 回西湘フットケアを考える会、2016 年 2 月 25 日
28. 田中里佳。フットケアから最先端血管再生治療を駆使した下肢救済トータルマネジメント。第 10 回信濃町フットケア講演会、2016 年 2 月 10 日
29. 田中里佳。生体外培養増幅末梢血単核球を用いた新しい創傷治療の開発。第 3 回お茶の水サイエンス倶楽部、2016 年 1 月 8 日
30. 田中里佳。新聞掲載 「200mL の外来採血で施工可能な血管組織再生医療を開発」、

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Medical Tribune、2015年12月24、31日

31. **田中里佳**。新聞掲載「低侵襲・高品質の製品提供へ、実用化志向の研究成果多く」、日経バイオテク、2015年4月13日
<https://bio.nikkeibp.co.jp/article/news/20150413/183851/>

(生化学第2)

32. 生化学第二講座ホームページ
https://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labo/seikagaku_seitaibogyo/html/index_j.html
33. **長岡功**: 宿主細胞の細胞死に注目した、抗菌ペプチド LL-37 の敗血症マウスモデルに対する効果. 未病と抗老化 27: 70, 2018.
34. **長岡功**: 第16回日本機能性食品医用学会総会 優秀演題賞「運動競技選手の軟骨・骨代謝に及ぼすグルコサミン含有食品摂取の効果」 新潟県新潟市, Dec 16, 2018.
35. **長岡功**: 抗菌ペプチド LL-37 はマクロファージのピロトーシスを抑制することによってマウス敗血症モデルの生存率を高める. 未病と抗老化 26: 78, 2017.
36. 鈴木香: エンドトキシンによる宿主細胞応答に対する生体防御ペプチドの制御機構. 第22回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 奨励賞 (最優秀賞).
37. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Reich J, Kuwahara-Arai K, Iba T, **Nagaoka I**: LL-37 affects macrophages and inhibits sepsis. In This Issue, Int Immunol 28: 210, 2016.
 (本研究が雑誌の表紙を飾る)
38. **長岡功**: 健康ジャーナル 2016年2月16日号, 通巻第339号, p. 6: 研究人 vol.01「医学の基礎を追求、生体防御学が大きなテーマ」
39. 第14回日本機能性食品医用学会総会 (会長: **長岡功**) 2016年12月10日 (土) -11日 (日)
<http://www.jsmuff.com/soukai2016/>
40. 第20回日本エンドトキシン自然免疫研究会 (会長: **長岡功**) 2014年12月5日 (金) -6日 (土)
https://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labo/seikagaku_seitaibogyo/jeiis/pg72.html
41. Hu Z: 2014 SLB Travel Award; Antimicrobial peptide LL-37 inhibits pyroptosis of macrophages and protects sepsis in a murine model. Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology and the International Endotoxin and Innate Immunity Society, Salt Lake City, Oct 2014.
42. 田村弘志, **長岡功**: 2014年度版 注目情報はこれだ!! p. 47, 2014年3月25日: バイオ・医療の産学連携開発上市支援で社会貢献.

(免疫学)

43. 免疫学講座ホームページ
<http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labo/meneki/home.html>

(脳神経内科)

44. 脳神経内科ホームページ
<http://www.juntendo-neurology.com/>
45. **服部信孝**. 新聞掲載、病気の診断 より正確に、パーキンソン病 増える治療法、診療ガイドライン7年ぶりに改訂、医療・生活 朝日新聞 朝刊 p33, 2018年10月31日
46. **服部信孝**、大山彦光. 座談会、雑誌掲載、PD「医療従事者と患者会の座談会」パー

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- キンソン病患者の日常生活の質の向上のために、参加者は医師および患者会、Forum Report、Frontiers in Parkinson Disease 11:33-40, 2018
47. **服部信孝**. テレビ出演・講師、きょうの健康、サインを見逃すな！脳・神経の病気「パーキンソン病」、2018年8月24日（先行放送）10：40-10：55、8月25日（再放送）4：15-4：30、27日20：30-20：45、9月3日（再放送）13：35-13：50、NHK「きょうの健康」サインを見逃すな！脳・神経の病気 4回シリーズの1回目
 48. **服部信孝**、樋口了一さん（ミュージシャン）. 公開セミナー、トークショー、「病気になってもあきらめない、意欲を失わない生き方」、パーキンソン病と脳・神経の病気を知るセミナー in 東京、共催：神経内科フォーラム、アッヴィ合同会社、後援：一般社団法人日本神経学会、2018年4月30日、東京ビッグサイト、東京
 49. 藤巻基紀、斉木臣二、**服部信孝**. 新聞掲載、血中カフェイン濃度でパーキンソン病を診断、Medical Tribune, Vol 51, No. 3, pp21, 2018
 50. **服部信孝**. 新聞掲載、iPSでパーキンソン病改善、ヒト細胞 サルの脳に移植、朝日新聞 東京版（日刊）1面、2017年8月31日
 51. **服部信孝**. 新聞掲載、パーキンソン病診断 血液中に役立つ物質、日本経済新聞、科学技術 p9、2017年8月28日
 52. **服部信孝**. アウトリーチ活動、ミトコンドリアと神経疾患、「脳機能と病気」午前の部、高校生・高卒生のための春休み特別セミナー、文科省科学研究費補助金新学術領域「脳内環境」「オートファジー」合同、順天堂大学 本郷・御茶ノ水キャンパス、2016年3月28日、東京
 53. **服部信孝**、金井数明、宮元伸和、福嶋佳保里、荒野拓. アウトリーチ活動、東京学芸大学附属国際中等教育学校学生インターンシップ（職場体験）、中学生の順天堂大学医学部神経学講座研究室および病棟見学、2016年8月25日、順天堂大学、東京
 54. **服部信孝**. オンラインニュース掲載、順天堂大 パーキンソン病治療でiPS細胞バンク設立へ、NHK、日経等、平成28年2月19日
 55. **服部信孝**. パーキンソン病患者会旅行同行、応個別相談、勉強会講師、「これからのパーキンソン病治療について」、南房総富浦ロイヤルホテル、2016年10月19日～20日、南房総市
 56. **服部信孝**、岡野栄之、**赤松和土**. プレスリリース、NHK テレビニュース、順天堂大パーキンソン病治療でiPS細胞バンク設立へ、午前4時29分、2016年2月19日、NHK ニュース 13. **服部信孝**. 新聞掲載、認知機能 アロマで刺激、脳の病気リスクを減らす試み、匂いの信号は直接脳へ 多彩な香り・いつも身近に、日本経済新聞（夕刊） pp9. 「くらし」面、2016年6月30日（木曜日） 夕刊
 57. **服部信孝**. 新聞掲載、パーキンソン病の手術療法「前編」、薬物療法の限界で脳深部刺激療法に注目、東京スポーツ、p17、2016年10月18日
 58. **服部信孝**. 新聞掲載、パーキンソン病の手術療法「後編」、状態が大きく改善する脳深部刺激療法 適応する人は...、東京スポーツ、p17、2016年10月25日
 59. **服部信孝**. 新聞掲載、パーキンソン病治療薬「デュオドーパ」、DBSよりも広く適応できウェアリングオフを減少、一治療薬最前線一、p8、The Doctor 秋季特集、2016年10月31日
 60. **服部信孝**. 新聞掲載、パーキンソン病治療薬「デュオドーパ」、DBSよりも広く適応できウェアリングオフを減少、薬事ニュース、p4、2016年12月9日
 61. **服部信孝**、波田野 琢、飯嶋 睦、平野 成樹、野川 茂、市民講座 「こんなときは神経内科に行こう！」、パーキンソン病の脳・神経の病気を知るセミナー in 東京、

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

べるさーる渋谷ファースト、2016年4月、東京

62. **服部信孝**；講演、「パーキンソン病にスマイルを：パーキンソン病と如何に向き合
って生きているか?」、パーキンソン病の未来を語る、市民公開講座、神戸市勤労
会館7階大ホール、2016年2月21日、神戸市
63. **服部信孝**. 市民公開講座、講師、「パーキンソン病との付き合い方」、パーキンソ
ン病健康教室 in 岡山、(岡山旭東病院・パーキンソン病友の会岡山支部、共済)、
岡山コンベンションセンター、2016年4月9日
64. **服部信孝**. 市民公開教育講演、「認知症と癌～その病態の類似性と違い～」、がん
と認知症は逆相関か?～Quality of Death～、日本地域医療連携システム学会、第2
回シンポジウム・市民公開教育講演、フクダ電子本郷新館、2016年12月25日、東
京

(神経生物学)

65. 神経生物学・形態学講座ホームページ
https://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labo/shinkei_kozo/
66. **小池正人** 順天堂大学・日本顕微鏡学会共催 公開市民講座「組織学実習室へよう
こそ～光学顕微鏡・電子顕微鏡による多次元組織学実習体験～」 2019年3月16
日
67. **小池正人**、Bruno Humbel. 順天堂大学・沖縄科学技術大学院大学共催 Tokuyasu
Workshop 2019 2019年1月21-25日

(皮膚科)

68. 皮膚科学講座ホームページ
<https://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labo/hihu/>
69. 池田志孝 iPS細胞などの各種幹細胞を用いた皮膚再生医療の現状と展望 —特に
脂肪組織幹細胞中に存在する表皮角化細胞前駆細胞の可能性— 平塚市医師会皮膚
科部会第70回例会、神奈川県平塚市、2016年1月20日

(生化学第1)

70. 生化学第一講座ホームページ
http://plaza.umin.ac.jp/j_bio/

<これから実施する予定のもの>

これからも順天堂大学大学院医学研究科ゲノム・再生医療センターが中核となり、患
者細胞バンクおよび患者データベースの拡充を図るとともに、これら患者サンプルの利
用および器機の管理を行い、再生技術基盤の提供、定期的な研究会などにより各研究グ
ループのスムーズな情報交流を行うことで、各研究グループの研究を推進してあらゆる
生活習慣病の病態解明および克服に貢献する。また成果は随時、学会や学術誌での発表
やプレスリリースなどを通じて広く公表していく予定である。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

【特許】

(ゲノム・再生医療センター)

1. 【P1U1-2674 (PCT/JP2017/005291)】 米国移行出願中

発明の名称：多能性幹細胞の神経幹細胞への分化用培地及びその使用

発明者：岡野栄之、赤松和土、藤森康希、安藤友子、安藤崇之、手塚俊樹、松本拓也

出願者：学校法人慶應義塾

出願日：2017年2月14日

2. 【P1U1-2702 (PCT/JP2017/012254)】 米国移行出願中

発明の名称：分化促進型多能性幹細胞及びその使用

発明者：岡野栄之、赤松和土、藤森康希、松本拓也、葛巻直子、木佐文彦

出願者：学校法人慶應義塾

出願日：2017年3月27日

3. 【特願 2018-077304】 国内出願中

発明の名称：神経細胞の成熟老化促進剤

発明者：赤松和土、志賀孝宏、岡野栄之、葛巻直子

出願者：学校法人順天堂

出願日：2018年4月13日

(形成外科)

4. (*13) 【特願 2016-022313】

発明の名称：単核球培養用無血清培地

発明者：田中里佳、平野理恵

出願者：学校法人順天堂

出願日：2016年2月9日

5. 【特願 PCT/JP2018/008195】

発明の名称：間葉系肝細胞による処置の効果を増幅するための組成物

発明者：田中里佳

出願者：学校法人順天堂

出願日：2018年2月8日

(免疫学)

6. 【特願 2017-220591】

発明の名称：炎症性疾患又は虚血性疾患の改善剤

発明者：三宅幸子、千葉麻子。

出願者：学校法人順天堂

出願日：2017年11月16日

(皮膚科)

7. 【特許第 6410343 号】 2018年10月5日登録

発明の名称：脂肪組織由来幹細胞から表皮角化細胞への誘導

発明者：池田志孝、長谷川敏男

出願者：学校法人順天堂

出願日：2014年7月1日

8. 【特願 2018-029385】

発明の名称：栄養障害型表皮水疱症治療剤

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

発明者：池田志孝、長谷川敏男

出願者：学校法人順天堂

出願日：2018年2月22日

【企業との連携】

(臨床検査医学)

9. (*12) 遊離グリセロールの直接測定試薬の開発 (試薬メーカーとの共同研究)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

特になし。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

特になし。

<「中間評価時」に付された留意事項>

特になし。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

特になし。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分		支出額	内 訳					備考
			法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	167,374	64,109	103,265	0	0	0	
	研究費	51,809	26,183	25,626	0	0	0	うち一般補助1,343千円
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	19,107	6,372	12,735	0	0	0	
	研究費	92,592	49,691	42,901	0	0	0	うち一般補助6,073千円
平成28年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	85,631	46,760	38,871	0	0	0	うち一般補助7,667千円
平成29年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	76,519	39,452	37,067	0	0	0	うち一般補助7,533千円
平成30年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	80,221	40,331	39,890	0	0	0	うち一般補助6,121千円
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	186,481	70,481	116,000	0	0	0	0
	研究費	386,772	202,417	184,355	0	0	0	0
総計		573,253	272,898	300,355	0	0	0	0

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
ゲノム・再生医療センター	H26	8268m ²	1	90			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）

（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
(研究設備)							
iPS細胞・幹細胞樹立培養のための培養システム	H26	single-cell Auto rep System 100-7000-JT 他	1	5,000	h 22,820	14,079	私学助成
解析用倒立顕微鏡システム	H26	LX83P2-TL-FL/PHID-2 他	1	6,000	h 38,891	23,995	私学助成
分化細胞解析システム	H26	In Cell Analyser 2200 system	1	1,500	h 39,603	24,435	私学助成
幹細胞純化・解析システム	H26	Xfe24 他	1	750	h 35,925	22,165	私学助成
動物個体に移植したiPS細胞・体細胞解析システム	H26	MHE-S1300A2-PJ	1	2,250	h 30,133	18,591	私学助成
iPS・体細胞バンク用システム	H27	MVE TEC 3000	1	8,760	h 19,107	12,735	私学助成
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

（千円）

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	32,647	iPS細胞・体性幹細胞培養・保存	32,647
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	58	電話料金等	58
印 刷 製 本 費	0		0
旅 費 交 通 費	682	学会参加交通費	682
報 酬 ・ 委 託 料	300	分析委託	300
(会 議 会 合 費)	45	学会参加費	45
(修 繕 費)	303	機器修理等	303
(用 品 費)	917	実験用器具	917
計	34,952		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	0		0
教 育 研 究 経 費 支 出	0		
計	0		
設 備 関 係 支 出 (1 個 又 は 1 組 の 価 格 が 500 万 円 未 満 の も の)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	15,174		
図 書			

計	15,174		
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	1,683		学内1人 10月より雇用
研究支援推進経費			
計	1,683		学内1人

(千円)

年度	平成 27 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	24,965	試薬、器具等	24,965 試薬、液体窒素、実験用器具等
光熱水費	0		0
通信運搬費	37	電話料金等	37 電話料金、検体送付費
印刷製本費	109	ポスター作製	109 シンポジウムポスター作製費
旅費交通費	0		0
報酬・委託料	1,726	分析委託、実験補助員派遣料	1,726 研究補助業務(試薬調整等)
(用品費)	162	実験用器具	162 薬品庫
計	26,999		
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	3,583		
教育研究経費支出	0		
計	3,583		
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	44,483		
図書	0		
計	44,483		
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	13,019		学内4人
研究支援推進経費	4,508		学内2人
計	17,527		学内6人

(千円)

年度	平成 28 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	55,783	試薬、器具等	55,783 試薬、液体窒素、実験用器具等
光熱水費	0		0
通信運搬費	334	電話料金等	334 電話料金、検体送付費
印刷製本費	0		0
旅費交通費	49	学会参加交通費	49 学会参加旅費
報酬・委託料	6,283	分析委託、実験補助員派遣料	6,283 研究補助業務(試薬調整等)、分析委託
(修繕費)	229	機器修理等	229 機器修理費
(会議会合費)	42	学会参加費	42 学会参加費
(用品費)	988	実験用器具	988 実験用器具
計	63,708		
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	1,178	書類作成や整理等の事務作業	
教育研究経費支出			実人数 1人
計			
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	15,432	研究用機器	

図 書				
計	15,432			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	1,451			学内1人
ポスト・ドクター	15,988			学内5人
研究支援推進経費	3,120			学内2人
計	20,559			学内8人

年 度	平成 29 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	48,572	iPS細胞・体性幹細胞培養・保存	48,572	試薬、液体窒素、実験用器具等
光 熱 水 費	0		0	
通 信 運 搬 費	130	電話料金等	130	電話料金、検体送付費
印 刷 製 本 費	197		197	
旅 費 交 通 費	938	学会参加交通費	938	共同研究打ち合わせ・学会参加 出張費
報 酬 ・ 委 託 料	10,152	分析委託	10,152	細胞染色体検査、セミナー謝金
(会 議 会 合 費)	340	学会参加費	340	学会参加費
(修 繕 費)	275	機器修理等	275	機器修理費
(用 品 費)	754	実験用器具	754	実験用器具
計	61,358			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	2,718	書類作成や整理等の事務作業		実人数 1人
教育研究経費支出	0			
計	2,718			
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	5,990			
図 書				
計	5,990			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	2,609			学内1人
ポスト・ドクター	16,376			学内5人
研究支援推進経費	1,232			学内2人
計	20,217			学内8人

(千円)

年 度	平成 30 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	47,022	試薬、器具等		試薬、液体窒素、実験用器具等
光 熱 水 費	0			
通 信 運 搬 費	52	電話料金等		電話料金、検体送付費
印 刷 製 本 費	871	論文投稿料、ポスター印刷		論文投稿料、ポスター印刷
旅 費 交 通 費	1,013	共同研究打ち合わせ・学会参加 出張費		共同研究打ち合わせ・学会参加 出張費
報 酬 ・ 委 託 料	3,404	分析委託		細胞染色体検査、セミナー謝金
(会 議 会 合 費)	213	学会参加費		学会参加費
(用 品 費)	631	実験用器具		エレクター他
(修 繕 費)	1,246	実験用器具修理		実験用器具修理
計	54,452			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	6,686	書類作成や整理等の事務作業		実人数 2人
教育研究経費支出	0			
計	6,686			

設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	9,262	微量高速冷却遠心機 他	微量高速冷却遠心機 他
図書	0		
計	9,262		
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント	1,330		学内1人
ポスト・ドクター	14,536		学内4人
研究支援推進経費	1,859		学内2人
計	17,725		学内7人

平成 26 年度採択私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「再生技術を用いた生活習慣病の次世代型統合的研究基盤の構築」
外部評価表

評価委員名 公益財団法人東京都医学総合研究所 理事長
田中 啓二

プロジェクトの進捗状況・達成度に関して（該当するものに○を記入）

1. (○) 基盤整備の効果が発揮され当初の計画以上に研究が進展している。
2. () 基盤整備の効果が発揮され当初の計画通りに進展している。
3. () 基盤整備の効果が不十分であり、研究方針の再検討が必要である。

外部評価コメント

生活習慣病は、疾病の素因が生体外病原体に起因する感染症型疾患と異なり、多くの場合、複数要因が重なり合った内因性疾患である。しかし超高齢化社会を迎えた我が国においては、生活習慣病の克服は、医学における喫緊の課題である。本プロジェクトでは、基礎と臨床の医師・研究者が緊密に連携した体制を構築して課題の解決に挑戦してきた。近年、ビッグデータの加速度的な集積が様々な分野で大流行しているが、その大部分が効率的に活用されずに利用価値を失ってゴミ化し、投入した研究資金が無駄になっている場合も少なくない。本プロジェクトでは、脳神経内科とゲノム・再生医療センターが中心となって、患者検体を大規模に収集、試料バンクとして保存するとともに臨床情報を含めてデータベース化することを目指してきたことは、有用な戦略であった。そして学外協力者として iPS 細胞研究の第一人者である慶應義塾大学の岡野栄之教授の参画を仰ぎ、短期間・効率的な神経分化誘導法を確立して、数百にも及ぶ多数の検体から解析可能な iPS 細胞を数多く樹立してきたことは、内外に大きなインパクトを与える優れた成果と高く評価できる。今後、これらの解析から疾病の発症機構解明や治療薬開発に資する研究が大きく進展することを期待したい。他方、収集した患者検体を活用した生活習慣病の病態研究や解析技術開発を目指したプロジェクトは、腎臓内科・臨床病態検査医学・循環器内科・形成外科・生化学（第 2）・免疫学・脳神経内科・神経形態学など多岐に亘るグループが切磋琢磨して活動し、各々が独自の技術開発に専念して良質の成果を挙げた。さらに患者検体を活用した生活習慣病の治療方法の開発では、代謝内分泌内科・皮膚科・生化学（第 1）・整形外科など夫々が、独創的な手法の開発に成功している。本プロジェクト研究は日進月歩に進捗していることが窺えるが、依然として生活習慣病の全容解明には未解決な課題が山積しており、研究の停滞は許されない状況にあるので、さらなる研究の継続と発展を期待したい。研究業績（原著論文、総説・図書）や学会発表は、膨大な数に上っており、個々のメンバー間でやや高低差が見られるものの総じて質量ともに破格の成果を挙げたと高く評価できる。その結果としての 8 件の特許出願は秀逸である。

評価委員氏名（自署）

田中 啓二



平成 26 年度採択私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「再生技術を用いた生活習慣病の次世代型統合的研究基盤の構築」
外部評価表

評価委員名 東京大学 薬学系研究科 教授
三浦 正幸

プロジェクトの進捗状況・達成度に関して（該当するものに○を記入）

1. (○) 基盤整備の効果が発揮され当初の計画以上に研究が進展している。
2. () 基盤整備の効果が発揮され当初の計画通りに進展している。
3. () 基盤整備の効果が不十分であり、研究方針の再検討が必要である。

外部評価コメント

孤発性の神経変性疾患 500 症例に及ぶ検体のデータベース化（臨床データ、遺伝子解析情報、iPS 化の状況等）が行われた。単核球の細胞バンクから効率よく iPS 細胞を樹立させる方法の開発に基づき、147 検体が解析可能な状態になっている。これらのリソースの充実をベースにした研究提案が、AMED 難治性疾患実用化研究事業、創薬基盤推進研究事業などの大型グラントへの採択につながっており、これからの研究展開に弾みがついた。生活習慣病の発症や進行には臓器連関が重要であるため、多くの分野の専門的な研究グループが一緒になって行うプロジェクト全体をみる体制作りが必要である。この点に関して、再生技術を用いた研究には、ゲノム・再生医療センターにて統一したフォーマットで同意書・患者検体等を管理保存する体制をとることで研究がしやすい仕組みが作られた。様々な分野の研究グループが独自に必要なサンプルに関しては、その管理体制をこれからも引き続き検討する必要がある。しかしこのプロジェクトとしてより重要なのは、整備された再生医療研究に有効な本リソースを用いた研究の展開であり、iPS 細胞からの細胞分化誘導の手法が進んでいる神経系に関してはオルガノイドを含めた研究の展開が期待される。他の細胞、組織に関しては神経系での手法を参考にしつつ、進んだ細胞分化誘導系を積極的に取り込んだ研究を進めてほしい。多臓器連関の観点からは、神経系の研究グループが他の臓器の細胞分化誘導系を取り入れた研究、例えば同一の iPS 細胞から神経細胞と免疫細胞とを作り、それらの相関などをみる研究も重要になってくると思われる。本プロジェクトでは再生技術を用いる研究以外にも、新規パーキンソン病原因遺伝子の同定、アルツハイマー病やパーキンソン病診断マーカーの同定、パーキンソン病とリソソーム病との共通点の発見、BLT1 の加齢黄斑変性症への関わりや皮膚創傷治癒を促す BLT2 作働薬の候補化合物の同定など、臨床医学的にも基礎医学としても重要な研究が多く進められた。

評価委員氏名（自署）

三浦 正幸

